

サラリーマンの生活と生きがいに関する研究  
～過去 20 年の変化を追って～

平成 25 (2013) 年 8 月

公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

〒108-0074 東京都港区高輪 1 丁目 3 番 13 号 NBF 高輪ビル

TEL:03-5793-9411

FAX:03-5793-9413

URL:<http://www.nensoken.or.jp>



サラリーマンの生活と生きがいに関する研究  
～過去 20 年の変化を追って～

平成 25 (2013) 年 8 月

公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

〒108-0074 東京都港区高輪 1 丁目 3 番 13 号 NBF 高輪ビル

TEL:03-5793-9411

FAX:03-5793-9413

URL:<http://www.nensoken.or.jp>



## ごあいさつ

当機構は、わが国における年金制度と年金資金運用及び年金生活に関する研究の推進を目的とした専門研究機関です。少子高齢化が急速に進む中で、老後所得保障の柱としての年金制度を守り、育てていくために、このようなテーマに関する研究を体系的総合的に行っています。

その事業の一つとして、「サラリーマンの生活と生きがい」に関するアンケート調査を実施してまいりました。この調査は、サラリーマン現役およびOBの方々を対象に、普段の生活状況や生きがい等についての考えを伺い、それが定年退職後の生活にどのように影響するのかを目的としております。また、この調査は、平成3年度に第1回調査を実施し、その後も5年ごとの定期調査と位置づけ、平成8年度（第2回調査）、平成13年度（第3回調査）、平成18年度（第4回調査）、平成23年度に第5回調査を実施しました。

これにより過去20年間の継時的な動向把握が可能となり、本報告書では過去20年間（第1回～第5回調査）の調査データに基づき、サラリーマンの「生活」と「生きがい」に関する5時点間の変化を把握し、サラリーマンの生活と生きがいに関する考え方がどのように変化しているのか分析を行いました。

また今回も、より深いデータ分析を目指して、当研究会の6名の先生方に、「ソーシャルキャピタルと個人の健康の関連」、「社会参加の実態・推移と高齢者のボランティア活動」、「定年前後世代における仕事に対する生きがいの変化」、「単身世帯と二人以上世帯における生きがい」「団塊世代における生きがいの推移」などの様々な角度からの分析を行って頂きました。

本調査によって、第1回～第5回調査のデータ（アンケート調査有効回収件数累計1万6千件強）が蓄積されることになり、今後、わが国が迎える超高齢社会における様々な諸問題を研究する際の資料として有効かつ貴重なものと考えられます。各方面でもご活用をいただければ幸いです。

なお、本研究に対して、貴重な助言・指導をいただいた「生活と生きがいに関する研究」研究会（別掲）の千保喜久夫座長をはじめとする各委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

平成25年8月

公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構

## 「サラリーマンの生活と生きがいに関する研究」研究会メンバー（敬称略）

【座長】 千保 喜久夫 東京成徳大学 経営学部教授  
福川 康之 早稲田大学 文学学術院准教授  
富樫 ひとみ 茨城キリスト教大学 生活科学部 人間福祉学科准教授  
藤森 克彦 みずほ情報総研株式会社 社会保障  
藤森クラスター主席研究員  
戸田 淳仁 株式会社リクルート ワークス研究所 研究員  
菅谷 和宏 三菱 UFJ 信託銀行株式会社年金カスタマーサービス部  
主任調査役

【事務局】 公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構  
専務理事 福山 圭一  
審議役 早川 敦  
参事役 亀山 政男  
主任研究員 菊池 俊博

（注）各メンバーの所属・役職は平成 25 年 8 月時点のものです

## 【調査報告書執筆担当者】（敬称略）

序章	事務局
第1章	福川 康之
第2章	富樫 ひとみ
第3章	戸田 淳仁
第4章	藤森 克彦
第5章	菅谷 和宏
第6章	千保 喜久夫

（資料編）

1 調査票	事務局
2 単純集計結果	事務局
3 調査票質問項目一覧表（過去調査分との対照表）	事務局

**【調査研究成果の刊行に関する一覧表】**

発表者氏名	論文・著書タイトル名	出版社名	出版年
富樫 ひとみ	『高齢期につなぐ社会関係 ソーシャルサポートの提供とボランティア 活動を通して』	ナカニシヤ出版	2013年

# 目 次

ごあいさつ

## 序 章 調査実施概要

1 はじめに .....	1
2 本調査研究の目的 .....	2
3 本調査研究の枠組み .....	3
4 日本の経済環境と雇用環境の変化 .....	5
5 第1回調査～第5回調査結果の振り返り .....	7

## 第1章 互酬性のソーシャル・キャピタルと主観的健康感との関連：マルチレベル分析による検討

1 はじめに .....	13
2 方法 .....	14
3 結果 .....	16
4 考察 .....	22
5 展望 .....	24

## 第2章 高齢者のボランティア活動の促進に向けて

1 はじめに .....	29
2 社会参加とボランティア活動 .....	29
3 時系列でみるボランティア活動の推移 .....	32
4 参加理由と活動内容・参加団体・参加の仕方 .....	40
5 考察とまとめ —ボランティア活動の参加促進のために— .....	45

## 第3章 過去20年間の働き方と生きがいに関する要因変化

1 はじめに .....	51
2 使用するデータ .....	52
3 仕事に対する生きがい .....	54
4 仕事に対する生きがいを持つ要因は時期によってどのように異なるか .....	56
5 結びにかえて .....	60

<b>第4章 単身世帯の生活と生きがいに関する時系列変化：現役世代（35～59歳）を対象に</b>	
1 はじめに .....	65
2 分析の枠組みとサンプルの特徴 .....	66
3 単身世帯の「生きがい」に関する時系列変化 .....	69
4 単身世帯の「仕事面の満足度」に関する時系列変化 .....	74
5 単身世帯の「生活面の満足度」に関する時系列変化 .....	80
6 おわりに .....	83
<b>第5章 団塊の世代における生きがいの推移と今後の高齢化社会に向けて</b>	
1 はじめに .....	85
2 第1回調査結果から第5回調査結果までの推移について .....	92
3 調査結果からの考察 .....	112
<b>第6章 定年退職期以降の生活と生きがい</b>	
1 はじめに .....	121
2 自由時間の使い方 .....	121
3 生きがいの有無と対象 .....	124
4 生活の満足度 .....	126
5 まとめ .....	134
<b>(資料編)</b>	
<b>1 第5回アンケート調査票</b> .....	135
<b>2 第1回～第5回調査の単純集計結果比較表</b> .....	153
1 本人調査結果（企業年金あり）（第1回～第5回調査結果） .....	153
2 本人調査結果（企業年金なし）（第5回調査結果のみ） .....	174
3 配偶者調査結果（第1回～第5回調査結果） .....	195
<b>3 調査票質問項目一覧表（過去調査分との質問項目対照表）</b> .....	205
1 本人調査票質問項目 .....	205
2 配偶者調査票質問項目 .....	210



# 序章 調査実施概要

## 1 はじめに

年金シニアプラン総合研究機構では、定年移行期前後におけるサラリーマンの生活と生きがいを分析するとともにそのあり方を探り、これらの人々に対する定年退職後の生活に向けての支援策や生きがいを持って生活ができる政策提言に結びつけることを目的に、1991（平成3）年から5年毎にサラリーマンシニア層を中心として、生きがいについての考え方や生活状況についてのアンケート調査を実施している。本調査は定期的（5年毎）に実施することにより、社会情勢や経済環境、雇用環境の変化や世代の推移の中で、サラリーマンの生活と生きがいに関する考え方がどのように変化しているかの調査も併せて実施する定点観測調査である。

第1回調査から20年が経過し、日本経済は高度成長から低成長時代へと移行し、「団塊の世代」<sup>1</sup>が大量に定年を迎える中、日本人の平均寿命は第1回調査時の男性75.92歳、女性81.90歳（1990年）から男性79.64歳、女性86.39歳（2010年）<sup>2</sup>に延び、日本の高齢化率も第1回調査時の12.0%（1990年）<sup>3</sup>から23.3%（2011年）<sup>4</sup>に大きく上昇した。経済・雇用環境が変化し、高齢者が増加する中、サラリーマンの生活と生きがいに関する考え方にも変化が生じているのであろうか。本章では、第1回調査から第5回調査結果まで20年間にわたるサラリーマンの生活と生きがいに関する考え方の変化について概観する。

主な調査結果としては、経済・雇用環境の悪化に伴い「経済的ゆとり」「精神的ゆとり」が減り、「仕事へのほりあい」「社会的地位」などの就業への充足感と生活全般への満足度が減少し、生きがいの保有率が減少していた。このような中、サラリーマンが生きがいを持って生活するためにはどうしたら良いのか。そのキーワードは「社会参加」と「高齢者の能力を活かす場」であると考えられる。定年退職後も仕事に代わる生きがいを持てるような社会参加への「きっかけ」作りと、これらの人々が現役時代に培った能力を社会に還元し、地域社会を支える役割を担えるような枠組み作りが必要である。「団塊世代」が65歳を迎え、65歳以上人口は2015（平成27）年には3,395万人となり、さらに「団塊の世代」が75歳となる2025（平成37）年には65歳以上人口は3,657万人に達すると見込まれている<sup>5</sup>。人口が減少していく中、65歳以上人口は逆に増加をしていくこととなる。

---

<sup>1</sup> 日本の第一次ベビーブームに出生した1947年から1949年までの世代を指し、年間出生数は約270万人でその前後の年より約2-3割多く、3年間の出生数合計は約806万人にのぼる。これら団塊の世代が大量に60歳定年退職を迎えたのが2007-2009年である。

<sup>2</sup> 厚生労働省(2000)参照。(http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/19th/index.html, 2011.12.7).

<sup>3</sup> 厚生労働省(2011b)参照。(http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life10/, 2011.12.7).

<sup>4</sup> 内閣府(2012)参照。

(http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/zenbun/index.html, 2013.5.28).

<sup>5</sup> 内閣府(2012)参照。

(http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/zenbun/s1\_1\_1\_02.html, 2013.5.28).

## 2 本調査研究の目的

### 2.1 本調査研究の目的

本調査は主に次の5つを目的として実施している。

- ① 定年移行期前後におけるサラリーマンの生活と生きがいを分析し、サラリーマンの生活と生きがいのあり方を探り、これらの人々に対する定年退職後の生活に向けての支援策の検討やこれらの人々が生きがいを持って生活ができる政策の提言に結びつける。
- ② サラリーマンシニアを中心として、生活設計についての考え方や実際の状況についてアンケート調査を通して明らかにし、これらの人々の生活実態や生きがいに関する考え方の調査分析を行う。
- ③ 本調査は、単に一時点におけるサラリーマンの生活と生きがいを分析するのみならず、過去の調査結果との比較により、社会情勢や経済環境、雇用環境の変化や世代の推移との関係の中で、生活と生きがいについての考え方の変化の調査を意図している定点観測調査であり、団塊の世代などの出生コホート(cohort)別における5年後の考え方の変化などをみることも可能である。
- ④ 本調査によりサラリーマンの定年退職後の生活ニーズを把握し、企業や当機構が提供するサラリーマン定年退職者に対するサービス「年金ライフプランセミナー」<sup>6</sup>の開発と充実へ繋げる。
- ⑤ 本調査結果は、定年退職者の生活と生きがいについて様々な角度から検討するための基礎的資料を社会に提供することを意図しており、厚生年金基金などを軸とする職域福祉の推進に寄与するのみならず、各企業の人事担当者や、自治体などの地域職員、中高年者の生涯教育に携わる人、または高齢社会を研究テーマとする研究機関や研究者にも広く活用され、我が国の高齢社会への対応に向けての基礎資料として活用されることを意図している。

### 2.2 本調査の調査対象者について

本調査の対象者は、ライフステージを4つの区間に分けた35歳から74歳までの「サラリーマン」男女である。第1回調査～第4回調査は厚生年金基金等企業年金に加入している人を対象としていたが、第5回調査は企業年金に加入していない「サラリーマン」も新たに調査対象とした。

① 35-44 歳	サラリーマンシニア前期
② 45-54 歳	定年準備期
③ 55-64 歳	定年期
④ 65-74 歳	年金生活期

<sup>6</sup> 年金ライフプランセミナー(PLP: Pension Life Plan)とは、定年退職間際の人に対して、定年退職後も充実した生活を送れるよう、定年退職後に必要な年金などの基礎知識の習得や定年退職後の生活設計(ライフプラン)を作成するなど、定年退職後の生活の準備を行うことを目的としたセミナーであり、主に「健康」「家庭経済」「生きがい」を中心とした内容とされている。

## 2.3 本調査報告における用語について

本調査においては、男女の企業在職者及びその経験者を「サラリーマン」と呼ぶ。そのうち、現在企業に在職中の現役就業者男女を「サラリーマン現役または現役」と呼び、定年等の退職経験者男女を「サラリーマンOBまたはOB」と呼ぶ。「サラリーマンOB」は、退職後の再就職の有無は問わない。

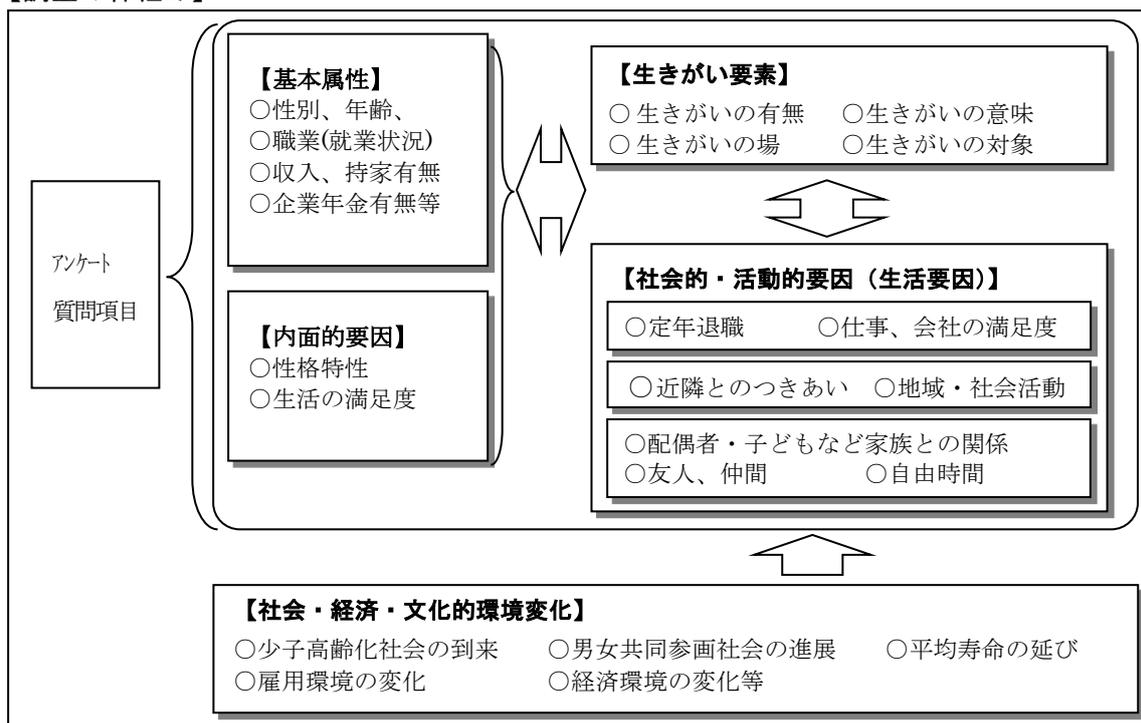
# 3 本調査研究の枠組み

## 3.1 本調査研究の基本的枠組み

本調査の枠組みは「生きがい要素」を「社会的・活動的要因」「基本属性・内面的要因」と関連付け、相互の関係を見る枠組みとしている。さらに、外枠として調査時点の「社会・経済・文化的環境変化」から、「生きがい要素」「社会的・活動的要因」「基本属性・内面的要因」との三者との関係を見る。

- ① 生きがい要素：本調査の中核であり、生きがい観、生きがいの有無、生きがいの場、生きがいの対象を何に求めているかについて調査する。また、生活面における充足度、生きがい度の変化を確認することにより、個々の生きがい像を具体化する。
- ② 社会的・活動的要因：仕事・会社との関係（満足度）、仕事以外の近隣との付き合い、地域・社会活動、配偶者・子どもとの関係、友人関係などを見て、どのような生活上（社会関係や日常活動上）の要因が生きがい要素に影響するかを分析する。
- ③ 基本属性・内面的要因：性別、年齢、職業、健康状態などの「基本属性」及び、社会人、家庭人のうちどの立場を重視しているかという帰属意識、性格、行動特性などの個人の「内面的要因」が、生きがいの要素にどのように影響するかを分析する。
- ④ ライフステージでの推移、社会・文化的変化：定年前後におけるサラリーマンのライフステージを4つの区間（前述2.2）に分け、ライフステージの推移が、生きがい要素、関連する要因にどのように関係するかを見る。

## 【調査の枠組み】



### 3.2 第1回～第4回調査項目

- ① 現在のサラリーマン層の生活実態と生きがいに関する考え方を探り、どのようなものに生きがいを感じているかを明らかにする。また、その生きがいに関する考え方が、その人の基本属性、社会的・活動的要因、ライフステージなどとそのような関係にあるのかの分析を行う。
- ② 過去の調査結果との比較を行い、サラリーマンの生活設計についての考え方や実態の変化を明らかにし、その変化の要因についての分析を行う。前回調査から今回調査までの5年間の社会情勢や経済環境、雇用環境等の変化との関係の中で、生活設計についての考え方や実際の状況の変化、生活と生きがいについての意識の変化などについて明らかにしその要因を分析する。
- ③ 特に今回は第1回調査から第4回調査までとの比較を通して、第1回調査開始（1991年）から20年間における経済環境や雇用環境の変化が、サラリーマンの生活と生きがいにもどのような変化をもたらしているかの分析を行う。

### 3.3 第5回調査で追加した項目

- ① 第1回～第4回調査では厚生年金基金等の企業年金に加入している人に対するアンケート調査であり比較的経済的に恵まれたサラリーマン層への調査でもあった。近年の経済環境の低迷、企業業績の悪化、会計基準の変更、企業年金法制の改定等により、企業年金の廃止が続き、企業年金に加入していない人は厚生年金被保険者の約半数になっている<sup>7</sup>。

<sup>7</sup> 企業年金連合会(2010)によると、企業年金（厚生年金基金、適格退職年金、確定給付企業年金、確定拠出年金）の加入者数 1,697 万人（平成 22 年 3 月末時点）は厚生年金被保険者 3,425 万人の約半数 49.5%である。

そのため、第5回調査では「企業年金がないサラリーマン層」も調査対象に加え、サラリーマン層全体での生活実態や生きがいを明らかにするとともに、企業年金がある人との生きがいに関する考え方などの対比を行った。

## 4 日本の経済環境と雇用環境の変化

本調査は日本経済のバブル崩壊時の1991年に、第1回調査が実施され、その後は5年後に第2回調査(1996年)、第3回調査(2001年)、第4回調査(2006年)を実施してきた。この間、日本経済はアジア通貨危機(1997年)、ITバブル崩壊(2000年)、リーマンショック(2008年)といういくつかの経済危機と最近ではユーロ危機を経験し、日本経済も株価低迷と円高という厳しい状況となっている。雇用環境においては「男女雇用均等法」(1997年)の改正施行、「高年齢者等の雇用の安定に関する法」(2004年)の改正施行がなされ、女性の社会進出が増え、雇用の定年延長や定年退職後の雇用継続といった就業機会が増加してきた。一方、近年の企業業績の低迷などから正規社員の割合が減り、非正規雇用という形態が増加してきており、厚生労働省が発表した「平成22年就業形態の多様化に関する総合実態調査」<sup>8</sup>によると、非正規雇用の割合は38.7%まで上昇してきている。また、若年齢層の雇用環境も厳しい状況が続いており、文部科学省の「学校基本調査・平成23年度(速報)結果の概要」<sup>9</sup>によると、平成23年3月に4年制大学を卒業した学生55万3千人の内、就職が決まったのは34万人で、進学や定職に就かない進路未定者が10万7千人にのぼり、就職率は61.6%という結果であり、バブル経済崩壊後の就職氷河期(1993-2005年)から一旦は回復(2006-2008年)したものの、再度リーマンショック等により雇用環境は厳しい状況となっている。過去20年の間に、日本経済は高度経済成長から低成長時代へと移り、2007-2009年にかけて団塊の世代が大量に60歳定年を迎え、2012-2015年に65歳を迎える。昨年度から既に団塊の世代が65歳を迎え労働市場からの定年と高齢者(65歳以上)の仲間入りとなる。平均寿命は男性79.64歳、女性86.39歳(2010年)まで延び、高齢化率も23.3%(2011年)まで上昇し、日本は「超高齢社会」<sup>10</sup>へ突入している。このように経済環境、雇用環境、社会環境が著しく変化し、定年退職後の人生も長くなる中、サラリーマンの生活と生きがいに関する考え方や生活はどのように変化してきているのであろうか。

---

<sup>8</sup> 「平成22年就業形態の多様化に関する総合実態調査」：事業所規模5人以上の民営事業所約17,000カ所と、そこで働く労働者約51,000人を対象として、平成22年10月1日現在の状況について調査を実施したもの。

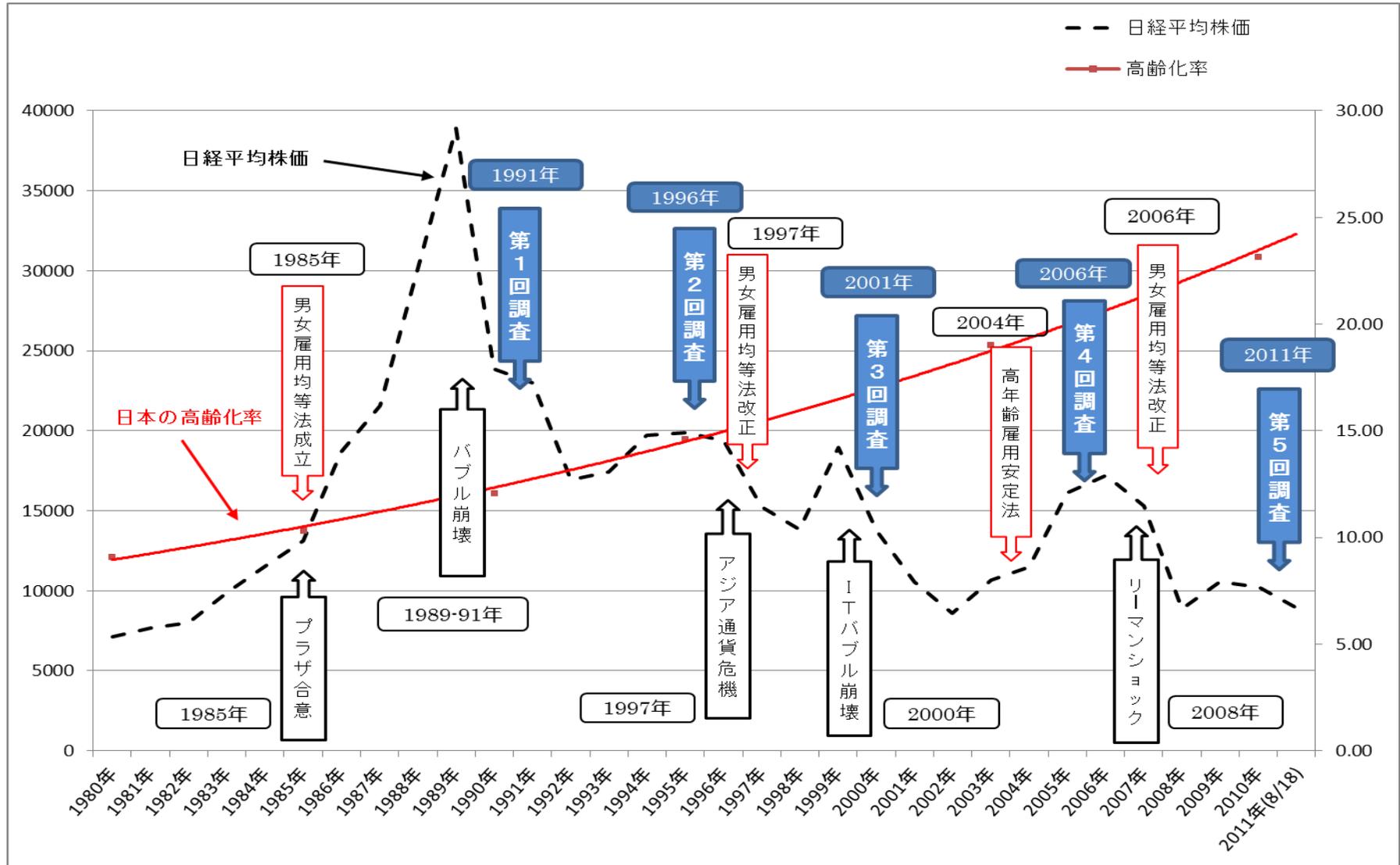
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/5-22.html>, 2011.12.7).

<sup>9</sup> 「学校基本調査平成23年度(速報)結果の概要」：平成23年に4年制大学を卒業した学生の就職状況を調査したもの。

([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k\\_detail/1309148.htm/](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1309148.htm/), 2011.12.7).

<sup>10</sup> 高齢化率が7%-14%を「高齢化社会」、14%-21%を「高齢社会」、21%以上を「超高齢社会」と呼んでいる。

〔図表〕日経平均株価と日本の高齢化率の推移について



出所：日経平均株価は日本経済新聞社(2011)、高齢化率指数は総務省統計局(2011)より筆者作成

## 5 第1回調査～第5回調査結果の振り返り

### 5.1 第1回調査〈1991（平成3）年〉

第1回	H3.10.20～H3.11.18	調査対象:200基金(厚生年金基金)		調査方法:郵送配布・郵送回収		
【アンケート配布対象】		(合計4,000人)				
35-44歳	サラリーマンシニア前期	約1,000人	男性:女性(4:1)=800人:200人	【アンケート回収結果】 (回収率)		
45-54歳	定年準備期	〃	〃	(本人)	3,051人	76.3%
55-64歳	定年期	〃	〃	(配偶者)	2,573人	64.3%
65-74歳	年金生活期	〃	〃	サンプル数	5,642 人	

第1回調査は、バブル経済の中で物質的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさを大切にしていく必要があるという認識のため、定年移行期のサラリーマンの生活と生きがいの問題についての調査が初めて実施され、定年移行期のサラリーマンの生活と生きがいに関するデータが初めて示されたものである。調査が実施された1991年は、日本経済のバブル崩壊が始まる中での調査となった。

第1回調査の主な調査結果は、生きがいを持っている人の割合は、サラリーマン全体では66.2%で、サラリーマンOBは75.3%が生きがいを持ち、現役の60.9%よりも多いという結果が得られた。また、高学歴者ほど「地域・近隣」から生きがいを得ることが少なく、「仕事・会社」と「家庭」に限られる傾向が見られた。生きがいに影響する要因としては、「帰属意識」「性格」「友人」「社会活動」が深く関与していることが指摘され、特に性格については「積極性」以外に「親和性（人との和を大切にする）」の強い人ほど生きがいを持っていることが判明し、友人を持ち、社会活動に参加することが、生きがいを持つ比率を高めると指摘した。社会活動の参加状況は、サラリーマン全体では24.8%で、サラリーマンOBの31.2%は、現役の20.7%よりも多いという結果であった。一般に、社会活動に参加している人は生活に充足感を感じ、生きがいを持つ人が多いことが判明し、社会参加の機会の拡充が必要であることを指摘した。調査結果より、豊かな定年退職後の生活を送るためには、「健康の維持・推進」「経済的基盤」「生涯楽しめる趣味を持つ」ことが必要であると指摘し、社会的対応策として、「雇用環境の維持」「定年退職者の能力を活かす場」「社会活動の機会や情報提供」などを挙げた。

### 5.2 第2回調査〈1996（平成8）年〉

第2回	H8.11.6～H8.12.9	調査対象:210基金(厚生年金基金)		調査方法:郵送配布・郵送回収		
【アンケート配布対象】		(合計4,141人)				
35-44歳	サラリーマンシニア前期	約1,000人	男性:女性(3:1)=750人:250人	【アンケート回収結果】 (回収率)		
45-54歳	定年準備期	〃	〃	(本人)	2,909人	70.2%
55-64歳	定年期	〃	〃	(配偶者)	2,430人	58.7%
65-74歳	年金生活期	〃	〃	サンプル数	5,339 人	

21世紀には4人に1人が高齢者となる超高齢社会が予測され、日本経済のバブル崩壊や日本型終身雇用制度が変化するなど社会や経済状況が変化していく中、雇用者の意識も仕事と仕事以外の生活とのバランスを重視するようになり、サラリーマンの生活と生きがいについ

ても、さらに追加分析する必要性が認識され、第1回調査の5年後に第2回調査が実施された。これにより初めて「サラリーマンの生活と生きがい」に関する2時点の比較が可能となった。1996（平成8）年は、日本経済がバブル崩壊から回復に向かう中での調査となった。

第2回調査の主な調査結果では、バブル絶頂期であった第1回調査（1991年）よりもバブル崩壊後の第2回調査（1996年）の方が、生きがいを持っているサラリーマンが多いということが明らかとなった。生きがいを持っている人の割合は、サラリーマン全体では78.4%となり、前回調査よりも12.2%ポイント増加し、サラリーマンOBの85.1%、現役の74.6%ともに前回調査より10%ポイント以上も増加した。生きがいを得られる場については前回と同様に「仕事・会社」と「家庭」に集中していたが、「仕事・会社」が10%ポイント以上減少する中、「家庭」「個人的友人」「その他」が増加した。生きがいに影響する要因としては、「健康状態」が良い人ほど生きがいを持ち、「暮らし向き」が良い人ほど生きがいを持っていた。また、配偶者や子どもなどの家族が増えると生きがいを持つ人が増えることも判明した。生きがいの有無は「友人関係」「生涯学習」「社会活動」と強い相関関係があることも改めて認識された。調査結果より、将来の生活設計がしっかりできている人ほど、将来の生活にも不安が少ないことが判明し、定年退職後の生活を生きがいを持って豊かに生きるためには、将来の生活設計をしっかり持つことが大切であり、「年金ライフプランセミナー」を行う必要性を指摘し、併せて、定年退職後の生活設計は早い段階から行う必要があることも指摘した。「年金ライフプランセミナー」については、「健康」「経済」「生きがい」の3つを中心課題としているものが多いが、「再就職」や「介護」についても不安に感じており、これらに関する情報提供の必要性を指摘した。企業に求められることは、「経済的基盤整備の支援」と「就職の場の提供」であり、社会的政策として「雇用環境の維持」と「定年退職者の能力を活かす場の提供」の必要性を挙げた。サラリーマンの意識が「仕事・会社」から離れ、仕事以外の生活も大切にする傾向が進み、生きがいそのものが多様化し、その中で自分自身の生きる意味を問い直し、生きがいに対する認識がより深まっていることを指摘した。

### 5.3 第3回調査〈2001（平成13）年〉

第3回	H13.10.17～H13.12.18	調査対象:175基金(厚生年金基金)		調査方法:郵送配布・郵送回収		
【アンケート配布対象】		(合計4,505人)				
35-44歳	サラリーマンシニア前期	約1,100人	男性:女性(3:1)=750人:250人	【アンケート回収結果】 (回収率)		
45-54歳	定年準備期	〃	〃	(本人)	3,189人	70.8%
55-64歳	定年期	〃	〃	(配偶者)	2,525人	56.0%
65-74歳	年金生活期	〃	〃	サンプル数	5,714人	

21世紀への今後の展望を切り開く観点から21世紀に入った2001年に第3回目の調査が実施された。2001（平成13）年は、バブル崩壊からの回復が徐々に進行する中、アジア通貨危機（1997年）、ITバブルの崩壊（2000年）という2つの経済危機を経験した直後であった。

第3回調査の主な調査結果では、生きがいを持っているサラリーマンの割合は第2回調査から減少し、ほぼ第1回調査の水準に戻った状況となった。生きがいを持っている人の割合は、

サラリーマン全体では67.3%で前回より11.1%ポイント減少し、第1回調査の66.2%と同水準となった。生きがいを得られる場については第1回調査及び第2回調査と同様に「仕事・会社」と「家庭」の2つに集中し、第2回調査と同様に「仕事・会社」が減少する一方、「家庭」「個人的友人」「その他」が増加した。第3回調査では、これから団塊世代が大量に定年退職を迎える動向や、1997年に施行された「男女雇用均等法改正」により、徐々に社会進出が著しくなってきた女性の動向についての分析を実施した。これによると、団塊世代について世代固有の傾向は認められなかったが、団塊世代は人口構成において常に大きなウエイトを占め、マクロ社会においても大きな影響を与える集団として認識しておく必要があることを指摘した。女性就業者については、未婚者が4割弱と大きなウエイトを占めており、男性と比べて異なる傾向が示された。女性就業者の未婚者は生きがいを「持っていない」「わからない」とする回答が多く、婚姻者よりも生きがいの保持率が低い結果となった。生きがいの場についても「個人的友人」が第1位を占め、「家庭」の選択傾向は低い結果であった。女性就業の変化は男女共同参画社会と密接に関係しており、今後の社会情勢の基本軸は「少子高齢化社会の進展」「雇用環境の変化」と「男女共同参画社会の進展」であるとした。また、女性については特に長生きリスクへの対処が大きな課題であることを指摘した。就業状況が多様化していく中、これらの多様性を享受し、生きがい感のある生活と社会の構築が必要であるとした。

#### 5.4 第4回調査〈2006（平成18）年〉

第4回	H18.12.7～H19.2.12	調査対象:93基金(厚生年金基金、DB基金型・規約型)	調査方法:郵送配布・郵送回収
【アンケート配布対象】		(合計2,928人)	
35-44歳	サラリーマンシニア前期	約700人	男性:女性(3:1)=525人:175人
45-54歳	定年準備期	〃	〃
55-64歳	定年期	〃	〃
65-74歳	年金生活期	〃	〃
			【アンケート回収結果】 (回収率)
			(本人) 1,992人 68.0%
			(配偶者) 1,519人 51.9%
			サンプル数 3,511人

21世紀が現実となる中、2004年には「高齢者等の雇用の安定に関する法律」が改正施行され、団塊の世代が大量定年を迎える2007年問題を控えた時期であった。21世紀には高齢化人口が35%に上昇すると予想され、サラリーマンOBの生活と生きがいの動向を探ることは、21世紀の社会の方向性を探る上で重要であり、過去3つの時点との比較や現役とOBの比較、サラリーマン男女の比較を軸に21世紀の定年退職者の生活と生きがいを考えることを目的として2006（平成18）年に第4回調査が実施された。特に、「定年退職者の社会参加と生きがい」「生きがいと生活満足度や性格」「生きがい喪失仮説と濡れ落ち葉仮説の検証」「夫婦関係と仕事の満足度」などの個別テーマを挙げ、これらの検証を行った。

第4回調査の主な調査結果は、生きがいを持っている人の割合は、サラリーマン全体では56.9%で第3回調査より10.4%ポイント減少し、第2回調査の78.4%から毎回10%ポイント減少してきている状況となった。生きがいを「持っていない」とする人の割合も第2回調査の11.9%、第3回調査の15.5%、第4回調査の20.9%と増えていた。生きがいを得られる場については前回までと同様に「仕事・会社」と「家庭」の2つが主であるものの、「仕事・会社」がさらに減少する一方、「家庭」と「個人的友人」がより増加する傾向も前回までと同

様であった。生きがいに影響する要因としては、地域との繋がりが深いほど「社会参加」が増え、生きがいにも繋がることを指摘した。一方、未婚者や離別者は地域との繋がりが弱い  
ため社会参加が低いことや、高学歴者も社会参加が少ない傾向が判明した。また、前回ま  
での調査と同様に、「社会参加」している人ほど、生活満足度や地位・仕事の満足度も高く、生  
きがいを持っていることが再認識された。

## 5.5 第5回調査〈2011（平成23）年〉

第5回 H23.10.25～H23.10.28		調査対象：企業年金に加入または加入していない人		調査方法：インターネット調査		
【アンケート実施対象】		(合計2,395人)				
35-44歳	サラリーマンシニア前期	1,183人	男性：女性(68:32)=810人：373人	【アンケート回収結果】 (回収率)		
45-54歳	定年準備期	960人	男性：女性(66:34)=639人：321人	(本人)	4,067人	100.0%
55-64歳	定年期	1,008人	男性：女性(70:30)=706人：302人	(配偶者)	1,078人	100.0%
65-74歳	年金生活期	916人	男性：女性(70:30)=644人：272人	サンプル数	5,145人	

第4回調査時には経済は回復基調にあったものの、2008年に発生したリーマンショックが世界経済を襲い世界同時不況となる中、日本の経済環境は再び下降局面を迎えデフレ環境から抜け出せない状況の中、2011（平成23）年に第5回調査が実施された。日本経済が低成長時代へと移行し、団塊の世代が大量に60歳定年を迎え、平均寿命が第1回調査時の男性75.92歳、女性81.90歳（1990年）から男性79.64歳、女性86.39歳（2010年）に延び、高齢化率についても第1回調査時の12.0%（1990年）から23.1%（2010年）に大きく上昇する中での調査であった。

第5回調査の主な調査結果では、経済・雇用環境が悪化している中、「経済的ゆとり」「精神的ゆとり」が減り、「仕事へのほりあい」「社会的地位」などの就業への充足感と生活全般への満足度が減少し、生きがいの保有率が減少していた。サラリーマンが生きがいを無くしていく中、生きがいを持って生活するためにはどうしたら良いのか。そのキーワードのひとつは「社会参加」と「高齢者の能力を活かす場」であることを示唆した。定年退職後も仕事に代わる生きがいを持てるような社会参加への「きっかけ」作りと、これらの人々が現役時代に培った能力を社会に還元し、地域社会を支える役割を担えるような仕組み作りが必要であることを提言した。経済環境や雇用環境、就業形態が変化し多様化していく中、生きがいの意味や価値観も変化してきており、多様化する社会に対応できるような生きがい感の構築が必要である。また、社会と企業に求められることは、これから定年退職を迎える人々に対して将来の不安を少しでも解消するため、若い頃からの将来の生活設計と定年退職に向けた年金教育の支援を行うことが必要である。さらに公的年金の機能が縮小する中、公的年金を補完するための個人の自助努力を推進するための新たな個人貯蓄の枠組みを構築することが必要である。個人の自助努力を進めるのであれば何らかの税制優遇策（所得控除または直接補助）が必要であり、新たな「個人の経済基盤」の整備作りが必要となる。諸外国で既に導入されている個人退職勘定制度を基に個人の自助努力による公的年金の補完を進めることが退職後の豊かな老後生活に繋がると考える。人々が生きがいを持って老後生活を送れるような社会政策の新たな基盤作りが必要である。サラリーマンが生きがいを持てる社会にするためには、①定年退職者の能力を活かせる

場の提供、②生きがいを持つための「きっかけ」作り、③定年退職後に向けた生活設計（ライフプラン）の支援、そして、④老後生活を安心して暮らせるような「経済基盤」の再整備（公的年金を補完する企業年金の充実や私的年金の推進策）が必要であることを示唆した。

**【参考】第5回調査における調査区分毎のサンプル数詳細〈2011（平成23）年〉**

調査区分	年齢	男性			女性			合計	
		第2号		(合計)	第2号		(合計)		
		企業年金あり	企業年金なし		企業年金あり	企業年金なし			
(1)サラリーマン シニア前期	35-39歳	291	149	440	132	67	199	177	816
	40-44歳	245	125	370	115	59	174	153	697
(2)定年準備期	45-49歳	218	111	329	111	56	167	137	633
	50-54歳	205	105	310	102	52	154	133	597
(3)定年期	55-59歳	242	123	365	109	55	164	139	668
	60-64歳	226	115	341	91	47	138	115	594
(4)年金生活期	65-70歳	234	120	354	94	48	142	115	611
	70-74歳	192	98	290	86	44	130	109	529
<b>(合計)</b>		<b>1,853</b>	<b>946</b>	<b>2,799</b>	<b>840</b>	<b>428</b>	<b>1,268</b>	<b>1,078</b>	<b>5,145</b>

(1)第4回調査までは厚生年金基金等の企業年金へ調査を依頼し、厚生年金基金等の加入者及び受給者へ郵送による調査を行い、併せてその配偶者にも調査を実施した。第5回調査は個人情報保護法の施行（2005年4月1日施行）後、調査環境が厳しくなる中、近年、様々な調査でも実施されるようになってきたインターネット調査を使用した。

(2)インターネット調査は、調査会社に登録しているモニターに対して調査票を無作為に送信し、回答してもらうものである。サラリーマンの抽出方法としては、国民年金第2号被保険者（厚生年金保険適用者）と厚生年金の受給者を対象とし、国民年金の被保険者区分及び年齢区分については、国民年金の第1号被保険者～第3号被保険者及び年齢構成が社会保障審議会年金数理部会(2009)の比率と一致するように設定。また、企業年金の加入有無については、企業年金連合会(2010)の比率と一致するように設定した。配偶者については、国民年金の第3号被保険者を対象とした。

(3)調査会社であるクロス・マーケティングモニター会員約149万人に対してネット調査（事前調査及び本調査票）を配信し、上記の年齢区分、国民年金第2号被保険者及び第3号被保険者区分、企業年金ありとなしの区分毎に回答受付順で5,145人のサンプル数を確保。

(4)配偶者調査票については、本人との比較検討のため、「会社や仕事に関する設問項目」を除き本人と同様の調査票項目での調査を行った。

（注1）厚生労働省社会保障審議会年金数理部会(2009)による35-59歳の被保険者数及び60-74歳の受給者数に基づき、男女別年齢別に割付け。

（注2）配偶者は国民年金の第3号被保険者及び第3号被保険者だった人として割付け。60-74歳の第3号は数値がないため、厚生労働省「厚生年金・国民年金事業概況」の第3号被保険者割合(0.347%)で数値を算出して割付け。なお、厚生労働省(2011a)によると、男性の国民年金第3号被保険者は約11万人で、国民年金被保険者6,874万人の0.16%で調査母数が確保できないため、今回調査では対象外とした。

（注3）企業年金ありの人は、「厚生年金基金」「確定給付企業年金」「企業型確定拠出年金」「適格退職年金」の加入者とし、企業年金連合会編(2010)の2頁記載の数値（平成21年3月末時点）より厚生年金被保険者の49.5%とした。企業年金なしの人は50.5%で割付け。

（注4）第2号被保険者の企業年金あり（男女）については、前回調査結果との比較を行う観点から前回調査サンプル数と合わせるため、上記で算出した数値を2倍したサンプル数を確保した。

（注5）第1回調査～第4回調査との比較分析の際は継続性の観点から「企業年金あり（男女）」のみで比較実施。

## 参考文献

- 企業年金連合会編（2010）『企業年金に関する基礎資料 平成 22 年 12 月』.
- 厚生労働省（2000）「第 19 回生命表（完全生命表）」  
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/19th/index.html>, 2011.12.7).
- ———（2011a）「平成 21 年度厚生年金保険・国民年金事業の概況」.
- ———（2011b）「平成 22 年簡易生命表の概況」  
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life10/>, 2011.12.7).
- ———（2011c）「平成 22 年就業形態の多様化に関する総合実態調査」  
([http:// www.mhlw.go.jp/toukei/list/5-22.html](http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/5-22.html), 2011.12.7).
- 社会保障審議会年金数理部会（2009）『公的年金財政状況報告 平成 19 年度』.
- 総務省統計局（2011）「高齢者人口の現状と将来」  
(<http://www.stat.go.jp/data/topics/topics051.htm>, 2011.7.28).
- 内閣府（2012）「平成 24 年版 高齢社会白書」  
(<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/zenbun/index.html>, 2013.5.28).
- 日本経済新聞社（2011）「日経平均プロフィール」  
(<http://ecodb.net/other/nikkei225.html>, 2011.7.28).
- 文部科学省（2011）「学校基本調査平成 23 年度（速報）結果の概要」  
([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k\\_detail/1309148.htm/](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1309148.htm/), 2011.12.7).

# 第1章 互酬性のソーシャル・キャピタルと主観的健康感との関連：マルチレベル分析による検討

## 1 はじめに

社会関係が個人の健康に影響を及ぼすことは広く知られている。例えば、未婚者や友人との接触が少ないほど死亡率が高いこと(Berkman & Syme 1979)、反対に、そのような対人資源に恵まれているほど、ストレスに直面しても健康を維持できること(Cohen & Wills 1985)などがこれまで指摘されてきた。しかしながら一方で、これらソーシャル・ネットワークやソーシャル・サポートのようなマイクロな社会関係とは別に、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）と呼ばれる、地域やコミュニティなどの個人のマクロな生活環境が健康に及ぼす影響が注目されはじめている(McKenzie & Harpham 2006)。例えば、「ほとんどの人は信用できる」「多くの場合人は他人を助けようとする」などと考える住民が多い地域では、そうでない地域よりも住民の死亡率が低く、平均的な健康度も高いことが報告されている(Kawachi, Kennedy, & Glass 1999; Kawachi, Kennedy, Lochner, & Prothrow-Stith 1997)。また、他人に対する信頼感が低かったり、地域への所属意識が低かったりすると、うつ病その他のメンタルヘルス不調のリスクが高いことも明らかとなっている(Forsman, Nyqvist, & Wahlbeck 2011)。Putnam(2000)は、ソーシャル・キャピタルを「社会的ネットワークならびにそこから生じる互酬性<sup>1</sup>や信頼性の規範」と定義している。そして、このような信頼性や互酬性が規範化されている凝集性の高い地域では、健康リスクに対するセーフティネットが働きやすいことや、医療サービスの確保が容易になることを様々な調査データに基づきながら論証したのである。

近年、日本でもソーシャル・キャピタルと健康との関連についての研究が活発化している。例えば、地域活動への参加意識や、地域住民への信頼性や互酬性の意識が高い住民ほど精神的健康が高いこと(木村他 2009)、また、平均所得の高い地域に住む高齢者は、低い地域に住む高齢者よりも主観的健康感や幸福感が高いこと(市田・吉川・平井・近藤・小林 2005)などが報告されている。McKenzie & Harpham(2006)は、ある集団で有用なソーシャル・キャピタルが他でも有用であるとは限らないと述べている。しかしながら儘田(2010)は、上記を含む様々な国内の研究をレビューし、わが国でもソーシャル・キャピタルが健康の維持や増進に影響すると結論づけている。

ただし、先行研究にはいくつかの問題が指摘される。まず、ソーシャル・キャピタルの構成要素である信頼性と互酬性のうち、信頼性のみを測定して健康との関連を検討している研究が多い(e.g., Forsman et al. 2011; Kawachi et al. 1999; Subramanian, Kim, & Kawachi 2002)。あるいは、信頼性と互酬性それぞれの測定値を合計してソーシャル・キャピタルの指標としている(e.g., 市田他 2005; Kawachi et al. 1997)。このため、Putnam(2000)が定義するソーシャル・キャピタルの構成要素のうち、信頼性と比べて互酬性に関する健康への影響が十分検討さ

---

<sup>1</sup> 互酬性(reciprocity)は社会心理学の領域などでは互恵性と訳されている。

れていない。しかしながら、互酬性の規範は社会システムの安定に不可欠な要素であることが古くから指摘されている概念であり(e.g., Gouldner 1960)、近年でも、信頼性と並んで「人類が作り出したすべての道徳的制度の基盤」(Nowak & Sigmund 2000)であることが主張されている。このような互酬性と健康との関連については未だ検討の余地がある。

第二の問題は、少なからぬ先行研究が、ソーシャル・キャピタルを集団レベルではなく、個人レベルの指標とみなして健康との関連を検討している点である(e.g., Forsman et al. 2011; 木村他 2009)。しかしながら、地域への所属感や他人への信頼感などのソーシャル・キャピタルを社会関係に対する個人の意識や行動とみなせば、従来のソーシャル・サポートやソーシャル・ネットワーク研究との違いが不明確となり、新たに検討する価値が減じられてしまう(McKenzie & Harpham 2006)。近年、個人レベルの指標と集団レベルの指標とを区別して何らかの外的基準との関連をそれぞれ検討する新たな統計学的モデル(マルチレベル分析)が開発され(Kreft & de Leeuw 1998)、この方法を用いたソーシャル・キャピタル研究が有望視されている(Forsman et al. 2011)。例えば、Snelgrove, Pikhart, & Stafford(2009)は、イギリス人を対象とした大規模縦断データにマルチレベル分析を適用し、他者への信頼性が高い個人は主観的健康感が高いことだけでなく、信頼性が高い個人が多く住む地域の住民ほど主観的健康感が高いことも明らかにしている。このような検討を互酬性に関しても行う必要がある。

第三の問題は、ソーシャル・キャピタルと健康に関する従来の研究の多くは地域差に着目しており(e.g., Hamano et al. 2010; Snelgrove et al. 2009)、時代差については十分検討されてこなかった点である。しかしながら Putnam(2000)によれば、近年のアメリカにおけるソーシャル・キャピタル衰退の最大要因は、地域との結びつきを重視しない新しい世代の台頭であり、信頼性や互酬性に富んだ世代の人口の減少が、結果として地域社会全体のソーシャル・キャピタルの低下を生じさせているのである。実際、我が国でも、大規模縦断調査により、特に男性の若年世代ほど近所づきあいが減少する傾向が示されている(小林・Liang 2011)。ただし、このような時代的遷移が、ソーシャル・キャピタルと健康との関連にどのような影響を及ぼすかはこれまで検討されていない。

本研究の目的は、大規模調査データの解析を通じてソーシャル・キャピタルと主観的健康感との関連を検討することである。その際、以上の議論を踏まえて、ソーシャル・キャピタルの指標として互酬性を用いること、マルチレベル分析の手法をデータに適用すること、互酬性の時代的遷移が主観的健康感との関連に及ぼす影響を明らかにすることとした。これらの検討を通じて、我が国のソーシャル・キャピタルの特徴や健康との関連について、新たな知見が得られることが期待される。

## 2 方法

### 2.1 対象

年金シニアプラン総合研究機構(旧シニアプラン開発機構)による「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」のデータを用いた。本調査は、全国から抽出した35歳から74歳までの中高年男女とその配偶者を対象に5年ごとに行われており、1991年の第1回調査か

ら 2011 年の第 5 回調査まで、計 25,333 名が参加している。配偶者向けの調査票には主観的健康感に関する質問が含まれていないことから、本研究では、(配偶者ではなく) 本人のデータ( $n = 15,208$ )のみを分析することとした。さらに、分析に用いた変数に欠損や不明回答がある対象者のデータを除いたところ、最終的な分析対象者数は 14,073 名 (男性 10,691 名、女性 3,382 名 : 平均年齢  $54.19 \pm 10.95$  歳) となった。

## 2.2 結果変数

現在の健康状態について、「十分に満たされている」から「まったく欠けている」までの 5 件法で尋ね、回答に 1 点から 5 点を与えた。得点が高いほど主観的健康感が高くなるように指標化した。

## 2.3 独立変数

「社会の役に立つこと」が現在の自分にとってどの程度満たされているかを尋ね、個人レベルの互酬性の指標とした。「十分に満たされている」から「まったく欠けている」までの 5 件法で得られた回答に 1 点から 5 点を与え、得点が高いほど個人レベルの互酬性が高くなるように指標化した。

集団レベルの互酬性として、「生きがいの意味」を用いた。すなわち、生きがいとは「他人や社会の役に立っていると感じること」である、と回答した割合を、調査コホートごとに算出して分析に用いた。得点が高いコホートほど互酬性に関する規範意識が高い集団と考えられる。

## 2.4 調整変数

互酬性と主観的健康感との関連に影響を与える変数として、性別 (男女)、年齢 (実数)、学歴 (最終学歴)、配偶状況を分析に用いた。学歴については、「小学校・高等小学校・新制中学校」を中学校、「旧制中学校・旧制高等女学校・旧制実業学校」を高等学校、「旧制高等学校・高等師範学校・新制短大」および「専門学校・専修学校」を短大・専門学校、「大学・大学院」を大学以上とカテゴライズした。配偶状況は「未婚」「既婚 (離別)」「既婚 (死別)」「既婚 (配偶者有り)」の 4 カテゴリーを用いた。

## 2.5 分析

はじめに本研究の分析変数の記述統計量を算出し、5 回の調査間で比較することでソーシャル・キャピタルやその関連要因の時代的遷移の傾向を検討した。

つづいて主観的健康感を結果変数とするマルチレベル分析を以下の 5 つのモデルに適用し、段階的に検討した。

モデル 0：説明変数を持たず、切片（全体平均）と残差分散だけで構成されるヌルモデルである。このモデルでは、切片の推定値ならびに、個人と集団の各レベルにおける分散を求め、調査コホート間で主観的健康感に差が認められるかを検討する。

モデル 1：ヌルモデルに説明変数として調整変数（性別、年齢、学歴、配偶状況）を加えたモデルである。このモデルでは、切片が調査コホート間で異なることを仮定したうえで(ランダム切片モデル)、各説明変数の主観的健康感への影響を検討し、さらに、これらの変数によって説明されない調査コホート間の健康格差の有無を明らかにする。

モデル 2：モデル 1 の調整変数に加えて、個人レベルの互酬性を説明変数としたモデルである。これにより調整変数の効果を除外したあとの個人レベルの互酬性と主観的健康感との関連を検討する。このモデルでは、両者の関連の強さ（傾き）が調査コホート間で異なることを仮定する。また、モデル 1 と同様に主観的健康感（切片）の調査コホート間の差も仮定するので、本モデルはランダム切片・ランダム傾きモデルである。

モデル 3：モデル 2 に集団レベルの互酬性を説明変数として加えたモデルである。これにより、調整変数の効果を統制したうえで、個人レベル、集団レベルそれぞれの互酬性が主観的健康感と関連するかを検討する。

モデル 4：モデル 3 に加えて、個人レベルの互酬性と集団レベルの互酬性の交互作用項を説明変数としたモデルである。このモデルでは、個人レベルの互酬性と主観的健康感との関連が集団レベルの互酬性に影響を受ける可能性を検討する。

各モデルのデータへの当てはまりの程度を比較するための指標として、逸脱度(-2 log likelihood)、AIC（赤池情報基準）、および BIC（バイズ情報基準）を算出した。また、級内相関(ICC)が算出可能なモデル（モデル 0 とモデル 1）では、これにより集団レベルの互酬性の説明力を評価した。

なお、Kreft & de Leeuw(1998)に倣い、切片と傾きが必要以上に高い相関を持たないように個人レベルの互酬性は中心化してモデルに投入した。本研究の分析はすべて統計解析ソフト R2.13.0(R Development Core Team 2011)を用いて行った。

### 3 結果

〔図表 1-1〕に本研究で用いた分析変数の記述統計量を、調査全体および調査コホートごとに示した。

分析対象者の平均年齢は全体で 54.19 歳であった。調査コホートごとの平均年齢には統計的な有意差が認められたが、効果量は非常に小さく(partial  $\eta^2 = 0.004$ )、本質的なコホート差はないと思われた。性別構成は全体で約 4 分の 1(24.03%)が女性であったが、この割合は

調査コホート間で有意に異なることが示された。効果量( $w = 0.12$ )は中程度以上の値であり、女性の割合は第1回調査でもっとも低く、あとの調査ほど高くなる傾向にあった。就労者を対象とした本研究におけるこの傾向は、女性の社会進出を示すものといえるだろう。他方、学歴についても、有意で中程度の効果量( $w = 0.27$ )を有するコホート差が認められ、最近の調査ほど短大・専門学校や大学以上の最終学歴を持つ者の割合が大きく、反対に高等学校以下の最終学歴を持つ者の割合が少ないことが示された。配偶状況にも有意で小から中程度( $w = 0.15$ )のコホート差が認められ、未婚者や離婚者の割合が、最近の調査ほど高くなることが明らかとなった。以上の点から、本研究の分析対象は、女性の就業率の増大、高学歴化、非婚や離婚率の上昇、といった我が国の近年の社会状況の変化を反映した特徴を持っていると考えられた。

〔図表 1-1〕 調査コホート間の分析変数の比較

	全調査 (n=14,073)	第1回調査 (n=2,812)	第2回調査 (n=2,622)	第3回調査 (n=2,884)	第4回調査 (n=1,704)	第5回調査 (n=4,051)	$P^a$
年齢(mean±SD)	54.19 ±10.95	54.50 ±10.51	55.08 ±10.67	54.62 ±10.81	53.66 ±10.87	53.32 ±11.49	< .01
性別(%)							
男性	75.97	81.65	81.05	76.11	75.23	68.95	< .01
女性	24.03	18.35	18.95	23.89	24.77	31.05	
学歴(%)							
中学校	8.75	14.37	11.71	8.84	6.40	3.85	< .01
高等学校	35.51	45.20	43.06	38.14	33.27	22.96	
短大・専門学校	14.45	11.20	9.88	10.16	15.49	22.29	
大学以上	41.29	29.23	35.35	42.86	44.84	50.90	
配偶状況(%)							
未婚	10.08	5.48	8.92	12.10	13.50	11.13	< .01
既婚(離別)	3.17	1.28	1.49	2.32	2.93	6.27	
既婚(死別)	2.79	2.03	3.28	3.12	3.40	2.49	
既婚(配偶者あり)	83.97	91.22	86.31	82.45	80.16	80.10	
個人レベルの互酬性(mean±SD)	2.73 ±0.97	2.80 ±1.00	2.79 ±0.98	2.59 ±0.98	2.69 ±0.94	2.77 ±0.93	< .01
集団レベルの互酬性(%)							
あり	16.62	25.57	19.11	17.23	14.26	9.36	< .01
なし	83.38	74.43	80.89	82.77	85.74	90.64	
主観的健康感(mean±SD)	3.63 ±0.94	3.77 ±0.90	3.80 ±0.90	3.67 ±0.93	3.58 ±0.92	3.40 ±0.98	< .01

<sup>a</sup> 調査コホート間の比較(性別・学歴, 配偶状況はカイ二乗検定, 他は分散分析による)

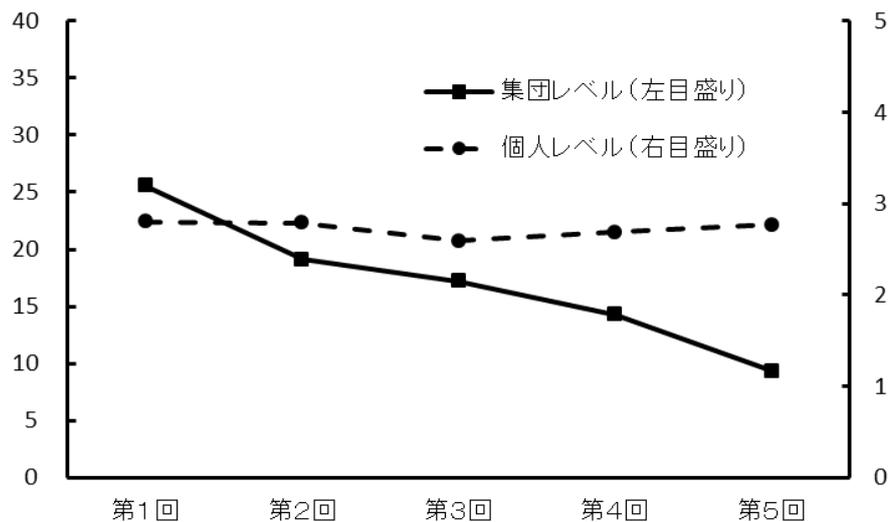
出所: 公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

〔図表 1-2〕に、個人レベルと集団レベルそれぞれの互酬性の時代的遷移を示した。個人レベルの互酬性の平均値はコホート間で有意差が認められたが、効果量は小さく( $\text{partial } \eta^2 = 0.007$ )、実質的な違いは認められなかった。これに対して、コホートレベルの互酬性については、小から中程度の効果量( $w = 0.16$ )をもつ有意なコホート差が認められた。これにより、個人レベルの互酬性は過去20年で変化がないが、一方で集団レベルの互酬性は低下傾向にあることが明らかとなった。そこで、集団レベルの互酬性の低下要因を検討することを目的に、第1回調査時点の年齢を基準として調査間隔(5年)刻みの年齢コホートを作成し、調査間の得点の推移を示した(図表 1-3)。高齢世代(点線で示された世代)ほど集団レベルの互酬性が高いことがわかる。このことを確認するために、年齢コホートと調査回を説明変数、集団レベルの互酬性得点を従属変数としたロジスティック回帰分析を行っ

たところ、いずれの説明変数の効果も有意( $p < .001$ )となった。それぞれのオッズ比とその効果量( $d$ )ならびに 95%信頼区間を求めたところ、調査回が  $0.76(d = .15, CI: 0.73-0.78)$ 、年齢コホートが  $1.18(d = .09, CI: 1.10-1.15)$  でいずれも十分な値であった。この結果は、集団レベルの互酬性の低下が、少なくとも部分的には年齢コホートの効果すなわち世代交代に起因することを示唆するものである。

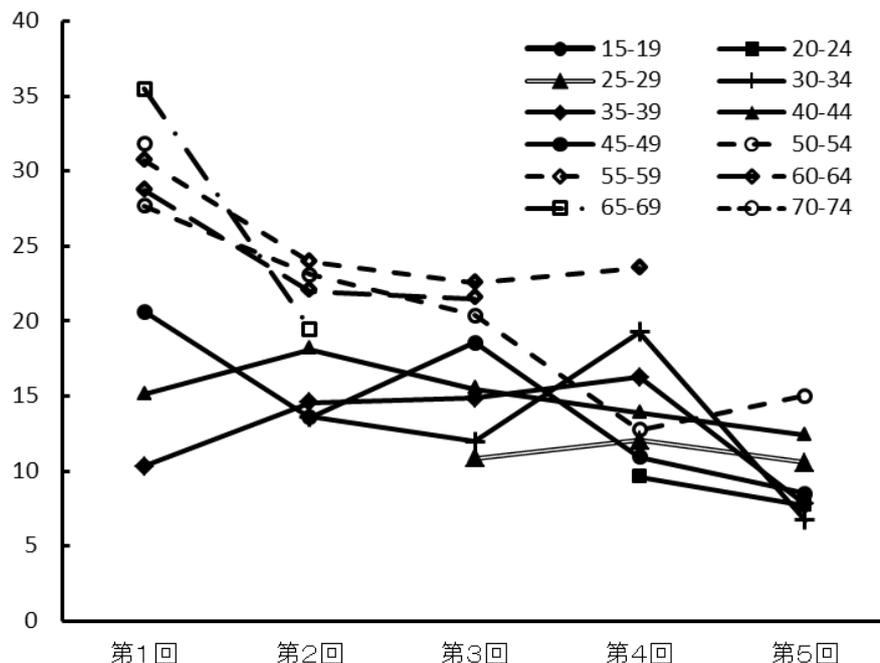
主観的健康感は、コホート間で小以上の効果量( $\text{partial } \eta^2 = 0.028$ )を持つ有意差が認められ、近年の調査ほど主観的健康感が低い傾向が明らかとなった。

〔図表 1-2〕 個人レベルと集団レベルの互酬性の推移



出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

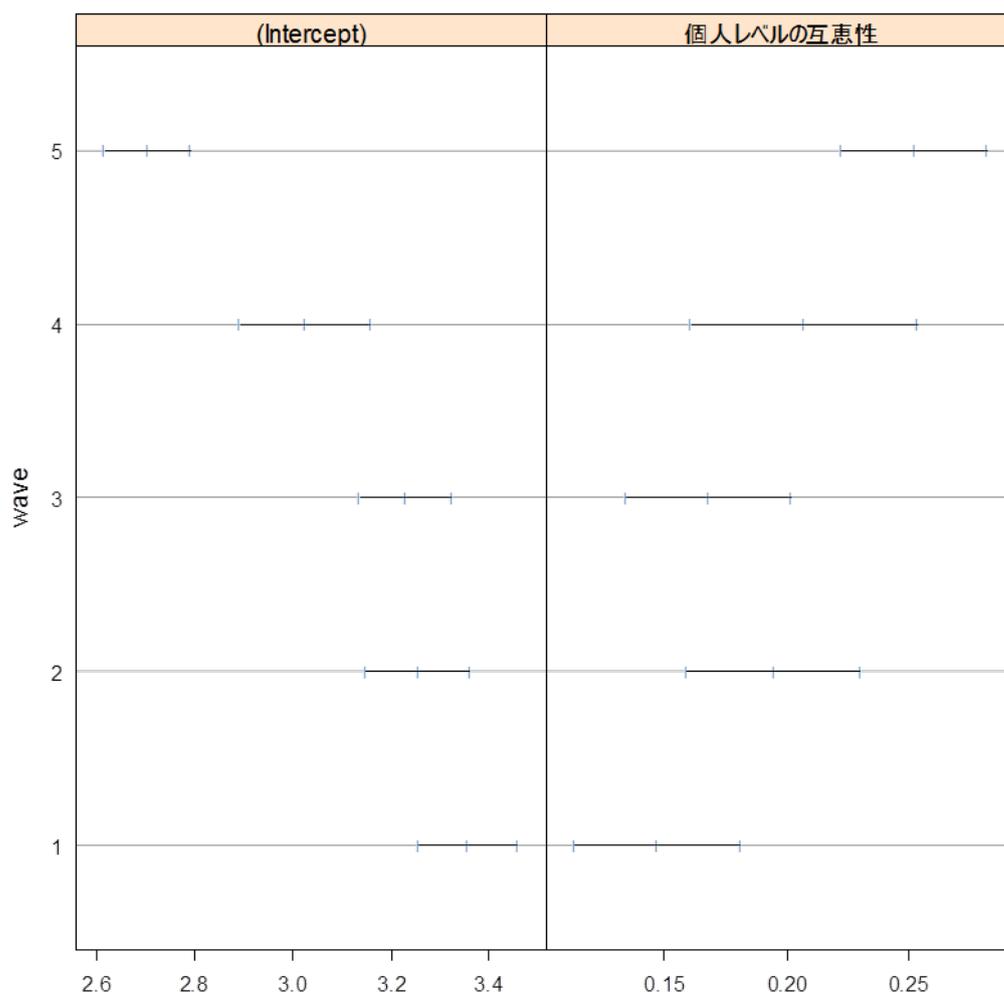
〔図表 1-3〕 第1回調査（1991年）を基準とした年齢コホートごとの集団レベルの互酬性



出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

個人レベルの互酬性と主観的健康感との関連について、調査コホートごとに示した（図表 1-4）。切片(Intercept)と傾きがともに調査コホート間のばらつきが大きいことがわかる。このことは、調査コホートのレベルと個人のレベルを区別して主観的健康感との関連を推測すること、すなわち本研究でマルチレベル分析を行うことの有用性を示唆するものである。

〔図表 1-4〕 主観的健康感に対する個人レベルの互酬性の回帰における調査コホートごとの切片と傾きの 95%信頼区間



出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

マルチレベル分析の結果を〔図表 1-5〕に示す。まず、モデル 0（ヌルモデル）におけるランダム効果については、個人レベルの分散(0.868)が集団レベルの切片の分散(0.020)よりも大きかった。このことは、主観的健康感との関連は、コホート要因よりも個人要因が強いことを示している。しかしながら集団レベルの切片の分散の平方根すなわち標準偏差(0.142)の 95%信頼区間は 0.076-0.267 で、この値も有意であることを示唆するものであった。また、級内相関(ICC)の値は 0.023 となり、主観的健康感の分散の 2.3%が調査コホートの違いによって説明できることが明らかとなった。

〔図表 1-5〕 主観的健康感を結果変数とするマルチレベル分析の結果

	モデル0	モデル1	モデル2	モデル3	モデル4
<b>固定効果</b>					
切片	3.645**	3.046**	3.224**	2.799**	2.958**
年齢		0.006**	0.003**	0.003**	0.003**
<b>性別</b>					
男性(基準カテゴリ)		-	-	-	-
女性		0.122**	0.131**	0.131**	0.131**
<b>最終学歴</b>					
中学校(基準カテゴリ)		-	-	-	-
高等学校		0.061*	0.065*	0.066*	0.065*
短大・専門学校		0.064 <sup>+</sup>	0.066 <sup>+</sup>	0.066 <sup>+</sup>	0.066 <sup>+</sup>
大学以上		0.164**	0.170**	0.171**	0.170**
<b>配偶状況</b>					
未婚(基準カテゴリ)		-	-	-	-
既婚(離別)		0.008	-0.011	-0.011	-0.012
既婚(死別)		0.129*	0.084	0.084	0.083
既婚(配偶者あり)		0.200**	0.142**	0.141**	0.140**
個人レベルの互酬性			0.188**	0.188**	0.280**
集団レベルの互酬性				2.478*	2.541*
個人×集団レベルの互酬性					-0.535**
<b>ランダム効果</b>					
<b>集団レベル</b>					
切片の分散	0.020	0.022	0.023	0.004	0.004
係数の分散			0.001	0.001	0.000
切片と係数の共分散			-0.004	-0.000	0.000
<b>個人レベル</b>					
分散	0.868	0.858	0.825	0.825	0.825
級内相関	0.023	0.025			
逸脱度	37972.40	37809.90	37260.30	37257.56	37249.68
AIC	37978.40	37831.90	37288.30	37287.56	37281.68
BIC	38001.10	37914.90	37394.10	37400.84	37402.52

\*\*p < .01, \* p < .05, +p < .10

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

次に、調整変数を説明変数としてモデルに加え、切片にマルチレベルを仮定したランダム切片モデル（モデル 1）を検討した。固定効果については、高齢、女性、高学歴、死別ないし有配偶者の場合は主観的健康感が高いことが示された。ランダム効果については、個人レベルの分散が 0.858 とヌルモデルから減少したのに対して、集団レベルの切片の分散はこのような低下が見られなかった。したがって、調査コホート間における主観的健康感の差は、調整変数以外の要因によると推測される。ただし適合度指標は、逸脱度、AIC、BIC のい

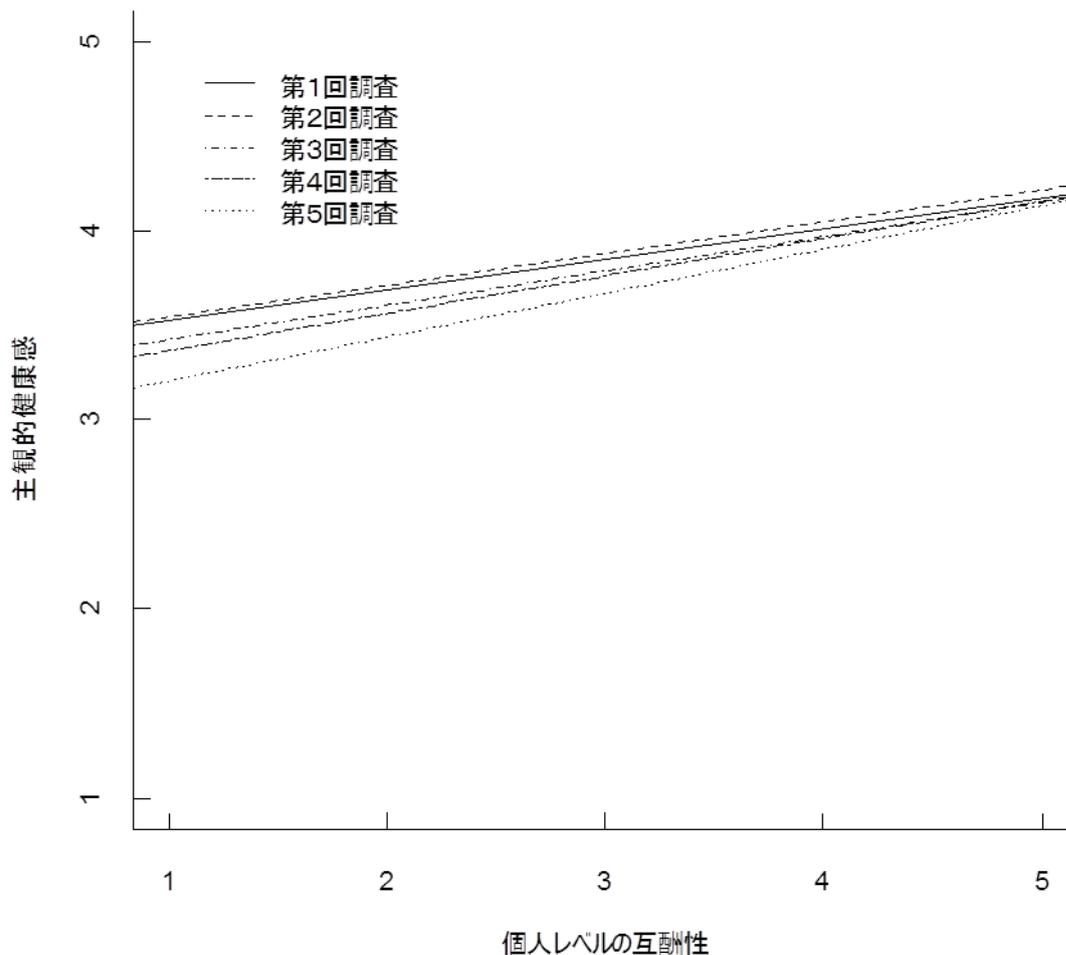
れもヌルモデルより値が減少し、データへのあてはまりが向上したことを示すものであった。

続いてモデル 2 で個人レベルの互酬性を説明変数に加えたところ、有意な正の効果(0.188)が認められ、互酬性の高い個人ほど主観的健康感も高いことが明らかとなった。これにより、集団レベルの分散の値(0.825)はモデル 1 の 0.858 よりもさらに低下した。ランダム効果における切片(0.023)と係数(0.001)の分散推定値はいずれも正で、標準偏差の 95%信頼区間はそれぞれ 0.078-0.290、0.012-0.062 であった。このことは、それぞれ、主観的健康感の平均値が調査コホート間で異なること、および、個人レベルの互酬性と主観的健康感との関連が調査コホート間で異なることを示唆するものである。他方、切片と係数の共分散の推定値に負(-0.004)の値が得られたが、両者の相関係数(-0.957)の 95%信頼区間は-1.000-0.990 で、この値が有意でないことを示唆するものであった。ただし、逸脱度、AIC、BIC のいずれの適合度指標もモデル 2 よりさらに減少(改善)した。

さらに、モデル 3 で集団レベルの互酬性を加えた結果、この変数の正の効果(2.478)が有意となった。すなわち、互酬性の平均値が高い調査コホートに属する個人ほど主観的健康感が高いことが示された。ランダム効果をみると、この変数をモデルに投入したことで集団レベルの切片の分散が 0.004 まで減少している。このことは調査コホート間の主観的健康感の差が部分的には集団レベルの互酬性の違いに起因することを示唆するものである。ランダム効果における切片と係数の関係については、共分散の推定値は負であったが(-0.000)、相関係数(-0.070)の 95%信頼区間は-0.282-0.148 であり、この値が有意でないことを示した。3 つの適合度指標の値は、モデル 2 と比べると、逸脱度と AIC は減少したが、BIC は増大した。

最後のモデル 4 で個人レベルの互酬性と集団レベルの互酬性の交互作用項を投入した結果、この変数の有意な負の効果(-0.535)が認められた。このことは、互酬性の低い調査コホートにおいては個人レベルの互酬性と主観的健康感との関連が強いが、反対に、互酬性の高い調査コホートにおいてはこの関係が弱いことを意味している。この交互作用の効果を [図表 1-6] に示した。最近の調査ほど主観的健康感の切片が低い、回帰直線の傾きは大きくなり、個人の互酬性による健康増大効果が大きいことがわかる。これまで検討したすべてのモデルの中で、モデル 4 の適合度は、逸脱度と AIC に関しては最も値が低く、BIC のみが他のモデル(モデル 2 および 3)より値が高かった。そこで逸脱度の差と自由度の差に基づいてカイ二乗検定を行い、モデルの比較をしたところ、モデル 2 よりもモデル 3、モデル 3 よりもモデル 4 がデータにフィットすることが統計的に確認された(それぞれ  $p < .10$  と  $p < .01$ )。以上のことから、モデル 4 が最も良く主観的健康感を説明するモデルであると考えられた。

〔図表 1-6〕 主観的健康感に対する個人レベルの互酬性の回帰における調査コホートごとの検討



出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

## 4 考察

本研究ではソーシャル・キャピタルの構成要素の一つである互酬性を、個人レベルと集団レベルに区別して測定し、5年ごと5回の調査間でそれぞれの比較を行った。その結果、最近20年間に於いて、個人レベルの互酬性には変化がないが、集団レベルすなわち規範化されたソーシャル・キャピタルとしての互酬性は低下傾向にあることが明らかとなった。総務省統計局(2012)が5年ごとに行っている社会生活基本調査は、1991年の第4回調査以降の実施年度が「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」と重なっていることから、本研究の結果との比較が有用と思われる。これによれば、献血、学校行事の手伝い、公園清掃など、何らかのボランティア活動を行っている者の割合は、1991年の27.7%から2011年の26.3%までほとんど変化していない。ボランティア活動への参加は、個人レベルのソーシャル・キャピタルの指標であるため(De Silvia 2006)、本研究における集団レベルの互酬性ではなく、個人レベルの互酬性と同様の低下傾向を示したものと考えられる。坂本(2010)は、上記の社会

生活基本調査の結果をもとに「我が国の互酬性の規範はあまり衰退していない」と結論している。しかしながら本研究の結果と合わせて考えると、近年の我が国における互酬性は、「他人や社会の役に立ちたい」という個人の欲求にとどまり、「他人や社会の役に立つべきである」という規範としては機能しなくなりつつといえるかもしれない。

Putnam(2000)は、近年のアメリカにおける一般的互酬性（集団レベルの互酬性）の低下が、世論調査の拒否率の増大や国勢調査用紙の返送率の低下に反映されていることを指摘している。我が国でも、国勢調査の回収率の低下が指摘されていることから（みずほ総合研究所 2011）、本研究の結果には日本とアメリカで共通する背景要因が影響しているのかもしれない。実際、本研究における年齢コホート別の分析の結果は、Putnam(2000)の研究と同様に、若年世代ほど集団レベルの互酬性が低く、世代交代の結果として集団レベルの互酬性が低下する可能性を示唆するものであった。ただし、ソーシャル・キャピタルに無関心の世代の台頭がソーシャル・キャピタルの低下をもたらした、との説明はトートロジーである（渡部 2011）。加えて本研究では、世代交代の要因の影響を取り除いたうえでも集団レベルの互酬性が低下する傾向が明らかとなっている。したがってソーシャル・キャピタルの時代遷移をもたらす他の要因についても検討する必要があるだろう。例えば Putnam(2000)は、アメリカにおける世代交代以外のソーシャル・キャピタルの衰退要因として、夫婦共働き世帯の増大、住居の郊外化、余暇活動の個人化、を挙げている。加えて本研究でも、最近 20 年間における、女性の就労率の増大、高学歴化、非婚や離婚率の上昇、という社会状況の変化を示唆する傾向が確認された。そこで、これらの社会変動と、我が国の集団レベルの互酬性の低下、あるいは個人レベルと集団レベルの互酬性の乖離との関連を検証する必要がある。

マルチレベル分析の結果は、個人と集団いずれのレベルにおいても、互酬性が高いと主観的健康感が高いことを示すものであった。このことは、ソーシャル・キャピタルと健康との関連を検討した国内外の先行研究（e.g., Forsman et al. 2011; Kawachi et al. 1999; 木村他 2009; 市田他 2005）の結果と一致するものである。ただし、本研究においては、2 つの互酬性の効果に交互作用が認められ、集団レベルの互酬性が高いほど（古い年齢コホートほど）個人の互酬性が健康をもたらす効果は弱く、反対に集団レベルの互酬性が低いほど（若い年齢コホートほど）個人の互酬性が健康をもたらす効果は高いことが示唆された。この結果は、信頼性が高い個人は、信頼性の高い地域に住んでいるほど健康であることを示した先行研究（Subramanian et al. 2002）とは反対の結果である。本研究ではソーシャル・キャピタルの指標として、信頼性ではなく互酬性を用いた。また、一般に、加齢に従って主観的健康感は低くなるが（Pinquart 2001）、本研究では、高齢であるほど主観的健康感が高い傾向が示された。このような分析変数の違いやサンプルの特徴が本研究の結果に影響した可能性がある。

しかしながら一方で、集団レベルの互酬性が低い地域では個人レベルの互酬性が高い住民ほど主観的健康感が低いことも報告されている（福川・川口 2012）。したがって本研究で得られた知見から、ソーシャル・キャピタルが個人の健康増進に必ずしも貢献しない可能性を論じることもできるだろう。例えば Portes(1998)は、ソーシャル・キャピタルが却って個人に悪影響をもたらす場合として、集団メンバーからの過度の要求を挙げている。「お互いさま」といった互酬性の規範が共有されている社会ほど、それを逆手に取って非協力的（利己的）

に振る舞う者が最大の利益を得ることができるという、いわゆるただ乗り問題(free riding problem)が発生しやすいからである。真島(2010)による進化シミュレーション研究によれば、このようなただ乗りを防いで集団内で互酬性を成立させるためには、利己主義者だけでなく、利己主義者に協力する「お人好し」の利他主義者にも非協力的な態度を貫くという徹底した非寛容主義の実践が必要であった。興味深いことに、この結果は、ソーシャル・キャピタルが充実していたかつてのアメリカが、同時に人種や性別などに関する差別意識が強い非寛容な時代でもあったとする Putnam(2000)の指摘と合致するものである。したがって本研究の結果は、互酬性の規範が共有されていない現代においては、個人レベルの利他的行為が搾取を免れ、むしろ健康増進効果を発揮しやすいことを示唆しているのかもしれない。

## 5 展望

Putnam(2000)は、ソーシャル・キャピタルの衰退と寛容性の増大の同時進行を指摘しつつも両者が共存しうることを主張している。しかしながら、彼の議論は、公共善としてのソーシャル・キャピタルの機能を強調し過ぎている点がしばしば批判されている(渡部 2011)。実際、近年、他者の排除や規範の強制(Graeff 2009)、不平等の拡大(Field 2003)など、ソーシャル・キャピタルがもたらす負の影響も指摘されるようになってきている。本研究では、個人レベルの互酬性と集団レベルの互酬性が主観的健康に及ぼす影響の非共存という形で、このような「ソーシャル・キャピタルのダークサイド」(稲葉 2011)の一端を示すことができたといえるかもしれない。

De Silvia(2006)は、ソーシャル・キャピタルと健康との関連を検討した先行研究をレビューし、11に渡る方法論的問題を指摘している。このうち本研究では、個人レベルと集団レベルを区別して健康への影響を推定していること、調整変数の影響に配慮していること、ソーシャル・キャピタルの定義に準じた指標(互酬性)を用いている、などの点で、先行研究の問題点を改善している。しかしながら残された問題もいくつかある。例えば、本研究では、信頼性に代表される他の認知的なソーシャル・キャピタル、あるいは地域の人々との交流や投票率などの構造的なソーシャル・キャピタルの効果を検討していない。また、単項目による主観的健康感を結果変数としているため、多項目により測定される総合的指標や信頼性や妥当性の確認された指標を用いていない。5年ごとに測定された横断データの関係を検討しており、同一対象を追跡していない点も時代遷移を明らかにするうえでは不十分であろう。これらの問題点を改善し、精度の高い知見を蓄積することで、ソーシャル・キャピタルが個人の健康に及ぼす影響に関して議論を深めていく試みが期待される。

## 参考文献

- Berkman, L. F., & Syme, S. L. (1979) "Social Networks, Host Resistance, and Mortality: A Nine-year Follow-up Study of Alameda County Residents," *American Journal of Epidemiology*, 109: pp.186-204.
- Cohen, S., & Wills, T. A. (1985) "Stress, Social Support, and the Buffering Hypothesis," *Psychological Bulletin*, 98: pp.310-357.
- De Silvia, M. (2006) "Systematic Review of the Methods Used in Studies of Social Capital and Mental Health," K. McKenzie & T. Harpham eds., *Social Capital and Mental Health*, London: Jessica Kingsley Publishers: pp.39-67.
- Field, J. (2003) *Social Capital*, London: Routledge.
- Forsman, A. K., Nyqvist, F., & Wahlbeck, K. (2011) "Cognitive Components of Social Capital and Mental Health Status among Older Adults: A Population-based Cross-sectional Study," *Scandinavian Journal of Public Health*, 39: pp.757-765.
- Gouldner, A. W. (1960) "The Norm of Reciprocity: A Preliminary Statement," *American Sociological Review*, 25: pp.161-178.
- Graeff, P. (2009) "Social Capital: The Dark Side", G. T. Svendsen & G. L. H. Svendsen eds., *Handbook of Social Capital: The Troika of Sociology, Political Science and Economics*, Cheltenham, England: Edward Elgar: pp.143-167.
- Hamano, T., Fujisawa, Y., Ishida, Y., Subramanian, S. V., Kawachi, I., & Shiwaku, K. (2010) "Social Capital and Mental Health in Japan: A Multilevel Analysis," *PLOS ONE*, 5 (10): e13214.
- Kawachi, I., Kennedy, B. P., & Glass, R. (1999) "Social Capital and Self-rated Health: A Contextual Analysis", *American Journal of Public Health*, 89: pp.1187-1193.
- Kawachi, I., Kennedy B. P., Lochner, K., & Prothrow-Stith, D. (1997) "Social Capital, Income Inequality, and Mortality", *American Journal of Public Health*, 89: pp.1491-1498.
- Kreft, I. & de Leeuw, J. (1998) *Introducing Multilevel Modeling*, London: Sage Publications.
- McKenzie, K. & Harpham, T. (2006) "Meanings and Uses of Social Capital in the Mental Health Field," K. McKenzie & T. Harpham eds., *Social Capital and Mental Health*, London: Jessica Kingsley Publishers: pp.11-23.
- Nowak, M. & Sigmund, K. (2000) "Shrewd Investments," *Science*, 288: pp.819-820.

- Pinquart, M. (2001) "Correlates of Subjective Health in Older Adults: A Meta-analysis," *Psychology and Aging*, 16: pp.414-426.
- Portes, A. (1998) "Social Capital: Its Origins and Applications in Modern Sociology," *Annual Review of Sociology*, 24: pp.1-24.
- Putnam, R. D. (2000) *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*, New York: Simon & Schuster.
- R Development Core Team (2011) *R: A Language and Environment for Statistical Computing*, R Foundation for Statistical Computing, Vienna, Austria.
- Snelgrove, J. W., Pikhart, H., & Stafford, M. (2009) "A Multilevel Analysis of Social Capital and Self-rated Health: Evidence from the British Household Panel Survey," *Social Science & Medicine*, 68: pp.1993-2001.
- Subramanian, S. V., Kim, D. J., & Kawachi, I. (2002) "Social Trust and Self-rated Health in US Communities: A Multilevel Analysis," *Journal of Urban Health*, 79 (4 Suppl 1): S21-S34.
- 市田信行・吉川郷主・平井寛・近藤克則・小林慎太郎 (2005) 「マルチレベル分析による高齢者の健康とソーシャルキャピタルに関する研究——知多半島 28 校区に居住する高齢者 9,248 人のデータから」『農村計画学会誌』24 (別冊) : pp.277-282.
- 稲葉陽二 (2011) 「ソーシャル・キャピタルのダークサイド」稲葉陽二・大守隆・近藤克則・宮田加久子・矢野聡・吉野諒三編『ソーシャル・キャピタルのフロンティア——その到達点と可能性』ミネルヴァ書房, pp.245-256.
- 木村美也子・山崎喜比古・佐藤みほ・米倉佑貴・横山由香里・小手森麗華・熊田奈緒子・戸ヶ里泰典 (2009) 「高校生の子をもつ中年期女性のメンタルヘルスと地域との関わり及び地域のソーシャル・キャピタルとの関連性の検討」『社会医学研究』27: pp.35-44.
- 小林江里香・Liang, J.(2011) 「高齢者の社会的ネットワークにおける加齢変化とコホート差——全国高齢者縦断調査データのマルチレベル分析」『社会学評論』62 : pp.356-374.
- 坂本治也 (2010) 「日本のソーシャル・キャピタルの現状と理論的背景」『関西大学経済政治研究双書』150: pp.1-31.
- 総務省統計局 (2012) 「国民生活基礎調査の概要」(<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2011/pdf/gaiyou.pdf>).
- 福川康之・川口一美 (2012) 「マルチレベル分析によるソーシャル・キャピタルと地域住民の主観的健康感に関する検討」『第 71 回日本公衆衛生学会大会発表論文集』p.420.
- 真島理恵 (2010) 『利他行動を支えるしくみ——「情けは人のためならず」はいかにして成り立つか』ミネルヴァ書房.
- 儘田徹 (2010) 「日本におけるソーシャル・キャピタルと健康の関連に関する研究の現状と今後の展望」『愛知県立大学看護学部紀要』16: pp.1-7.

- みずほ総合研究所（2011）「最新の国勢調査に見る日本の人口——「意外な」日本の人口増加と二極化進む地域別人口」『みずほ政策インサイト』  
(<http://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/insight/>).
- 渡部奈々（2011）「パットナムのソーシャル・キャピタル論に関する批判的考察」『社会学論集』18: pp.135-150.



## 第2章 高齢者のボランティア活動の促進に向けて

### 1 はじめに

サラリーマンの退職年齢が65歳になりつつあり、団塊世代の仕事引退が本格化してきた現在、わが国の高齢社会化は加速して進行している。2007年に超高齢社会を迎え、これからの高齢社会の在り方が模索されているが、それを解決する方法の1つとして、高齢者の活力活用が期待されている。

高齢者によるボランティア活動の促進は高齢者の活力を社会に活かすことにほかならず、今や社会の要請でもある。他方仕事引退を機に社会との接触が減少する高齢者にとっても、ボランティア活動への参加は高齢者と社会をつなぐ方法の1つでもあり、高齢者自身の生きがいにもなり得るものである。

本論は、ボランティア活動が仕事引退後の高齢者の生きがいになり得るものでありまた高齢者の活力を社会に還元する方法の1つになり得るものとの観点から、仕事引退後の高齢者によるボランティア活動の活性化を考えるものである。したがって本論では、主に、今後実質的な定年年齢となるであろう65歳から、体力及び知力において活力が衰えていないであろう69歳までの年齢階層に焦点を当て、分析を試みる。

なお、本論では1991年調査から2011年調査の20年間のデータに基づいて分析を行うが、1996年調査ではボランティア活動に関する調査は行われていない。そのため、1996年調査のボランティア活動に関する分析は行っていない。

### 2 社会参加とボランティア活動

#### 2.1 生きがいとしての社会参加

わが国では、ボランティア活動について、ボランティア活動という表現の他に社会参加や社会活動と表現したりする。それは、わが国の高齢者の社会参加の促進政策が大きく影響していることに由来する。そこで、高齢者のボランティア活動を論ずる前に、わが国の高齢者の社会参加促進政策を確認する。

わが国の高齢者対策は、第二次世界大戦後から本格化した。高齢者の社会参加は高齢者対策の1つとして位置づけられ、余生的な生きがい対策として社会参加の促進事業が行われた。1963年に制定された老人福祉法では、基本理念に高齢者自身の社会的活動への参加努力と国及び地方公共団体による就労や社会参加の機会提供を掲げている（第3条）。また高齢者福祉増進事業として、地方公共団体に一般教養やレクリエーションの実施への努力義務を課している（第13条）。これにより、1963年に、健康づくりや趣味・レクリエーションなどの

活動をしている老人クラブ<sup>1</sup>への国の助成が開始された（第13条第2項）。1965年には文部省（現在の文部科学省）の「高齢者学級」の委嘱事業が開始され、一般教養などの社会教育・生涯教育が実施された（木村，2005）。

その後、わが国では高齢化が急速に進み、1994年には高齢社会<sup>2</sup>へと突入した。同年に策定された「高齢者保健福祉推進十か年戦略の見直し（新ゴールドプラン）」の施策目標では、他の目標とともに高齢者によるボランティア活動が掲げられた。高齢者による社会貢献活動が積極的な生きがいとして位置づけられるようになったのである。

高齢者の社会参加活動には、このように様々な活動を含んでいる。そこで、社会参加の活動について分類・整理を試みる。

社会参加という用語ではなく社会活動という用語を用いて、橋本らは①仕事、②社会的活動（地域行事や趣味の会の活動、奉仕活動など）、③学習活動（カルチャーセンターなど）、④個人活動（近所づきあいなど）の4つの要素からなる指標を開発している（橋本ら，1997）。現在、この指標を活用した調査研究が増えている。

労働省（現厚生労働省）の「アクティブ・エイジングに関する懇談会」（1999年）では、社会参加を促進するシステムとして、①雇用・就業、②ボランティア活動・NPO活動、③生涯学習・趣味・レクリエーション活動の3つの分野を挙げている。

内閣府の「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査（H21調査）」では、社会参加活動を個人あるいはグループ活動とし、活動内容を健康・スポーツ、地域行事、趣味、生活環境改善、高齢者等支援、仕事などとしている。

これらを参考に、社会参加を個人の活動を含むのかあるいは団体としての活動に限定するのかという体制軸と、活動の内容の軸に分けて考えると、体制軸については、団体あるいは個人的集まりを含むグループでの活動が妥当と考える。社会への参加を問題にするのであるから、家族以外の集団への関わり行動ととらえるのが妥当だからである。ただし、就労については個人経営の自営業という働き方もあるので、個人の活動も含むことになる。

活動内容については、①利己的活動（受動的活動：学習活動、趣味のサークル参加など）、②ボランティア活動（利他的活動）、③仕事という3つの要素に分類することができる。もともと高齢者の社会参加は就労を含め余生的な活動が重んじられていた。いわば、社会から高齢者へ利益を与える活動である。しかし近年の高齢社会の出現により、高齢者から社会へ利益を与える活動が期待されるようになった。さらに、高齢期の働き方は余生的な働き方のみでなく、生活費を得るためという現役世代と同様の働き方がなされるようになり、高齢者の社会参加活動は3つの性格を持つようになった。したがって、これからの高齢者の社会参加についての施策は、これら3つを分けて展開した方が適切な施策が展開できるであろう。

---

<sup>1</sup> 地域を基盤とする高齢者の自主的な相互扶助の組織である（全国老人クラブ連合会ホームページ：<http://www4.ocn.ne.jp/~zenrou/html/index.html>）。

<sup>2</sup> わが国では、1970年に高齢化率7%を超え、高齢化社会に突入した。1994年には高齢化率14%を超え高齢社会に、2007年には高齢化率21%を超え、超高齢社会の時代に突入している。

## 2.2 ボランティア活動の定義

社会参加は様々な活動を内包する活動であるが、本論で取り上げるボランティア活動もまた、高齢社会の到来とともにその概念が変化している活動である。この概念の変化を追ってみる。

高齢者の活動や生活モデルに関する理論として、活動理論がアメリカで 1940 年代から提唱されだした。これは、現役時代の活動を継続することが、高齢者の主観的幸福感を高めるとする理論である。次に、加齢に伴い人は社会関係から離脱するとする離脱理論が提唱され、人のパーソナリティは連続するとする継続性理論と続く。1980 年代にはプロダクティブ・エイジングが提唱された。これは老いを生産性という観点からとらえなおす概念である(岡本・2008)。岡本によると、プロダクティブ・エイジングはプロダクティブ・アクティビティを行える加齢で、プロダクティブ・アクティビティは有償労働だけでなく無償労働を含む、としている。有償労働以外にどのような活動を含むのかについての統一的な見解は出ていないが、無償労働にボランティア活動を含めることが多いようである<sup>3</sup>。1990 年代にはアメリカでアクティブ・エイジングという考え方が提唱され、1999 年には世界保健機関(WHO)において「国際高齢者年」の世界保健デーのテーマ “Active aging makes the difference (生き生き長寿社会で新風を)” が採択された(前田大, 2003)。前田大作によると、アクティブ・エイジングは、積極的、活動的な生活を維持しながら年を重ねていくことを重視しており、そのための具体的な生活スタイルとして、アクティブ・パーティシペーション(active participation)やボランティア活動が協調されている。

また前田信彦(2003) は、ボランティア活動などを「オルタナティブな働き方」として、労働の一形態ととらえ、定年後のボランティア活動などをアンペイド・ワークとしての評価の必要性を提唱している。

高齢者のボランティア活動についての概念は、変化の流れをみてきたように高齢者個人の社会貢献意識による生きがいの活動から社会が必要とする無償的労働活動に変化しつつある、といえるだろう。

では、ボランティア活動とはどのような活動を指すのであろうか。

生涯学習審議会答申(1992 年)では「個人の自由意思に基づき、その技能や時間等を進んで提供し、社会に貢献すること」、中央社会福祉審議会意見具申(1994 年)では、「自発的な意思に基づき他人や社会に貢献すること」、国民生活審議会総合政策部会(1994 年)では、「自発性に基づく行為であり、慈善や奉仕の心、自己実現、相互扶助、互酬性といった動機に裏づけされた行動」としている(入江ら, 2007)。また、一般にあげられるのは「自発性」「主体性」「利他性」「無償性」「公共性」「連帯性」「社会性」「継続性」「先駆性」「開拓性」「発展性」「福祉性」「補完性」だとしている(入江ら, 2007)。

ボランティアの言葉が示す通り「自発性」や「主体性」は、ボランティア活動の根幹をなす要素であろう。また、ボランティアと同義的に使われる慈善行為、すなわち「利他性」も

<sup>3</sup> 岡本のプロダクティブ・アクティビティの関連要因調査では、指標として「有償労働」で収入のある仕事 1 項目、「家庭内無償労働」で自宅で行う家事及び同居家族への世話の 2 項目、「家庭外無償労働」別居家族への支援、友人や隣人への支援、ボランティアの 3 項目を設定している(岡本, 2008)。

根幹的要素であろう。さらに活動が1対1ではなくある程度の組織性を持っていたり、社会的に認められる行為であること、すなわち「公共性」や「社会性」も根幹的要素であろう。

「利他性」については、ボランティア提供者の生きがいや自己実現の遂行という側面が近年強調され、この要素が薄れてきているように見えるかもしれない。しかしそれは高齢者対策として強調されるものであって高齢者の経済的な利益を主眼としたものではない。ボランティア活動はボランティア受領者の利益が最優先されるべきものであり、「利他性」は根幹的な要素に変わりはない。ただし、筆者は、人間関係はもともと互酬性に基づいて維持されると考えているため、ボランティア提供者が受ける心理的・内面的利益は大切だと考えている。

「無償性」については議論がなされているところであるが、互酬性規範や高齢者ボランティアに対する社会的要請という実情を考慮するならば、活動によっては実費のみならず謝礼を含む有償ボランティアも認知されるべきであろう。

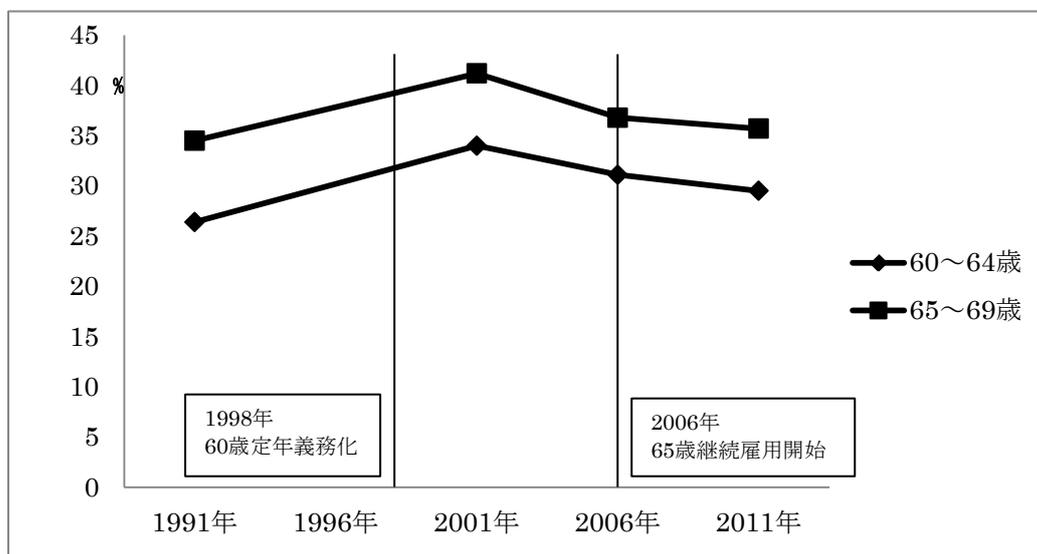
### 3 時系列でみるボランティア活動の推移

#### 3.1 高齢者のボランティア活動参加の推移

##### (1) 年次における推移

1991年から2011年の20年間の高齢者におけるボランティア活動参加率等の推移を示したのが〔図表2-1〕、〔図表2-2〕である。

〔図表2-1〕 ボランティア活動参加率の推移



(注) 1991年の60~64歳の総数は800人、65~69歳の総数は693人。2001年の60~64歳の総数は706人、65~69歳の総数は706人。2006年の60~64歳の総数は399人、65~69歳の総数は408人。2011年の60~64歳の総数は594人、65~69歳の総数は611人。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

この 20 年は、壮年サラリーマンにとって雇用をめぐる社会情勢が大きく変化した時期でもある。サラリーマンの定年退職年齢の引き上げがその 1 つで、55 歳から 60 歳への引き上げが完全に義務化された。現在は、就労希望者が 65 歳まで就労できるよう段階的に引き上げられている<sup>4</sup>。定年退所後の生活を支える年金制度についても、支給開始年齢が段階的に引き上げられている時期である。

このような社会情勢の変化が高齢者のボランティア活動への参加に影響を及ぼすことは十分に考えられる。そこで、「60 歳以上 64 歳以下」のグループと「65 歳以上 69 歳以下」のグループの 2 つについて、ボランティア活動参加の推移をみた。

ボランティア活動に関する調査項目に「社会活動参加状況」がある。この項目の 4 つの選択肢「定期的に参加している」「ときどき参加している」「以前に参加したことがある」「参加していない」のうち、「定期的に参加している」及び「ときどき参加している」を「参加あり群」、「以前に参加したことがある」及び「参加していない」の両者を「参加なし群」とし、「参加あり群」の年齢階層別グループそれぞれについて男女別で  $\chi^2$  検定を行った。その結果、ほとんどの場合有意差が認められなかった。そのため性別の分析は行わず、年齢階層別のみで参加率等の推移をみた。

〔図表 2-1〕は、高齢者を 60 歳以上 64 歳以下及び 65 歳以上 69 歳以下の 2 つのグループごとのボランティア活動参加率の推移を、〔図表 2-2〕は人数も含めて、その推移を示したものである。

〔図表 2-2〕 ボランティア活動参加者数の推移

年齢層	人 (%)				
	1991 年	1996 年	2001 年	2006 年	2011 年
60～64 歳	211(26.4%)	—	240(34.0%)	124(31.1%)	175(29.5%)
65～69 歳	239(34.5%)	—	291(41.2%)	150(36.8%)	218(35.7%)

(注) 1991 年の 60～64 歳の総数は 800 人、65～69 歳の総数は 693 人。2001 年の 60～64 歳の総数は 706 人、65～69 歳の総数は 706 人。2006 年の 60～64 歳の総数は 399 人、65～69 歳の総数は 408 人。2011 年の 60～64 歳の総数は 594 人、65～69 歳の総数は 611 人。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

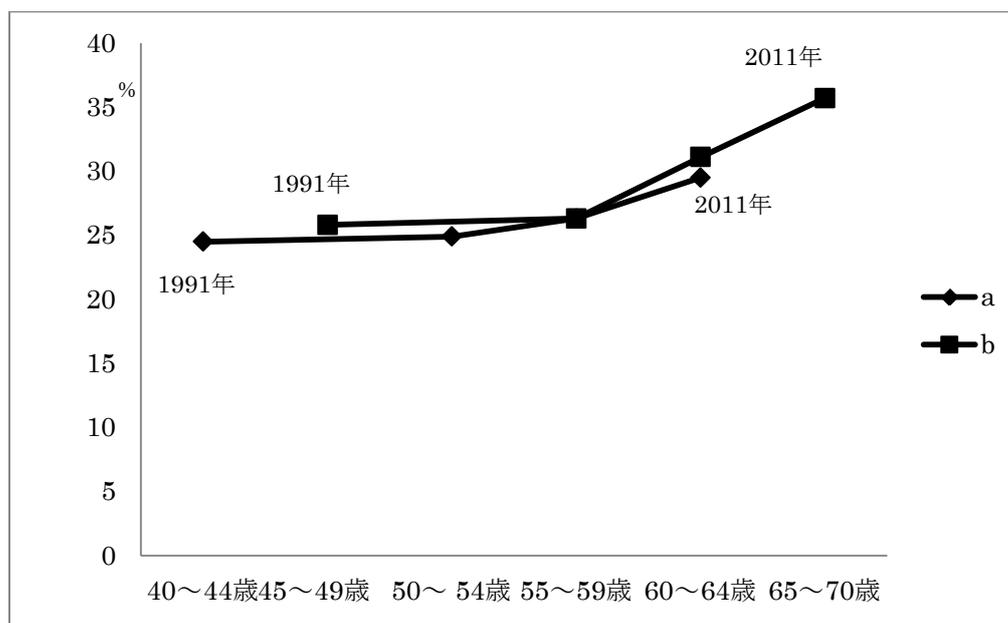
これらから、ボランティア活動の参加率は、60～64 歳の年齢階層よりも 65～69 歳の年齢階層の方が、一貫して高いことが明らかになった。参加率の推移では、両年齢階層とも 2001 年で大きく上昇しているものの同年以降は減少傾向にある。1991 年と 2011 年を比べると、2011 年の方が参加率が高く、60～64 歳グループで 3.1 ポイント、65～69 歳グループでは 1.2 ポイントの増加である。

<sup>4</sup> 1986 年に 60 歳定年が努力義務化され、1998 年に完全に義務化された。2006 年には 65 歳までの継続雇用等の義務化が開始され、2013 年には実施が完全に義務化された。しかしこの継続雇用等の義務化は、一定の基準を設けることができるものであったため、基準の廃止が 2013 年 4 月より義務化されはじめた。現在は経過措置期間中で、完全廃止は 2025 年 3 月 31 日である。

## (2) コーホートにおける参加率の推移

ボランティア活動の参加率は、コーホートごとに相違があるかを見るために、1991年調査時において、40～44歳のグループ（以下、aグループという）と45～49歳のグループ（以下、bグループという）の20年間の活動参加率をみた（図表2-3、図表2-4）。「参加あり群」それぞれ男女別で $\chi^2$ 検定を行ったが、ほとんどの場合有意差がなかったので性別の分析は行わず、コーホートで推移をみた。

【図表2-3】 コーホートによるボランティア活動参加率の推移



(注) a : 1991年調査時40～44歳のグループ。

b : 1991年調査時45～49歳のグループ。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

【図表2-4】 コーホートによるボランティア活動参加者等の推移

上段：総数

下段：人数(%)

グループ	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～70歳
a	787		429	563	594	
(40～44歳)	193(24.5)	—	107(24.9)	148(26.3)	175(29.5)	—
b		663		563	399	611
(45～49歳)	—	171(25.8)	—	148(26.3)	124(31.1)	218(35.7)

(注) a : 1991年調査時40～44歳のグループ。

b : 1991年調査時45～49歳のグループ。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

それぞれのグループにおける法定定年退職年齢をみると、a グループでは 47～51 歳の時（1998 年）に 60 歳定年が完全義務化され、55～59 歳の時（2006 年）に 65 歳までの継続雇用が開始された。b グループでは 52～56 歳の時（1998 年）に 60 歳定年が完全義務化され、60～64 歳（2006 年）の時に 65 歳までの継続雇用が開始された。

1996 年の調査が行われていないので正確さに欠けるが、a 及び b グループとも概ね 40 歳から 59 歳まではそれぞれの年代でボランティア活動参加率に変化は少なくなだらかに増加している。60～64 歳で増加幅が急になる。a グループでは 3.2 ポイントの増加、b グループでは 4.8 ポイントの増加で、50～54 歳から 55～59 歳への増加ポイントに比べて a グループでは約 2 倍、b グループでは 9 倍の増加率（推定）である。なお、b グループにおいては 65～69 歳でさらに参加率が上がっている。

a グループと b グループの比較では、ほぼ一貫して b グループの方が参加率が高かった。

### 3.2 就業とボランティア活動参加との関連

本論は、サラリーマンが実質的な定年退職を迎えた後のボランティア活動を促進する条件を考察するものである。このサラリーマンの定年退職等の年齢は、調査が開始された 1991 年から第 5 回調査の 2011 年の 20 年間で 60 歳以前、60 歳、65 歳と伸長されてきたため、1 つの年齢階層に絞ることの妥当性が検証されなければならない。

そこで、それぞれの調査時年において、60～64 歳のグループと 65～69 歳のグループについて社会参加の有無は就業の有無と関係があるかをみた。調査時年ごと、年齢階層グループごとに社会参加の有無と就業の有無について  $\chi^2$  検定を行ったが、どの年代においても、またどの年齢階層グループにおいても有意差は認められなかった。

したがって、就業の有無はボランティア活動の参加に影響を与えるものではないと考え、以降はこれからの退職年齢の大勢を占めるであろう 65～69 歳に絞ってみていくこととする。

### 3.3 活動内容の推移

ボランティアの活動内容は「地域の生活環境を守る活動」「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」「地域のイベントや“村おこし”の活動」「自然保護や環境保全の活動」「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」「児童や青少年活動の世話役としての活動」「地域の文化財や伝統を守る活動」「消費者活動や生活向上のための活動」「国際交流に関する活動」「行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動」「その他」である。活動内容に男女差があるかどうかをみるため、2011 年データを使い<sup>5</sup>  $\chi^2$  検定を行った。

その結果、有意差が認められた ( $\chi^2(10)=20.33, p<0.05$ ) ので男女別に活動内容の推移をみていく。

〔図表 2-5〕は、男性におけるボランティア活動の内容の推移を示したものである。「地域の生活環境を守る活動」や「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」「地域

<sup>5</sup> 2011 年では、活動内容について「最もあてはまるもの」1 つを選択する項目を設けた。

のイベントや「村おこし」の活動」は、どの調査年でも上位 3 位を占めていた。「消費者活動や生活向上のための活動」や「国際交流に関する活動」は概ね下位を占めていた。

〔図表 2-5〕 男性における活動内容の推移（多重回答）

内 容	上段：順位 人数			
	1991年	2001年	2006年	2011年
地域の生活環境を守る活動	① 64 25.9	② 67 20.6	① 44 26.5	① 63 23.2
趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	② 45 18.2	① 73 22.4	③ 24 14.5	③ 29 10.7
地域のイベントや「村おこし」の活動	③ 34 13.8	③ 49 15.0	② 28 16.9	② 51 18.8
自然保護や環境保全の活動	④ 24 9.7	⑤ 25 7.7	⑧ 7 4.2	④ 25 9.2
障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	⑤ 18 7.3	⑥ 17 5.2	④ 14 8.4	⑧ 15 5.5
児童や青少年活動の世話役としての活動	⑥ 17 6.9	⑨ 14 4.3	⑥ 10 6.0	⑤ 20 7.4
地域の文化財や伝統を守る活動	⑥ 17 6.9	⑦ 15 4.6	⑤ 11 6.6	⑥ 19 7.0
国際交流に関する活動	⑧ 9 3.6	⑩ 8 2.5	⑨ 5 3.0	⑩ 8 3.0
消費者活動や生活向上のための活動	⑨ 7 2.8	⑦ 15 4.6	⑩ 2 1.2	⑨ 13 4.8
行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	0 0	④ 26 8.0	⑥ 10 6.0	⑦ 17 6.3
その他	12 4.9	17 5.2	11 6.6	11 4.1
合 計	247 100.0	326 100.0	166 100.0	271 100.0

（注）1991年：n=131人、2001年：n=180人、2006年：n=86人、2011年：n=123人。  
出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

〔図表 2-6〕は、女性におけるボランティア活動の内容の推移を示したものである。「地域の生活環境を守る活動」「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」「地域のイベントや「村おこし」の活動」「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」はどの調査年

でも上位4位を占めていた。「国際交流に関する活動」は概ね低調であった。「消費者活動や生活向上のための活動」は、2001年は5位、2006年は9位、2011年は6位と調査年によるばらつきがみられた。

なお、1991年調査では調査対象者22人とサンプル数が少なく、データとしては不適切かもしれないが、全体的な傾向は参考にできると考え、男女別集計を行った。

〔図表 2-6〕 女性における活動内容の推移（多重回答）

内 容	上段：順位 人数			
	下段：%			
	1991年	2001年	2006年	2011年
趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	① 8 28.6	② 40 22.7	① 20 18.2	④ 25 12.4
地域の生活環境を守る活動	② 7 25.0	① 46 26.1	③ 17 15.5	① 37 18.3
障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	③ 6 21.4	③ 26 14.8	② 19 17.3	③ 28 13.9
地域のイベントや“村おこし”の活動	④ 2 7.1	④ 15 8.5	③ 17 15.5	② 29 14.4
自然保護や環境保全の活動	⑤ 1 3.6	⑥ 74.0	⑤ 12 10.9	⑤ 17 8.4
消費者活動や生活向上のための活動	⑤ 1 3.6	⑤ 10 5.7	⑨ 3 2.7	⑥ 15 7.4
国際交流に関する活動	⑤ 1 3.6	⑨ 52.8	⑩ 0 0.0	⑩ 8 4.0
児童や青少年活動の世話役としての活動	⑧ 0 0.0	⑦ 6 3.4	⑥ 87.3	⑧ 10 5.0
地域の文化財や伝統を守る活動	⑧ 0 0.0	⑨ 5 2.8	⑦ 4 3.6	⑦ 11 5.4
行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	⑧ 0 0.0	⑦ 6 3.4	⑦ 4 3.6	⑧ 10 5.0
その他	2 7.1	10 5.7	6 5.5	12 5.9
合 計	28 100.0	176 100.0	110 100.0	202 100.0

(注) 1991年：n=22人、2001年：n=110人、2006年：n=64人、2011年：n=95人  
出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

### 3.4 活動理由の推移

ボランティアの活動理由の選択肢は「地域や社会に貢献したい」「自分の知識や経験を活かしたい」「社会への見聞を広げたい」「友人や仲間を増やしたい」「生活にはりを持たせたい」「身近な人に誘われた」「会社の進めや命令」「社会人として当然と思った」「何となく」「その他」である。男性高齢者の推移を示したのが〔図表 2-7〕である。ボンフェローニ法による有意水準の補正を行った上でマクネマー検定による多重比較を行った<sup>6</sup>。

いずれの調査年においても第1位は「地域や社会に貢献したい」であった。第2位は「自分の知識や経験を活かしたい」「友人や仲間を増やしたい」「生活にはりを持たせたい」であり、「社会人として当然と思った」は第1位もしくは第2位であった。

〔図表 2-7〕 男性高齢者における活動理由の推移（3つまで選択）

順位	1991年	2001年	2006年	2011年
1	・地域や社会に貢献したい ・社会人として当然と思った	・地域や社会に貢献したい	・地域や社会に貢献したい	・地域や社会に貢献したい
2	・自分の知識や経験を活かしたい	・自分の知識や経験を活かしたい	・自分の知識や経験を活かしたい	・自分の知識や経験を活かしたい
3	・生活にはりを持たせたい ・友人や仲間を増やしたい ・社会人として当然と思った ・社会への見聞を広げたい ・身近な人に誘われた	・生活にはりを持たせたい ・友人や仲間を増やしたい ・社会人として当然と思った ・社会への見聞を広げたい ・身近な人に誘われた	・生活にはりを持たせたい ・友人や仲間を増やしたい ・社会人として当然と思った ・社会への見聞を広げたい ・会社の進めや命令	・生活にはりを持たせたい ・友人や仲間を増やしたい ・社会人として当然と思った ・社会への見聞を広げたい ・身近な人に誘われた ・何となく
4	・会社の進めや命令	・会社の進めや命令 ・何となく		・会社の進めや命令

（注）1991年：n=131人、2001年：n=117人、2006年：n=86人、2011年：n=123人。

1991年及び2006年では「何となく」は0であった。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

女性高齢者の推移を示したのが〔図表 2-8〕である。女性高齢者においてはサンプル数が少なかったため多重比較は行っていない。

女性高齢者においても「地域や社会に貢献したい」は、概ね第1位であった。2006年では第2位となっているが、第1位の「友人や仲間を増やしたい」との差はわずか1人であることから、第1位と第2位の差はほとんどないと推察される。「自分の知識や経験を活かしたい」「友人や仲間を増やしたい」「生活にはりを持たせたい」については男性同様上位であ

<sup>6</sup> 本設問は複数回答（3つまで選択）なので多重比較を行う際、有意水準を0.05/120とし、各順位の最高位と次順位、次々順位等で2項検定を行い、有意差が認められたところで、順位を1つ下げた。

た。ただし、「友人や仲間を増やしたい」については、2011年調査では第6位であった。2011年の調査方法はインターネットによる調査だったので、調査方法の違いが結果に影響したかもしれない。

上位「自分の知識や経験を活かしたい」「友人や仲間を増やしたい」「生活にはりを持たせたい」に続くのが、「社会人として当然と思った」であった。

【図表 2-8】 女性高齢者における活動理由の推移（3つまで選択）

上段：順位 人数

下段：%

順位	内 容	1991年	2001年	2006年	2011年
1	地域や社会に貢献したい	① 12 21.8	① 52 23.5	② 27 18.9	① 53 23.3
2	友人や仲間を増やしたい	② 9 16.4	② 39 17.6	① 28 19.6	⑥ 21 9.3
2	生活にはりを持たせたい	② 9 16.4	④ 34 15.4	③ 26 18.2	② 41 18.1
4	自分の知識や経験を活かしたい	④ 7 12.7	③ 35 15.8	④ 18 12.6	③ 36 15.9
4	社会への見聞を広げたい	④ 7 12.7	⑥ 18 8.1	⑥ 16 11.2	⑤ 23 10.1
6	身近な人に誘われた	⑥ 6 10.9	⑦ 13 5.9	⑤ 17 11.9	⑦ 19 8.4
7	社会人として当然と思った	⑦ 5 9.1	⑤ 26 11.8	⑦ 85.6	④ 29 12.8
8	会社の進めや命令	⑧ 0 0.0	⑧ 0 0.0	⑨ 0 0.0	⑧ 1 0.4
8	何となく	⑧ 0 0.0	⑧ 0 0.0	⑧ 1 0.7	⑧ 1 0.4
8	その他	0 0.0	4 1.8	2 1.4	3 1.3
合 計		55 100.0	221 100.0	143 100.0	227 100.0

(注) 1991年：n=24人、2001年：n=107人、2006年：n=63人、2011年：n=95人。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

## 4 参加理由と活動内容・参加団体・参加の仕方

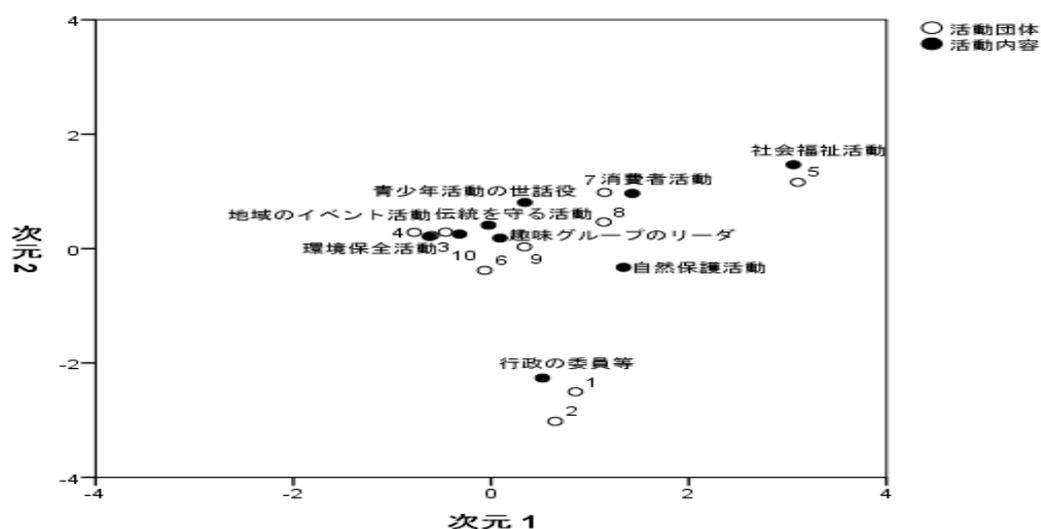
高齢者（65歳以上69歳以下）がボランティア活動に参加したいと思った時、どんな団体を選びどんな活動を行うだろうか。ボランティア活動参加の理由は、本調査が実施された20年間の間には大きな変動は見られなかった。調査年・性別にかかわらず、概ね上位に挙げられた理由は「地域や社会に貢献したい」「自分の知識や経験を活かしたい」「生活にはりを持たせたい」である。

この節では、これらの参加理由で65歳以上69歳以下の高齢者は、どんな活動を行い、どんな団体に参加し、また参加の仕方はどうなのかを2011年調査のデータでみていく。参加理由及び活動内容については、調査項目「最もあてはまるもの」（単一回答）を使用した。

### 4.1 参加理由と活動内容・参加団体

参加理由「地域や社会に貢献したい」及び「自分の知識や経験を活かしたい」「生活にはりを持たせたい」について、それぞれの理由と参加団体・活動内容の結びつきをみるためにクロスレスポンス分析を行った。

〔図表 2-9〕 「地域や社会に貢献したい」理由における活動分野と活動団体



(注1) 活動団体：1=行政機関、2=社会福祉協議会、3=町内会、自治会、4=老人クラブ、5=公的施設・機関のボランティア団体、6= 地域住民によるボランティア団体、7=民間施設・機関のボランティア団体、8=NPO 法人、9=当事者団体、10=個人または個人的な集まり。

(注2) n=72人（選択肢の「その他」は除外）。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

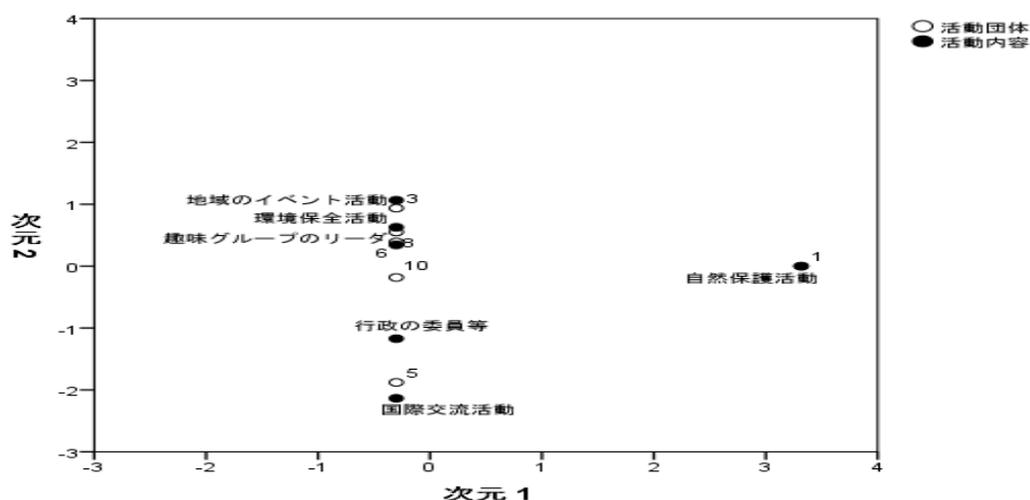
「地域や社会に貢献したい」理由を選択した高齢者は76人で、そのうち34人44.7%が「地の生活環境を守る活動」（第1位）を行っていた。第2位「地域のイベントや“村おこし”のイベント」は9人11.8%、第3位「行政の委員」「自然保護や環境保全の活動」は8人10.5%であった。「その他」は4人5.3%であった。

〔図表 2-9〕は、高齢者における「地域や社会に貢献したい」理由における参加団体・活動内容の結びつきを示したバイプロットである。「地域や社会に貢献したい」理由での第1位の活動である「地域の生活環境を守る活動」（環境保全活動）は「町内会・自治会」や「老人クラブ」と非常に近接していた。第2位の「地域のイベントや“村おこし”のイベント」（地域のイベント活動）は「町内会・自治会」と非常に近接している。第3位の「行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動」（行政の委員等）は、「行政機関」や「社会福祉協議会」と近い関係にあった。

「自分の知識や経験を活かしたい」理由を選択した高齢者は34人で、第1位「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」は11人32.4%であり、「その他」は8人23.5%であった。

〔図表 2-10〕は、高齢者の「自分の知識や経験を活かしたい」理由における参加団体・活動内容の結びつきを示したバイプロットである。「自分の知識や経験を活かしたい」理由で第1位の「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」（趣味グループのリーダー）は「地域住民によるボランティア団体」と重なっており、「NPO 法人」とも非常に近い関係にあった。

〔図表 2-10〕 「自分の知識や経験を活かしたい」理由における活動分野と活動団体



(注1) 活動団体：1=行政機関、2=社会福祉協議会、3=町内会、自治会、4=老人クラブ、5=公的施設・機関のボランティア団体、6= 地域住民によるボランティア団体、7=民間施設・機関のボランティア団体、8=NPO 法人、9=当事者団体、10=個人または個人的な集まり。

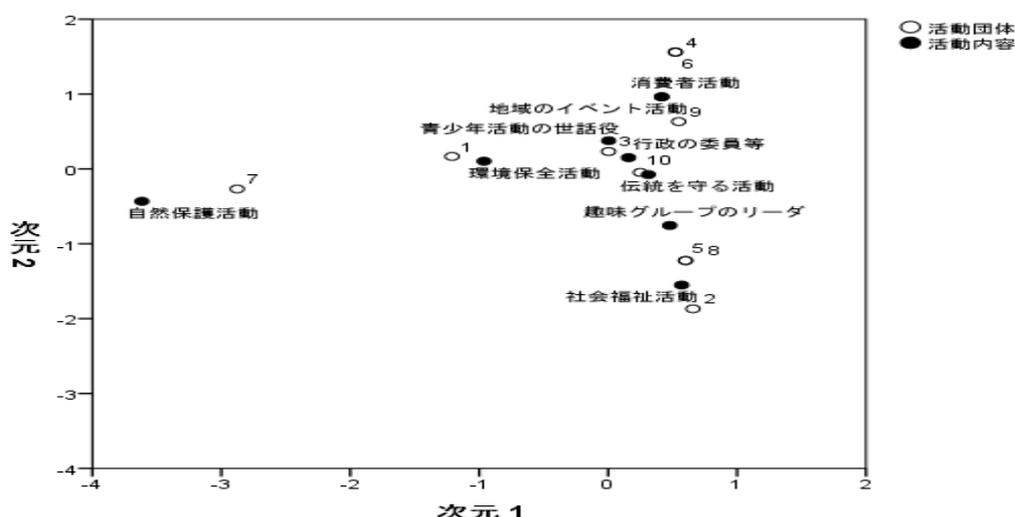
(注2) n=26人(選択肢の「その他」は除外)。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

「生活にはりを持たせたい」理由を選択した高齢者は33人で、活動内容は概ね多様であった。活動の第1位は「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」で、7人21.2%であり、第2位は「地域の生活環境を守る活動」で5人15.2%であった。第3位は「地域のイベントや“村おこし”の活動」及び「消費者活動や生活向上のための活動」でそれぞれ4人12.1%であった。その他は6人18.2%であった。

〔図表 2-11〕は、高齢者の「生活にはりを持たせたい」理由における参加団体・活動内容の結びつきを示したバイプロットである。「生活にはりを持たせたい」理由で第1位の「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」（趣味グループのリーダー）は「公的施設・機関のボランティア団体」や「NPO 法人」、「個人または個人的な集まり」とやや近い関係にあった。

〔図表 2-11〕 「生活にはりを持たせたい」理由における活動分野と活動団体



(注1) 活動団体：1=行政機関、2=社会福祉協議会、3=町内会、自治会、4=老人クラブ、5=公的施設・機関のボランティア団体、6= 地域住民によるボランティア団体、7=民間施設・機関のボランティア団体、8=NPO 法人、9=当事者団体、10=個人または個人的な集まり。

(注2) n=26人(選択肢の「その他」は除外)。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

#### 4.2 参加理由・活動内容・活動団体と参加の仕方

参加理由や活動内容などによって、参加の仕方が異なるかをみた。参加の仕方は「定期的に参加」及び「ときどき参加」である。

参加理由と参加の仕方について $\chi^2$ 検定を行ったところ、有意差は認められなかった(n=218,  $\chi^2(9)=10.61$ ,  $p>0.05$ )。

活動内容における参加の仕方については有意差が認められた。(  $\chi^2$ 検定, n=218,  $\chi^2(10)=31.88$ ,  $p<0.05$ )。〔図表 2-12〕は活動内容における参加の状況を示したものである。全体

的に「ときどき参加」が「定期的に参加」より多かった。活動別にみると「地域の生活環境を守る活動」及び「地域のイベントや“村おこし”の活動」では「ときどき参加」が有意に多く、「行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動」では「定期的に参加」が有意に多かった。有意ではないが「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」も「定期的に参加」が多い傾向にあった。

【図表 2-12】 活動内容における参加の仕方

上段：人数(%)

下段：調整済み残差

活動内容	社会参加の状態		合計
	定期的に参加	ときどき参加	
地域の生活環境を守る活動	17 (27.9)	44 (72.1)	61 (100.0)
	-2.8	2.8	
趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	18 (51.4)	17 (48.6)	35 (100.0)
	1.1	-1.1	
地域のイベントや“村おこし”の活動	6 (18.8)	26 (81.2)	32 (100.0)
	-3.0	3.0	
行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	13 (81.2)	3 (18.8)	16 (100.0)
	3.2	-3.2	
障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	9 (64.3)	5 (35.7)	14 (100.0)
	1.7	-1.7	
自然保護や環境保全の活動	7 (50.0)	7 (50.0)	14 (100.0)
	0.5	-0.5	
消費者活動や生活向上のための活動	5 (50.0)	5 (50.0)	10 (100.0)
	0.4	-0.4	
児童や青少年活動の世話役としての活動	4 (66.7)	2 (33.3)	6 (100.0)
	1.2	-1.2	
地域の文化財や伝統を守る活動	1 (20.0)	4 (80.0)	5 (100.0)
	-1.1	1.1	
国際交流に関する活動	1 (33.3)	2 (66.7)	3 (100.0)
	-0.3	0.3	
その他	13 (59.1)	9 (40.9)	22 (100.0)
	1.6	-1.6	
合 計	94 (43.1)	124 (56.9)	218 (100.0)

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

活動団体における参加の仕方についても有意差が認められた。(χ<sup>2</sup>検定, n=218, χ<sup>2</sup>(10)=35.40, p<0.05)。〔図表 2-13〕は活動団体における参加の状況を示したものである。「町内会、自治会」及び「個人または個人的な集まり」では有意に「ときどき参加」が多く、「行政機関」及び「NPO 法人」では、有意に「定期的に参加」が多かった。

〔図表 2-13〕 活動内容における参加の仕方

上段：人数(%)

下段：調整済み残差

活動団体	社会参加の状態		合計
	定期的に参加	ときどき参加	
町内会、自治会	24 (32.9)	49 (67.1)	73 (100.0)
	-2.2	2.2	
個人または個人的な集まり	9 (26.5)	25 (73.5)	34 (100.0)
	-2.1	2.1	
地域住民によるボランティア団体	13 (52.0)	12 (48.0)	25 (100.0)
	1.0	-1.0	
公的施設・機関のボランティア団体	9 (52.9)	8 (47.1)	17 (100.0)
	0.9	-0.9	
当事者団体	5 (33.3)	10 (66.7)	15 (100.0)
	-0.8	0.8	
行政機関	10 (83.3)	2 (83.3)	12 (100.0)
	2.9	-2.9	
NPO 法人	10 (90.9)	1 (9.1)	11 (100.0)
	3.3	-3.3	
社会福祉協議会	6 (66.7)	3 (33.3)	9 (100.0)
	1.5	-1.5	
民間施設・機関のボランティア団体	6 (66.7)	3 (33.3)	9 (100.0)
	1.5	-1.5	
老人クラブ	1 (20.0)	4 (80.0)	5 (100.0)
	-1.1	1.1	
その他	1 (12.5)	7 (87.5)	8 (100.0)
	-1.8	1.8	
合計	94 (43.1)	124 (56.9)	218 (100.0)

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

## 5 考察とまとめ —ボランティア活動の参加促進のために—

### 5.1 高齢者のボランティア活動参加率の変化と社会的要因

高齢者のボランティア活動の参加率を調査年次ごとに60～64歳と65～69歳の年齢階層別にみたところ、どの調査年においても、65～69歳の方が参加率が高かった。調査年次別に参加率をみると、どちらの年齢階層においても2001年をピークにそれ以後は減少していた。1991年から2011年の間の社会情勢をみると、1995年に阪神淡路大震災が起こっている。この出来事により、ボランティアへの関心が一気に高まった。また、阪神淡路大震災を直接のきっかけとしてボランティア参加を促進すべく1998年にNPO法が成立し、同年施行された。2001年調査でボランティア活動の参加率が増加しているのは、このボランティアへの関心が高まった影響を受けたことが一因と考えられる。

2001年からは一転して参加率が減少しているが、その原因を特定するのは難しい。ボランティア活動参加の要因として「同居家族の状況」や「住居の形態」「世帯の資産」などが考えられる<sup>7</sup>が、これら個人的要因の他にも社会情勢が複雑に影響し合っていると思われる。

コーホートでみると、1991年調査時に40～44歳の年齢群及び45～49歳の年齢群はともに、55～59歳までは年齢が上がるにつれて微増傾向にある。これは子どもの世話から解放されて、自身や社会に目が向くようになったからかもしれない。60～64歳時の参加率は、55～59歳時に比べ増加が著しく、65～69歳で参加率はさらに増加している。これは、2006年現在、60歳定年は99%達成されているが、65歳までの継続雇用を採用している企業は3割程度に留まり、60歳で定年を迎える者が多いこと、しかし、65歳までの段階的退職者も増加していることが要因の1つと考えられる。定年を迎えて社会とのつながりを望むものがその1つとしてボランティア活動を選択していることが推察される。

40～44歳の年齢群及び45～49歳の年齢群を比較すると、45～49歳の年齢群は、40～44歳の年齢群に比べほぼ一貫して参加率が高い。ボランティア活動の経験者は、高齢期においてもボランティア活動の参加をしている、という先行研究がある<sup>8</sup>が、本調査の結果は、2群のみの比較であるが、それを追認している。子どもへの世話等に手がかからなくなる年齢層から、あるいは子どもを連れてボランティア参加できる年齢階層から活動内容を用意し、ボランティア活動の参加を促進することが高齢期のボランティア活動につながるのではないかと考える。

### 5.2 活動内容の性差

活動内容について、男女とも同様の傾向があったのは、「地域の生活環境を守る活動」や「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」、「地域のイベントや“村おこし”の活動」及び「国際交流に関する活動」である。「地域の生活環境を守る活動」や「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」、「地域のイベントや“村おこし”の活動」は、

<sup>7</sup> 富樫ひとみ(2012)「社会参加の効果と関連要因」加藤栄一編『年金と経済』31(1)、pp.24、公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構。

<sup>8</sup> 岡本 秀明(2006)「高齢者ボランティア活動に関連する要因」厚生の指標、53(15)、pp.8-13。

どちらも上位を占め、「国際交流に関する活動」はどちらも下位を占めていた。

性差が認められたのは、「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」や「消費者活動や生活向上のための活動」である。両者とも男性では下位を占めていたが、女性では、「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」は上位を占め、「消費者活動や生活向上のための活動」は必ずしも下位ではなかった。これら両者は家事や家族の世話の延長線上にある活動で、慣習的に女性が担ってきた仕事である。そのため女性にとっては行い慣れた活動内容であることが推察される。社会もまた、女性にこれらの活動を期待していると考えられる。しかし筆者のソーシャルサポートにおける調査では、「よその家の家事手伝い」で年に数回程度以下で「まあ満足」以上の満足であり、月に1回以上では「どちらともいえない」以上の満足度であり、満足度はやや落ちていた<sup>9</sup>。「障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動」の活動については、女性本人が望む場合は良いが、町内会や自治会などで女性だからといって事務的に割り当てられると本人のやりがい感を削ぐことがあるかもしれない。

### 5.3 活動理由の性差と報酬性

活動理由については、性別で大きな差異はみられなかった。

活動理由を利己的理由と利他的理由に分けると、「地域や社会に貢献したい」は利他的理由にあたり、「社会人として当然と思った」はやや利他的理由にあたるだろう。利己的理由には「自分の知識や経験を活かしたい」「友人や仲間を増やしたい」「生活にはりを持たせたい」が該当する。

活動理由のほぼ第1位は「地域や社会に貢献したい」で、次いで「自分の知識や経験を活かしたい」「友人や仲間を増やしたい」「生活にはりを持たせたい」が位置していた。このことから、活動参加の理由は利己的理由と利他的理由のどちらか一方ではなく、利他的理由と利己的理由の双方を併せもっていることが明らかになった。上～中位の利他的理由「地域や社会に貢献したい」と「社会人として当然と思った」の合計と利己的理由「自分の知識や経験を活かしたい」「社会への見聞を広げたい」「友人や仲間を増やしたい」「生活にはりを持たせたい」の合計を比較すると、むしろ利己的理由の方が多かった。ただし、本調査では選択肢において利己的理由の数の方が多いため結果に影響しているかもしれない。

ボランティア活動を促進するには、利己的理由も参加の大きな要因の1つであることを十分に認識する必要がある。自身の向上や充実感という抽象的な利己的理由にとどまらず、実際の利益になる活動内容を用意したり参加者自身の利益になることをアピールしたりすることも効果があると思われる。

---

<sup>9</sup> 生活の満足度について「十分満足している」「まあ満足している」「どちらともいえない」「あまり満足していない」「まったく満足していない」の5件法でたずねた（富樫ひとみ(2013)『高齢期につながる社会関係 —ソーシャルサポートの提供とボランティア活動を通して—』ナカニシヤ出版、pp.112）。

#### 5.4 活動内容・参加団体における参加の仕方の影響

参加理由における参加の仕方には有意差が認められなかったことから、活動参加の動機の段階では、定期的に参加するのか自分の都合に合わせて参加するのかは、あまり問題視されていないと考えられる。参加の仕方よりも参加すること自体に重点が置かれているのだろう。

地域貢献を理由とした活動内容の上位は「地域の生活環境を守る活動」や「地域のイベントや“村おこし”の活動」であるが、この活動が町内会や自治会で行われる場合は自分の都合に合わせた参加が有意に多かった。また第3位の「行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動」は行政機関や社会福祉協議会で行われることが多く、この場合は定期的な参加が多かった。

自分の経験を活かしたり生活に張りを持たせたいという理由では、「趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動」が第1位を占めていたが、活動を行う場は地域住民によるボランティア団体やNPO法人、公的施設・機関のボランティア団体、個人的な集まり等であった。同じような活動であってもそれぞれ参加団体によって参加の仕方は異なり、個人的な集まり等では自分の都合に合わせた参加が有意に多かった。一方、NPO法人では定期的な参加が有意に多く、地域住民によるボランティア団体や公的施設・機関のボランティア団体でも定期的な参加が多い傾向にあった。

定期的な参加と自分の都合に合わせた参加について1991年調査から2011年調査の20年間を概観すると、近年では自分の都合に合わせた参加が増加傾向にある<sup>10</sup>。特に町内会・自治会など加入に義務的要素が強く働く団体においては、参加の仕方に自由が求められるのかもしれない。活動団体への加入の段階において自由意思による加入の場合は、定期的な参加であっても満足感が高いのかもしれない。

#### 5.5 ボランティア活動の参加促進のための提言

これまでもボランティア活動の参加と生きがいや生活の満足度は関連があることが指摘されていたが、本機構の第5回調査（2011年調査）でも明らかになっている<sup>11</sup>。そこで、サラリーマンが退職後ボランティア活動に参加しやすいように、1つのシステムを提言してみたい。

高齢者のボランティア参加を促す要因の1つが、退職前のボランティア活動への参加である。そこで、サラリーマンの所属企業が従業員によるボランティア活動を積極的に支援することが有効だと考える。ボランティア・サークルを立ち上げたりサークルの継続を積極的に支援したりする仕組みを作ることである。支援の方法は、活動費を補助したり活動による貢献が著しい場合には報奨金を出したりすることも1つの方法である。福利厚生の一つと位置付けることができるだろう。所属企業が積極的に支援しているとなれば、従業員にとっても利益感を感じられると思われる。

ボランティア先はサークルの自由選択によることが基本であるが、必ず地域を入れ、それ

<sup>10</sup> 男性高齢者では、2001年調査時以降、女性高齢者では2006年調査事項「ときどき参加」が増加している（富樫ひとみ(2012)「社会参加の効果と関連要因」加藤栄一編『年金と経済』31(1)、pp.16）。

<sup>11</sup> 富樫ひとみ(2012)「社会参加の効果と関連要因」加藤栄一編『年金と経済』31(1)、pp.18～19。

によって地域の町内会・自治会や社会福祉協議会と人的交流を持つことを提唱する。企業の持つ技術で地域に貢献するならば、地域での企業の評価を高め企業に利益をもたらすだろうし、ボランティア活動によって地域のニーズを拾うことができる。場合によっては企業の発展にプラスとなるかもしれない。企業にとっても利益のある事業だと考える。

企業が全国に支店や営業所を有している場合、企業内のボランティア・サークルの交流を深める機会があれば、従業員が働く地域だけでなく居住する地域でのボランティア活動も可能になる。ボランティア・サークルへの参加者に企業OBも含めると、退職後からの地域の人間関係構築の足掛かりになる。企業内のボランティア・サークルを通して地域での人間関係を構築していくことができると、企業を離れても地域での人間関係はすでに作られているので、地域での孤立も防げるかもしれない。

企業と地域が密接にかかわるには、町内会・自治会や社会福祉協議会、企業のサークル等においてコーディネーター役の人材が必要であろう。企業から働きかけることによって、町内会・自治会や社会福祉協議会の受け入れが可能になり、町内会・自治会の一層の共助の力が高まることを期待したい。

## 参考文献

- 入江詩子・佐藤快信・菅原良子（2007）「ボランティアと生涯学習との接点」『長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要』 5(1): pp.51-62.
- 岡本秀明（2006）「高齢者ボランティア活動に関連する要因」『厚生指標』 53(15): pp.8-13.
- ———（2008）「高齢者のプロダクティブ・アクティビティに関連する要因 —有償労働、家庭内および家庭外無償労働の3領域における男女別の検討—」『老年社会科学』 29(4): pp.526-538.
- 木村純（2005）「高齢者の社会参加と生涯学習」『都市問題研究』 57(5): pp. 27-40.
- 公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構（2012年）『年金と経済』 31(1): pp.52-81.
- 厚生労働省職業安定局・高齢・障害対策企画部（1999）「企業退職者の社会参加を促進するシステム作りを —アクティブ・エイジングに関する議論のとりまとめ—」  
([http://www.jil.go.jp/jil/kisya/syokuan/991029\\_05\\_sy/991029\\_05\\_sy\\_gaiyou.html](http://www.jil.go.jp/jil/kisya/syokuan/991029_05_sy/991029_05_sy_gaiyou.html))
- 全国老人クラブ連合会ホームページ  
(<http://www4.ocn.ne.jp/~zenrou/html/index.html>.)
- 総務省統計局ホームページ/労働力調査  
(<http://www.stat.go.jp/data/roudou/index.htm>.)
- 富樫ひとみ（2012）「社会参加の効果と関連要因」『年金と経済』 31(1)、公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構。
- ———（2013）『高齢期につなぐ社会関係 —ソーシャルサポートの提供とボランティア活動を通して—』ナカニシヤ出版。
- 橋本修二・青木利恵・玉腰暁子他（1997）「高齢者における社会活動状態の指標の開発」『日本公衆衛生雑誌』 44(10): pp.760-768.
- 前田 大作（2003）「active ageing をめざして--社会参加・相互扶助の可能性と進め方を考える（特集 高齢者の社会参加）」『老年精神医学雑誌』 14(7): pp.47-852.
- 前田 信彦（2003）「高齢期における多様な働き方とアンペイド・ワークへの評価：男性定年退職者の分析」『国立女性教育会館研究紀要』 7: pp.21-31.



## 第3章 過去20年間の働き方と生きがいに関する

### 要因変化<sup>1</sup>

#### 1 はじめに

急速に進展する少子高齢化に伴い、高齢者の雇用に対する関心が高まっている。ひとつは、将来の労働力人口の減少が予想される中で、労働力を確保するという観点から高齢者が労働市場から退出しないための方策に関する議論である。もうひとつは、公的年金支給開始年齢の65歳への引上げが2013年度から開始され、現行では60歳で定年に到達した後に雇用が継続されず、年金支給開始年齢までの数年間、無年金・無収入となる者が生じる可能性があり、雇用と年金の確実な接続が重要となっている。

後者については、2006年4月施行の改正高年齢者雇用安定法により、事業主は65歳まで労働者の雇用を確保するよう義務づけられるようになった。その際、定年が65歳未満である企業に対して、①定年を65歳まで引き上げ、②定年制廃止、③定年後65歳<sup>2</sup>までの雇用確保措置の中から選択できるようになり、継続雇用制度を導入した場合は、希望者全員を対象とすることが原則であるが、労使協定によって対象者の基準を設けることができる。また、その労使協定に合意が得られなくても2006年から5年間は企業側の基準を就業規則に記載し、労働基準監督署の届出があれば対象者を選別することが認められている。その後、2012年1月の厚生労働省労働政策審議会「今後の高年齢者雇用対策について」においては、65歳以上の希望者すべてが雇用を確保できるように提案し、65歳までの雇用確保を確実になった。

高齢者の雇用確保が政策課題として議論され、生涯現役社会を進める方向に政策は動いているが、このような現状において高齢者は生きがいを持って働いているのだろうか。特に定年を迎える現役世代は働く目的として生計のためといった理由が多いであろう。しかし、年齢が高齢になるにつれ子供の世話の必要がなくなり、本人にとって自由に使える時間は増えてくるはずである。自由な時間をどのように使うかといった選択の中で、仕事を選ぶということは仕事に対していきがいを感じているのかもしれないとみることができる。しかし、生計のためにやむを得ず働き続けるといった可能性も否定できない。年齢に関係なく生き生きと社会生活を送るためには、仕事に対して生きがいを持つこと、そして生きがいを持って働くことが求められているのではないだろうか。

このような視点から、本稿では、労働者のうちどのような人が仕事に対して生きがいを感じているのだろうか、そして生きがいを持って働いている人はどのような人なのだろうかについてアンケート調査を基に分析を行いたい。特に、この20年間で仕事に対して生きがいを持っている人がどのように変化しているかを対象とする、その要因について考察したい。

<sup>1</sup> 本稿は著者個人の見解を表すものであり、著者の所属機関の見解を表すものではないことをお断りしたい。

<sup>2</sup> 2011年12月時点では64歳。

次節以降の構成は下記のとおりである。第2節では分析で用いたデータについて説明する。第3節では、年齢階層別に生きがいを持っている人、定年を経験した人の割合などについてみていく。第4節では生きがいに関する分析について紹介する。第5節で結論を述べる。

## 2 使用するデータ

### 2.1 使用するデータの概要

本稿では、年金シニアプラン総合研究機構が実施した「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」を用いる。本調査は1991年以降5年おきに実施され、本稿が執筆された2013年時点では、5回実施されている。ただし、仕事に関する生きがいについては1996年の第2回調査以降において調査されているため、本稿においては第2回～第5回調査を用いる。調査の具体的な概要については各報告書を参照していただきたい。

### 2.2 就業状態

本調査のサンプル構成を見ておくためいくつかの指標を確認したい。〔図表3-1〕は男性の就業状態、〔図表3-3〕は女性の就業状態を示したものである。

〔図表3-1〕 男性の就業形態の推移

	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年
<b>就業率</b>	<b>80.0%</b>	<b>76.4%</b>	<b>72.3%</b>	<b>80.9%</b>	<b>75.6%</b>
正規社員	66.1%	63.9%	59.4%	69.4%	63.2%
非正規社員	10.1%	9.1%	9.8%	8.5%	5.6%
自営業・自由業・家族従業者	3.8%	3.3%	3.0%	2.9%	6.8%
無職	16.2%	16.8%	17.7%	15.4%	23.9%
無回答	2.6%	3.4%	8.7%	2.7%	-

(無回答を除いた集計)

	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年
<b>就業率</b>	<b>82.1%</b>	<b>79.1%</b>	<b>79.2%</b>	<b>83.1%</b>	<b>75.6%</b>
正規社員	67.9%	66.2%	65.1%	71.3%	63.2%
非正規社員	10.4%	9.5%	10.8%	8.7%	5.6%
自営業・自由業・家族従業者	3.9%	3.4%	3.3%	3.0%	6.8%
無職	16.7%	17.4%	19.3%	15.9%	23.9%

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

2011年調査はインターネット調査であり無回答が存在しないため、無回答を除いた集計を見ると、男性の就業率（正規社員、非正規社員、自営業・自由業・家族従業者はおおむね8割を推移している。ただし、2001年から2006年にかけて就業率が上昇しているが、2011年にかけて低下しており、総務省「労働力調査」とは異なる推移をしていることに注意したい。

〔図表 3-2〕 男性の就業形態の推移（60 歳前後）

35～59歳					
	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年
<b>就業率</b>	<b>96.9%</b>	<b>99.0%</b>	<b>98.8%</b>	<b>99.5%</b>	<b>97.9%</b>
正規社員	93.4%	96.7%	95.2%	96.3%	90.4%
非正規社員	2.2%	1.1%	2.0%	1.6%	2.7%
自営業・自由業・家族従業者	1.3%	1.2%	1.6%	1.6%	4.7%
無職	3.0%	0.5%	1.1%	0.4%	2.1%

60～74歳					
	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年
<b>就業率</b>	<b>60.0%</b>	<b>49.5%</b>	<b>48.6%</b>	<b>54.4%</b>	<b>34.6%</b>
正規社員	28.0%	20.4%	17.4%	26.2%	13.1%
非正規社員	24.2%	22.2%	25.2%	22.7%	10.9%
自営業・自由業・家族従業者	7.7%	7.0%	5.9%	5.5%	10.7%
無職	37.0%	43.0%	47.9%	42.7%	64.2%

（注）無回答を除いた集計

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

〔図表 3-2〕は、男性のうち 35～59 歳と、60 歳以降で就業率を分けて算出した結果である。60 歳未満の就業率はほぼ 100%であり、安定している。ただし 2006 年から 2011 年にかけては若干の低下がみられる。しかし、60 歳以降については、就業率が上下に推移しており、特に 2006 年から 2011 年にかけて大きな低下がみられる。これらの年において調査手法が変わったため、結果が異なっている可能性がある。以下での分析では回帰分析の手法を取り、調査手法の変化にある程度頑健な分析を行いたい。

〔図表 3-3〕 女性の就業形態の推移

	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年
<b>就業率</b>	<b>44.2%</b>	<b>45.1%</b>	<b>46.8%</b>	<b>51.1%</b>	<b>44.5%</b>
正規社員	20.5%	20.3%	21.1%	27.0%	18.2%
非正規社員	20.0%	21.4%	22.4%	22.4%	20.7%
自営業・自由業・家族従業者	3.7%	3.4%	3.3%	1.6%	5.6%
無職	49.1%	35.4%	37.2%	35.3%	54.0%
無回答	2.8%	16.0%	14.0%	5.8%	—

（無回答を除いた集計）

	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年
<b>就業率</b>	<b>45.5%</b>	<b>53.6%</b>	<b>54.4%</b>	<b>54.3%</b>	<b>44.5%</b>
正規社員	21.1%	24.2%	24.5%	28.7%	18.2%
非正規社員	20.6%	25.4%	26.1%	23.8%	20.7%
自営業・自由業・家族従業者	3.8%	4.0%	3.8%	1.7%	5.6%
無職	50.5%	42.2%	43.2%	37.5%	54.0%

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

女性については、就業率は 5 割前後を推移している。1991 年から 96 年にかけて上昇し、その後 2006 年までは 54%前後を推移した後、2011 年には 45%程度にまで落ち込んでいる。

〔図表 3-4〕 女性の就業形態の推移（60 歳前後）

35～59歳					
	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年
<b>就業率</b>	<b>54.4%</b>	<b>65.4%</b>	<b>67.1%</b>	<b>67.4%</b>	<b>54.3%</b>
正規社員	25.6%	31.3%	33.0%	39.1%	24.9%
非正規社員	25.4%	31.1%	30.9%	27.2%	24.5%
自営業・自由業・家族従業者	3.4%	3.0%	3.2%	1.1%	4.9%
無職	41.0%	31.0%	30.8%	26.2%	44.4%

60～74歳					
	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年
<b>就業率</b>	<b>24.3%</b>	<b>26.6%</b>	<b>25.4%</b>	<b>21.1%</b>	<b>23.5%</b>
正規社員	9.7%	6.7%	3.8%	3.2%	3.9%
非正規社員	9.3%	12.7%	15.9%	14.2%	12.4%
自営業・自由業・家族従業者	5.2%	7.2%	5.7%	3.7%	7.2%
無職	73.4%	67.1%	71.6%	66.1%	74.6%

（注）無回答を除いた集計

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

〔図表 3-4〕は、男性のうち 35～59 歳と、60 歳以降で就業率を分けて算出した結果である。男性と異なり、女性については、2006 年から 2011 年にかけて就業率が落ち込むのは、35～59 歳である。逆に 60 歳以降については、就業率が 2 割強で推移していることが分かる。

### 3 仕事に対する生きがい

人々は仕事に対して生きがいを持っているだろうか。この点について基本統計量を確認していきたい。

本調査ではいくつかの質問形式で人々の生きがいについて調査している。詳細は調査票を参照していただきたい。

以下では、1996 年以降の調査各年で共通の変数を用い、調査時点でどのようなことに生きがいを感じているかという点に注目する。2011 年においては問 16 にあたる質問であり、13 の選択肢<sup>3</sup>から 3 つを選ぶ形式である。2011 年においては、仕事を生きがいと感じている者は、男性の全体サンプルのうち 23.8%、女性の全体サンプルのうち 12.8%である。男性では趣味(54.5%)や家族・家庭(44.3%)に対して生きがいを感じるものが多い中で、その次に高い割合であるといえる。

これらの質問項目を用いて、本稿では仕事に対して生きがいを感じているか否かといった変数を作成し、分析の対象としたい。

<sup>3</sup> 調査における選択肢は「1.仕事」「2.趣味」「3.スポーツ」「4.学習活動」「5.社会活動（ボランティア含む）」「6.自然とのふれあい」「7.配偶者・結婚生活」「8.子ども・孫・親などの家族・家庭」「9.友人など家族以外の人との交流」「10.自分自身の健康づくり」「11.一人で気ままに過ごすこと」「12.自分自身の内面の充実」「13.その他」である。

この変数を年齢階層別の状況を表したのが〔図表 3-5〕である。

〔図表 3-5〕 年齢階層別 有業者に対する仕事にいきがいを持っている者の割合

男性					
	1996年	2001年	2006年	2011年	2011年-2001 年のポイント差
年齢計	40.0%	44.2%	34.7%	30.3%	-13.9
35-39歳	35.8%	47.1%	35.8%	32.1%	-15.0
40-44歳	32.3%	46.6%	33.9%	28.8%	-17.8
45-49歳	42.4%	47.5%	35.7%	29.4%	-18.1
50-54歳	41.2%	46.3%	36.2%	30.4%	-15.9
55-59歳	36.8%	47.2%	31.9%	29.4%	-17.8
60-64歳	45.0%	45.4%	35.7%	28.8%	-16.6
65-69歳	43.6%	34.6%	39.7%	33.0%	-1.5
70-74歳	42.9%	39.2%	27.1%	36.7%	-2.5

女性					
	1996年	2001年	2006年	2011年	2011年-2001 年のポイント差
年齢計	26.4%	28.9%	23.9%	25.1%	-3.7
35-39歳	22.4%	25.2%	24.5%	19.4%	-5.8
40-44歳	31.0%	30.4%	25.3%	23.9%	-6.4
45-49歳	25.5%	33.1%	23.1%	28.3%	-4.8
50-54歳	30.3%	31.9%	21.7%	26.7%	-5.3
55-59歳	29.8%	34.5%	23.0%	23.8%	-10.7
60-64歳	23.6%	27.9%	29.7%	27.2%	-0.7
65-69歳	22.0%	14.8%	27.6%	36.2%	21.4
70-74歳	15.8%	19.0%	16.7%	22.5%	3.5

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

男性については、1996年から2001年にかけては仕事に対して生きがいを持っている人の割合が上昇しているが、2001年以降はその割合が低下している。ピークを示した2001年と2011年の差を年齢階層別に見てみると、65歳以下の各階層においては軒並み10ポイント以上低下している。ただし、65-69歳、70-74歳については、仕事に対して生きがいを持っている人の割合は1996年が一番高く、1996年と2011年でその割合の差を比較すると、10ポイント以上低下している。また、2006年から2011年にかけては70歳以上において、仕事に対して生きがいを持っている人の割合が上昇している点に興味深い。

女性については、男性とやや傾向が異なる。まず年齢計についての推移をみると、2割強の水準でほとんど変化がないことである。年齢階層で見ると、55-59歳については2001年から2011年にかけて、生きがいを持っている人の割合が大きく落ち込んでいるが、65歳以上については2001年を境に仕事に対して生きがいを持っている人が上昇している。

このことは、男性と女性で別々に分析を行ったほうが良いこと、60歳前後に生きがいを持つ人の割合の構造が異なっている可能性があることを示している。

## 4 仕事に対する生きがいを持つ要因は時期によってどのように異なるか

前節における観察をふまえ、本節では誰が仕事に対する生きがいを持っているかその要因を探っていく。4.1 節は分析方法の詳細の記述であるので、回帰分析の知識のない読者は 4.1 節を読み飛ばしても理解できるように説明してある。

### 4.1 分析方法

分析方法として生きがいを持っている人を 1、そうでない人を 0 としたダミー変数を作成し、それを諸々の説明変数で回帰させる手法をとる。ここではダミー変数が被説明変数であるのでプロビット分析と呼ばれる手法を用いる。

分析をする際に、有業者のみで分析するかそれとも無業者も含めるかは大きな問題となる。特に、前節で確認したように 60 歳以上においての有業率はそれより若い世代よりも低く、生きがいを持っているから実際に働いているというケースも見られる。逆に無業者であれば仕事に対して生きがいを感じていないかもしれない。有業者に限定して分析をすると、計量経済学の分野で指摘されているサンプルセレクションバイアスが発生し、一般的には分析結果を信頼できない場合がある。ただし本稿では結果を掲載していないが、別途サンプルセレクションを考慮した推定も行い分析結果に大きな違いがないことを確認している。したがって、以下では有業者に限定した分析を行う。

さらに、男性の派遣社員、内職、シルバー人材センターに該当するサンプルと、女性のシルバー人材センターに該当するサンプルは数が少ないので分析対象外とした。

次に説明変数について説明する。説明変数を含めた基本統計量は〔図表 3-6〕にある。

第 1 に、雇用形態である（問 8）。この分析ではサンプルが少ない場合もあるので、正社員に対して、非正規社員（契約社員・嘱託、パート・アルバイト）、自営業（自営業・自由業・家族従業員、女性の内職も含む）の効果を見ることにしている。

第 2 に、職種である（問 9(2)）。特に管理職のような職場での地位が高い職種であれば仕事に対して責任も大きく、生きがいを持つ可能性が高い。以下の分析では専門技術職に対してほかの職種であると仕事に対する生きがいを持つ割合が高くなるか、低くなるかについて分析している。

第 3 に、年齢である(SC2)。前節でみたように、年齢によって特に生きがいの有無については違いがみられた。このような違いをコントロールするために説明変数として加えている。

第 4 に、定年経験の有無である（問 19）。定年を経験することにより仕事に対して生きがいを見いだせなくなっているかもしれない、定年を経験するほど仕事に対して生きがいを感じていないかもしれない。このような要因を見るために説明変数としてコントロールする。

〔図表 3-6〕 分析サンプルの基本統計量

	男性	女性
仕事生きがいダミー	0.302	0.244
雇用形態(ベース:正社員)		
非正規ダミー	0.107	0.258
自営業ダミー	0.036	0.060
職種(ベース:専門技術職)		
管理職ダミー	0.480	0.081
事務職ダミー	0.240	0.627
販売職ダミー	0.032	0.052
技術職ダミー	0.108	0.091
サービス職ダミー	0.018	0.034
その他ダミー	0.033	0.055
年齢(ベース:35-39歳)		
40-44歳ダミー	0.159	0.172
45-49歳ダミー	0.153	0.170
50-54歳ダミー	0.153	0.160
55-59歳ダミー	0.178	0.165
60-64歳ダミー	0.104	0.071
65-69歳ダミー	0.079	0.057
70-74歳ダミー	0.026	0.019
定年経験ダミー	0.139	0.074
仕事や職場についての満足		
仕事の内容満足ダミー	0.508	0.506
就業形態満足ダミー	0.501	0.513
職場での地位の高さ満足ダミー	0.406	0.310
賃金満足ダミー	0.293	0.270
福利厚生満足ダミー	0.309	0.303
職場の人間関係・雰囲気満足ダミー	0.403	0.431
サンプル年(ベース:1996年)		
2001年ダミー	0.199	0.186
2006年ダミー	0.135	0.137
2011年ダミー	0.252	0.392
サンプルサイズ	8,391	2,663

(注) 男性の派遣社員・内職・シルバー人材センターと女性のシルバー人材センターを除く。変数の定義は本文中を参照。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

第5に、仕事や職場についての満足度(問10)である。この変数は主観的な変数であるため、以下の分析では、仕事や職場についての満足度をコントロールしない場合(以下、「モデル1」と呼ぶ)とコントロールする場合(以下、「モデル2」と呼ぶ)の両方を推定する。この満足度を尋ねる質問では、①仕事の内容、②就業形態、③職場での地位の高さ、④賃金、⑤福利厚生、⑥職場の人間関係・雰囲気、⑦全体としての7つ<sup>4</sup>に対して「とても満足して

<sup>4</sup> そのほかに「業績評価の公平性」という選択肢も2006年から追加されたが、サンプル期間の途中から追加されたのでこの変数の分析は除外している。

いる」「やや満足している」「どちらともいえない」「やや不満である」「とても不満である」の5件法で調査している。以下の分析では簡便化のため、「とても満足している」「やや満足している」と回答したものを満足した者と判断し、満足したものを1、そうでないものを0というダミー変数を上記①から⑥について作成した。仕事や職場に満足していれば仕事に対しての生きがいも高いはずである。このような変数間の関係にも注目して分析を試みたい。

#### 4.2 男性で誰が仕事に対して生きがいを持っているか

4.1 節で説明した方法で、男性に限定して分析した結果が、〔図表 3-7〕である。仕事や職場についての満足度をコントロールしていないモデル1を見てみると、仕事に対して生きがいを感じている要因として、職種や年齢、調査時点があることがわかる。

職種については、専門技術職に対して、係数がプラスである管理職は、仕事に対して生きがいを感じやすいということが分かった。また、専門技術職に対して事務職や技術職であれば仕事に対して生きがいを感じにくいということが分かった。管理職のように責任が重く、職場の地位の高い仕事であればそれだけ仕事に対して生きがいを感じやすいことは明らかとなった。

また、年齢については35-39歳に比較した結果であるが、40-44歳、50-54歳、55-59歳は係数が統計的に有意である。30歳代後半に比べて40歳代の一部、50歳代は仕事に対して生きがいを持っている人の割合が低いと言える。しかしこの係数は60歳代以上については有意ではなく、35-39歳と生きがいを持っている人の割合に統計的に有意な違いはないと言える。

調査時点のダミーは、1996年を基準とした値であるが、2001年、2006年、2011年のそれぞれにおいて係数はプラスで有意である。そのため、1996年と比較してどの年も生きがいを持っている人の割合は高いといえる。ただし、各年の係数は2001年から2006年、2011年にかけて、モデル1では0.3224、0.1748、0.1239と低下しており、生きがいを持っている人の割合は、2001年以降において低下傾向であることが分かる。

以上がモデル1についての説明であるが、次に、仕事や職場についての満足度をコントロールしたモデル2の結果を見ていこう。仕事や職場についての満足度以外の説明変数については結果に大きな違いがないため、説明は省略する。

仕事や職場についての満足度について結果を説明する。仕事の内容が満足であるほど、職場での地位の高さが満足であるほど、そして職場の人間関係や雰囲気であるほど、仕事に対して生きがいを感じ、かつ生きがいを持ちやすいことが分かった。特に係数の大きさを見ると、仕事の内容満足が他の2つより大きいため、仕事内容をいかに満足させるかが、仕事に生きがいを感じ、生きがいを持つためには重要な要素であるといえる。

次に、35-59歳と60-74歳に分けた結果を見ておく。唯一結果が異なっているのは賃金の満足度である。10%有意水準であるが、35-59歳では係数はプラスで統計的に有意、60-74歳では係数はマイナスで統計的に有意である。

〔図表 3-7〕 仕事に対する生きがいを持つ人の要因（男性）

VARIABLES	全体		35-59歳	60-74歳
	モデル1	モデル2	モデル2	モデル2
非正規ダミー	-0.0290 (0.0213)	-0.0111 (0.0220)	0.0189 (0.0459)	-0.0426 (0.0289)
自営業ダミー	0.1116*** (0.0325)	0.1132*** (0.0331)	0.0922* (0.0503)	0.1285*** (0.0458)
管理職ダミー	0.0192 (0.0189)	-0.0102 (0.0190)	-0.0075 (0.0208)	-0.0070 (0.0465)
事務職ダミー	-0.0653*** (0.0189)	-0.0538*** (0.0188)	-0.0590*** (0.0205)	-0.0119 (0.0488)
販売職ダミー	-0.0475 (0.0303)	-0.0052 (0.0327)	-0.0169 (0.0358)	0.0660 (0.0804)
技術職ダミー	-0.0818*** (0.0204)	-0.0482** (0.0213)	-0.0526** (0.0233)	-0.0245 (0.0522)
サービス職ダミー	-0.0432 (0.0392)	-0.0310 (0.0395)	0.0039 (0.0536)	-0.0480 (0.0688)
その他職種ダミー	-0.0169 (0.0325)	-0.0090 (0.0329)	-0.0391 (0.0454)	0.0415 (0.0584)
40-44歳ダミー	-0.0397** (0.0178)	-0.0328* (0.0179)	-0.0334* (0.0179)	
45-49歳ダミー	-0.0133 (0.0186)	0.0009 (0.0191)	-0.0008 (0.0190)	
50-54歳ダミー	-0.0348* (0.0183)	-0.0310* (0.0184)	-0.0332* (0.0185)	
55-59歳ダミー	-0.0450** (0.0177)	-0.0514*** (0.0174)	-0.0531*** (0.0177)	
60-64歳ダミー	0.0029 (0.0247)	-0.0383 (0.0233)		
65-69歳ダミー	0.0297 (0.0284)	-0.0372 (0.0261)		0.0077 (0.0371)
70-74歳ダミー	0.0225 (0.0386)	-0.0506 (0.0342)		0.0104 (0.0376)
定年経験ダミー	-0.0112 (0.0211)	0.0038 (0.0219)	-0.0091 (0.0478)	-0.0087 (0.0258)
仕事の内容満足ダミー		0.2458*** (0.0133)	0.2343*** (0.0147)	0.3237*** (0.0316)
就業形態満足ダミー		0.0077 (0.0142)	0.0150 (0.0155)	-0.0357 (0.0354)
職場での地位の高さ満足ダミー		0.0767*** (0.0143)	0.0763*** (0.0158)	0.0724** (0.0339)
賃金満足ダミー		0.0124 (0.0142)	0.0286* (0.0161)	-0.0505* (0.0300)
福利厚生満足ダミー		0.0372*** (0.0133)	0.0258* (0.0148)	0.0689** (0.0310)
職場の人間関係・雰囲気満足ダミー		0.0856*** (0.0129)	0.0810*** (0.0143)	0.1058*** (0.0297)
2001年ダミー	0.3218*** (0.0149)	0.1948*** (0.0160)	0.2049*** (0.0181)	0.1665*** (0.0351)
2006年ダミー	0.1741*** (0.0177)	0.0374** (0.0169)	0.0597*** (0.0196)	-0.0434 (0.0329)
2011年ダミー	0.1224*** (0.0146)	0.0290** (0.0144)	0.0489*** (0.0162)	-0.0590* (0.0317)
疑似決定係数	0.058	0.181	0.179	0.201
サンプルサイズ	8,386	8,386	6,622	1,764

(注) 推定方法はプロビット分析。数字は限界効果、( )内の値は標準誤差を表す。\*\*\*,\*\*,\*はそれぞれ1%,5%,10%水準で有意であることを表す。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

### 4.3 女性で誰が仕事に対して生きがいを持っているか

前節では、男性について見てきたが、今度は女性について見てみよう。結果は〔図表 3-8〕にある。ほとんどの結果については男性と同じであるが、男性と異なる点についてのみ指摘する。

年齢については、男性については 40 歳代、50 歳代についてのみ有意であったが、女性ではそれだけでなく 60 歳代についても有意である。また、仕事や職場の満足度は仕事の内容と職場の人間関係・雰囲気についてのみ有意であり、それ以外については有意ではない。

### 4.4 仕事や職場の満足度の影響変化

以上の分析により、仕事や職場の満足度について一部は有意であったが、これは調査時点に変化があるだろうか。その点について見ていくことによって、近年になるにつれ仕事に対する生きがいを持っている人が減少することについて検討したい。

結果は〔図表 3-9〕にある。この分析はこれまでの分析における被説明変数に、仕事や職場の満足度調査時点ダミーの考査項を加えたものである。

興味深いのは、これまでの分析で有意であった変数の係数が基準である 2001 年を境に低下していることである。仕事の内容や就業形態、職場の人間関係・雰囲気の満足度が低下していることもあるが、この内容自体も変わってきて、仕事に対する生きがいが減少している可能性がある。

## 5 結びにかえて

本稿では少子高齢化に伴い高齢者が生涯働く環境が求められている中で、仕事に対する生きがいを感じたり持ったりするということが重要という前提のもとで、労働者のうちどのような人が仕事に対して生きがいを感じていて、そして生きがいを持って働いている人はどのような人なのだろうかについてアンケート調査を基に分析を行ってきた。分析結果をまとめつつ、高齢者が生きがいを持って働くためには何が必要かについて議論したい。

第 1 に、定年を経験することにより仕事に対して生きがいを感じるができなくなり、生きがいを持たない傾向があることを発見した。定年は企業の事業運営上やむを得ない場合もあるが、労働者の生きがいを高め、定年後も働き続けることを促進させたいといった観点からは、定年後の再雇用等において企業は仕事に対する生きがいを失うことがないように配慮する必要がある。これは、今回の分析についても同じであると言える。

第 2 に、特に男性高齢者においては、仕事内容に満足をしていると生きがいを感じやすく生きがいを持ちやすいことが分かった。定年前の世代では有意な影響がある職場での地位の高さや職場の人間関係・雰囲気はあまり影響を与えていないことが分かった。企業が労働者のモチベーションを高めるためには昇進させて役職を与えることや人間関係を良好なことにしていくことはよく行われているが、高齢者雇用に対してはあまり関係がない。むしろ仕事内容に満足するかが大きな課題であるといえる。1 番目の点と合わせると、定年後において

〔図表 3-8〕 仕事に対する生きがいを持つ人の要因（女性）

VARIABLES	全体		35-59歳	60-74歳
	モデル1	モデル2	モデル2	モデル2
非正規ダミー	-0.0024 (0.0241)	-0.0128 (0.0237)	-0.0084 (0.0259)	-0.0486 (0.0678)
自営業ダミー	0.0886** (0.0431)	0.0684 (0.0423)	0.0929* (0.0546)	-0.0177 (0.0747)
管理職ダミー	-0.0836** (0.0344)	-0.0716** (0.0340)	-0.0489 (0.0391)	-0.1576* (0.0823)
事務職ダミー	-0.1943*** (0.0366)	-0.1699*** (0.0359)	-0.1694*** (0.0394)	-0.1288 (0.0910)
販売職ダミー	-0.1219*** (0.0325)	-0.0847** (0.0356)	-0.0945** (0.0369)	-0.0573 (0.1052)
技術職ダミー	-0.0769** (0.0341)	-0.0540 (0.0348)	-0.0456 (0.0383)	-0.0791 (0.0947)
サービス職ダミー	-0.1452*** (0.0319)	-0.1028*** (0.0368)	-0.0827* (0.0463)	-0.1372 (0.0864)
その他職種ダミー	-0.1073*** (0.0341)	-0.0851** (0.0347)	-0.0804** (0.0390)	-0.0852 (0.0947)
40-44歳ダミー	0.0675** (0.0317)	0.0796** (0.0322)	0.0747** (0.0312)	
45-49歳ダミー	0.0777** (0.0319)	0.0871*** (0.0323)	0.0853*** (0.0314)	
50-54歳ダミー	0.0915*** (0.0326)	0.0873*** (0.0327)	0.0835*** (0.0318)	
55-59歳ダミー	0.1018*** (0.0327)	0.0956*** (0.0327)	0.0923*** (0.0319)	
60-64歳ダミー	0.1368*** (0.0492)	0.1243** (0.0499)		
65-69歳ダミー	0.1605*** (0.0529)	0.1407*** (0.0534)		0.0961 (0.0816)
70-74歳ダミー	0.0471 (0.0722)	0.0055 (0.0676)		0.1438* (0.0841)
定年経験ダミー	-0.0500 (0.0357)	-0.0363 (0.0369)	-0.0955 (0.0663)	-0.0534 (0.0560)
仕事の内容満足ダミー		0.1993*** (0.0204)	0.1761*** (0.0213)	0.4028*** (0.0687)
就業形態満足ダミー		0.0235 (0.0212)	0.0405* (0.0220)	-0.1547** (0.0787)
職場での地位の高さ満足ダミー		-0.0037 (0.0215)	-0.0189 (0.0221)	0.0946 (0.0750)
賃金満足ダミー		0.0120 (0.0222)	0.0060 (0.0233)	0.0251 (0.0686)
福利厚生満足ダミー		0.0237 (0.0211)	0.0192 (0.0222)	0.0914 (0.0691)
職場の人間関係・雰囲気満足ダミー		0.0710*** (0.0197)	0.0846*** (0.0208)	-0.0700 (0.0627)
2001年ダミー	0.2338*** (0.0299)	0.1593*** (0.0301)	0.1469*** (0.0317)	0.2462** (0.0972)
2006年ダミー	0.1093*** (0.0325)	0.0215 (0.0294)	0.0093 (0.0302)	0.0922 (0.1077)
2011年ダミー	0.0798*** (0.0252)	0.0121 (0.0250)	0.0083 (0.0268)	0.0140 (0.0693)
疑似決定係数	0.051	0.134	0.127	0.213
サンプルサイズ	2,669	2,669	2,277	392

(注) 推定方法はプロビット分析。数字は限界効果、()内の値は標準誤差を表す。\*\*\*,\*\*,\*はそれぞれ1%,5%,10%水準で有意であることを表す。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

〔図表 3-9〕 仕事に対する生きがいを持つ人の決定要因（満足度と調査時点の交差項）

	男性		女性	
	35-59歳	60-74歳	35-59歳	60-74歳
仕事の内容満足ダミー	0.3148*** (0.0271)	0.4522*** (0.0516)	0.2574*** (0.0398)	0.5879*** (0.1102)
× 1996年ダミー	-0.1221*** (0.0321)	-0.2597*** (0.0468)	-0.0842 (0.0517)	-0.1297 (0.1736)
× 2006年ダミー	-0.0667 (0.0413)	-0.2570*** (0.0464)	-0.1602*** (0.0318)	-0.2188*** (0.0709)
× 2011年ダミー	-0.1414*** (0.0294)	-0.1732** (0.0714)	-0.0842* (0.0451)	-0.2265 (0.1454)
就業形態満足ダミー	0.0807*** (0.0295)	-0.0560 (0.0663)	0.0959** (0.0416)	-0.1202 (0.1592)
× 1996年ダミー	-0.0810** (0.0351)	0.0309 (0.0912)	-0.0576 (0.0575)	0.0093 (0.2370)
× 2006年ダミー	-0.0835** (0.0407)	0.0360 (0.1123)	-0.0254 (0.0655)	0.3608 (0.3627)
× 2011年ダミー	-0.0986*** (0.0338)	-0.0340 (0.0947)	-0.0969** (0.0438)	-0.2200 (0.1510)
職場での地位の高さ満足ダミー	0.1034*** (0.0314)	0.0806 (0.0615)	0.0229 (0.0503)	0.3213* (0.1819)
× 1996年ダミー	-0.0247 (0.0395)	-0.0242 (0.0783)	0.0351 (0.0774)	-0.1935** (0.0906)
× 2006年ダミー	-0.0777** (0.0395)	-0.0740 (0.0834)	-0.0704 (0.0577)	-0.1913** (0.0903)
× 2011年ダミー	-0.0279 (0.0384)	0.0227 (0.0897)	-0.0737 (0.0489)	-0.2467** (0.1098)
賃金満足ダミー	0.0154 (0.0322)	0.0045 (0.0599)	-0.0098 (0.0493)	0.0193 (0.1987)
× 1996年ダミー	-0.0099 (0.0437)	0.0548 (0.0881)	0.0221 (0.0790)	-0.1892** (0.0924)
× 2006年ダミー	0.0085 (0.0488)	-0.1063 (0.0723)	0.0350 (0.0814)	0.3828 (0.4497)
× 2011年ダミー	0.0400 (0.0450)	-0.1167* (0.0633)	0.0171 (0.0635)	0.0413 (0.2272)
福利厚生満足ダミー	0.0620** (0.0301)	-0.0005 (0.0570)	0.0499 (0.0461)	-0.0720 (0.1346)
× 1996年ダミー	-0.0193 (0.0396)	0.0611 (0.0831)	-0.0358 (0.0604)	0.3211 (0.2951)
× 2006年ダミー	-0.0471 (0.0392)	0.1458 (0.0991)	-0.0038 (0.0667)	-0.1495 (0.1525)
× 2011年ダミー	-0.0721** (0.0331)	-0.0147 (0.0830)	-0.0617 (0.0464)	0.2376 (0.2171)
職場の人間関係・雰囲気満足ダミー	0.1596*** (0.0275)	0.1694*** (0.0532)	0.1659*** (0.0436)	0.0625 (0.1360)
× 1996年ダミー	-0.0663** (0.0328)	-0.0651 (0.0669)	-0.0737 (0.0496)	-0.1834** (0.0934)
× 2006年ダミー	-0.1168*** (0.0311)	-0.0525 (0.0777)	-0.1173*** (0.0384)	-0.2303*** (0.0534)
× 2011年ダミー	-0.0937*** (0.0300)	-0.1340** (0.0598)	-0.0963** (0.0415)	-0.0094 (0.1568)

(注) 推定方法はプロビット分析。数字は限界効果、()内の値は標準誤差を表す。\*\*\*, \*\*, \*はそれぞれ1%, 5%, 10%水準で有意であることを表す。説明変数として、雇用形態、職種、労働時間、年齢、定年経験ダミー、調査年ダミーも加えている。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

は労働者が仕事内容に満足するように、企業は面談などの手段を通じて労働者の意向を把握し、可能な限り仕事内容に満足するような配置をしていくことが求められているといえる。

第3に、男性高齢者において賃金の満足度は生きがいに対しては影響を与えない。労働政策研究・研修機構の調査によると、定年後の再雇用において賃金水準が引き下げられることに不満の声があがっているといわれるが、生きがいに対してそれほど影響はなくむしろ賃金に満足している人ほど生きがいを感じていないことがわかった。企業にとって再雇用制度等により労働者を雇用する期間が長くなれば、それだけ人件費が増大する。そのため再雇用により賃金を下げざるを得ないが、その点は生きがいに対しては大きく影響を与えないが、働くモチベーションに対してはどのような影響があるのか今後の分析が待たれる。

また、その他の興味深い結果として、男性の35-59歳においては職場での地位の高さや職場の人間関係・雰囲気の仕事に対して生きがいを感じるためには重要である。また、職種や労働時間も影響を与え、この世代に対しては責任がありある程度難しい仕事を与えるほど生きがいを感じて働くという傾向がみられる。ただこれらの傾向が、近年になるにつれその効果が薄れていることに注意したい。そのため、職場環境や仕事内容の構造変化が雇用者の仕事に対する生きがいが減少していることにつながっている。それも現役世代について特にいえることであり、引退を経験した世代については時代による大きな変化は見られない。その意味で、引退後の職業生活をどのようにデザインするかは今後も重要性を増していると言えるだろう。

繰り返しになるが、生涯現役世代の実現が求められている日本において、高齢者が生きがいを持って働ける社会を構築していくことは重要な課題である。高齢者の活用においては今回の分析結果からは、仕事内容を満足させることが重要であり、仕事内容に満足しないと生きがいを持って働き、仕事に対して生きがいを感じるようにはならない。労働者の意向を把握することは企業にとってもコストがかかる話であるが、労使双方が高齢者を有効に活用するためには面談等を通じた労働者の仕事内容に対する満足度といった意向の把握が求められているといえる。



## 第4章 単身世帯の生活と生きがいに関する

### 時系列変化：現役世代（35～59歳）を対象に

#### 1 はじめに

日本では、単身世帯が趨勢的に増加しており、今後もその傾向が続くとみられている。具体的には、1980年の単身世帯数は711万世帯（全人口に占める単身者<sup>1</sup>の割合6.1%）であったが、2010年には1,678万世帯（同13.1%）となり、2.36倍に増加した<sup>2</sup>。そして、2030年になると単身世帯数は1,872万世帯（同16.1%）となり、2010年の1.12倍になると予測されている<sup>3</sup>。

また、単身世帯は量的に増加するだけでなく、質的な変化を伴って社会に大きな影響をもたらすと考えられる。具体的には、今後は20代・30代の単身世帯が減少する一方で、50代・60代の中老年男性や高齢女性で単身世帯が増加していく<sup>4</sup>。また、今後は未婚の単身者が増加していく。未婚の単身者は、配偶者がいないだけでなく、子供がいないことが考えられるので、老後を家族に頼ることが一層難しくなる。

このような状況の中で、単身世帯に属する人（以下、単身世帯と省略）の意識面や実態面を考察することは、今後の対応を考える上で意義がある。筆者は、2012年に財団法人年金シニアプラン総合研究機構「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」（2011年）に基づいて、2011年における単身世帯の「生きがい」「仕事面の満足度」「生活面の満足度」について考察した<sup>5</sup>。本稿では、2011年調査で指摘した内容が、時系列調査においても同様に指摘できるか、といった点を中心に考察する。具体的には、以下の3点を考察していく。

第一に、単身世帯は、二人以上世帯に属する人（以下、二人以上世帯）と比べて、生きがいの保有率が低いのか。また、生きがいの対象を比較すると、単身世帯では「ひとりで気ままに過ごすこと」と答える人の割合が高い。時系列でも、同様の点を指摘できるか。

第二に、仕事面の満足度をみると、2011年調査では、単身世帯の満足度は二人以上世帯よりも低い水準にあった。時系列でみた場合にも、単身世帯の仕事面の満足度は、二人以上世帯よりも低いのか。

---

<sup>1</sup> 単身世帯の世帯人員は一人なので、個人の側面からみれば「単身者」となる。本稿では、世帯でみる場合には「単身世帯」、個人としてみる場合には「単身者」という用語を使うが、両者は同一の対象を示す。

<sup>2</sup> 総務省『国勢調査』各年版。

<sup>3</sup> 2030年の単身世帯数は、2010年までの総務省『国勢調査』（各年版）をベースにした国立社会保障・人口問題研究所による将来推計（国立社会保障・人口問題研究所編『日本の世帯数の将来推計（全国推計）—2013年推計』）。

<sup>4</sup> 国立社会保障・人口問題研究所によれば、今後、20代・30代の単身世帯数は少子化の影響を受けて2010年の594万世帯から2030年には452万世帯へと0.76倍に減少する。一方、50代と60代の単身世帯数は、2010年の457万人から2030年には597万人へと1.31倍になる（国立社会保障・人口問題研究所編『日本の世帯数の将来推計（全国推計）—2013年推計』）。

<sup>5</sup> 藤森克彦「単身世帯の生活と生きがい」（財団法人年金シニアプラン総合研究機構『年金と経済』第31巻第1号、2012年4月）参照。

第三に、生活面の満足度について 2011 年調査をみると、単身世帯は、二人以上世帯に比べて「家族の理解・愛情」といった「他者との交流」に関する満足度が低かった。この点は、時系列でみた場合にも、同様に指摘できるのであろうか。

本稿の構成としては、第 1 節で「分析の枠組みとサンプルの特徴」を示し、第 2 節で「単身世帯の生きがいに関する時系列変化」、第 3 節で「単身世帯の仕事面の満足度に関する時系列変化」、第 4 節で「単身世帯の生活面の満足度に関する時系列変化」を取り上げていく。

## 2 分析の枠組みとサンプルの特徴

### 2.1 分析の枠組み

本稿では、単身世帯の「生きがい」「仕事面の満足度」「生活面の満足度」について、主に以下の 2 つの視点から考察する。

第一に、単身世帯と二人以上世帯の比較である。二人以上世帯と比べて、単身世帯の「生きがい」「仕事面の満足度」「生活面の満足度」が、時系列でどのように変化してきたかという点を考察する。

第二に、単身男性と単身女性の比較である。「生きがい」「仕事面の満足度」「生活面の満足度」という点では、同じ単身世帯であっても男女の違いが影響している可能性がある。そこで、単身男女の違いを時系列で考察していく。また、参考までに二人以上世帯に属する男女について時系列の推移も概観する。

### 2.2 これまでのアンケート調査の対象の変化<sup>6</sup>

「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」は、1991 年、1996 年、2001 年、2006 年、2011 年と 5 回にわたって実施されてきた。しかし、第 1 回（1991 年）から第 4 回（2006 年）までの調査と、第 5 回（2011 年）調査では、調査方法に違いがある。すなわち、第 1 回（1991 年）から第 4 回（2006 年）調査は、厚生年金基金などの各企業年金を通じて、各企業基金の加入者及び受給者に調査票を郵送してアンケート調査を行った。また、第 1 回から第 4 回までの調査では、企業年金の加入者・受給者の配偶者に対しても「配偶者調査」としてアンケート調査を行った。

一方、第 5 回（2011 年）調査は、インターネットを用いた調査を実施し、アンケートの対象を「35～74 歳の厚生年金被保険者及び厚生年金の受給者とそれらの配偶者」としている。

この結果、アンケートの対象者に違いが生じている。すなわち、第 1 回（1991 年）から第 4 回調査（2006 年）のアンケート対象者は、35～74 歳の企業年金加入者及びその受給者を対象にしたのに対して、第 5 回調査（2011 年）は、企業年金に加入していない者や企業年金を受給していない 35～74 歳も対象になっている。また、第 5 回調査では別途の「配偶者調査」は行われず、国民年金の第 3 号被保険者を抽出して、それまでの「配偶者調査」と比

<sup>6</sup> 菅谷和宏「第 5 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査—アンケート調査 結果概要—」（『年金と経済』第 30 巻第 4 号、2012 年 1 月）を参照。

較できるようにしている。

ただし、第1回（1991年）～第5回（2011年）調査を通じて、調査対象者は厚生年金被保険者及びその受給者とそれらの配偶者となっている点は共通である<sup>7</sup>。換言すれば、自営業などが加入する第1号被保険者はアンケート調査の対象となっていない。

### 2.3 本稿で使用するデータの概要

本稿では、二人以上世帯と比べながら、単身世帯の生きがいや仕事面や生活面の満足度をみるために、使用するデータに以下の限定をしている。

第一に、「本人調査」によるアンケート調査のみを対象として、1991年～2006年調査までの「配偶者調査」を本稿の調査対象から除いた。この理由としては、配偶者調査には、世帯構成や仕事面の満足度に関する質問項目が設定されていないことがあげられる。また、1991年～2006年調査までの「配偶者調査」を除いたことに合わせて、2011年の第三号被保険者を本稿の調査対象から除いた。

第二に、現役世代（35～59歳）の単身世帯の生活と生きがいを考察することとして、60～74歳を調査対象から除いた。これは、現役時代と引退後では、生活や生きがいは大きく異なるので、この点を分離する必要があると考えたためである。したがって、本稿では現役世代の単身世帯を考察する。

第三に、性別・年齢・世帯の不詳者を除いた。単身世帯かどうか不明なため、本稿の考察対象とするには不適切なためである。

### 2.4 本稿におけるサンプルの特徴

上記の制限をした上で、本稿で用いるサンプルの特徴を単身世帯と二人以上世帯に分けて概観すると、以下の点が指摘できる。

まず、単身世帯をみると、調査年が新しいほど男性の比率が高いことがあげられる。具体的には、91年の対象サンプルに占める男性の比率は36%であったが、2011年には63%に高まっている（図表4-1）。また、年齢階層別の構成比をみると、新しい調査年ほど35～49歳の比率が高くなり、50～59歳の比率が低い。具体的には、91年は単身男性における35～49歳の構成比が56%であったが、2011年には71%に高まっている<sup>8</sup>。

次に、二人以上世帯について男女比をみると、男性の比率が概ね7～8割で推移しており、単身世帯よりも安定している。また、年齢階層別の構成比も安定しており、35～49歳は6割前後で推移している。

<sup>7</sup> 2011年調査では、配偶者は国民年金の第3号被保険者及び被保険者だった人として割付け。

<sup>8</sup> なお、総務省「国勢調査」を用いて、各調査年における単身世帯の男女別・年齢階層別の構成比及び二人以上世帯に属する男女の構成比に合わせて、本調査における各年度の結果についてウェイトバックを実施した。しかし、生データとの乖離は小さい。

【図表 4-1】 本稿におけるサンプル（35-59 歳）の男女別・年齢階層別構成比

	単身世帯			二人以上世帯		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性
<b>1991 年(n)</b>	89	32	57	1684	1414	270
男女比	100.0%	36.0%	64.0%	100.0%	84.0%	16.0%
年齢階層比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
35-49 歳	56.2%	65.6%	50.9%	57.1%	55.9%	63.0%
50-59 歳	43.8%	34.4%	49.1%	42.9%	44.1%	37.0%
<b>1996 年(n)</b>	113	45	68	1526	1246	280
男女比	100.0%	39.8%	60.2%	100.0%	81.7%	18.3%
年齢階層比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
35-49 歳	57.5%	73.3%	47.1%	56.5%	55.5%	61.1%
50-59 歳	42.5%	26.7%	52.9%	43.5%	44.5%	38.9%
<b>2001 年(n)</b>	170	69	101	1665	1299	366
男女比	100.0%	40.6%	59.4%	100.0%	78.0%	22.0%
年齢階層比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
35-49 歳	60.0%	69.6%	53.5%	54.2%	52.5%	60.1%
49-59 歳	40.0%	30.4%	46.5%	45.8%	47.5%	39.9%
<b>2006 年(n)</b>	134	77	57	1153	849	304
男女比	100.0%	57.5%	42.5%	100.0%	73.6%	26.4%
年齢階層比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
35-49 歳	53.0%	63.6%	38.6%	55.4%	55.2%	55.9%
50-59 歳	47.0%	36.4%	61.4%	44.6%	44.8%	44.1%
<b>2011 年(n)</b>	339	215	124	2333	1599	734
男女比	100.0%	63.4%	36.6%	100.0%	68.5%	31.5%
年齢階層比	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
35-49 歳	71.4%	74.4%	66.1%	61.6%	61.2%	62.4%
50-59 歳	28.6%	25.6%	33.9%	38.4%	38.8%	37.6%

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

## 2.5 本稿の限界

本稿の限界としては、単身世帯のサンプル数が少ない点があげられる。特に古い調査年ほどサンプル数が少なく、2011 年の単年度調査で行った精緻な分析を実施することは難しい。

しかし、これまで単身世帯の生活や生きがいの時系列変化を考察した研究はほとんどない。そこで本稿では、サンプル数が少ないながらも、時系列の動向を記すことにより、単身世帯に関する基礎的な資料を提供していくことを目的とする。

### 3 単身世帯の「生きがい」に関する時系列変化

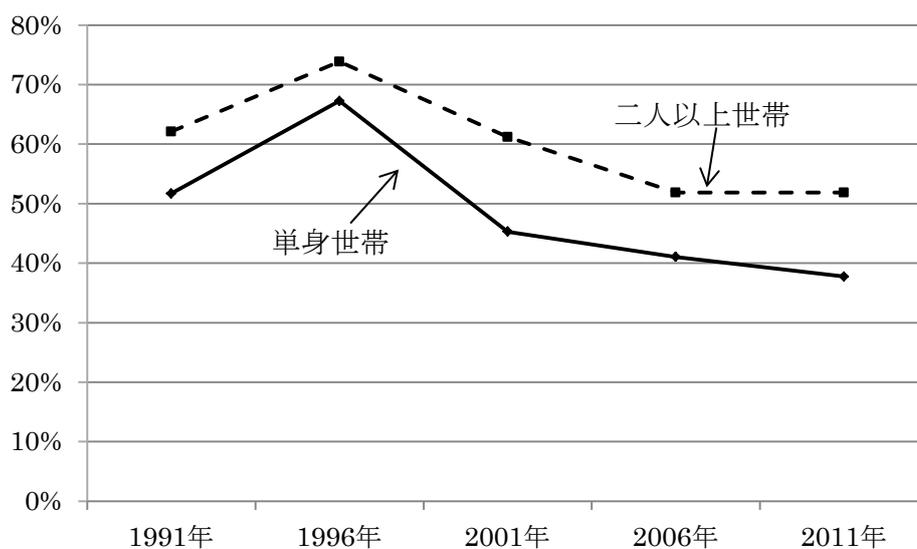
本節では、単身世帯の「生きがいの保有率」と「生きがいの対象」について、時系列の変化を考察していく。具体的には、単身世帯の生きがい保有率は、時系列でも二人以上世帯よりも低いのか、また単身世帯の生きがいの対象にはどのような変化があるのか、といった点を見ていく。

#### 3.1 生きがい保有率の時系列変化

##### (1) 単身世帯と二人以上世帯の比較

単身世帯の生きがいの保有率を二人以上世帯と比較すると、どの調査年においても、単身世帯の同保有率は二人以上世帯よりも低い（図表 4-2）。時系列で考察しても、単身世帯の生きがい保有率は二人以上世帯よりも低いことが指摘できる。

【図表 4-2】 単身世帯と二人以上世帯の生きがい保有率の推移



(注) 35～59歳を対象。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

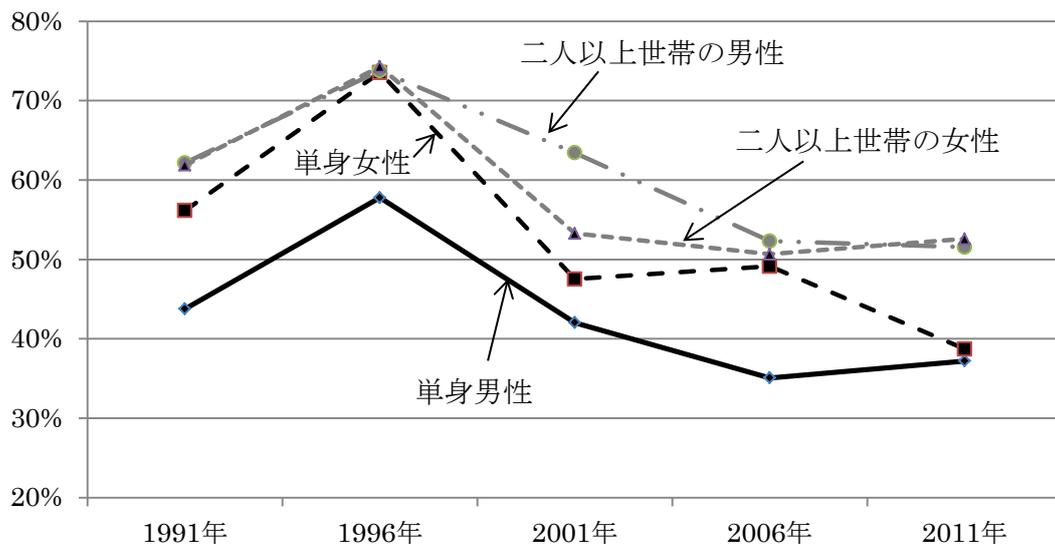
一方、時系列でみた生きがいの保有率の変化の方向性は、単身世帯と二人以上世帯でほぼ同じである。すなわち、単身世帯と二人以上世帯の生きがいの保有率は、91年から96年にかけて共に上昇し、96年以降概ね下降傾向にある。ただし、二人以上世帯は、2006年から2011年にかけて生きがいの保有率が横ばいになっている。

## (2) 単身男性と単身女性の比較

次に、単身男女で生きがいの保有率の推移をみると、どの調査年においても、単身男性は単身女性に比べて、生きがい保有率が低い（図表 4-3）。一方、2006 年から 2011 年にかけての変化をみると、単身女性の生きがい保有率が大きく低下しているのに対して、単身男性は同期間、若干上昇している。

ちなみに、二人以上世帯の男女の生きがいの保有率をみると、2001 年を除いて男女の生きがい保有率の格差は小さい。

【図表 4-3】 単身男性と単身女性の生きがい保有率の推移



(注) 35～59 歳を対象。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

## 3.2 生きがいの対象の時系列変化

### (1) 単身世帯の生きがいの対象の変化

それでは、単身世帯はどのような対象に生きがいを感じるのでしょうか。時系列で、単身世帯の生きがいの対象の上位 3 位を比べると、注目すべきは、2011 年に「ひとりで気ままに過ごすこと」が第 2 位に入ったことである（図表 4-4）。これまで、「ひとりで気ままに過ごすこと」は上位 3 位に入ったことが一度もなかった。時系列における比率の変化をみると、「ひとりで気ままに過ごすこと」はコンスタントに上昇してきた。

一方、どの調査年も、単身世帯の生きがいの対象の第 1 位は「趣味」である。また、2011 年を除いて、どの調査年も第 2 位と第 3 位に「仕事」と「友人など家族以外の人との交流」が入っている。

[図表 4-4] 単身世帯と二人以上世帯の生きがいの対象の推移

	単身世帯				二人以上世帯			
	1996年	2001年	2006年	2011年	1996年	2001年	2006年	2011年
n	113	170	134	339	1,526	1,665	1,153	2,333
趣味	①36.3%	①43.5%	①47.0%	①55.8%	③32.7%	③36.7%	②37.8%	②48.4%
ひとりで気ままに過ごすこと	18.6%	22.9%	23.1%	②37.2%	5.2%	10.6%	11.1%	12.9%
仕事	②28.3%	③28.2%	③27.6%	③26.8%	②37.1%	②45.8%	③30.6%	26.1%
友人など家族以外の人との交流	③24.8%	②36.5%	②34.3%	19.2%	11.1%	15.4%	14.9%	12.4%
自分自身の内面	13.3%	21.2%	22.4%	18.0%	10.3%	12.6%	13.8%	11.6%
スポーツ	9.7%	14.7%	14.2%	15.6%	13.0%	13.6%	15.0%	14.4%
子ども・孫・親などの家族・家庭	7.1%	23.5%	21.6%	13.0%	①39.3%	①61.2%	①61.5%	①52.4%
自分自身の健康づくり	6.2%	15.3%	11.2%	9.4%	7.9%	9.5%	10.5%	6.9%
自然とのふれあい	20.4%	18.2%	10.4%	9.1%	14.5%	16.2%	12.6%	7.8%
学習活動	2.7%	8.2%	4.5%	6.2%	3.1%	3.8%	2.7%	2.4%
社会活動	2.7%	1.8%	3.7%	3.5%	3.5%	3.6%	4.0%	3.5%
配偶者・結婚生活	2.7%	4.1%	4.5%	0.6%	20.0%	28.2%	28.4%	③31.8%
その他	0.9%	3.5%	0.7%	2.9%	0.6%	0.8%	1.0%	1.5%

(注) 1. 「あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか」という設問について、項目ごとに回答を求めたもの（複数回答可）。  
 2. 網かけ部分は上位3位。丸数字は、比率の高い順に上位3位の順位を示す。  
 3. 35～59歳を対象。  
 4. 1991年は、生きがいの対象について質問項目が設定されていないために、上記図表から除いた。  
 出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

## (2) 単身世帯と二人以上世帯の比較

単身世帯の生きがいの対象を二人以上世帯と比較すると、二人以上世帯ではどの調査年も「子ども・孫・親などの家族・家庭」が第1位となっていて4割～6割の高い水準にある（前掲、図表4-4）。これに対して、単身世帯では「子ども・孫・親などの家族・家庭」が上位3位に入った調査年はない。単身世帯では、二人以上世帯と異なって、「子ども・孫・親などの家族・家庭」を生きがいの対象とする人の割合が小さいことが時系列でも指摘できる。

一方、単身世帯では「友人など家族以外の人との交流」が上位3位に入ることが多かったが、二人以上世帯では「友人など家族以外の人との交流」が上位3位に入ったことはな

い。また、各調査年における「友人など家族以外の人との交流」の比率が、単身世帯と二人以上世帯では大きな違いがある。

こうした点から、単身世帯では「友人など家族以外の人との交流」を生きがいの対象とする傾向が強く<sup>9</sup>、二人以上世帯では「子ども・孫・親などの家族・家庭」を生きがいの対象とする点に特徴があると考えられる。

なお、単身世帯・二人以上世帯ともに、「趣味」「仕事」が概ね上位3位に入っていることは共通である。

### (3) 単身男性と単身女性の比較

次に、生きがいの対象について、単身男女で上位3位を比べると、ともに「趣味」が上位3位に入っていることは共通である(図表4-5)。一方、単身男性では全ての調査年において「仕事」が上位3位に入っているのに対して、単身女性では「友人など家族以外の人との交流」が上位3位に入っている。この点から、単身男性は「仕事」、単身女性は「友人など家族以外の人との交流」を生きがいの対象とする傾向が強いことに一つの特徴があると考えられる。

ただし、単身女性でも、2001年までは「仕事」が生きがいの対象の上位3位となっていた。しかし、96年以降低下傾向が続き、2006年と2011年では、「仕事」は単身女性の生きがいの対象の上位3位に入らなくなっている。

また、単身男女とも1996年から2011年にかけて「ひとりで気ままに過ごすこと」を生きがいの対象とする人の比率が上昇している。単身男性では、「ひとりで気ままに過ごすこと」を生きがいの対象とする人の割合が1996年から堅調に上昇しており、2011年には第2位となった。単身女性では、2006年から2011年にかけて「ひとりで気ままに過ごすこと」の比率が急増し、2011年に初めて「ひとりで気ままに過ごすこと」が第2位になった。

一方、単身男性、単身女性ともに、2006年から2011年にかけて「友人など家族以外の人との交流」の割合が低下している。

ちなみに2011年調査では、単身世帯を「生きがいをもつ単身世帯」と「生きがいをもたない単身世帯」に分けた上で、生きがいの対象について比較を行った<sup>10</sup>。その結果、生きがいをもたない単身世帯は、生きがいをもつ単身世帯に比べて、「ひとりで気ままに過ごすこと」を生きがいの対象とする傾向が高く、「友人など家族以外の人との交流」を生きがいの対象とする人の割合が低かった<sup>11</sup>。この点から、時系列変化において「ひとりで気ままに過ごすこと」を生きがいの対象とする人が増加する一方で、「友人など家族以外の人との交流」を生きがいの対象とする人が低下する状況は注視していく必要があると思われる。

<sup>9</sup> ただし、2006年から2011年にかけて、単身世帯で「友人など家族以外の人との交流」を生きがいの対象とする人の比率は大きく低下している。

<sup>10</sup> 1996年から2011年の調査では、「生きがいの有無」を尋ねる質問項目とは別に、全ての対象者に対して「生きがいの対象」を尋ねる質問項目を設置している。このため、「生きがいはない」と回答した者にも、「生きがいの対象」を尋ねている。

<sup>11</sup> 藤森克彦「単身世帯の生活と生きがい」(財団法人年金シニアプラン総合研究機構『年金と経済』第31巻第1号、2012年4月)。

[図表 4-5] 単身男性と単身女性の生きがいの対象の推移

	単身男性				単身女性			
	1996年	2001年	2006年	2011年	1996年	2001年	2006年	2011年
n	45	69	77	215	68	101	57	124
趣味	①42.2%	①50.7%	①44.2%	①58.6%	②32.4%	②38.6%	②50.9%	①50.8%
ひとりで気ままに 過ごすこと	11.1%	20.3%	③26.0%	②36.3%	23.5%	24.8%	19.3%	②38.7%
仕事	②24.4%	②31.9%	②33.8%	③31.6%	③30.9%	③25.7%	19.3%	18.5%
友人など家族以外 の人との交流	13.3%	③30.4%	20.8%	15.8%	①32.4%	①40.6%	①52.6%	③25.0%
自分自身の内面	4.4%	15.9%	18.2%	17.2%	19.1%	24.8%	③28.1%	19.4%
スポーツ	③13.3%	21.7%	20.8%	18.1%	7.4%	9.9%	5.3%	11.3%
子ども・孫・親な どの家族・家庭	8.9%	23.2%	24.7%	11.2%	5.9%	23.8%	17.5%	16.1%
自分自身の 健康づくり	2.2%	15.9%	9.1%	9.3%	8.8%	14.9%	14.0%	9.7%
自然との ふれあい	8.9%	14.5%	9.1%	9.3%	27.9%	20.8%	12.3%	8.9%
学習活動	4.4%	11.6%	3.9%	5.6%	1.5%	5.9%	5.3%	7.3%
社会活動	2.2%	1.4%	2.6%	3.7%	2.9%	2.0%	5.3%	3.2%
配偶者・結婚生活	4.4%	8.7%	7.8%	0.9%	1.5%	1.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	2.9%	1.3%	1.4%	1.5%	4.0%	0.0%	5.6%

- (注) 1. 「あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか」という設問について、項目ごとに回答を求めたもの(複数回答可)。  
 2. 網かけ部分は、上位3位。丸数字は、比率の高い順に上位3位の順位を示す。  
 3. 35～59歳を対象。  
 4. 1991年は、生きがいの対象について質問項目が設定されていないために、上記表から除いた。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

## 4 単身世帯の「仕事面の満足度」に関する時系列変化

次に、単身世帯の「仕事面の満足度」について、時系列の変化をみていく。具体的には、「仕事や職場を全体的にみた場合の満足度」と「仕事や職場の項目別満足度」を考察する。なお本節では、第1節で指摘した本稿のサンプルから無職者を除いて、有職者のみをサンプルとしている。そこで、まず本節におけるサンプルの特徴について説明していく。

### 4.1 本節におけるサンプルの特徴について

本節では、「仕事面の満足度」を考察するため、第1節で説明したサンプルからさらに無職者を除いた<sup>12</sup>（図表4-6）。

一方、仕事の面の満足度は、正社員か非正規社員かによって、大きな影響を受けることが考えられる。そこで単身世帯と二人以上世帯に分けて、正規社員の割合をみると、1996年調査から2006年調査までは、単身世帯・二人以上世帯ともに95%以上が正社員となっている。これに対して、2011年調査では、単身世帯の正社員の割合が84%、二人以上世帯の正社員の割合も84%となり、1996年～2006年までの調査に比較して、正社員の割合が低下している。

この背景には、1996年～2006年までの調査と、2011年調査ではアンケートの手法が異なっていることの影響があると推察される。すなわち、1996年～2006年までの調査は企業年金加入者を対象に郵送のアンケート調査を実施したのに対して、2011年調査ではインターネットを用いた調査となり、企業年金に加入していない人々も対象になっている。非正規社員には企業年金に加入していない人が多いと考えられることから、企業年金未加入者をも調査対象にした2011年調査では非正規労働者の割合が高まったと推察される。

また、男女別にみても、1996年～2006年調査まで、単身世帯では男女ともに同期間の正社員の割合は96%以上となっている。これに対して、2011年では、単身男性における正社員の割合は89%、単身女性では74%となり、1996年～2006年調査よりも正社員比率が低下している。

一方、二人以上世帯に属する人々を男女で分けてみると、1996年～2006年調査までは、男性の正社員の比率は94～95%と高いのに対して、女性の正社員の比率は若干低下して87～90%となる。そして2011年調査になると、二人以上世帯の男性の正社員比率が93%なのに対して、二人以上世帯の女性では59%と低くなっている。

---

<sup>12</sup> ただし、本稿のサンプルは35～59歳を対象としているので、そもそも無職者は多くない。1996年～2006年では、本稿のサンプル（35～59歳）のうち無職者の割合は、単身世帯、二人以上世帯ともに1%以下である。ただし、2011年調査では、単身世帯における無職者は5%、二人以上世帯では11%となっていて、無職者の比率が高まっている。

[図表 4-6] 「仕事面の満足度」の調査対象—調査年別の就業状況の比較

	単身世帯			二人以上世帯		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性
1996年(n)	113	45	68	1,508	1,241	267
就業形態別構成比	100%	100%	100%	100%	100%	100%
正社員	97%	96%	99%	96%	98%	90%
パート・バイト	2%	2%	1%	2%	1%	9%
その他	1%	2%	0%	1%	1%	1%
2001年(n)	164	68	96	1,650	1,289	361
就業形態別構成比	100%	100%	100%	100%	100%	100%
正社員	99%	100%	99%	95%	97%	87%
パート・バイト	1%	0%	1%	4%	2%	11%
その他	0%	0%	0%	1%	1%	2%
2006年(n)	134	77	57	1,146	846	300
就業形態別構成比	100%	100%	100%	100%	100%	100%
正社員	97%	97%	96%	95%	97%	90%
パート・バイト	2%	1%	4%	3%	2%	8%
その他	1%	1%	0%	1%	1%	2%
2011年(n)	323	206	117	2,086	1,570	516
就業形態別構成比	100%	100%	100%	100%	100%	100%
正社員	84%	89%	74%	84%	93%	59%
契約・嘱託	6%	4%	9%	3%	2%	6%
派遣社員	3%	1%	6%	1%	0%	3%
パート・バイト	4%	2%	7%	6%	0%	24%
その他	4%	4%	3%	6%	5%	8%

- (注) 1. 1991年調査には、仕事面の満足度に関する調査項目が設定されていないので、上記表から除いた。  
 2. 「その他」には、自営業・自由業・家族従業員、内職、シルバー人材センター、不詳が含まれる。  
 3. 35～59歳を対象。  
 4. 1996年～2006年調査では「正社員」「パート・アルバイト」「その他」という区分であったが、2011年調査では「正社員」「パート・アルバイト」「契約・嘱託」「派遣社員」「その他」となっていて、細かな区分で就業状況を尋ねている。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

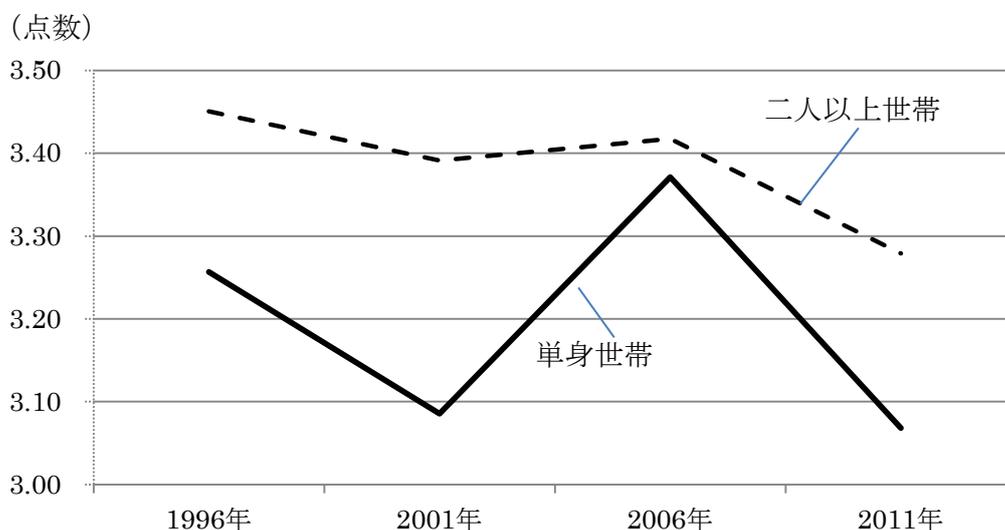
## 4.2 「仕事や職場に対する全体的な満足度」の推移

### (1) 単身世帯と二人以上世帯の比較

まず、「仕事や職場に対する全体的な満足度」について、単身世帯と二人以上世帯で比べると、いずれの調査年も、単身世帯は二人以上世帯よりも仕事面の全体的な満足度が低い水準にある（図表 4-7）。2011 年の単年度調査で考察したように、単身世帯は二人以上世帯よりも、仕事面での全体的な満足度が低いことが、時系列の考察からも指摘できる。

なお、単身世帯の仕事面の満足度は、96 年～2001 年、2006 年～2011 年にかけて低下している。一方、二人以上世帯では、満足度の変動が小さい。

〔図表 4-7〕 仕事や職場を全体的にみた場合の満足度  
—単身世帯と二人以上世帯の比較—



(注) 35～59 歳を対象。

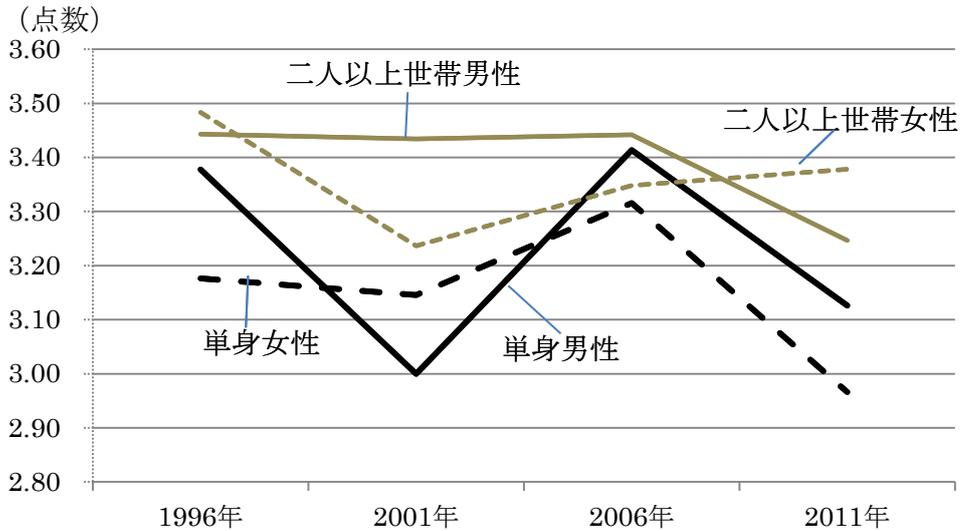
出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

### (2) 単身男性と単身女性の比較

単身男女で「仕事や職場に対する全体的な満足度」を比べると、単身女性の仕事面の全体的な満足度は、2001 年を除いて単身男性よりも低い（図表 4-8）。二人以上世帯の男女と比べても、単身女性の仕事面の全体的な満足度は低い。

一方、単身男女の仕事や職場に対する満足度の時系列の変化の方向性は、概ね似ている。すなわち、2001 年から 2006 年にかけて上昇して、2006 年から 2011 年にかけて下降している。

【図表 4-8】 仕事や職場を全体的にみた場合の満足度  
— 単身男性と単身女性の比較 —



(注) 35～59歳を対象。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

#### 4.3 「仕事や職場に関する項目別満足度」の推移

次に、「仕事や職場に関する項目別満足度」の推移について、単身世帯と二人以上世帯の比較をした上で、単身男女を比べていく。

##### (1) 単身世帯と二人以上世帯の比較

「仕事や職場に関する項目別満足度」を単身世帯と二人以上世帯で比べると、2006年の「就業形態」「賃金」を除いて、全ての調査年において、単身世帯の満足度が二人以上世帯を下回っている（図表 4-9）。特定の項目に限らず、ほとんどの項目において、単身世帯は二人以上世帯よりも仕事面の項目ごとの満足度が低いことが、時系列調査からも指摘できる。

一方、単身世帯と二人以上世帯で共通しているのは、満足度の高い上位2位の項目は「就業形態」「仕事の内容」であり、満足度の低い下位2位の項目が「賃金」「業績評価の公平さ」となっている点である。

さらに、項目ごとの変化の方向性をみると、単身世帯は、全ての項目で共通の動きをしている。すなわち、96年から2001年にかけて満足度が下降し、2001年から2006年にかけて上昇、さらに2006年から2011年にかけて下降している。二人以上世帯も、概ね同様の推移をしているが、変化の幅は小さい。

【図表 4-9】 仕事や職場に関する項目別満足度  
—単身世帯と二人以上世帯の比較—

	単身世帯				二人以上世帯			
	1996年	2001年	2006年	2011年	1996年	2001年	2006年	2011年
n	113	164	134	323	1508	1650	1146	2086
就業形態	3.53①	3.33②	3.77①	3.39①	3.61②	3.55②	3.72①	3.54①
仕事の内容	3.53①	3.39①	3.60②	3.23②	3.67①	3.61①	3.62②	3.52②
職場の人間関係・雰囲気	3.15	3.01	3.28	3.15	3.35	3.32	3.41	3.30
職場での地位の高さ	3.21	2.98②	3.27	3.05	3.42	3.39	3.43	3.29
福利厚生	3.07②	3.03	3.25	2.92	3.16②	3.21②	3.27	2.97
業績評価の公平さ	-	-	2.89①	2.68②	-	-	2.99①	2.88②
賃金	2.77①	2.74①	3.08②	2.55①	3.01①	3.03①	3.02②	2.79①

(注) 1. 現在の仕事や職場における各項目の状況を「どのように感じているか」という設問(Q10)に対する回答。点数は、「とても満足している(5点)」「やや満足している(4点)」「どちらともいえない(3点)」「やや不満である(2点)」「とても不満である(1点)」という配点をして、回答者の割合で加重平均して求めた。

2. 上記表は、35～59歳の有職者のみをサンプルにしている。

3. 灰色部分の網かけは上位2位。横線網掛けは下位2位。丸数字は、上位2位あるいは下位2位の順序を示す。

4. 「業績評価」は、96年と2001年は調査項目になっていない。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

## (2) 単身男性と単身女性の比較

単身男女で「仕事や職場に対する項目別満足度」を比べると、各項目の満足度は概ね単身男性の方が高い(図表 4-10)。単身女性が単身男性を上回っているのは、2001年の「就業形態」、2001年と2006年の「仕事の内容」、2001年と2006年の「福利厚生」、2006年の「業績評価の公平さ」のみである。

一方、上位2位と下位2位の項目をみると、単身男女はほぼ同様である。ただし、単身女性では、1996年と2001年に「職場での地位の高さ」が下位2位となっていたのに、単身男性では「職場での地位の高さ」は下位2位に入っていない。「職場での地位の高さ」は、どの調査年においても、単身男性が単身女性を上回っており、単身男女で差のある項目といえよう。

また、「賃金」の満足度は、単身男女ともに最も低い。ただし点数を比べると、常に単身男性が単身女性を上回っている。

[図表 4-10] 仕事や職場に関する項目別満足度  
—単身男性と単身女性の比較—

	単身男性				単身女性			
	1996年	2001年	2006年	2011年	1996年	2001年	2006年	2011年
n	45	68	77	206	68	96	57	117
就業形態	3.67①	3.31②	3.79①	3.46①	3.44②	3.34②	3.74①	3.26①
仕事の内容	3.62②	3.34①	3.59②	3.30②	3.47①	3.43①	3.61②	3.11②
職場の人間関係・雰囲気	3.24	3.13	3.31	3.22	3.09	2.92	3.25	3.03
職場での地位の高さ	3.56	3.12	3.33	3.16	2.97②	2.88②	3.18	2.87
福利厚生	3.13②	2.94②	3.11	3.00	3.03	3.09	3.44	2.78
業績評価の公平さ			2.79①	2.79②			3.02①	2.48②
賃金	2.87①	2.87①	3.11②	2.67①	2.71①	2.65①	3.04②	2.34①

- (注) 1. 現在の仕事や職場における各項目の状況を「どのように感じているか」という設問(Q10)に対する回答。点数は、「とても満足している(5点)」「やや満足している(4点)」「どちらともいえない(3点)」「やや不満である(2点)」「とても不満である(1点)」という配点をして、回答者の割合で加重平均して求めた。
2. 上記表は、35～59歳の有職者のみをサンプルにしている。
3. 灰色部分の網かけは上位2位。横線網掛けは下位2位。丸数字は、上位2位あるいは下位2位の順序を示す。
4. 「業績評価」は、96年と2001年は調査項目になっていない。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

## 5 単身世帯の「生活面の満足度」に関する時系列変化

最後に、単身世帯の「生活面の満足度」がどのような変化をしてきたのかをみていこう。

### 5.1 単身世帯

単身世帯の「生活面の満足度」の上位3位をみると、1991年と1996年では、「家族の理解・愛情」が上位3位に入っていたが、2006年と2011年では上位3位から外れている（図表4-11）。また、「友人・仲間」も2011年から上位3位に入っていない。

**【図表 4-11】 生活面の満足度の推移**  
—単身世帯と二人以上世帯の比較—

	単身世帯					二人以上世帯				
	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年
n	89	113	170	134	339	1684	1526	1665	1153	2333
熱中できる趣味	3.33	3.38	3.29	3.33	3.44①	3.35	3.43	3.23	3.20	3.41③
時間的ゆとり	3.20	3.05	2.91	3.52②	3.28②	3.09	3.13	2.80	3.10	3.19
健康	3.72②	3.71①	3.45②	3.40③	3.24③	3.76②	3.76②	3.64②	3.54③	3.37
友人・仲間	3.91①	3.70②	3.55①	3.55①	3.18	3.67③	3.69③	3.62③	3.59②	3.46②
家族の理解・愛情	3.57③	3.42③	3.30③	3.33	3.01	4.05①	4.03①	4.03①	3.97①	3.71①
仕事のはりあい	3.54	3.32	3.08	3.26	2.79	3.58	3.54	3.44	3.35	3.04
自然とのふれあい	2.78③	2.89③	2.73③	2.90③	2.79	3.13③	3.21	3.06③	2.96③	3.06
精神的ゆとり	3.19	3.13	2.95	3.15	2.71	3.27	3.31	3.11	3.10	2.94
社会的地位	3.07	2.90	2.76	3.18	2.70	3.32	3.34	3.28	3.27	3.01
経済的ゆとり	3.06	3.20	3.04	3.28	2.59③	3.17	3.19③	3.10	3.13	2.86③
社会の役に立つこと	2.34②	2.26②	2.18②	2.31①	2.45②	2.71①	2.67①	2.47①	2.58①	2.74①
近隣との交流	2.27①	2.05①	2.06①	2.31①	2.22①	2.75②	2.72②	2.55②	2.63②	2.78②

(注) 1. 「現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていると思うか」という問いについて、項目ごとに回答を求めたもの（複数回答可）。点数は、「十分に満たされている（5点）」「やや満たされている（4点）」「どちらともいえない（3点）」「やや欠けている（2点）」「まったく欠けている（1点）」という配点をして、回答者の割合で加重平均して求めた。

2. 点数の下にある丸数字は、点数の上位3位あるいは下位3位の順位を示す。

3. 35～59歳を対象。

4. 灰色部分の網かけは上位3位。横線網掛けは下位3位。丸数字は、上位3位あるいは下位3位の順序を示す。

5. 「住居」は2011年しか質問項目がないため、上記表から除いた。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

その代わりに、2006年より「熱中できる趣味」、2011年からは「時間的ゆとり」が上位3位に入った。特に、「熱中できる趣味」は、2011年には第1位となっている。

生きがいの対象の項目において指摘した点と似ているが、生活面の満足度も、単身世帯では「家族の理解・愛情」「友人・仲間」といった人間関係に関する項目の満足度が低下する一方で、「熱中できる趣味」「時間的ゆとり」といった項目が上位3位に入る傾向がみられる。

## 5.2 単身世帯と二人以上世帯の比較

次に、単身世帯と二人以上世帯を比べると、概ね二人以上世帯の方が満足度の高い項目が多い（前掲、図表4-11）。単身世帯が二人以上世帯の満足度を上回っているのは、「熱中できる趣味」（2001年、2006年、2011年）、「時間的ゆとり」（1991年、2001年、2006年、2011年）、「友人・仲間」（1991年、1996年）に限られている。

一方、二人以上世帯では、どの調査年においても「家族の理解・愛情」が第1位となっている。また、「友人・仲間」も、どの調査年においても上位3位に入っている。この点、単身世帯では「家族の理解・愛情」は2006年から上位3位に入らず、満足度も低下している。また、「友人・仲間」についても、2011年から上位3位から外れている。近年、「家族の理解・愛情」「友人・仲間」の満足度が低下しているのは、単身世帯・二人以上世帯に共通しているが、単身世帯ではその低下幅が大きい。

なお、単身世帯・二人以上世帯ともに、2011年から「熱中できる趣味」が上位3位に入ったことは注目される。

## 5.3 単身男女の比較

さらに、単身男女で比較すると、単身女性は「友人・仲間」がどの調査年においても第1位となっており、単身男性よりも「友人・仲間」への満足度が高い（図表4-12）。一方、単身男性では、「友人・仲間」は1991年と2001年を除いて、上位3位に入っていない。

また、「家族の理解・愛情」は、単身女性では、1996年～2006年にかけて第3位となっていたが、2011年の調査では上位3位に入っていない。また、単身男性では、「家族の理解・愛情」は1991年に第2位になったが、それ以外の調査年では上位3位に入っていない。単身男女ともに、「家族の理解・愛情」に対する満足度が、2006年から2011年にかけて大幅に低下している。

一方、単身男女ともに、「時間的ゆとり」が2006年から上位3位となっている。また、「熱中できる趣味」は単身女性で初めて2011年に上位3位に入った。ただし、単身男性では既に1996年と2001年において「熱中できる趣味」は上位3位となっている。

以上のように、単身女性は単身男性よりも、「友人・仲間」「家族の理解・愛情」に対する満足度が高い傾向がみられるが、近年これらの満足度が低下している。そして、2011年には単身女性においても、「熱中できる趣味」「時間的ゆとり」が上位3位となり、「家族の理解・愛情」は上位3位から外れた。単身男性よりも単身女性の方が、人間関係を通じての生活面の満足度が高いが、単身女性であっても近年同満足度が低下する傾向がみられる。

【図表 4-12】 生活面の満足度の推移

—単身男性と単身女性の比較—

	単身男性					単身女性				
	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年	1991年	1996年	2001年	2006年	2011年
n	32	45	69	77	215	57	68	101	57	124
熱中できる 趣味	3.31	3.50③	3.25②	3.18	3.49①	3.34	3.30	3.32	3.52	3.36②
時間的ゆとり	3.28	3.42	2.78	3.49①	3.29②	3.16	2.80	3.00	3.57②	3.26③
健康	3.59③	3.62①	3.29①	3.38②	3.24③	3.79②	3.76②	3.55②	3.43	3.24
友人・仲間	3.78①	3.47	3.15③	3.29	3.06	3.98①	3.85①	3.82①	3.91①	3.40①
仕事のほり あい	3.56	3.57②	3.14	3.25	2.93	3.53③	3.16	3.03	3.27	2.56
家族の理 解・愛情	3.68②	3.45	3.03	3.15	2.91	3.50	3.40③	3.50③	3.55③	3.19
自然とのふ れあい	2.75	2.78	2.65	2.83	2.89	2.80	2.97	2.78	3.00③	2.60
社会的地位	3.41	3.22	2.94	3.21	2.85	2.87	2.68③	2.64③	3.14	2.44
精神的ゆとり	3.13	3.13	2.75③	2.99③	2.76	3.23	3.12	3.08	3.36	2.61
経済的ゆとり	3.22	3.33	2.96	3.30③	2.74③	2.96③	3.10	3.10	3.25	2.33③
社会の役に 立つこと	2.50②	2.40②	2.25②	2.18②	2.55②	2.25②	2.16②	2.14①	2.49①	2.26②
近隣との交 流	2.34①	2.05①	1.94①	2.17①	2.26①	2.23①	2.06①	2.14①	2.50②	2.15①

(注) 1. 「現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていると思うか」という問いについて、項目ごとに回答を求めたもの（複数回答可）。点数は、「十分に満たされている（5点）」「やや満たされている（4点）」「どちらともいえない（3点）」「やや欠けている（2点）」「まったく欠けている（1点）」という配点をして、回答者の割合で加重平均して求めた。

2. 点数の下にある丸数字は、点数の上位3位あるいは下位3位の順位を示す。

3. 35～59歳を対象。

4. 灰色部分の網かけは上位3位。横線網かけは下位3位。丸数字は、上位3位あるいは下位3位の順序を示す。

5. 「住居」は2011年しか質問項目がないため、上記表から除いた。

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

## 6 おわりに

本稿では、現役世代（35～59歳）の単身世帯について、「生きがい」「仕事面の満足度」「生活面の満足度」を考察してきた。最後に、本稿で考察したポイントを概観する。

第一に、単身世帯の生きがいの保有率を二人以上世帯と時系列で比較すると、どの調査年においても、単身世帯の生きがいの保有率は二人以上世帯よりも低い。また、単身男女で生きがいの保有率を比較すると、単身男性は単身女性に比べて、どの調査年においても生きがいの保有率が低い。

第二に、単身世帯の生きがいの対象を考察すると、「ひとりで気ままに過ごすこと」を生きがいの対象とする人の割合が上昇しており、2011年調査では、初めて上位3位になった。一方、単身世帯では「友人など家族以外の人との交流」が2006年調査までは上位3位に入っていたが、2011年調査では上位3位から外れている。

第三に、単身男性と単身女性で生きがいの対象を比較すると、単身男女ともに、「ひとりで気ままに過ごすこと」を生きがいの対象とする人の割合が上昇する一方で、「友人など家族以外の人との交流」を生きがいの対象とする人の割合が低下している。ちなみに2011年調査では、単身世帯を「生きがいをもつ単身世帯」と「生きがいをもたない単身世帯」に分けた上で、生きがいの対象について比較を行った。その結果、生きがいをもたない単身世帯は、生きがいをもつ単身世帯に比べて、「ひとりで気ままに過ごすこと」を生きがいの対象とする傾向が高く、「友人など家族以外の人との交流」を生きがいの対象とする人の割合が低かった<sup>13</sup>。この点から、時系列変化において「ひとりで気ままに過ごすこと」を生きがいの対象とする人が増加する一方で、「友人など家族以外の人との交流」を生きがいの対象とする人が低下する状況は注視していく必要があると思われる。

一方、単身男女で異なる点としては、単身男性は「仕事」、単身女性は「友人など家族以外の人との交流」がどの調査年でも上位3位に入っていることがあげられる。これは、2011年調査で指摘した点であるが、時系列でも、この点は単身男女の特徴として指摘できる。

第四に、仕事や職場に対する全体的な満足度をみると、どの調査年においても、単身世帯の満足度は、二人以上世帯を下回っている。また、単身男女で比較すると、単身女性の仕事や職場に関する全体的な満足度は、2001年を除いて、単身男性よりも低い。

一方、「仕事や職場に関する項目別の満足度の推移」をみると、特定の項目に限らず、ほとんど全ての項目において、各年ともに単身世帯の満足度が二人以上世帯を下回っている。また、単身男女で「仕事や職場に関する項目別満足度の推移」を比べると、各項目の満足度は概ね単身男性の方が高い。特に単身女性では、「職場で地位の高さ」「賃金」といった点で、単身男性に比べて満足度が低い。

第五に、単身世帯の「生活面の満足度の推移」をみると、かつては満足度の上位3位に入っ

---

<sup>13</sup> 藤森克彦「単身世帯の生活と生きがい」（財団法人年金シニアプラン総合研究機構『年金と経済』第31巻第1号、2012年4月）。

ていた「家族の理解・愛情」「友人・仲間」が外れて、その代わり、「熱中できる趣味」「時間的ゆとり」といった項目が上位3位に入った。一方、二人以上世帯では、どの調査年においても「家族の理解・愛情」「友人・仲間」は上位3位に入っている<sup>14</sup>。

単身男女で比較すると、単身女性は単身男性よりも、「友人・仲間」「家族の理解・愛情」といった人間関係を通じた満足度が高い傾向がみられる。しかし、単身女性であっても近年こうした項目への満足度が低下する傾向がみられる。

以上のように、単身世帯では、生きがい保有率、仕事面の満足度、生活面の満足度が、時系列でみても概ね二人以上世帯よりも低い傾向がみられる。特に注目すべきは、「友人などの家族以外の人との交流」を生きがいの対象とする人の低下傾向や、生活面の満足度において「友人・仲間」の満足度が低下していることである。その一方で、「ひとりで気ままに過ごすこと」を生きがいの対象とする単身世帯が増加している。

単身世帯では、二人以上世帯と比べて「家族」が生きがいの対象になりにくいので、今後、「家族以外の人との交流」が重要になると考えられる。しかし、本稿の調査でみる限り、人との交流に関連した項目が、生きがいの対象や生活面の満足度になりにくくなっており、今後注視していくべき点と考えられる。

(了)

## <参考文献>

- 菅谷和宏（2012）「第5回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査—アンケート調査 結果概要—」『年金と経済』財団法人年金シニアプラン総合研究機構，30(4)
- 藤森克彦（2010）『単身急増社会の衝撃』日本経済新聞出版社
- ———（2012）「単身世帯の生活と生きがい」『年金と経済』財団法人年金シニアプラン総合研究機構，31(1)

---

<sup>14</sup> 二人以上世帯においても「家族の理解・愛情」「友人・仲間」の満足度は、趨勢的に低下している。

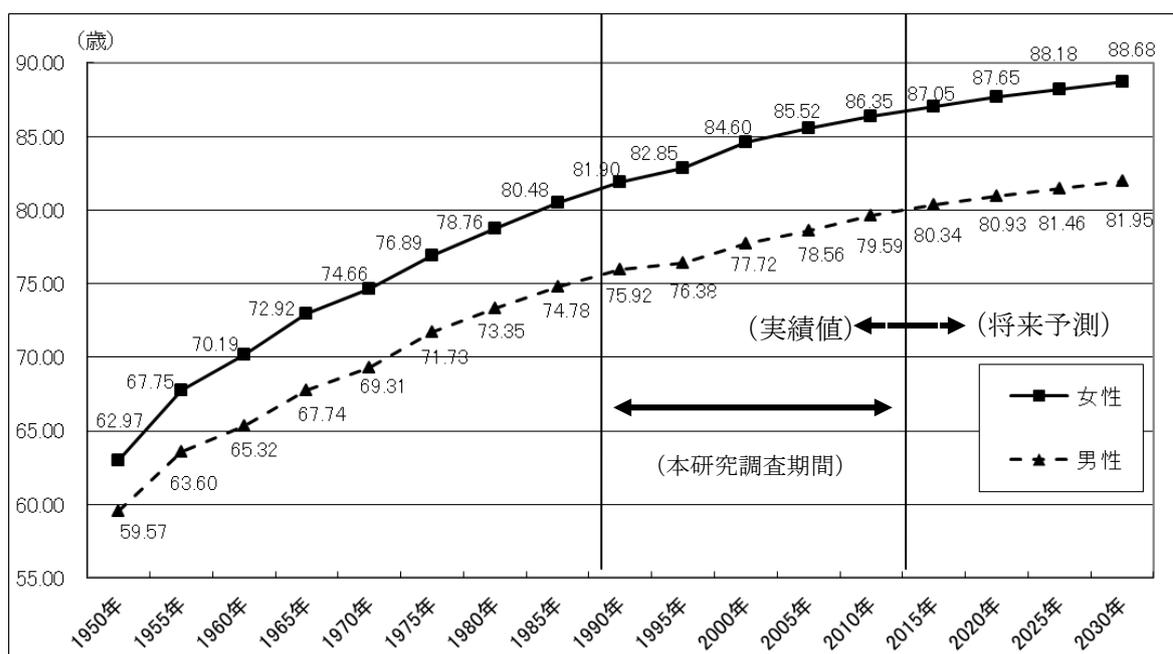
# 第5章 団塊の世代における生きがいの推移と今後の 高齡化社会に向けて

## 1 はじめに

### 1.1 平均寿命の伸び

世界保健機構(WHO)の発表した、「World Health Statistics 2013 (世界保健統計 2013)」<sup>1</sup>によると、日本の男性の平均寿命は、世界第12位の79歳で(1位はカタルで83歳)、日本の女性の平均寿命は世界第1位の86歳となっている。また、厚生労働省統計資料から日本人の平均寿命の推移をみると、1965年には男性67.74歳、女性72.92歳であったものが、2010年には男性で79.59歳、女性で86.35歳まで伸びており、最近45年間で男性がプラス11.85歳、女性がプラス13.43歳寿命が伸びている<sup>2</sup>(図表5-1)。今回の調査は1991(平成3)年の第1回調査時に男性75.92歳、女性81.90歳(1990年)であった平均寿命が、2011(平成23)年の第5回調査時では男性79.59歳、女性86.35歳(2010年)まで伸びている中での調査である。

【図表5-1】日本の平均寿命の推移(将来推計含む)について



出所：1950年～2010年実績値は厚生労働省「統計資料」、今後の予想は国立社会保障・人口問題研究所「平成24年1月推計」より筆者作成(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life09/01.html>,2012.3.23)(<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/gh2401.asp>,2012.3.23)。

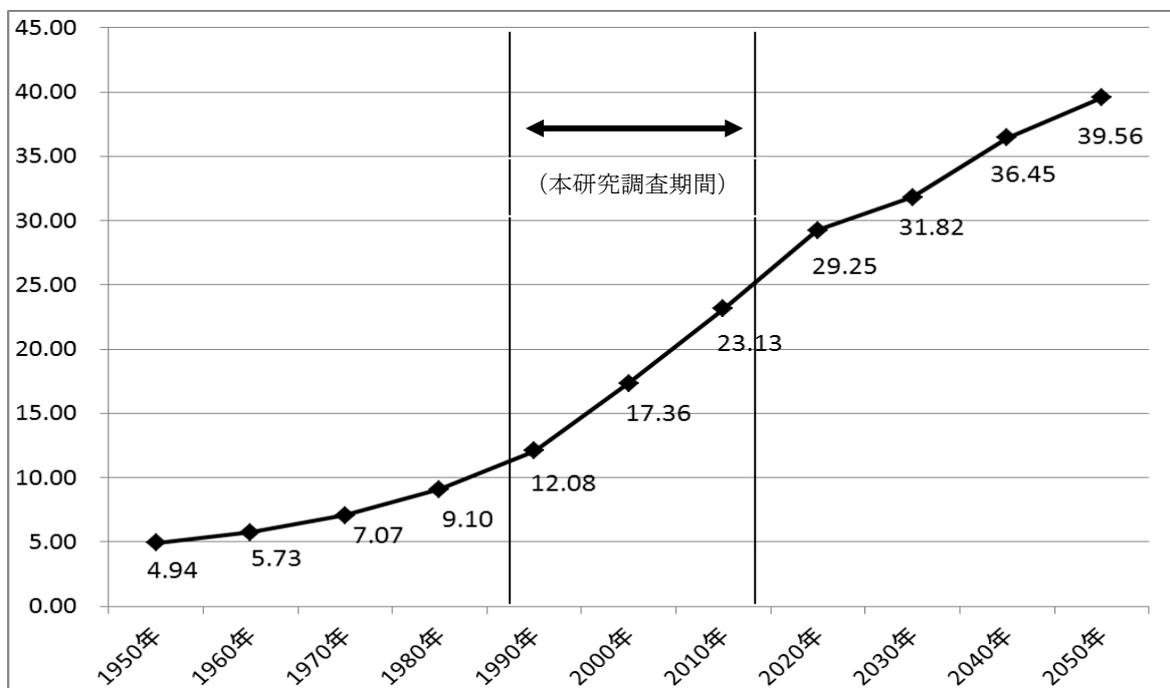
<sup>1</sup> 世界保健機構(WHO)(2013)「World Health Statistics 2013 (世界保健統計 2013)」p52 ([http://www.who.int/gho/publications/world\\_health\\_statistics/EN\\_WHS2013\\_Full.pdf](http://www.who.int/gho/publications/world_health_statistics/EN_WHS2013_Full.pdf),2013.7.2).  
<sup>2</sup> 厚生労働省 統計資料(2010)「平成22年簡易生命表の概況について」(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life10/01.html>,2013.7.2).  
 厚生労働省 統計資料(2010)「平成22年都道府県別生命表の概況」(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/tdfk10/dl/07.pdf>,2013.7.2).

なお、国立社会保障・人口問題研究所による「平成 24 年 1 月推計」を加えると、2030 年には男性で 81.95 歳、女性で 88.68 歳まで寿命が延びていくとされている<sup>3</sup>。

## 1.2 高齢化の進展

この平均寿命の延びに伴い、わが国の高齢化率<sup>4</sup>は 1935（昭和 10）年に 4.7%であったものが、1950～1975 年になると生活衛生の改善および医療技術の進歩により死亡率が大幅に改善し、出生率<sup>5</sup>の低下と相まって高齢化が進展した。そのため、2011（平成 23）年には高齢化率が 23.3%<sup>6</sup>となり、世界第 1 位の高齢化国となっている（図表 5-2）。今回の調査は高齢化率が 1991（平成 3）年の第 1 回調査時における 12.0%（1990 年）から 2011（平成 23）年の第 5 回調査における 23.1%（2010 年）まで大きく上昇している中での調査である。

【図表 5-2】日本の高齢化率の推移について (%)



出所：内閣府(2011)「平成 23 年版高齢社会白書」より筆者作成  
(<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>,2012.3.23).

わが国は諸外国と比べて人口の高齢化が早く進んでおり、内閣府が発表した「平成 23 年版高齢社会白書」<sup>7</sup>によると、人口約 1 億 3 千万人のうち、65 歳以上の人は 2,958 万人で全

<sup>3</sup> 国立社会保障・人口問題研究所(2012)「平成 24 年 1 月推計」38 頁、表 4-2  
(<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/gh2401.asp>,2012.3.23).

<sup>4</sup> 高齢化率とは総人口に占める 65 歳以上の人口の割合を指す。

<sup>5</sup> 厚生労働省(2012)『平成 24 年版 厚生労働白書』p8 によると 2011 年の合計特殊出生率は 1.39  
(<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/12-2/dl/01.pdf>,2013.7.2).

<sup>6</sup> 内閣府(2012)『平成 24 年版高齢社会白書』  
(<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/zenbun/index.html>,2013.5.28).

体の 23.13%を占め、2050 年には 39.56%に達する見込みである。高齢化率が 7%～14%を「高齢化社会」、14%～21%を「高齢社会」、21%以上を「超高齢社会」と呼んでおり、わが国はすでに「超高齢社会」へと突入している。高齢化の進展速度について、高齢化率が 7%を超える「高齢化社会」から 14%の「高齢社会」に達するまでの所要年数を諸外国と比較すると、フランスが 115 年、スウェーデンが 85 年、アメリカが 70 年、イギリスが 47 年、ドイツが 40 年掛かっているのに対し、わが国は 1970（昭和 45）年に 7%を超えると、その 24 年後の 1994（平成 6）年に 14%に達し、世界に類をみない速さで高齢化が進展した<sup>8</sup>。

総務省統計局データによると、わが国の人口は 2010（平成 22）年の 1 億 2 千 8 百万人をピークに減少局面に入り、今後人口が減少していくことが予測される。そんな中、65 歳以上人口は 2045（平成 57）年まで増加を続け、高齢化率はさらに 37.7%にまで上昇していくことが予測されており<sup>9</sup>、その一方では 0～14 歳の年少人口は 2010（平成 22）年の 1,700 万人（全人口の 13.2%）から、2045（平成 57）年には 1,000 万人（全人口の 9.9%）まで減少し、15～64 歳の生産年齢人口も 2010（平成 22）年の 8,100 万人（全人口の 63.8%）から、2045（平成 57）年には 5,300 万人（全人口の 52.4%）まで減少することが予測されている。

総人口が減少していく中、65 歳以上の高齢者の割合が増加していくこととなるが、総人口の中でも大きな割合を占める「団塊の世代」<sup>10</sup>が 2013 年～2015 年に順次 65 歳を迎え、高齢者の仲間入りをしていくこととなる。内閣府によると 65 歳以上人口は 2015（平成 27）年には 3,395 万人となり、「団塊の世代」が 75 歳となる 2025（平成 37）年には 65 歳以上人口は 3,657 万人に達すると見込まれている<sup>11</sup>。総人口が減少していく中、65 歳以上人口は増加し、わが国はさらなる超高齢社会を迎えることとなる。

### 1.3 社会保障給付費の増大

このような超高齢社会を迎え 15～64 歳の生産年齢人口が減少する中、65 歳以上の人口割合の増加は社会にどのような影響をもたらすのであろうか。総人口が減少し経済規模が縮小していく中、高齢化の進展により高齢者に対する年金や医療費の公的支出が増加し、国の財政支出に占める社会保障費が増加していくこととなる。わが国の社会保障給付費<sup>12</sup>は、国立社会保障・人口問題研究所「社会保障費用統計（平成 22 年度）」によると、2010（平成 22）

---

<sup>7</sup> 内閣府(2011)「平成 23 年版高齢社会白書」

(<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>,2012.3.23).

<sup>8</sup> 内閣府(2012)「平成 24 年版高齢社会白書」第 1 章 高齢化の状況

(<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/html/s1-1-5-02.html>,2013.5.28).

<sup>9</sup> 総務省統計局(2013)『日本の統計 2013』第 2 章「人口・世帯」

(<http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm>, 2013.5.28).

<sup>10</sup> 日本の第一次ベビーブームに出生した 1947 年から 1949 年までの世代を指し、年間出生数は約 270 万人でその前後の年より約 2-3 割多く、3 年間の出生数合計は約 806 万人にのぼる。これら団塊の世代が大量に 60 歳定年退職を迎えたのが 2007-2009 年である。

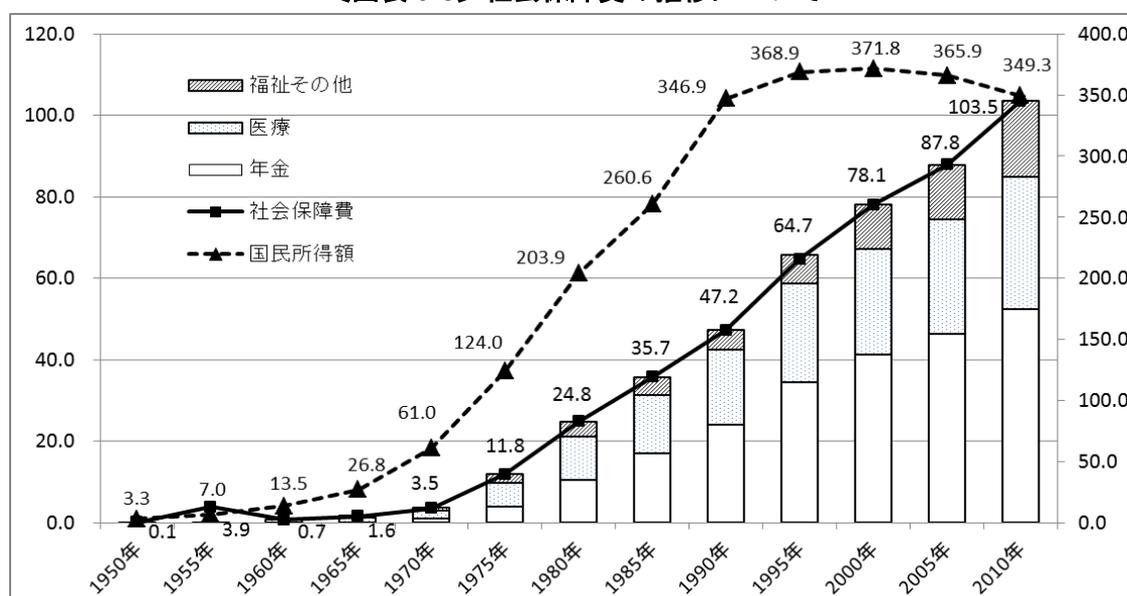
<sup>11</sup> 内閣府(2012)参照。

([http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/zenbun/s1\\_1\\_1\\_02.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/zenbun/s1_1_1_02.html), 2013.5.28).

<sup>12</sup> 社会保障給付費とは、ILO（国際労働機関）が定めた基準に基づき、社会保障や社会福祉等の社会保障制度を通じて、1 年間に国民に給付される金銭またはサービスの合計額である。

年度では103兆4,879億円に達しており、対国民所得(National Income)<sup>13</sup>比の29.63%となっている。高齢化の進展により社会保障費は増加を続けているが、その内訳をみると「年金」が52兆4,184億円で半分以上の50.7%を占めている(図表5-3)<sup>14</sup>。「医療」は32兆3,312億円(31.2%)、「福祉その他(介護、生活保護等)」は18兆7,384億円(18.1%)となっている。1961年に「国民年金法」が制定され、国民皆年金制度が発足した。1973年改正では年金額が夫婦で2万円から5万円に増額されるとともに「物価スライド制」<sup>15</sup>が導入された。さらに1986年には全国共通の「老齢基礎年金制度」が導入され、専業主婦(第3号被保険者)を含む20歳以上60歳未満の国民全員が強制適用となり、国民皆年金が達成された反面、給付費の増大を招く結果となった。高齢化の進展により年金給付費はさらに拡大することとなり、医療費や介護費の増加も予測され、国の歳出に占める社会保障費の割合は今後さらに増加していくこととなる。

【図表5-3】社会保障費の推移について



出所：国民所得は財務省「財務関係基礎データ(平成24年4月)」

([http://www.mof.go.jp/budget/fiscal\\_condition/basic\\_data/201104/sy2302n.pdf/](http://www.mof.go.jp/budget/fiscal_condition/basic_data/201104/sy2302n.pdf/), 2012.12.13)

社会保障費は厚生労働省「平成22年版 厚生労働白書」

(<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/10-2/kousei-data/siryou/sh10010100.html>, 2012.3.23)、及び

国立社会保障・人口問題研究所「社会保障費用統計(平成22年度)」

(<http://www.ipss.go.jp/ss-cost/j/fsss-h22/1/3.html>, 2012.12.13) より筆者作成

財務省の平成24年度予算の社会保障給付費をみると109.5兆円で、その内訳は「年金」が53.8兆円、「医療費」が35.1兆円、「介護等その他福祉関係費」が20.6兆円である。社会保障費の財源については保険料60.6兆円、国庫負担29.4兆円、地方税10.9兆円、その他資産収入で賄われている。国庫負担29.4兆円は国税で国の一般会計予算(平成25年度予算ベー

<sup>13</sup> 国民所得(National Income)とは、国民総生産(GNP)から間接税を除き、補助金を加えた金額である。

<sup>14</sup> 厚生労働省(2010)「平成22年版 厚生労働白書」

(<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/10-2/kousei-data/siryou/sh10010100.html>, 2013.5.28)。

<sup>15</sup> 物価スライド制とは、全国消費者物価指数が年平均で5%を超えて変動した場合に、翌年の4月から変動率に応じて国民年金、厚生年金保険ともに年金額が改正される仕組みで、昭和48年改正において導入された。平成元年改正時には、5%の枠を外し「完全自動物価スライド制」に移行した。

ス 92.6 兆円) の約 3 分の一を占めている (図表 5-4,5)。高齢化の進展による社会保障費の増加は今後の日本の超高齢社会にとって大きな課題となつてこよう。

【図表 5-4】 社会保障費の財源 (平成 24 年度予算)

【平成24年度予算ベース】

社会保障給付費	【給付費】 109.5兆円	年金(53.8兆円)	医療(35.1兆円)	福祉その他 (20.6兆円)	
	【財源】 100.9兆円	保険料(60.6兆円)	国庫負担 (29.4兆円)	地方税 (10.9兆円)	資産収入

出所：財務省(2013)「日本の財政関係資料—平成 25 年度予算案—」より筆者作成  
([http://www.mof.go.jp/budget/fiscal\\_condition/related\\_data/sy014\\_25\\_04.pdf](http://www.mof.go.jp/budget/fiscal_condition/related_data/sy014_25_04.pdf),2013.6.19)。

【図表 5-5】 国の一般会計予算 (平成 25 年度予算)

【平成25年度予算ベース】

一般会計	【歳出】 92.6兆円	地方交付税交付金等(16.4兆円)	国債費 (22.2兆円)	社会保障関係費 (29.1兆円) (恩給費0.5兆円含む)	その他(公共事業、防衛、科学振興) (24.9兆円)
	【歳入】 92.6兆円	税收(43.1兆円)	特例国債(37.1兆円)	建設国債 (5.8兆円)	年金特例 (2.6兆円)

出所：財務省(2013)「日本の財政関係資料—平成 25 年度予算案—」より筆者作成  
([http://www.mof.go.jp/budget/fiscal\\_condition/related\\_data/sy014\\_25\\_04.pdf](http://www.mof.go.jp/budget/fiscal_condition/related_data/sy014_25_04.pdf),2013.6.19)。

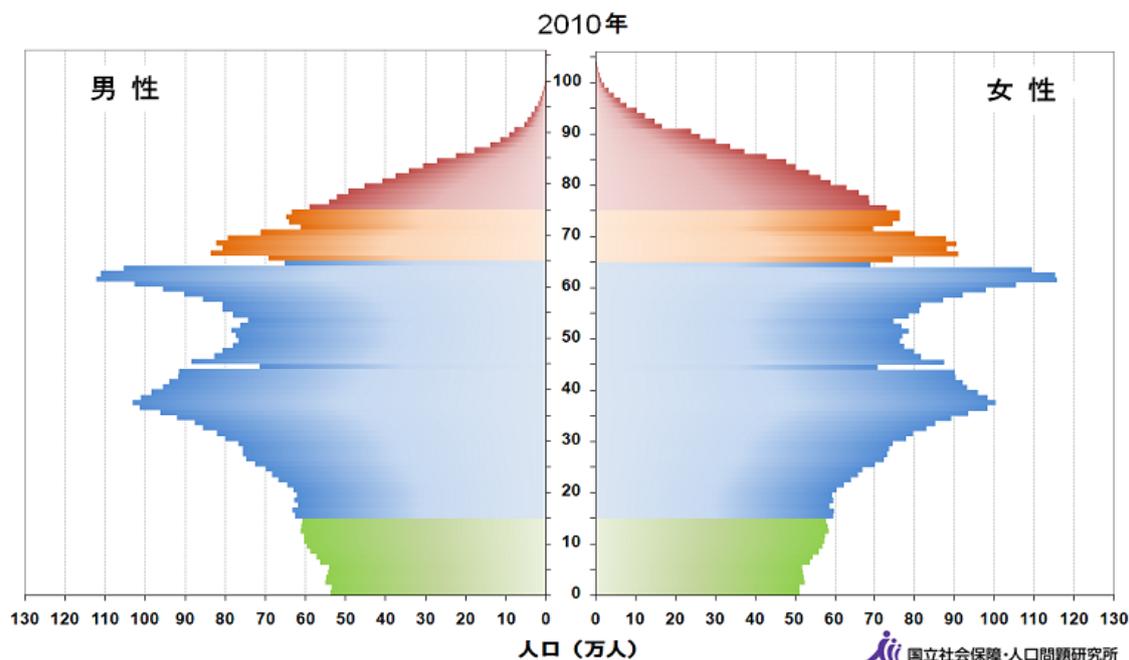
#### 1.4 本章の意義

2008 年に発生したリーマンショックの影響から日本経済がなかなか抜け出せない状況下、本調査の第 5 回調査結果によると人々の生活は、「経済的ゆとり」や「精神的ゆとり」が減り、「仕事へのはりあい」、「社会的地位」などの就業への充足感と生活全般への満足度が減少し、生きがいの保有率が減少していた。経済環境や雇用環境、就業形態が変化し多様化していく中、生きがいの意味や価値観も変化している。生きがいの重心が「仕事」から「家庭」、「自分」へと変化していく中、「生きがい」を見いだせず、家庭からも自分が思うような生きがいを得られない傾向となっている。そのような中、人々は何に生きがいを見出し、どのようにして生きがいを得て、その生きがいを将来に亘って保持していけばよいのであろうか。

2012 年から 2014 年にかけて団塊の世代が順次 65 歳に達し仕事から引退をしていく。団塊の世代はその人口構成から、雇用や消費など社会に与える影響が少なからずあるものと考えられており、本章では団塊世代にスポットをあて、団塊世代がどのように生きがいについて

考えているのか、過去 20 年間の調査結果から団塊世代の考え方の推移を追っていく。  
 なお、本稿のうち意見にわたる部分は、筆者の個人的見解であることを付け加えたい。

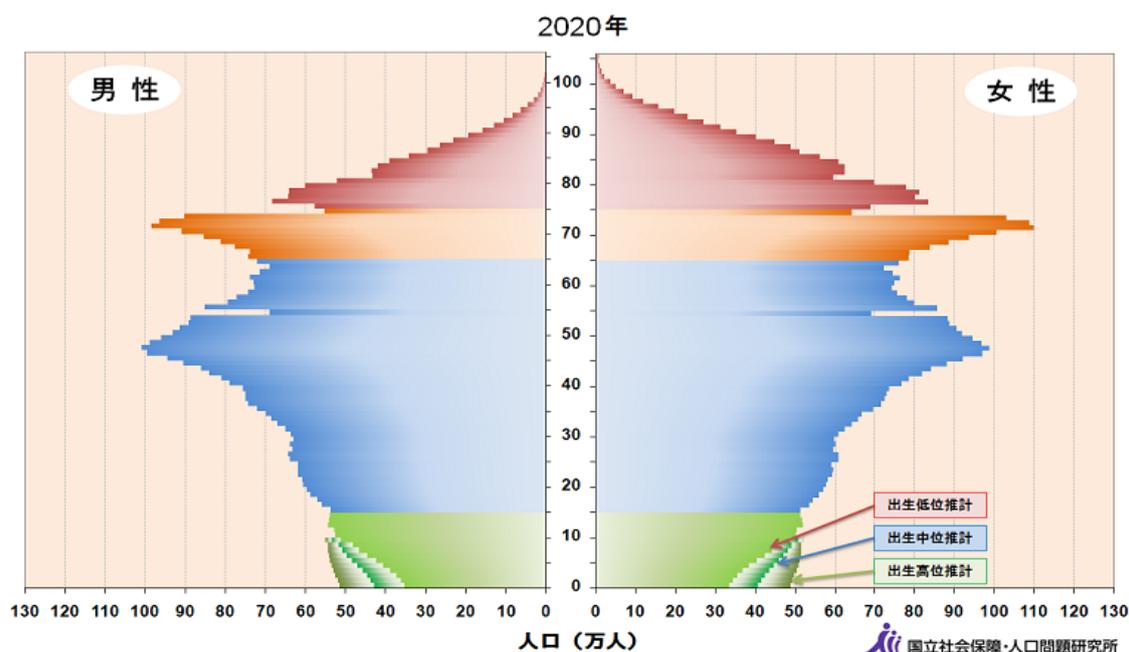
【図表 5-6】日本の人口ピラミッド（2010 年）団塊世代 65 歳



資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。

出所：国立社会保障人口問題研究所 1920 年～2010 年国勢調査、2011 年以降「日本の将来推計（H24 年 1 月推計）」 (<http://www.ipss.go.jp/site-ad/toppagedata/2010.png>)

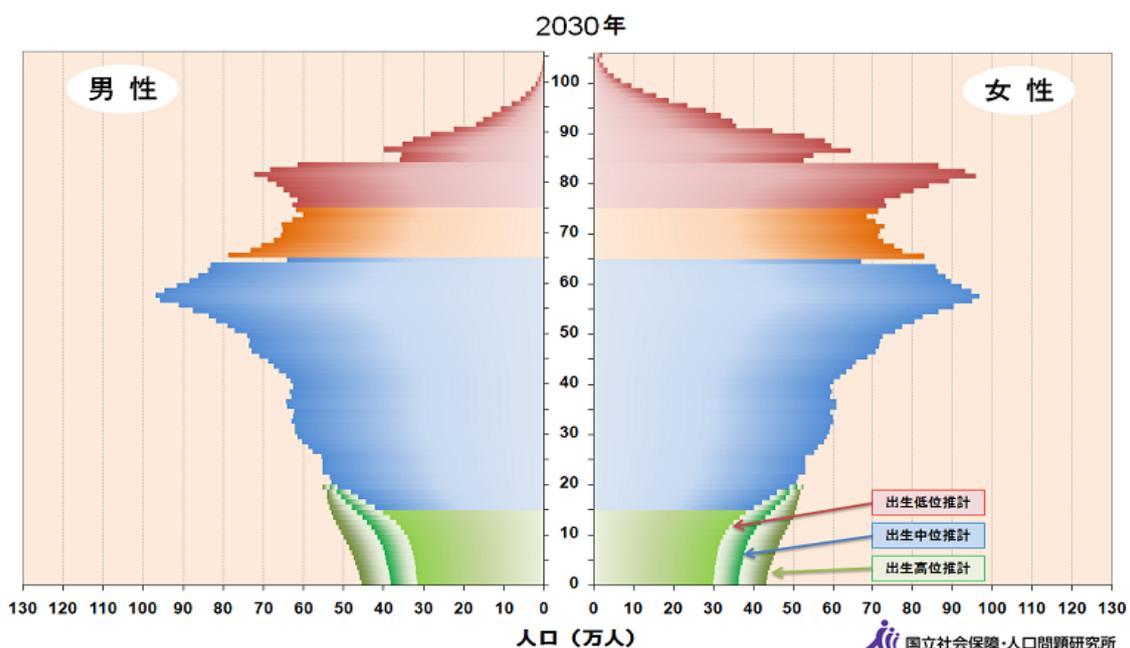
【図表 5-7】日本の人口ピラミッド（2020 年推計）団塊世代 75 歳



資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。

出所：国立社会保障人口問題研究所 1920 年～2010 年国勢調査、2011 年以降「日本の将来推計（H24 年 1 月推計）」 (<http://www.ipss.go.jp/site-ad/toppagedata/2010.png>)

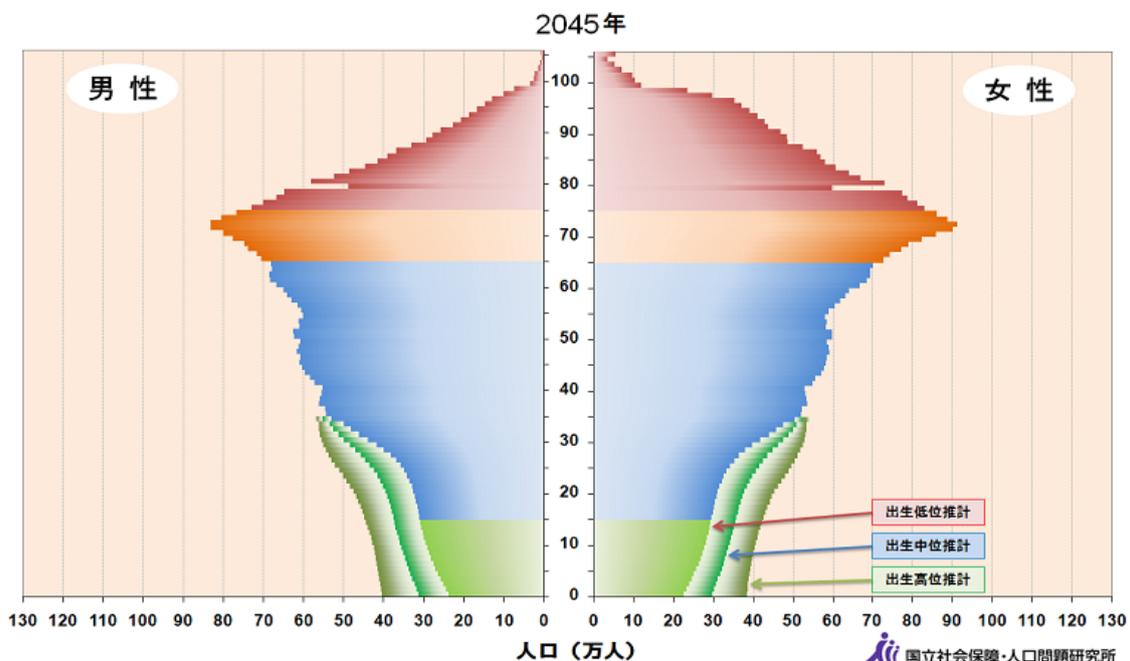
〔図表 5-8〕 日本の人口ピラミッド（2030年推計）団塊世代 85歳



資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。

出所：国立社会保障人口問題研究所 1920年～2010年国勢調査、2011年以降「日本の将来推計（H24年1月推計）」（<http://www.ipss.go.jp/site-ad/toppagedata/2010.png>）

〔図表 5-9〕 日本の人口ピラミッド（2045年将来推計）



資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。

出所：国立社会保障人口問題研究所 1920年～2010年国勢調査、2011年以降「日本の将来推計（H24年1月推計）」（<http://www.ipss.go.jp/site-ad/toppagedata/2010.png>）

## 2 第1回調査結果から第5回調査結果までの推移について

### 2.1 分析方法

1991（平成3）年の第1回調査から2011（平成23）年の第5回調査結果までの20年間における社会情勢、経済環境、雇用環境の変化や世代の推移の中で、団塊世代の仕事や生活に対する満足度や生きがいに関する考え方がどのように変化してきたかを概観する。比較項目については過去調査から継続して実施している項目を抽出した。団塊世代のデータ抽出については第1回調査から第5回調査において団塊世代年齢が入っているコーホートを抽出して分析を行った（図表5-10）。なお、抽出したコーホートには団塊世代後2年間の出生年齢層が含まれているが、団塊世代に続き出生数が多く拡大団塊世代とも呼ばれている1947～1951年生まれの人を対象とした。第1回～第4回調査は厚生年金基金や確定給付企業年金の加入員（者）に対してアンケートを行っているため、過去調査との比較に際しては継続性の観点から第5回調査対象者5,145人のうち「企業年金がある人々（本人60～64歳）」を抽出して比較を行った。また、第1回～第4回調査は郵送調査であったが、第5回調査はインターネット調査を使用した関係上、インターネットを使用する人の基本属性に多少偏りが存在したり無回答がない<sup>16</sup>など過去調査との差異が存在する。アンケート対象者の男女比については第1回～第4回調査では厚生年金基金加入員数の男女比(3:1)としていたが、第5回調査では第2号被保険者数の男女比(7:3)<sup>17</sup>でサンプル数での割付けを行った。年齢別サンプル数も第1回～第4回調査までは個別の厚生年金基金の加入者受給者数に依存していたが、第5回調査では社会保障審議会年金数理部会「公的年金財政状況報告（平成19年度）」<sup>18</sup>に基づく年齢別男女別の割付けで実施した。このように第5回調査については第1回～第4回調査までの調査方法との差異に依存して回答結果にも影響が出ている場合があることに留意願いたい。

【図表5-10】 団塊世代のデータ抽出方法

【データの抽出条件】（団塊世代：1947～1949年生まれ）

調査	使用データ	DATA 識別コード	団塊世代 対象年齢	データ上の 抽出対象年齢	回収状態 (KAISYU)	年齢 (F01_AGE)	アンケート集計 使用データ項目	対象者人数	
第1回	生きがい過去データ(1991)	1991	42	44	本人40～44	1 or 2	40～44	X01～X16	426人
第2回	生きがい過去データ(1996)	1996	47	49	本人45～49	1 or 2	45～49	"	341人
第3回	生きがい過去データ(2001)	2001	52	54	本人50～54	1 or 2	50～54	"	419人
第4回	生きがい過去データ(2006)	2006	57	59	本人55～59	1 or 2	55～59	"	345人
第5回	調査結果(Group6、Group22)	2011	62	64	本人60～64 企業年金あり		60～64	"	317人

注1：第5回調査は団塊世代として「Group6」（男性60～64歳かつ企業年金あり）と「Group22」（女性60～64歳かつ企業年金あり）を抽出して使用

注2：第1回～第4回調査は回収状態コード「1」（同一世帯で本人、配偶者とも回収）及び「2」（同一世帯で本人は回収、配偶者は未回収）のみを抽出

出所：年金シニアプラン総合研究機構(1991～2011)アンケート結果から筆者作成

<sup>16</sup> 郵送調査では回投票に未記入が発生する可能性があるが、今回のインターネット調査では必ずいずれかの項目に回答しないと次の回答に進めない仕組みとしたため無回答がない状況である。

<sup>17</sup> 社会保障審議会年金数理部会(2007)「公的年金財政状況報告（平成19年度）」に基づいて男女比を割付け。  
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/11/s1127-19.html>, 2013.2.20).

<sup>18</sup> 社会保障審議会年金数理部会(2007)「公的年金財政状況報告（平成19年度）」に基づいて年齢別に割付け。  
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/11/s1127-19.html>, 2013.2.20).

## 2.2 団塊の世代についての概観

総務省統計局データによると、わが国の団塊世代(1947年～1949年生まれ)の人数は2011年では664万4千人<sup>19</sup>で全人口1億2千8百万人の5%を占めている状況である。また、厚生労働省の人口動態統計<sup>20</sup>によると団塊世代の出生数は約806万人で、その後3年間の約648万人と比べて24.3%も多く、最近3年間(2009～2011年)の出生数の約319万人と比べると2.5倍の多さとなっている。団塊世代は人口構成の中で大きな集団「団塊」を構成しており、雇用や消費など社会に与えるインパクトも大きなものとされている。団塊世代は戦後の経済復興と高度成長期の真っ只中において、労働力として経済を支えるとともに、大量消費の担い手として経済発展に寄与してきた存在である。高度経済成長期の中、会社では終身雇用と年功序列型賃金により上昇志向を与えられ、生活の大半を仕事と会社に費やしてきた世代である。

兄弟が多い団塊世代は仕事のため田舎から大都会やその近郊に移り住んだ。この頃から従来の見合い結婚より恋愛結婚の割合が徐々に多くなり、団塊世代においても恋愛結婚の割合が高まっていく<sup>21</sup>。家族を得た後には自分の家を持ちたいという持家志向が高まり、国の持家政策と相まって高度経済成長期における土地神話を生み出していくことになる。大都市圏とその近郊において持家保有率が上昇し、核家族化が進んでいくことになる。団塊世代は終身雇用と年功序列型賃金により会社とのきずなを強める一方で、大都会とその近郊に移り住み核家族を形成したことにより、従来からあった血縁や地域社会とのきずなを薄めることともなった。

このような団塊世代が大量に60歳を迎え仕事から引退をすることにより企業内の技術やノウハウの継承が失われるのではないかと懸念されたのが「2007年問題」であった。実際には多くの団塊世代が60歳以降も継続雇用制度などで働くケースが多く、大きな社会問題とはならなかった。しかし、いよいよ団塊世代が65歳を迎え本格的に仕事から引退すると考えられる「2012年問題」が言われている。この「2012年問題」は企業内における技術やノウハウの継承問題のみならず、今まで消費を牽引してきた団塊世代が本格的に仕事から引退することにより、消費に与える影響などその行動様式の変化が大きな問題となる。また、今まで仕事と会社を生きがいとしてきた団塊世代が仕事から引退することにより、どのような変化が生じているのであろうか。団塊世代の生活や考え方の変化について調査結果から概観する。

<sup>19</sup> 総務省統計局(2010)「統計 Today, No.32」(<http://www.stat.go.jp/info/today/032.htm>, 2013.7.2).

<sup>20</sup> 厚生労働省(2012)「人口動態調査」(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1.html>, 2013.7.2).

<sup>21</sup> リクルート住まい研究所(2006)「団塊世代に関する今後の住まいに関する調査」2006.12  
(<http://www.jresearch.net/house/jresearch/dankai/index.html>, 2013.7.2).

### 2.3 団塊の世代を取り巻く経済環境と雇用環境の変化

今回の調査では団塊世代について1991（平成3）年の第1回調査時では42～44歳、1996（平成8）年の第2回調査時では47～49歳、2001（平成13）年の第3回調査時では52～54歳、2006（平成18）年の第4回調査時では57～59歳、2011（平成23）年の第5回調査時では62～64歳であり、それぞれの調査時点における団塊世代の生活や仕事に対する満足度、生きがいに関する考え方の変化についてみる。

日本経済のバブル崩壊後の1991年に第1回調査が実施された時、団塊世代は42～44歳であり、中堅管理職としてその後のアジア通貨危機（1997年）、ITバブル崩壊（2000年）を経験し、60歳定年前後でリーマンショック（2008年）を経験している。サラリーマン人生の後半は経済環境が厳しい状況下であるが、それでも入社してからの若い頃は経済が飛躍的に拡大していく時代を肌で感じ、高度経済成長の恩恵を十分に享受した世代である。雇用環境においては「男女雇用機会均等法」の改正施行が1997年にされ、その後急速に女性の雇用が増加していく時期であった。しかし、団塊世代は既に48～50歳に到達しており男女雇用機会均等法施行前の男性社会における世代である。一方、1999年に内閣が定めた「第9次雇用対策基本計画」<sup>22</sup>において企業は向こう10年間に定年年齢を65歳に引き上げるか意欲と能力のある高齢者が65歳まで働き続けられるようにすべきとされ、エイジフリー(Age Free)の概念が提唱された<sup>23</sup>。その後、公的年金の支給開始年齢引き上げに伴い「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律（1971年5月25日制定、同10月1日実施）」の改正が2004年に行われ、2006年4月1日より施行された。この改正では高年齢者の安定した雇用の確保等を図るため措置として事業主は「①定年年齢の引上げ、②継続雇用制度の導入、③定年の定め廃止」のいずれかの措置を講じなければならないとされた。この時団塊世代は60歳定年前の55～57歳で、60歳定年以降での継続雇用制度の適用を受けることができた。厚生労働省が発表した「平成24年高年齢者の雇用状況の集計結果」<sup>24</sup>によると、常時従業員31人以上企業140,367社のうち高年齢者雇用確保措置を実施済み企業の割合は97.3%となっている。高年齢者の安定した雇用の確保等を図るため措置としての企業の対応状況をみると、「①定年の引上げ及び③定年の定め廃止」を実施している企業は少なく、ほとんどの企業が「②継続雇用制度の導入」を採用しているのが実態である。その割合は「①定年の引上げ」を実施した企業が14.7%、「③定年の定め廃止」をした企業が2.7%で、「②継続雇用制度の導入」をした企業が82.5%と大半を占めている（図表5-11）。

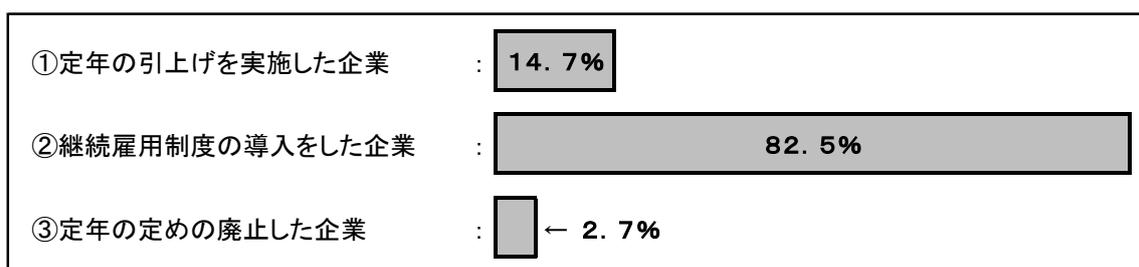
<sup>22</sup> 独立行政法人労働政策研究・研修機構(1999)「第9次雇用対策基本計画について」1999.8.13  
([http://www.jil.go.jp/jil/kisya/syokuan/990813\\_01\\_sy/990813\\_01\\_sy.html](http://www.jil.go.jp/jil/kisya/syokuan/990813_01_sy/990813_01_sy.html), 2013.7.2).

<sup>23</sup> 清家篤監訳・山田篤弘・金明中訳(2005)『高齢社会日本の雇用政策』OECD編著、明石書店：p106.

<sup>24</sup> 厚生労働省(2012)「平成24年高年齢者の雇用状況の集計結果」2012.10.28

(<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002m9lq-att/2r9852000002m9q0.pdf>, 2013.7.2).

【図表 5-11】「高年齢者雇用確保措置」に対する企業の対応状況(2012)



出所：厚生労働省「平成 24 年 高年齢者の雇用状況の集計結果」より筆者作成

過去 1 年間（平成 23 年 6 月 1 日から平成 24 年 5 月 31 日）の定年到達者（430,036 人）のうち、継続雇用を希望しなかった者は 106,470 人で 24.8%、定年後に継続雇用を希望し継続雇用された者は 316,714 人で 73.6%、継続雇用を希望したが基準に該当しないこと等により離職した者は 6,852 人で 1.6%であった。約 7 割の定年退職者が継続雇用を希望している状況である。

さらに、2013 年から公的年金の支給開始年齢がいよいよ 65 歳まで段階的に引き上げられ始められることへの対応として、60 歳定年退職後から支給開始年齢までの空白期間が空かないように、従来継続雇用制度の対象となる者については労使協定により一定の基準を設定することができたが、これを廃止する「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律（高年齢者雇用安定法）」の一部改正が 2013 年 4 月 1 日から施行（2012 年 8 月 28 日成立）された<sup>25</sup>。これにより、健康上就業できない場合等を除いて基本的には継続雇用制度を希望する者全員が公的年金の支給開始年齢まで継続雇用制度の適用を受けることができるようになった。なお、EU の一般雇用機会均等指令（2000 年 12 月施行）では、年齢、障害等に係る雇用・職業に関する一切の差別の原則禁止を EU 各国に求めている。但し、定年制は認められるなど例外規定も定められ、イギリス、ドイツ、フランスは定年制を認めているがアメリカは原則認めていない<sup>26</sup>。

今回の調査結果から見える主な結果は、①65 歳で本格的に仕事を引退する人の割合が多い（65 歳以上で無職の割合が増加）。②余暇の使い方については「テレビ・パチンコ」から「パソコン」「趣味」に変化してきている。③生活の満足度については「時間的・経済的・精神的ゆとり」が増える一方、「家族の理解・愛情」「仕事はりあい」「社会的地位」が減少している。④生きがいの意味については「生活の活力」「生きる目的」から「生活のリズム」「心のやすらぎ」に変化している。⑤生きがいを得られる場については、「家庭」「仕事」から「地域」「社会」へと変化している。⑥社会参加の割合については多少増えているものの大きな変化はなく、社会参加への不参加理由は「時間がない」から「自分にあった活動の場がない」「何

<sup>25</sup> 厚生労働省(2013)「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律（高年齢者雇用安定法）の一部改正」  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyou/koureisha/topics/tp120903-1.htm](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/koureisha/topics/tp120903-1.htm)  
 1,2013.7.2).

<sup>26</sup> 厚生労働省(2007)「(2005～2006)海外情勢報告」  
<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/08/>,2013.7.2).  
<http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/special/work/14/item2.pdf>,2013.7.2).

から始めるか、きっかけがつかめない」に変化している。ことなどが挙げられる。

第1回～第5回調査で継続実施している調査項目について、主な調査結果を以下に述べる。

## 2.4 団塊世代の生活状況の変化

### 【問1】 婚姻状況（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	未婚	6.6%	9.9%	12.5%	15.1%	5.7%
2	既婚（配偶者あり）	91.8%	87.8%	83.9%	79.9%	84.2%
3	既婚（離別）	1.6%	1.5%	1.9%	2.3%	6.0%
4	既婚（死別）	0.0%	0.9%	1.7%	2.6%	4.1%

婚姻状況についてみると、団塊世代は従来の見合い結婚から恋愛結婚の割合が高まった世代であるが60～65歳で離別が急に増えている。定年退職後に離婚するケースが多いということであろうか。近年、離婚率の増加が言われており、厚生労働省「平成22年人口動態統計」によると、離婚率<sup>27</sup>は1963年の0.73%から増加傾向にあり2010年では2.0%となっている。一方、婚姻率<sup>28</sup>は1971年の10.5%をピークに減少しており、2010年では5.6%となっており婚姻件数が減少している。本調査結果でも未婚者の割合はこの20年間に5.8%から10.4%の2倍弱（前回では13.4%の2倍強）まで増えており、逆に既婚者の割合が減少している。死別（既婚死別）には大きな変化はないが、離婚者（既婚離別）の割合はこの20年間で1.3%から5.9%の4倍強に大きく上昇している。

### 【問18-2】 配偶者との関係（よき理解者である）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	まったくそのとおり	27.0%	24.2%	22.7%	32.3%	20.2%
2	まあそのとおり	59.1%	63.1%	62.2%	54.3%	58.8%
3	あまりそうでない	13.4%	12.6%	15.1%	12.3%	18.7%
4	まったく違う	0.5%	0.0%	0.0%	1.1%	2.2%

### 【問18-3】 配偶者との関係（価値観考え方が似ている）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	まったくそのとおり	-	11.6%	10.8%	14.8%	11.6%
2	まあそのとおり	-	44.6%	36.6%	41.9%	37.1%
3	あまりそうでない	-	39.1%	44.5%	37.4%	39.3%
4	まったく違う	-	4.8%	8.1%	5.9%	12.0%

<sup>27</sup> 離婚率：年間の離婚届出件数を10月1日現在日本人人口で除して1,000を乗じた数字。同上

<sup>28</sup> 婚姻率：年間の婚姻届出件数を10月1日現在日本人人口で除して1,000を乗じた数字。

厚生労働省「厚生統計に用いる主な用語の解説」より抜粋

(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/kaisetu/index-hw.html>, 2013.2.20).

さらに配偶者との関係についてみると、「良き理解者である」と考えている割合は40～44歳では「まったくそのとおり」「まあそのとおり」の合計が86.1%と多いが、60～64歳では79.0%に減少しており、「あまりそうでない」「まったく違う」の合計が40～44歳の13.9%から、60～64歳では20.9%に増加している。特に「まったく違う」が40～44歳の0.5%から、60～64歳の2.2%に約4倍に増加している。

「価値観が似ている」と考える割合についても、45～49歳では「まったくそのとおり」「まあそのとおり」の合計が56.2%であるが、60～64歳では48.7%まで減少し、「あまりそうでない」「まったく違う」の合計が45～49歳の43.9%から60～64歳では51.3%まで増加している。特に「まったく違う」が45～49歳の4.8%から60～64歳の12.0%に約4倍に増加している。

これらは後述の「家族の理解・愛情」が減少していることと関連しており、生活に対する充足感の減少に影響していると思われる。

#### 【問2】 同居状況 (単一回答)

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	ひとり暮らし	4.2%	6.1%	8.8%	10.2%	7.9%
2	自分たち夫婦だけ	5.4%	6.9%	10.8%	23.3%	42.6%
3	自分たち夫婦（または自分）と未婚の子	62.2%	55.0%	52.1%	38.7%	26.8%
4	自分たち夫婦（または自分）と子ども夫婦	0.7%	0.9%	1.5%	3.2%	1.6%
5	自分たち夫婦（または自分）と親（子や孫含む）	24.8%	24.5%	24.3%	21.8%	15.5%
6	その他	2.7%	6.6%	2.5%	2.9%	5.7%

同居状況については、団塊世代が62～64歳となり子どもが結婚する年齢である。そのため、子どもが独立し夫婦二人世帯が増えていると思われる(42.6%)。今まで愛情を注いできた子どもが独立することにより、後述の「家族の理解・愛情」の減少にも関連しているのであろうか。子どもを生きがいにしてきた人々にとっては生きがいの喪失にも繋がるのかもしれない。また、子どもが独立することにより夫婦二人だけの生活となり、前述における60歳以降で離婚が増える要因のひとつにもなっているのかもしれない。

#### 【問5】 居住期間 (単一回答)

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	5年未満	21.2%	13.8%	9.6%	5.0%	8.8%
2	5年以上～10年未満	15.3%	9.5%	11.5%	7.2%	4.4%
3	10年以上～20年未満	29.2%	39.7%	24.4%	18.7%	15.8%
4	20年以上～30年未満	9.6%	16.7%	24.9%	27.1%	21.1%
5	30年以上	24.7%	20.4%	29.7%	42.1%	49.8%

【問6】 居住形態 （単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	持ち家（一戸建て）	62.1%	68.0%	70.0%	74.8%	69.7%
2	持ち家（分譲マンション等）	13.3%	14.1%	18.0%	16.2%	19.9%
3	社宅・会社の寮	8.1%	4.9%	3.4%	1.9%	0.6%
4	公社・公団・公営の賃貸住宅	3.8%	3.2%	3.0%	2.5%	4.1%
5	民間の借家・マンション・アパート	11.4%	8.6%	5.4%	4.0%	5.4%
6	その他	1.4%	1.2%	0.2%	0.6%	0.3%

居住期間と居住状況についてみると、兄弟の多い団塊世代が大都市とその周辺に移り住み、高度経済成長期に家族を持ち、国の持家政策と合致して持家志向が高まり、調査結果による持家比率（一戸建てと分譲マンションの合計）も40～44歳の75.4%から60～64歳では89.6%まで増加している。これにつれて居住期間も長くなってきているものと思われる。また、年齢の上昇と伴に一戸建てより分譲マンションの比率が高まっている。一方、賃貸・借家の割合は40～44歳の15.2%から60～64歳では9.5%に減少している。さらに社宅・会社の寮の割合が8.1%から0.6%に大きく減少しているが、これは退職により会社の福利厚生から外れることや、企業業績の悪化により社宅・会社の寮が減ってきているためと思われる。居住期間については60～64歳で30年以上が約半数の49.8%となっており、長年居住していることにより地域との関わり合いはある程度あるのではないかとと思われるが、後述の社会活動への参加状況については「常に参加」「ときどき参加」を合わせても29%と低い数値となっている。「何からはじめるか、きっかけがつかめない」と考えられている割合が44.9%となっており、長年同じ地域に居住しながらも地域との関係が薄い状況が垣間見える。

2.5 団塊世代の就業状況と仕事に対する満足度の変化

【問8】 就業状況 （単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	正社員	100.0%	97.1%	94.1%	92.7%	17.4%
2	契約社員・嘱託	0.0%	2.0%	4.4%	5.9%	9.5%
3	派遣社員	-	-	-	-	0.0%
4	パート・アルバイト	-	-	-	-	8.5%
5	自営業・自由業・家族従業員	0.0%	0.3%	0.7%	0.3%	11.0%
6	内職	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%
7	シルバー人材センター（高齢者事業団）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
8	無職	0.0%	0.3%	0.7%	1.2%	52.7%

【問9】 仕事をしている人の現在の職種 （単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	専門技術職（研究職・技師等）	4.3%	4.1%	4.0%	2.7%	9.3%
2	管理職（役員・課長以上の管理職）	42.5%	50.9%	50.8%	51.3%	28.7%
3	事務職（一般事務・営業・経理事務等）	37.0%	30.7%	33.5%	38.0%	20.7%
4	販売職（店員・セールス等）	3.4%	2.3%	1.5%	1.5%	6.0%
5	技能職	9.9%	8.5%	9.0%	4.2%	7.3%
6	サービス職（添乗員・ホテルマン等）	1.4%	1.2%	1.3%	0.9%	5.3%
7	その他	1.4%	2.3%	0.0%	1.5%	22.7%

【問20-2】 定年までの就業意向 （単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	定年まで勤めたい	75.6%	82.5%	83.3%	90.6%	88.4%
2	定年前に退職したい	24.4%	17.5%	16.7%	9.4%	11.6%

団塊世代の就業状況を見ると、55～59歳までは正社員の割合が92.7%と高いが、60歳定年の企業が多い中、60～64歳になると正社員の割合は17.4%と急に減少し、無職が52.7%と急激に増加している。仕事をしている人の現在の職種をみると、管理職の割合が55～59歳では51.3%あったものが60～64歳では28.7%に大きく減少している。60歳以降は継続雇用制度の中、ラインを外れて非管理職として働いている状況と思われる。なお、団塊世代で管理職になれた人の割合をみると47～49歳で約半数の50.9%が管理職となっているが、その後もあまり増えず約半数の人は管理職になれていないということが分かる。経済環境と雇用環境の変化により年功序列型人事制度が崩れ、能力主義による人事制度へと変化してきた結果かもしれない。

定年までの就業意向については、40～54歳まではあまり意識がないためか定年まで働きたい人の割合は75.6%～83.3%であるが、55～59歳ではその割合が増加し90.6%が定年まで働きたいと考えている。昨今の経済状況と雇用状況から定年まで働きたいという意識であろう。

一般的に会社の定年年齢については、第2回調査後の1998（平成10）年4月1日に60歳定年が義務付けられており団塊世代は60歳定年制の適用となっている。なお、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律（高年齢者雇用安定法）」の施行状況については前述。

【問10-1】 満足度（仕事の内容） （単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	とても満足している	-	12.7%	11.6%	16.4%	18.0%
2	やや満足している	-	52.2%	54.0%	49.4%	47.3%
3	どちらともいえない	-	25.9%	21.6%	28.6%	24.7%
4	やや不満である	-	7.8%	9.8%	5.1%	7.3%
5	とても不満である	-	1.4%	3.0%	0.6%	2.7%

【問10-2】 満足度（就業形態） （単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	とても満足している	-	12.7%	13.4%	21.7%	20.0%
2	やや満足している	-	48.4%	49.9%	50.4%	45.3%
3	どちらともいえない	-	23.9%	20.9%	21.4%	24.0%
4	やや不満である	-	13.0%	12.3%	4.7%	8.7%
5	とても不満である	-	2.0%	3.5%	1.8%	2.0%

【問10-3】 満足度（職場での地位の高さ） （単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	とても満足している	-	7.3%	8.8%	14.5%	18.7%
2	やや満足している	-	41.0%	41.6%	40.1%	27.3%
3	どちらともいえない	-	39.0%	33.0%	35.0%	47.3%
4	やや不満である	-	9.9%	11.8%	7.4%	4.7%
5	とても不満である	-	2.9%	4.8%	3.0%	2.0%

【問10-4】 満足度（賃金） （単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	とても満足している	-	3.5%	5.5%	11.0%	10.0%
2	やや満足している	-	33.7%	34.5%	30.9%	19.3%
3	どちらともいえない	-	28.8%	27.2%	30.9%	31.3%
4	やや不満である	-	26.5%	24.2%	21.7%	28.7%
5	とても不満である	-	7.5%	8.6%	5.6%	10.7%

仕事に対する満足度についてみると、「仕事の内容」については「とても満足している」「やや満足している」の合計は47～49歳で64.9%、60～64歳でも65.3%と大きな差はない。「就業形態」についても「とても満足している」「やや満足している」の合計は47～49歳で61.1%、60～64歳でも65.3%と大きな差はない。「職場での地位の高さ」についても「とても満足している」「やや満足している」の合計は47～49歳の48.3%で、60～64歳でも46.0%と大きな差はなく継続雇用になった60歳以降でも仕事に対する満足度は比較的高いことが伺える。

一方、「賃金」については「とても満足している」「やや満足している」の合計は、47～49歳の37.2%から60～64歳では29.3%に減少している。「やや不満である」「とても不満である」の合計が47～49歳の34.0%から、60～64歳では39.4%と不満に思う人の割合が増えており、継続雇用後の賃金については不満があることが分かった。

## 2.6 団塊世代の生活状況と生活に対する充足度の変化

### 【問11-1】 自由時間の有無 (単一回答)

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	十分にある	4.5%	10.4%	7.0%	21.2%	56.8%
2	まあまあある	34.4%	52.2%	43.2%	60.0%	36.9%
3	不十分である	51.7%	35.4%	47.8%	18.2%	6.0%
4	まったくない	9.5%	2.0%	1.9%	0.6%	0.3%

### 【問11-2】 自由時間の使い方 (複数回答)

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体						
1	仕事仲間とのプライベートなつきあい	27.0%	10.0%	13.9%	7.6%	5.1%
2	仕事に関する勉強や残務整理	21.2%	14.7%	16.3%	11.0%	4.1%
3	テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など	57.1%	43.5%	38.9%	32.3%	26.9%
4	ひとりで趣味・スポーツ・学習など	27.0%	30.3%	29.7%	29.3%	35.4%
5	仲間と趣味・スポーツなど	11.3%	27.1%	29.2%	26.5%	20.3%
6	パソコン通信やインターネットなど	-	3.5%	9.2%	10.7%	68.7%
7	個人的な友人・仲間とのつきあい	17.3%	21.2%	18.6%	25.0%	21.8%
8	行楽・ドライブなど	5.5%	22.6%	23.8%	24.7%	20.6%
9	庭いじりや家事など家庭内のこと	16.2%	33.5%	36.9%	38.1%	29.4%
10	家庭との団らんや家庭サービス	42.7%	38.2%	29.7%	34.8%	18.7%
11	近隣の人のつきあいや地域の用事	4.7%	5.0%	4.5%	8.5%	5.1%
12	その他	1.8%	1.2%	3.2%	4.0%	3.2%
13	特に何もしない	2.4%	1.5%	0.5%	1.8%	1.6%

自由時間については、40～54歳では「十分にある」「まあまあある」の合計は38.9%～62.6%であるが、55～59歳では急に増え71.2%、60～64歳では97.7%となっている。一般の民間企業では定年前の50歳後半で子会社などに転籍することが多いためと思われる。

自由時間の使い方については40～44歳で「テレビ・ゴロ寝やパチンコ・酒」「家庭との団らんや家族サービス」が多いが、60～64歳になると「ひとりで趣味・スポーツ・学習」「パソコン通信やインターネットなど」となる。定年前後で子どもが独立して家族サービスが減り、ひとりの時間が増えるという事であろう。また、定年後は仕事仲間との付き合いが減り自分の趣味などに費やすようになっていく。家族との団らんが減り、仕事の付き合いが減っていく中、ひとりの時間が増えることで生きがいの喪失にも繋がっているのではないかと思われる、家族や仕事に代わる生きがいが必要になってこよう。

### 【問13-2】 生活満足度 (時間的ゆとり) (単一回答)

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	十分に満たされている	1.7%	2.0%	2.9%	5.3%	7.3%
2	まあ満たされている	31.6%	41.7%	38.6%	47.8%	41.3%
3	どちらともいえない	33.3%	27.2%	32.9%	29.1%	29.7%
4	やや欠けている	27.8%	23.5%	21.5%	15.1%	17.0%
5	まったく欠けている	5.7%	5.5%	4.1%	2.7%	4.7%

【問13-3】 生活満足度（経済的ゆとり）（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	十分に満たされている	1.7%	2.0%	2.9%	5.3%	7.3%
2	まあ満たされている	31.6%	41.7%	38.6%	47.8%	41.3%
3	どちらともいえない	33.3%	27.2%	32.9%	29.1%	29.7%
4	やや欠けている	27.8%	23.5%	21.5%	15.1%	17.0%
5	まったく欠けている	5.7%	5.5%	4.1%	2.7%	4.7%

【問13-4】 生活満足度（精神的ゆとり）（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	十分に満たされている	2.6%	3.2%	2.7%	3.9%	9.1%
2	まあ満たされている	38.8%	43.3%	38.0%	41.3%	50.5%
3	どちらともいえない	30.5%	31.1%	35.4%	34.3%	25.2%
4	やや欠けている	25.1%	18.9%	20.1%	19.0%	13.6%
5	まったく欠けている	3.1%	3.5%	3.9%	1.5%	1.6%

【問13-5】 生活満足度（家族の理解・愛情）（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	十分に満たされている	20.9%	17.1%	18.9%	16.4%	15.1%
2	まあ満たされている	63.5%	61.8%	60.0%	59.4%	52.1%
3	どちらともいえない	11.1%	16.2%	16.2%	19.4%	26.8%
4	やや欠けている	4.0%	4.6%	4.2%	3.9%	3.2%
5	まったく欠けている	0.5%	0.3%	0.7%	0.9%	2.8%

【問13-6】 生活満足度（友人・仲間）（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	十分に満たされている	8.7%	8.6%	8.3%	7.1%	4.7%
2	まあ満たされている	55.2%	58.0%	54.1%	56.1%	57.7%
3	どちらともいえない	26.4%	23.0%	26.8%	27.9%	25.9%
4	やや欠けている	9.2%	9.2%	9.3%	8.6%	9.8%
5	まったく欠けている	0.5%	1.1%	1.5%	0.3%	1.9%

【問13-7】 生活満足度（熱中できる趣味）（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	十分に満たされている	12.8%	14.1%	10.5%	10.1%	14.8%
2	まあ満たされている	36.9%	44.0%	42.9%	41.7%	46.7%
3	どちらともいえない	19.1%	16.4%	21.2%	23.2%	29.0%
4	やや欠けている	25.5%	21.3%	20.0%	20.2%	6.3%
5	まったく欠けている	5.7%	4.3%	5.4%	4.8%	3.2%

【問13-8】 生活満足度（仕事のほりあい）（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	十分に満たされている	7.8%	8.3%	7.0%	7.8%	3.8%
2	まあ満たされている	49.2%	53.2%	47.6%	45.4%	23.3%
3	どちらともいえない	31.9%	28.4%	30.0%	33.1%	41.6%
4	やや欠けている	10.4%	8.9%	12.1%	11.6%	16.4%
5	まったく欠けている	0.7%	1.1%	3.4%	2.1%	14.8%

【問13-10】 生活満足度（自然とのふれあい）（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	十分に満たされている	5.2%	10.9%	6.1%	5.0%	7.6%
2	まあ満たされている	34.4%	36.8%	36.4%	37.4%	47.6%
3	どちらともいえない	22.6%	21.8%	23.8%	36.5%	35.0%
4	やや欠けている	31.1%	25.3%	27.2%	18.4%	7.6%
5	まったく欠けている	6.6%	5.2%	6.6%	2.7%	2.2%

【問13-11】 生活満足度（近隣との交流）（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	十分に満たされている	2.8%	2.3%	1.2%	1.5%	1.3%
2	まあ満たされている	22.9%	24.0%	16.9%	25.0%	26.5%
3	どちらともいえない	28.8%	31.2%	30.3%	30.1%	46.1%
4	やや欠けている	32.5%	29.2%	36.1%	31.5%	19.6%
5	まったく欠けている	13.0%	13.3%	15.5%	11.9%	6.6%

生活の充足感については、「(2)時間的ゆとり」「(3)経済的ゆとり」「(4)精神的ゆとり」「(7)熱中できる趣味」「自然とのふれあい」が年齢とともに増えていく一方、「(5)家族の理解・愛情」「(6)友人・仲間」「(8)仕事のほりあい」「(9)社会的地位」「(11)近隣との交流」については、年齢とともに減少していく。他の世代における本調査結果においては、近年、経済環境と雇用環境が厳しくなる中、「時間的ゆとり」はあるものの「経済的ゆとり」と「精神的ゆとり」が減少している結果となっていた<sup>29</sup>。高度経済成長を経験した団塊世代は、それ以降の年代よりも経済的な恩恵を大きく受けているためと思われる。

定年退職後に仕事の時間が減り自由な時間が増え、家庭で過ごす時間が増える中、「家族の理解・愛情」の充足感が減少しているのは何故なのか。生活の中で仕事の割合が減り、家庭の比重が増えていく中、子どもが独立して同居する家族が減り、今まで以上に「家族の理解・愛情」を求めるようになるが、その期待に対して十分な充足感が得られていないということなのではないだろうか。また、自由な時間が増えたのに「友人・仲間」への充足感も減っている。これは、従来仕事関係としての仲間との付き合いが多かったものが減少し、これに代わる趣味や社会活動での仲間がいないということなのではないかと思われる。「近隣との交

<sup>29</sup> 菅谷和宏(2012)「第5回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査結果～20年間のサラリーマンの生きがいに関する考え方の変化を追って～」『生きがい研究』一般財団法人長寿社会開発センター、第18号：pp.65-97.

流」「社会の役に立つこと」の充足感が減少しているのは、今まで仕事により社会に貢献していたと感じていたものがなくなり、もともと社会参加が少なく近隣との交流が少ないため、社会に役立つ活動もできないのが要因と思われる。

生活に対する充足感の変化については、「時間的ゆとり」「経済的ゆとり」「精神的ゆとり」は増えたものの、「家族の理解・愛情」「友人・仲間」「仕事のほりあい」「社会的地位」などが減り、生活全般に対する充足感が減少している。従来の仕事中心の生活から家庭の比重が増えるにつれ、家庭への期待が高まっているものの、仕事に代わる十分な充足感が得られていない結果と思われる。

【問14-1】 大切だと思うこと（人とのつながり）（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	よくあてはまる	42.9%	51.6%	47.1%	34.0%	21.5%
2	少しあてはまる	50.5%	43.5%	45.7%	54.6%	62.8%
3	あまりあてはまらない	6.0%	4.9%	7.2%	11.0%	14.5%
4	まったくあてはまらない	0.7%	0.0%	0.0%	0.3%	1.3%

【問14-11】 大切だと思うこと（人の意見を聞く）（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	よくあてはまる	23.4%	22.5%	17.1%	11.9%	6.6%
2	少しあてはまる	57.0%	59.8%	62.9%	67.2%	62.5%
3	あまりあてはまらない	18.4%	17.3%	18.8%	19.7%	29.0%
4	まったくあてはまらない	1.2%	0.3%	1.2%	1.2%	1.9%

【問14-12】 大切だと思うこと（上下関係を大切にすること）（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	よくあてはまる	29.7%	25.9%	24.2%	20.0%	4.7%
2	少しあてはまる	54.4%	53.9%	54.2%	64.2%	63.1%
3	あまりあてはまらない	14.1%	19.6%	18.2%	14.6%	28.4%
4	まったくあてはまらない	1.7%	0.6%	3.4%	1.2%	3.8%

大切だと思うことについては「人とのつながり」が40～44歳では「よくあてはまる」が42.9%であるが、60～64歳では21.5%と半分に減少する。「人の意見を聞く」についても、40～44歳では「よくあてはまる」が23.4%であるが、60～64歳では6.6%と大幅に減少する。「上下関係を大切にすること」も同じく40～44歳では「よくあてはまる」が29.7%であるが、定年退職後の60～64歳では4.7%と大きく減少している。大切に思うものの対象が年齢とともに変化していくためと思われるが、この大切と思うものの対象の変化は生きがいの対象の変化にも繋がっていると思われる。人とのつながりが大切でなくなっていくということは、裏返せば人とのつながりがなくなっているためではないかとも考えられる。仕事から引退し人とのつながりがなくなっていく中、新たな人とのつながりが必要であろう。

## 2.7 社会活動への参加状況の変化

### 【問12】 社会活動の参加状況（単一回答）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
	全体	100.0%	-	100.0%	100.0%	100.0%
1	定期的に参加している	7.4%	-	9.2%	6.8%	10.4%
2	ときどき参加している	12.4%	-	10.8%	14.9%	18.6%
3	以前に参加したことがある	10.0%	-	10.6%	10.6%	13.6%
4	参加していない	70.3%	-	69.4%	67.7%	57.4%

社会活動の参加状況は、40～44歳では「定期的に参加している」「ときどき参加している」の合計は19.8%で、60～64歳でも「定期的に参加している」「ときどき参加している」の合計は29.0%で多少増えるものの大きな差はない。

### 【問12-1】 社会活動の参加内容（複数回答）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	地域の生活環境を守る活動	36.1%	-	35.5%	47.1%	53.3%
2	地域のイベントや“村おこし”の活動	31.3%	-	40.8%	38.6%	34.8%
3	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	34.9%	-	31.6%	24.3%	18.5%
4	児童や青少年活動の世話役としての活動	34.9%	-	14.5%	2.9%	9.8%
5	地域の文化財や伝統を守る活動	4.8%	-	9.2%	12.9%	13.0%
6	消費者活動や生活向上のための活動	4.8%	-	2.6%	1.4%	10.9%
7	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	6.0%	-	3.9%	15.7%	17.4%
8	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	0.0%	-	5.3%	2.9%	2.2%
9	自然保護や環境保全の活動	9.6%	-	14.5%	14.3%	13.0%
10	国際交流に関する活動	6.0%	-	3.9%	1.4%	7.6%
11	その他	3.6%	-	3.9%	8.6%	10.9%

社会活動の参加分野は、40～44歳では「趣味・スポーツや学習グループのリーダー」「児童や青少年活動の世話役」などが比較的多いが、60～64歳になると「地域の生活環境を守る活動」が一番多くなる。

### 【問12-2】 社会活動の参加理由（複数回答）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	地域や社会に貢献したい	44.6%	-	47.4%	58.6%	64.1%
2	自分の知識や経験を活かしたい	24.1%	-	23.7%	21.4%	31.5%
3	社会への見聞を広げたい	28.9%	-	14.5%	15.7%	17.4%
4	友人や仲間を増やしたい	24.1%	-	28.9%	21.4%	26.1%
5	生活にはりあいを持たせたい	8.4%	-	10.5%	20.0%	17.4%
6	身近な人に誘われた	27.7%	-	19.7%	21.4%	22.8%
7	会社の勧めや命令	4.8%	-	6.6%	5.7%	0.0%
8	社会人として当然と思った	28.9%	-	25.0%	22.9%	29.3%
9	何となく	1.2%	-	0.0%	1.4%	10.9%
10	その他	1.2%	-	6.6%	11.4%	2.2%

社会活動の参加理由は「地域や社会に貢献したい」が各年齢でも一番多く、特に年齢が上がるにつれその思いは強くなる傾向にある。

【問12-5】 社会活動の不参加理由（複数回答）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	時間がない	50.3%	-	61.4%	39.7%	20.9%
2	経済的余裕がない	10.7%	-	9.2%	9.5%	14.2%
3	精神的なゆとりがない	24.0%	-	20.5%	25.8%	21.8%
4	健康や体力に自信がない	5.9%	-	7.9%	12.3%	33.3%
5	家族など周囲の理解や協力が得られない	1.8%	-	1.3%	0.8%	4.4%
6	自分にあった活動の場がない	21.0%	-	13.5%	23.0%	51.6%
7	一緒にやる仲間がいない	10.7%	-	8.6%	11.5%	28.0%
8	何から始めるか、きっかけがつかめない	35.2%	-	35.3%	52.4%	44.9%
9	興味がない、関心がない	22.5%	-	10.2%	18.3%	31.1%
10	その他	2.4%	-	5.3%	2.4%	3.6%

社会活動の不参加理由は、40～44歳では「時間がない」とする回答が一番多いが、54～59歳でその割合は減少し、60～64歳ではさらに減少する。一方、60～64歳では「自分に合った活動の場がない」「何から始めるかきっかけがつかめない」「健康や体力に自信がない」が多くなる。

【問12-6】 社会活動への今後の参加意向（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	-	100.0%	100.0%	100.0%
1	積極的に参加したい	4.5%	-	7.7%	6.4%	2.7%
2	条件によっては参加してもよい	58.6%	-	59.0%	65.7%	56.4%
3	参加するつもりはない	13.1%	-	8.3%	8.4%	23.1%
4	わからない	23.8%	-	25.0%	19.5%	17.8%

地域活動やボランティア活動に参加していない人に対して今後の参加意思について聞いたところ「条件によっては参加してもよい」が全年代で約6割近くを占めており年齢による大きな変化はない。社会参加について拒否しているものではなく、機会があれば参加する意思はあることが分かる。社会参加には、やはり「きっかけ」作りが必要であり、「きっかけ」作りが社会参加への第一歩となる。過去の調査結果からも、社会活動への参加が生きがいの保有に繋がることが指摘されており、定年退職後における社会参加の「きっかけ」作りが大切である。前述の仕事から引退し人とのつながりがなくなる中、社会活動への参加が新たな人とのつながりを見つけることに繋がる。

## 2.8 生きがいの保有率と生きがいの対象の変化

### 【問15-1】 生きがいの意味（複数回答）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	生活の活力やはりあい	35.5%	24.4%	28.2%	30.4%	28.1%
2	生活のリズムやメリハリ	7.6%	8.1%	7.2%	11.9%	12.9%
3	心の安らぎや気晴らし	22.5%	20.9%	23.0%	28.1%	27.1%
4	生きる喜びや満足感	47.0%	42.7%	42.3%	42.7%	43.5%
5	人生観や価値観の形成	11.1%	7.8%	9.8%	9.3%	12.6%
6	生きる目標や目的	29.6%	25.9%	17.2%	19.1%	14.5%
7	自分自身の向上	25.8%	16.0%	19.9%	14.6%	12.9%
8	自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる事	-	28.2%	31.1%	24.8%	23.3%
9	他人や社会の役に立っていると感じる事	15.4%	17.4%	15.1%	13.7%	11.7%
10	その他	0.2%	0.3%	0.0%	0.9%	0.0%

### 【問15-2】 生きがいの有無（単一回答）

		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
全体		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
1	持っている	59.0%	72.8%	62.1%	58.0%	57.1%
2	前は持っていたが、今は持っていない	6.0%	5.8%	7.7%	8.8%	13.2%
3	持っていない	19.8%	11.6%	10.4%	15.1%	14.2%
4	わからない	15.2%	9.9%	19.8%	18.1%	15.5%

生きがいの意味については、40～44歳では「生きる喜びや満足感」「生活の活力やはりあい」が多いが、60～64歳になるとその割合が減少し、これ以外の「生活のリズムやメリハリ」「心のやすらぎや気晴らし」が増えてくる。仕事をしている間は、「生活の活力」やそれ自身が「目的」として捉えられているが、定年退職後は生きがいの意味が「生活のリズムとメリハリ」という、生活するための手段という意味に置き換わってきており、「心のやすらぎ」の場を求めているのではないであろうか。

生きがいの有無については、40～44歳では「持っている」割合が59.0%から60～64歳では57.1%に減少し、逆に「前は持っていたが今は持っていない」が40～44歳の6%から55～59歳で8.8%、60～64歳では13.2%に増加する。これは定年退職し継続雇用に変わると仕事に対する生きがいが減少するという事ではないであろうか。65歳で仕事から引退するとさらに生きがいを失う事になるのではないであろうか。定年退職後や仕事から完全に引退する65歳以降は仕事に代わる生きがいを見つけることが必要となる。

【問16】 生きがいの対象（複数回答）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	仕事	-	39.8%	43.3%	30.2%	15.1%
2	趣味	-	33.7%	41.3%	42.2%	52.7%
3	スポーツ	-	13.5%	16.6%	14.1%	14.8%
4	学習活動	-	2.9%	3.8%	5.1%	3.8%
5	社会活動（ボランティア含む）	-	3.2%	3.8%	6.3%	6.6%
6	自然とのふれあい	-	14.4%	19.7%	21.3%	22.7%
7	配偶者・結婚生活	-	15.0%	25.7%	23.1%	23.7%
8	子ども・孫・親などの家族・家庭	-	35.7%	54.3%	48.2%	39.1%
9	友人など家族以外の人との交流	-	10.7%	16.8%	18.0%	18.3%
10	自分自身の健康づくり	-	8.4%	10.8%	18.6%	19.2%
11	ひとりで気ままに過ごすこと	-	6.3%	10.8%	14.7%	19.2%
12	自分自身の内面の充実	-	9.5%	14.2%	15.3%	13.2%
13	その他	-	0.6%	0.5%	0.3%	1.3%

生きがいの対象については、45～49歳と50～54歳では「仕事」が一番多いが、55～59歳になると減少し、60～64歳ではさらに大きく減少する。一方「趣味」は45～49歳から年齢とともに徐々に増加し、60～64歳で大きく増加する。「家族・家庭」は45～49歳から50～54歳まで増加するが55～59歳になると一転して減少に転じ、60～64歳ではさらに大きく減少する。これは55～59歳頃に子どもが独立するためと思われる。その他「自然とのふれあい」「家族以外の人との交流」「自分自身の健康作り」「ひとりで気ままに過ごすこと」については年齢とともに増加していく。

【問17-1】 生きがいを得られる場（生活のほりあいや活力を得られる場）（複数回答）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	家庭	80.2%	79.5%	73.8%	67.2%	65.3%
2	仕事・会社	65.5%	63.4%	55.9%	52.8%	18.0%
3	地域・近隣	1.4%	2.4%	2.2%	3.6%	7.9%
4	個人的友人	17.6%	17.2%	21.8%	19.1%	22.7%
5	世間・社会	3.1%	3.9%	2.0%	4.5%	7.3%
6	その他	4.0%	2.7%	5.2%	4.8%	10.4%
7	どこにもない	0.7%	1.2%	0.7%	1.2%	5.4%

【問17-2】 生きがいを得られる場（生活のリズムを得られる場）（複数回答）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	家庭	-	50.5%	51.7%	44.7%	46.4%
2	仕事・会社	-	74.9%	69.3%	66.7%	28.1%
3	地域・近隣	-	4.5%	3.0%	3.0%	8.2%
4	個人的友人	-	13.3%	13.9%	15.9%	16.1%
5	世間・社会	-	6.6%	4.5%	8.7%	10.4%
6	その他	-	5.7%	6.4%	3.3%	9.1%
7	どこにもない	-	1.5%	1.7%	1.2%	7.9%

【問17-3】 生きがいを得られる場（心のやすらぎを得られる場）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	家庭	87.3%	86.6%	81.8%	79.9%	71.3%
2	仕事・会社	7.5%	8.4%	6.2%	5.4%	2.5%
3	地域・近隣	2.8%	6.3%	3.2%	2.7%	4.1%
4	個人的友人	40.1%	39.1%	41.6%	39.2%	28.4%
5	世間・社会	2.8%	3.9%	3.0%	3.3%	3.2%
6	その他	13.4%	13.1%	14.0%	9.9%	12.0%
7	どこにもない	0.5%	0.6%	1.0%	1.5%	6.3%

【問17-4】 生きがいを得られる場（喜びや満足感を得られる場）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	家庭	65.5%	70.0%	65.5%	68.3%	62.1%
2	仕事・会社	62.2%	52.3%	49.0%	37.4%	12.3%
3	地域・近隣	2.7%	3.1%	3.9%	3.9%	9.1%
4	個人的友人	12.8%	16.8%	22.2%	23.1%	22.4%
5	世間・社会	5.1%	6.4%	5.4%	4.2%	7.9%
6	その他	7.2%	9.5%	7.1%	9.9%	11.0%
7	どこにもない	2.4%	1.5%	1.7%	2.1%	8.5%

【問17-5】 生きがいを得られる場（人生観や価値観に影響を与える場）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	家庭	27.5%	34.8%	34.8%	35.0%	38.5%
2	仕事・会社	56.7%	53.3%	51.1%	42.5%	14.2%
3	地域・近隣	4.5%	3.6%	3.8%	5.7%	6.9%
4	個人的友人	28.9%	30.9%	29.6%	29.6%	28.1%
5	世間・社会	32.8%	28.8%	26.6%	25.4%	22.7%
6	その他	6.7%	5.2%	7.3%	7.5%	7.3%
7	どこにもない	2.6%	4.8%	2.5%	3.6%	11.0%

【問17-6】 生きがいを得られる場（生活の目標や目的を得られる場）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	家庭	78.9%	80.7%	77.1%	68.0%	57.7%
2	仕事・会社	50.5%	50.2%	44.6%	39.2%	14.5%
3	地域・近隣	2.4%	3.9%	2.7%	4.8%	6.9%
4	個人的友人	2.9%	3.9%	5.7%	7.2%	7.3%
5	世間・社会	14.4%	16.3%	14.5%	15.0%	16.4%
6	その他	5.3%	4.5%	6.0%	5.7%	12.9%
7	どこにもない	2.9%	2.1%	1.0%	2.1%	8.8%

【問17-7】 生きがいを得られる場（自分自身を向上させてくれる場）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	家庭	15.8%	19.6%	19.4%	17.9%	24.0%
2	仕事・会社	81.1%	76.1%	76.9%	69.3%	25.9%
3	地域・近隣	6.9%	6.3%	6.2%	6.0%	10.4%
4	個人的友人	12.2%	16.3%	18.7%	16.4%	15.8%
5	世間・社会	34.7%	29.3%	25.4%	27.8%	28.7%
6	その他	4.8%	6.6%	6.5%	6.3%	10.7%
7	どこにもない	1.9%	2.7%	1.5%	2.7%	11.0%

【問17-8】 生きがいを得られる場（自分の可能性を実現し達成感を得られる場）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	家庭	15.5%	19.7%	21.9%	21.6%	27.8%
2	仕事・会社	89.7%	85.5%	80.5%	77.2%	32.2%
3	地域・近隣	6.7%	6.7%	6.4%	4.5%	9.1%
4	個人的友人	4.1%	3.3%	4.7%	4.8%	9.5%
5	世間・社会	16.5%	22.1%	17.0%	15.6%	21.8%
6	その他	7.6%	8.5%	10.6%	9.6%	13.6%
7	どこにもない	4.1%	2.7%	2.2%	5.1%	12.0%

【問17-9】 生きがいを得られる場（自分が役に立っていると感ぜられる場）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	家庭	38.6%	45.3%	42.2%	36.5%	37.9%
2	仕事・会社	86.0%	80.5%	75.8%	74.9%	29.3%
3	地域・近隣	6.7%	10.2%	7.2%	8.1%	14.5%
4	個人的友人	6.9%	5.4%	7.9%	8.1%	12.9%
5	世間・社会	11.4%	9.6%	12.3%	9.6%	18.0%
6	その他	2.6%	5.1%	4.2%	4.8%	5.0%
7	どこにもない	4.3%	2.1%	3.2%	3.9%	12.9%

生きがいを得られる場については、全ての項目で「仕事・会社」が減少しており、特に大きく減少しているのは、「(4)喜びや満足感を得られる場」「(7)自分自身を向上させてくれる場」「(8)自分の可能性を実現し達成感を得られる場」の3つである。「家庭」については全般的に減少しているが、「(5)人生観や価値観に影響を与える場」「(7)自分自身を向上させてくれる場」「(8)自分の可能性を実現し達成感を得られる場」で増加している。

一方、全ての項目で増加しているのは「地域・近隣」であるが増加割合はわずかである。増加割合は小さいものの「(3)心のやすらぎを得られる場」で増加しているのは「地域・近隣」と「世間・社会」である。「個人的友人」は「(3)心のやすらぎを得られる場」「(5)人生観や価値観に影響を与える場」を除いてわずかだが増加している。皮肉なことに唯一大きく増加している項目は生きがいが「どこにもない」で、全ての項目で40～44歳時から60～64歳時で約4～12倍に増加している。

団塊世代は高度経済成長期の中、「仕事・会社」に生きがいを感じ、仕事に喜びや満足感を得ていたが、定年退職後に継続雇用となったり仕事から引退すると、今まで自分の人生観や価値観を作り、自分を向上させてくれた「仕事・会社」がなくなり、仕事にかわる生きがいを見いだせないでいるのではないか。就業している間は生きがいを「仕事・会社」で得られ、自己実現やその評価の場として「仕事・会社」に拠り所を求めることができる。しかし、仕事なくなった時に、これに代わる生きがいの場を得られていない。仕事に代わる生きがいを求めているものの「家庭」「地域・近隣」「個人的友人」「世間・社会」ともにその代替には成り得てはいない状況と思われる。そのため、若い頃から「仕事・会社」以外の生きがいの場を持って生活していくことが、定年退職後の生きがいの喪失を防ぐことになる。若い頃から自分の生きがいを模索し、「仕事・会社」以外の生きがいを見つけることが、将来の豊かな人生に繋がるものである。

【問22-1】 定年退職に向けて必要なこと（個人として）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	健康の維持・増進を心がける	56.4%	61.4%	63.4%	83.1%	59.9%
2	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	60.4%	47.2%	51.7%	47.5%	63.7%
3	生涯楽しめる趣味などを持つ	35.1%	29.9%	27.8%	49.3%	51.7%
4	定年後も活かせる専門的技術を身につける	12.6%	13.9%	10.3%	11.1%	11.4%
5	夫婦・家族の関係を大切にする	8.8%	16.8%	16.3%	37.3%	30.9%
6	友人や仲間との交流を深める	7.1%	8.4%	6.9%	19.2%	18.9%
7	近隣や地域の人との交流を深める	4.0%	5.8%	6.9%	13.4%	6.0%
8	会社以外の活動の場をつくっておく	11.8%	12.8%	14.4%	24.8%	16.4%
9	その他	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10	特に何も必要ない	0.7%	0.9%	0.7%	0.9%	6.0%

【問22-2】 定年退職に向けて必要なこと（企業に対して）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	退職準備教育や退職相談を充実させる	19.1%	25.2%	23.1%	32.6%	32.5%
2	企業年金充実や持家取得援助、社員の経済的基盤充実に力を入れる	62.7%	42.8%	37.0%	43.1%	44.5%
3	労働時間短縮などで、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	30.1%	18.8%	20.0%	24.9%	16.1%
4	中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	15.1%	17.9%	16.1%	22.0%	25.9%
5	希望者には定年年齢を延長させる	10.8%	24.3%	27.2%	44.9%	52.4%
6	定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	24.2%	25.2%	29.3%	51.6%	51.4%
7	ボランティア休暇など社会活動や余暇活動奨励や支援制度を設ける	12.0%	12.9%	10.1%	18.2%	18.3%
8	定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	5.3%	9.1%	11.3%	15.8%	18.0%
9	退職に向けたセミナーの充実	-	-	-	29.6%	24.9%
10	その他	0.0%	0.3%	0.5%	1.2%	0.9%
11	特に何も必要ない	1.9%	3.8%	4.3%	4.4%	9.8%

【問22-3】 定年退職に向けて必要なこと（社会に対して）

全体		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
1	できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	39.6%	52.8%	45.7%	58.9%	58.4%
2	定年退職者の能力を活かす場を増やす	48.7%	48.1%	48.3%	61.6%	59.0%
3	サラリーマンOBが気軽に出入りできる交流の場をつくる	12.9%	8.8%	7.9%	16.4%	17.0%
4	趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	34.5%	28.7%	28.5%	41.3%	36.3%
5	中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	20.9%	27.0%	22.0%	35.2%	28.4%
6	退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる	25.4%	11.7%	16.5%	21.4%	28.7%
7	その他	0.5%	0.3%	1.0%	1.2%	0.9%
8	特に何も必要ない	0.5%	2.3%	3.3%	4.1%	7.9%

定年退職に向けて個人として必要なことは、年齢が上がるにつれ「生涯楽しめる趣味などを持つ」「夫婦・家族の関係を大切にする」「友人や仲間との交流を深める」「会社以外の活動の場を作っていく」などが増加していく。やはり定年退職に向けて仕事に代わる活躍の場を事前に捜しておくことが必要ということである。

定年退職に向けて企業として必要なことは、年齢とともに「希望者には定年年齢を延長させる」「定年後の再雇用など、再就職の場を用意する」が大きく増加しており、「中高年者の能力開発や研修制度を充実させる」も増えており、定年退職後も働ける場と自分の能力を活かせる場が求められ、さらに自分の能力開発もしたいと考えられている。また、「退職準備教育や退職相談を充実させる」も年齢とともに増加し、定年退職に向けた事前の準備が必要であることが分かる。企業として退職後の生活不安を少しでも和らげるような社員教育が必要となる。

定年退職に向けて社会に求めるものは、「希望する年齢までの雇用環境」「定年退職者の能力を活かす場を増やす」が年齢とともに増加する。やはり定年退職後も働ける場と能力を活かせる場が求められているということである。このことから定年退職後も何らかの仕事を続けたいという意欲が伺える。

### 3 調査結果からの考察

#### 3.1 調査結果から見えること

経済環境が低迷している中、5年前と比べて生活が苦しくなったと感じているサラリーマンは第5回調査の全対象者では43.8%であったが<sup>30</sup>、団塊世代については若い頃に高度経済成長を肌で感じ、高度経済成長の恩恵を受けた世代であるためか「経済的ゆとり」は増えたと考えられていた。また、丁度定年間際に「高年齢者等の雇用の安定に関する法」の改正施行（2004年）がなされ、60歳定年後も継続雇用制度により仕事の間を得られた。経済環境が厳しい中、サラリーマンの年収は減少し、終身雇用や年功序列型賃金が崩れ、能力主義による賃金体系の採用により管理職になれないサラリーマン層が増え、「賃金」と「職場での地位の高さ」への不満が増加している中、このような人事制度改革を管理職になった後に受けた団塊

<sup>30</sup> 公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構(2012)『第5回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査～サラリーマンシニアを中心として～』公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構。

世代では賃金や職場での地位に対する不満度も違っている。公的年金の支給開始年齢が 65 歳に徐々に引き上げられていく中、団塊の世代は特別支給の老齢厚生年金の報酬比例部分が 60 歳から支給され、定額部分については生年月日によって男性は 63 歳～65 歳支給開始、女性は 61 歳～62 歳支給開始となっている<sup>31</sup>。これからのサラリーマンが公的年金の支給開始年齢が完全に 65 歳となることと比較しても恵まれた世代と言えよう。

一方、高度経済成長期に「仕事・会社」に多くの時間を費やし、「仕事・会社」に生きがいを感じ、そこから充足感を得ていた団塊の世代は、定年退職後に仕事の時間が減り、自由時間が増える中、「趣味」「家庭」に時間を費やすようになる。しかし、今まで「仕事・会社」から得ていた充足感に代わるだけのものを「家族の理解」「友人・仲間」「仕事のほりあい」「社会的地位」から得られず、生活全般に対する充足感が減少している。従来の「仕事・会社」中心の生活から「家庭」の比重が増えるにつれ、「家庭」への期待が高まるものの、仕事に代わる十分な充足感が得られる場が得られていないということであろう。そのため、生きがいの意味として「生きる喜びや満足感」が減少する中、生きがいの保有率も減少してきている。生きがいの対象が「仕事・会社」から「趣味」「家庭」「自分」に変わり、自分の人生観や価値観を作り自分を向上させる場も「仕事・会社」から「家庭」に変わってきているが、「仕事・会社」に代わりうる生きがいの場を十分に得られていない。また、生きがいの場を「どこにもない」とする割合も増えてきている。

団塊の世代から見えることは、サラリーマンにとって「仕事・会社」以外の場で生きがいを持てる場が必要であるということである。経済環境や雇用環境が変化していく中、生活満足度や生きがいについて「仕事」で得られることが減っており、その代わりとなりうるものが需要である。「仕事」以外の生きがいの場をどこに求めたらよいのであろうか。

### 3.2 生きがいにおける「社会活動への参加」の重要性

第 1 回調査結果で「社会活動に参加している人は生活に充足感を感じ、生きがいを持つ人が多い」と指摘され、年金シニアプラン総合研究機構「シニアの社会参加と行きがいに関する事業(2011)」研究でも、「社会参加が定年退職後の生活満足度と生きがいを高める」とした<sup>32</sup>。しかし、「社会参加」の現状については、第 5 回調査結果からも定期的に参加している人は 1 割にも満たない状況であり、半数以上が社会活動に参加していない状況であった。

「仕事」に代わる生きがいをどのように見出すのか。そのひとつの答えは「地域」「社会」であると考えられる。「地域」「社会」から充足感を得て、生きがいを得られる場とするためにはどうしたらよいのか。「地域」「社会」への社会活動への参加をいかに高めていけばよいので

<sup>31</sup> 公的年金の 65 歳支給開始に伴い経過措置として厚生年金保険制度から男性 1961.4.1 以前生まれ、女性 1966.4.1 以前生まれの人に対して「特別支給の老齢厚生年金」が支給される。現在、生年月日に応じて定額部分と報酬比例部分の支給開始年齢が段階的に 65 歳まで引き上げられている。団塊世代について報酬比例部分は 60 歳から支給されるが、定額部分については男性 1945.4.2～1947.4.1 生まれは 63 歳、1947.4.2～1949.4.1 生まれは 64 歳、1949.4.2～1953.4.1 生まれは 65 歳、女性 1946.4.2～1948.4.1 生まれは 61 歳、1948.4.2～1950.4.1 生まれは 62 歳支給開始となっている。

<sup>32</sup> 西村純一(2011)『シニアの社会参加と生きがいに関する事業』財団法人年金シニアプラン総合研究機構、pp.25-44.

あろうか。「社会活動への参加」については年齢に関係なく低い状況ではあるが、「社会活動への参加」を拒否しているものではなく、きっかけさえあれば参加してもよいと考えられていた。社会活動の参加へのきっかけ作りとその仕組み作りが必要である。現状では何か自分にできるものはないか考えてはいるものの、「自分に合った活動の場が見つからない」「何かから始めるかきっかけがつかめない」と考えられており、そのうちに高齢になると「健康や体力に自信がない」状況となり、そのまま社会活動への参加を断念していく結果となっている。

内閣府の「平成 22 年度 第 7 回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果(2010)」<sup>33</sup>によると、社会活動への参加状況は、日本はドイツ、米国などと比べて低いものの参加しない理由として「時間的・精神的ゆとりがない」が 32.2%と多く、「関心がない」とする割合は米国、ドイツよりも低く 15.9%である。今回の調査結果でも「社会活動への参加」を拒否しているものではなく、「きっかけさえあれば参加してもよい」と考えられていた。若い頃は地域のイベントや子どものサークルなどを通して社会参加する機会があり、ここでの関係をその後も続けていけるかどうかの一つの鍵となろう。そのまま、社会活動に関与していければ、定年後には「仕事」に代わる生きがいの場が得られるが、若い頃の社会参加を途中でやめたり、若い頃の社会参加がないまま定年退職すると、なかなか社会活動への参加ができない状況となってしまう。定年退職後は新しい活動の場を切り開いていく必要があると思われるが、退職後の新たな活動の場を退職前から考えている人は少ないと思われ、若い頃から色々な社会活動に興味を持って参加し、その中から将来続けられそうな自分に合った社会活動を探していくことが定年退職後の社会参加に繋がる。高齢期のライフスタイルは若年期からの生活習慣の積み重ねの上に成り立ち(Elder, 1974)、若い時期からの社会との関わり方に左右される(前田, 2011)<sup>34</sup>。また、高齢期では移動可能な距離が小さくなり(前田, 2006)<sup>35</sup>、近隣地域の重要性が増すため、社会活動への参加による近隣地域との関係維持が大切となる。社会参加の機会が増えれば高齢期の生きがいは維持され(和田, 1988)、若い頃から社会参加への「きっかけ」作りを行い、地域社会との社会的ネットワークを構築していくことが定年退職後の生きがいにも繋がる。

生きがいとは生活に対する「心の張り」「充実感」「幸福感」「満足感」であると言われている(直井道子, 2004)<sup>36</sup>。今までサラリーマンの生活の大部分を占めていた「仕事」の割合が小さくなり、仕事に代わる新しい生きがいを見出す必要がある。生きがいは、それが自分にとっての「心の張り」になり、そこから「充実感」「満足感」が得られ、「心のやすらぎを得られる場」となる。それこそがその人にとっての生きがいとなる。生きがいを見つけることこそ生きがいを持った生活の第一歩となる。

<sup>33</sup> 内閣府(2010)『平成 22 年度 第 7 回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果』  
(<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h22/kiso/zentai/index.html>, 2013.2.20).

<sup>34</sup> 前田信彦(2011)『シニアの社会参加と生きがいに関する事業』財団法人年金シニアプラン総合研究機構, pp.45-60.

<sup>35</sup> 前田信彦(2006)『アクティブ・エイジングの社会学』ミネルバヴァ書房, p.186.

<sup>36</sup> 直井道子(2004)「高齢者の生きがいと家族」『生きがい研究』財団法人長寿社会開発センター, 第 10 号: p.21.

### 3.3 生きがいのある社会の構築に向けて

定年退職後のサラリーマンが生きがいを持って生活するためには、現役時代に培った能力を活かせる場が必要となる。せっかくの能力を無駄にするのは惜しいことであり、活かせる場がないのは、社会全体にとっても損失である。日本の高齢化は今後も進展し、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、高齢化率は2035年に33.7%<sup>37</sup>に達し、3人に1人が65歳以上の時代となる。定年退職者の能力を活かす場を作ることが、今後の日本の高齢社会への対応策にも繋がる。少子高齢化による人口構造の変化と超高齢社会に対応していくため、これら能力を持った定年退職者が地域社会の基盤となり、高齢化する地域社会を支える役割を担っていく必要がある。定年退職後は企業労働のみならず、社会活動などのアンペイド・ワーク<sup>38</sup>を行うことが社会にとっても有用であるとされている（前田，2006）。WHOでも高齢期の生活の質(quality of life)を高めるため、社会的、経済的、文化的、精神的な活動や社会活動への参加を継続し、「健康(Health)」「参加(Participation)」「安全(Security)」のための機会を最大化する「アクティブ・エイジング(Active Ageing)」を推奨している<sup>39</sup>。個人の生活様式が多様化する中、自分の生活様式に合った定年退職後の働き方や社会参加の仕方を模索し、定年退職後も自分の能力を活かしていく場を見つけることが生きがいの保有にも繋がる。そのためには、定年退職者が能力を活かせる場の整備と、社会参加のしやすい環境の整備が必要である。

### 3.4 企業と社会に求められること

定年退職後を豊かに過ごすためには、「健康の維持増進」「経済基盤」「生涯楽しめる趣味」が必要とされており、実際に定年退職を経験した団塊の世代からも「退職準備教育」の必要性が挙げられていた。第2回調査結果でも、「将来の生活設計がしっかりできている人ほど将来の生活に不安が少なく、定年退職後も生きがいを持って生活しており、将来の生活設計をしっかり持つことが大切である」と指摘している。将来の定年退職後の生活不安を少しでも解消するため、定年退職に向けた従業員教育が必要となる。若い頃から定年退職に向けた準備を始め、定年退職後の生活設計を早い段階から行うことが将来の豊かな老後生活に繋がる。企業と社会は「ライフプランセミナー」の重要性を再認識し、若い年齢からの生活設計と定年退職に向けた準備を支援していくことが必要である。そして、自分で定年退職後の生活設計を作成する必要性を認識させ、自らのライフプランを考えることが求められている。

また、定年退職後の豊かな生活のためには経済基盤の充実が必要となる。定年退職後の経済基盤としては基本的に公的年金に頼ることになる。サラリーマンであれば老齢基礎年金と老齢厚生年金が支給される。さらに一部の企業では公的年金を補完する企業年金を実施しており、企業年金を受給できる。しかし、昨今の経済環境の悪化により企業年金を廃止する企

<sup>37</sup> 内閣府(2011)『平成23年版 高齢社会白書』

([http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/23pdf\\_index.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2011/zenbun/23pdf_index.html), 2013.2.20).

<sup>38</sup> アンペイド・ワークとは、経済的な利益を生み出す賃金労働と対比し、金銭的な対価を伴わない無償労働のことで、家事・育児・介護・看護などの家庭内労働や、ボランティア活動などの社会活動を指す。

<sup>39</sup> 前田信彦(2006)『アクティブ・エイジングの社会学』ミネルバヴァ書房、p.9.

業が増えている。また、現在、中小企業が多く加入している厚生年金基金ではAIJ問題を契機として厚生年金基金の財政悪化への対応から厚生年金基金制度の廃止が検討され、2013年6月19日の参議院本会議で厚生年金基金の廃止を促進する「改正厚生年金保険法」が可決、成立した。この法案により現在555ある厚生年金基金のいくつかが解散を選択することになり、企業年金がさらに減少することになる。厚生年金基金の受皿をどうするのかについては緊急の課題である。企業年金がない人々が現在加入できる既存の年金制度の周知とともに、これらの人々が自ら進んで加入するような税の優遇などによる新たな私的年金の枠組みの構築が必要と考える。諸外国では既に公的年金の機能を補完する私的年金制度が推進されており、米国のIRA (Individual Retirement Account : 個人退職勘定)、イギリスのNEST (National Employment Saving Trust : 国家雇用貯蓄信託)<sup>40</sup>、ドイツのリースター年金 (Riester Rente)<sup>41</sup>などを参考に新たな税制優遇 (所得控除または直接補助) による個人貯蓄の枠組みを構築し、個人の自助努力による公的年金の補完を進めることが国民の豊かな老後生活にも繋がると考える。

### 3.5 おわりに

団塊の世代における仕事や生活に対する満足度、生きがいの推移などをみてきたが、今後のサラリーマンが生きがいを持てる社会へのヒントが隠されているように思われる。サラリーマンにとって就業中は「仕事」から充足感を得て、「仕事」に行きがいを見出すことができる。しかし、定年退職後は「仕事」に代わる生きがいの場が必要である。生きがいは、個人の生活や心理的要素が複雑に影響するものであり、それ自体非常に多様性を持つものである。また、年齢とともに生活が変化し、それに伴い生きがいの意味や価値観も変化していく。経済環境や雇用環境が変化し多様化していく中、生きがいの意味や価値観も変化してきており、多様化する社会に対応できるような生きがい感の構築が必要となる。生きがいの重心が「仕事」から他のものに変化していく中、「仕事」に代わる生きがいをどこで得られるかが重要となる。

特に定年退職後のサラリーマンが生きがいを持って生活するためには、①「仕事」に代わる生きがいを見つけるための「きっかけ」作り、②定年退職者の能力を活かせる場の提供、③定年退職後に向けた生活設計 (ライフプラン)、④定年退職後の「経済基盤」(公的年金を

---

<sup>40</sup> NEST (国家雇用貯蓄信託)とは、職域年金未加入者を強制的に加入させることにより、低所得者の老後資金の積み立て促進を目的としたもの。財源は被用者本人と事業主がそれぞれ税引き後所得 (年間5000~3万3500ポンド)の4%、3%を保険料として負担し、政府が減税措置の形で1%を拠出することで賄われる。杉田浩治「自動加入方式を採用する英国の新個人年金制度」([http://www.jsri.or.jp/web/topics/pdf/1001\\_01.pdf](http://www.jsri.or.jp/web/topics/pdf/1001_01.pdf), 2013.2.20).

<sup>41</sup> リースター年金 (Riester Rente)とは、ドイツの2001年年金改革において公的年金の給付水準の引き下げが行われ、公的年金を補完する目的で、2002年1月に任意加入の個人積立勘定 (拠出建て)による補足的老後保障制度として導入されたもの。加入者の掛金に対して政府が補助金支給または所得控除 (保険料の所得控除)を行う。低所得者ほど政府の補助が手厚くなり、低所得者には補助金支給、高所得者には所得控除が自動的に行われる仕組み。拠出上限 (2010年までに4%へ段階的に引き上げ)が設定されている。加入対象者は公的年金の強制被保険者であり、任意加入者等は除外となっている。小笠原章・中嶋邦夫「私的年金が強化されるドイツ年金制度」ニッセイ基礎研 REPORT 2006.12より抜粋。  
(<http://www.nli-research.co.jp/report/report/2006/12/li0612b.pdf>, 2013.2.20).

補完する私的年金の推進)が必要である。

今後、わが国では総人口が減少し労働力人口も減少していく中、団塊の世代が本格的に高齢者の仲間入りをして 65 歳以上人口が増えていく。高齢化の進展とともに超高齢化社会における介護問題や災害時要援護者対策<sup>42</sup>などへの対策が必要となっている。これらの課題への対応策として定年退職した新たな労働力を社会に還元する仕組み作りと制度作りが必要であり、団塊の世代を始めとする新たな労働力を「地域」「社会」のために活用していくことが、今後の日本の超高齢化社会への対応策にも繋がっていくものと思われる。

国は高齢化社会に備えて、1989年に「ゴールドプラン(高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略)」を策定し、特別養護老人ホーム・デイサービス・ショートステイなどの施設の緊急整備、ホームヘルパーの養成などによる在宅福祉の推進などが掲げられた。しかし、高齢化が急速に進んだため、1994年には「新ゴールドプラン(高齢者保健福祉5ヵ年計画)」が策定され、2000年4月の介護保険制度の導入に向けた在宅介護の充実を目指し、ヘルパー17万人確保、訪問看護ステーション5,000箇所設置などを目標とした。その後、2000年には介護保険制度を推進し高齢者の保健福祉施策の充実を図るため「ゴールドプラン21(高齢者保健福祉5ヵ年計画)」<sup>43</sup>が策定された。これは「活力ある高齢者像の構築」、「高齢者の尊厳の確保と自立支援」、「支え合う地域社会の形成」、「利用者から信頼される介護サービスの確立」の四つの目標が掲げられた。介護サービスの基盤整備と生活支援対策などが位置付けられ、グループホームの整備などが進められている。1995年に制定された「高齢社会対策基本法」<sup>44</sup>第9条3項では、「国は、高齢期のより豊かな生活の実現に資するため、国民の自主的な努力による資産の形成等を支援するよう必要な施策を講ずるものとする。」とされている。さらに、同法第11条2項においては、「国は、活力ある地域社会の形成を図るため、高齢者の社会的活動への参加を促進し、及びボランティア活動の基盤を整備するよう必要な施策を講ずるものとする。」と規定されている。

活力ある地域社会の形成のため、定年退職者の社会参加を促すような施策の推進が必要であり、団塊の世代を始めとする力を今後の超高齢化社会への活力「アクティブ・エイジング(Active Ageing)」としていくことが求められている。

---

<sup>42</sup> 政府は高齢者等の災害時要援護者の避難支援などについて検討を進め、「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」を平成17年3月に取りまとめた。防災基本計画に要援護者対策の必要性を明記するとともに、避難所における支援等を中心にガイドラインの改訂を行い、各市町村を中心とした取組の促進に努めている。

(<http://www.bousai.go.jp/taisaku/hisaisyagousei/youengosya/index.html>,2013.7.2)

<sup>43</sup> 厚生労働省(1999)「報道発表資料」1999.12.21

([http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1112/h1221-2\\_17.html](http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1112/h1221-2_17.html),2013.7.2).

<sup>44</sup> 高齢社会対策基本法は、「国民一人一人が生涯にわたって安心して生きがいを持って過ごすことができる社会を目指して、あるべき高齢社会の姿を明らかにするとともに、高齢社会対策の基本的方向性を示すことによって、高齢社会対策を総合的に推進する」ことを目的に1995年11月制定。

([http://www8.cao.go.jp/kourei/measure/a\\_3.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/measure/a_3.html), 2013.2.20).

## 参考文献

- 安達正嗣 (2004) 「高齢者の生きがいとしての家族・親族・地域関係の再構築」『生きがい研究』財団法人長寿社会開発センター, 第10号: pp.52-64.
- 大沢真知子 (2010) 『日本型ワーキングプアの本質－多様性を包み込む社会へー』岩波書店.
- 厚生労働省 (1999) 「報道発表資料」1999.12.21  
([http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1112/h1221-2\\_17.html](http://www1.mhlw.go.jp/houdou/1112/h1221-2_17.html),2013.7.2).
- ——— (2004) 『平成16年高年齢者就業実態調査結果の概況』  
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/keitai/04/index.html> ', 2011.12.7).
- ——— (2007) 『(2005～2006)海外情勢報告』  
(<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/08/>,2013.7.2).
- ——— (2007) 『平成19年度 公的年金財政状況報告』  
(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/11/s1127-19.html> ', 2011.12.7).
- ——— (2009) 『平成21年簡易生命表の概況について』  
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life09/01.html>,2011.3.23).
- ——— (2010) 『平成22年就業形態の多様化に関する総合実態調査』  
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/5-22.html>, 2011.12.7).
- ——— (2010) 『平成22年簡易生命表の概況について』  
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life10/01.html>,2012.3.23).
- ——— (2010) 『平成22年都道府県別生命表の概況』  
(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/tdfk10/dl/07.pdf>,2013.7.2).
- ——— (2010) 『平成22年版 厚生労働白書』  
(<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/10-2/kousei-data/siryou/sh10010100.html>,2013.3.23).
- ——— (2012) 「人口動態調査」(<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1.html>, 2013.7.2).
- ——— (2012) 「平成24年 高年齢者の雇用状況の集計結果」2012.10.28  
(<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000002m9lq-att/2r9852000002m9q0.pdf>, 2013.7.2).
- ——— (2012) 『平成24年版 厚生労働白書』  
(<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/12-2/dl/01.pdf>,2013.7.2).
- ——— (2013) 『高年齢者等の雇用の安定等に関する法律（高年齢者雇用安定法）の一部改正』  
([http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/koyou/koureisha/topics/tp120903-1.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/koureisha/topics/tp120903-1.html),2013.7.2).

- 国立社会保障・人口問題研究所（2012）『平成 24 年 1 月推計』  
(<http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/gh2401.asp>,2012.3.23).
- 公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構（2011）「企業年金に関する意識調査」『年金と経済』財団法人年金シニアプラン総合研究機構，30(1): pp.49-77.
- ————（2012）『第 5 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構.
- 財団法人シニアプラン開発機構（現・財団法人年金シニアプラン総合研究機構）（1992）『サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構.
- ————（2011）『シニアの社会参加と生きがいに関する事業』財団法人年金シニアプラン総合研究機構.
- 財団法人年金シニアプラン総合研究機構（1997）『第 2 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構.
- ————（2002）『第 3 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人シニアプラン開発機構.
- ————（2007）『第 4 回 サラリーマンの生活と生きがいに関する調査——サラリーマンシニアを中心として』財団法人年金シニアプラン総合研究機構.
- 菅谷和宏（2012）「第 5 回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査結果～20 年間のサラリーマンの生きがいに関する考え方の変化を迫って～」『生きがい研究』一般財団法人長寿社会開発センター，第 18 号：pp.65-97.
- 社会保障審議会年金数理部会（2007）『公的年金財政状況報告（平成 19 年度）』(<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/11/s1127-19.html>, 2013.2.20).
- 清家篤・山田篤弘（2004）『高齢者就業の経済学』日本経済新聞社.
- 清家篤監訳・山田篤弘・金明中訳（2005）『高齢社会日本の雇用政策』OECD 編著，明石書店.
  
- 世界保健機構(WHO)（2013）『World Health Statistics 2013』（世界保健統計 2013）([http://www.who.int/gho/publications/world\\_health\\_statistics/EN\\_WHS2013\\_Full.pdf](http://www.who.int/gho/publications/world_health_statistics/EN_WHS2013_Full.pdf),2013.7.2).
- 総務省統計局（2007）『平成 19 年就業構造基本調査』(<http://www.stat.go.jp/data/shugyou/2007/gaiyou.htm>,2012.3.23).
- ————（2009）『平成 21 年全国消費実態調査』IV 高齢者世帯・特定世帯の家計(<http://www.stat.go.jp/data/zensho/2009/hutari/gai-menu.htm>,2012.3.23)
- ————（2010）「統計 Today, No.32」(<http://www.stat.go.jp/info/today/032.htm>, 2013.7.2).
- ————（2011）『労働力調査（詳細集計）平成 23 年 10～12 月期平均結果の概要』(<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/4hanki/dt/index.htm>,2012.3.23).

- ——— (2013) 『日本の統計 2013』 第 2 章「人口・世帯」  
(<http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm>, 2013.5.28).
- 富樫ひとみ (2007) 「高齢者の社会関係に関する文献的考察－社会関係の構造的特質の検討－」『立命館産業社会論集』 42(4): pp.165-183.
- ——— (2013) 『高齢期につなぐ社会関係』 ナカニシヤ出版.
- 独立行政法人労働政策研究・研修機構(1999) 「第 9 次雇用対策基本計画について」  
1999.8.13  
([http://www.jil.go.jp/jil/kisya/syokuan/990813\\_01\\_sy/990813\\_01\\_sy.html](http://www.jil.go.jp/jil/kisya/syokuan/990813_01_sy/990813_01_sy.html), 2013.7.2).
- 栃木一三郎 (2006) 『積極的な最低保障の確立－国際比較と展望－』 連合総合生活開発研究所, 第一法規.
- 内閣府 (2007) 『平成 19 年版 国民生活白書』  
([http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h19/01\\_honpen/html/07sh020105.html](http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h19/01_honpen/html/07sh020105.html),  
2012.2.8).
- ——— (2010) 『平成 22 年度 第 7 回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査結果』  
(<http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h22/kiso/zentai/index.html>!, 2011.12.7).
- ——— (2011) 『平成 23 年版高齢社会白書』  
(<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>,2012.3.23).
- ——— (2012) 『平成 24 年版高齢社会白書』  
(<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/zenbun/index.html>,2013.5.28).
- 直井道子 (2004) 「高齢者の生きがいと家族」『生きがい研究』財団法人長寿社会開発センター, 第 10 号: pp.20-40.
- 西村純一 (2011) 『シニアの社会参加と生きがいに関する事業』財団法人年金シニアプラン総合研究機構, pp.25-44.
- 藤田 晴 (1992) 「年金税制の再検討」『リーディングス 日本の社会保障』(社会保障研究所編) 有斐閣,277-307 頁.
- 前田信彦 (2004) 『高齢期における多様な働き方とアンペイド・ワークへの評価』国立女性教育会館研究紀要 第 7 号: pp.21-31.
- ——— (2006) 『アクティブ・エイジングの社会学』ミネルバヴァ書房.
- ——— (2011) 『シニアの社会参加と生きがいに関する事業』財団法人年金シニアプラン総合研究機構, pp.45-60.
- リクルート住まい研究所 (2006) 「団塊世代に関する今後の住まいに関する調査」2006.12  
(<http://www.jresearch.net/house/jresearch/dankai/index.html>, 2013.7.2).

# 第6章 定年退職期以降の生活と生きがい

## 1 はじめに

### 1.1 定年退職期以降の生活に焦点を当てる

日本の平均寿命が延び、ますます定年退職後の生活期間が長くなっている。その長い老後をどう過ごしていくのか、生活の満足感は得られるか、そして何に生きがいを見出していくのか、これらが今日的な大きなテーマであるだろう。そこで本稿では、5年ごと計5回、20年間(1991～2011)にわたる本調査から、定年退職期以降の方々に焦点を当てそうした点を探ってみる。

まず、仕事から引退し、子育てのピークが過ぎたとき、自由時間をどのように使っているのだろうか。今日の定年退職期以降の方々と、20年前等のそうした方々とは、自由時間の使い方に違いがあるのだろうか。さらに、日々の生活の中で、何に生きがいを感じ、生活の満足感を得られているのだろうか。これらについても、今日の定年退職期以降の方々と、20年前等の方々とでは、何か変化があるのだろうか。

### 1.2 検討の対象について

本稿における検討対象者は、一連のアンケート調査回答者のうち、定年退職期以降にある次の年齢階層に区分した男性とした。検討対象層を男性としたことは、検討視野がそれだけ狭い範囲に限定される一方、老齢厚生年金と確定給付タイプの企業年金等を受給する、1つの典型的な均質性の高いグループを想定したことになる。

- ① 60～64 歳
- ② 65～69 歳
- ③ 70～74 歳
- ④ 以上3年齢階層の合計

## 2 自由時間の使い方

### 2.1 自由時間

自由時間の多寡は、総じて年齢が上昇するにつれ増加し、定年退職後に大きく拡大する。この傾向は、定年退職期以降の3つの年齢階層の中でも概ね妥当する。

定年退職期以降の方々の自由時間を過去20年間でみると(図表6-1、3年齢階層計)、その多寡は1991年調査から2001年調査まではほぼ安定していたが、「十分にある」が2006年調査で大きく増え、2011年調査ではさらに顕著に増加した。自由時間については、2006年調査以降、「十分にある」への回答率増加が目立ち、この傾向は定年退職期以降3つのどの年齢階層においても共通していた。

【図表 6-1】自由時間

<3 年齢階層計>

(%)

	十分にある	まあまあ	不十分である	まったくない	計
1991	39.8	44.6	14.4	1.2	100.0
1996	40.7	47.6	10.9	0.8	100.0
2001	39.6	49.0	11.0	0.4	100.0
2006	50.9	41.6	6.6	1.0	100.0
2011	69.3	27.1	3.4	0.2	100.0

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

## 2.2 自由時間の使い方

まず 3 年齢階層計によって、定年退職期以降の方々の全般的な自由時間の使い方を俯瞰すると（図表 6-2、3 年齢階層計）、過去 20 年間に於いて、選択率上位 5 位に常時入っているものは「庭いじりや家事など家庭内のこと」、「一人で趣味・スポーツ・学習など」、「仲間と趣味・スポーツなど」の 3 つである。このように、庭いじりや趣味関連が最も多い自由時間の使い方になっている。

過去 20 年間に於ける使い方の変遷をみると、「庭いじりや家事など家庭内のこと」がそれまでの選択率 1 位から、2006 年調査以降はやや低下する一方、趣味（「一人で趣味・スポーツ・学習など」＋「仲間と趣味・スポーツなど」）がやや増加している。総じていえば、趣味関連に使う時間がしだいに増加する傾向のようである。

1991 年調査で 3 位にあった「家族との団らんや家庭サービス」は、1996 年調査から 5 位以内に入っていない。一方、2011 年調査から「パソコン通信やインターネットなど」が 1 位となった（これにはネット調査によるバイアスが窺われる）。

【図表 6-2】自由時間の使い方：選択率上位 5 項目

<3 年齢階層計>

順位	1991	1996	2001	2006	2011
1	庭いじり等	庭いじり等	庭いじり等	仲間と趣味	ネット
2	一人趣味	一人趣味	仲間と趣味	庭いじり等	一人趣味
3	家族団らん	仲間と趣味	行楽ドライブ	友人仲間	庭いじり等
4	テレビパチンコ	行楽ドライブ	一人趣味	一人趣味	仲間と趣味
5	仲間と趣味	友人仲間	友人仲間	行楽ドライブ	テレビパチンコ

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

次に、「60歳台前半（60～64歳）」、「60歳台後半（65～69歳）」、「70歳台前半（70～74歳）」の年齢階層別で、自由時間をそれぞれ何に使っているか、各年齢階層によって特徴的な使い方、違いはあるだろうか、という点である。

この点を〔図表 6-3〕により、20年前の1991年調査をみると、「60歳台前半」、「60歳台後半」、「70歳台前半」すべての年齢階層で「庭いじりや家事など家庭内のこと」が選択率上位1位で、かつ年齢階層が上がるにつれ選択率はゆるやかに増加している。また、年齢階層が上がるにつれ「近隣の人とのつきあいや地域の用事」も心もち増えているが、逆に「テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など」の選択率は低下してくる。

その20年後となる2011年調査ではどうか。〔図表 6-3〕の右表をみると、どの年齢階層でも「パソコン通信やインターネットなど」が上位1位であった。しかし、年齢階層ごとの自由時間の使い方に明瞭な違いは見受けられない。ただ、「近隣の人とのつきあいや地域の用事」は選択率が低水準ながら、年齢階層が上がるにつれやや増えている。

〔図表 6-3〕 自由時間の使い方：年齢階層別選択率

	〈1991年調査〉			〈2011年調査〉		
	(複数回答、%)			(複数回答、%)		
	〈60歳台前半〉	〈60歳台後半〉	〈70歳台前半〉	〈60歳台前半〉	〈60歳台後半〉	〈70歳台前半〉
仕事仲間	13.5	9.2	9.8	5.8	3.4	5.2
仕事の勉強	17.2	12.8	16.4	4.9	4.3	4.2
テレビパチンコ	③ 35.8	④ 27.7	⑤ 27.3	③ 28.9	17.5	⑤ 19.8
一人趣味	② 39.5	② 41.0	③ 39.3	② 37.3	③ 35.0	② 38.0
仲間と趣味	17.5	⑤ 22.6	④ 32.2	21.8	④ 24.8	④ 25.5
ネット	0.0	0.0	0.0	① 67.6	① 77.8	① 82.8
友人仲間	⑤ 22.3	20.1	24.0	16.0	19.2	18.2
行楽ドライブ	⑤ 22.3	21.7	24.0	⑤ 23.1	19.2	17.2
庭いじり等	① 46.7	① 48.1	① 61.2	④ 26.2	② 38.9	③ 32.8
家庭団らん	④ 33.2	③ 29.3	② 40.4	18.2	⑤ 19.7	17.7
近隣つき合い	8.6	7.9	17.5	4.4	9.4	16.1
その他	7.7	3.5	7.1	1.8	2.6	2.1
特にない	4.0	0.8	6.0	1.3	0.0	0.0

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

### 3 生きがいの有無と対象

#### 3.1 生きがいの有無

生きがいの有無については、1991年以降5回の調査を通して、概ね年齢層が上がるにしたがい、生きがいを「持っている」への回答割合が上昇する傾向を示してきた。

この傾向は、[図表 6-4]のように、定年退職期以降の3つの年齢階層においてもほぼ当てはまる。

〔図表 6-4〕 生きがいを「持っている」：年齢階層別回答率

(%)

	全年齢層	<60歳台前半>	<60歳台後半>	<70歳台前半>
1991	66.2	71.0	78.3	82.8
1996	78.4	85.3	90.7	90.2
2001	67.3	75.6	83.1	84.8
2006	56.9	67.3	74.3	77.7
2011	55.9	58.4	70.5	66.1

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

20年間での生きがい保有率の推移をみると（図表 6-5、3年齢階層計）、「持っている」との回答率が2006年調査以降漸減し、「わからない」への回答率が上がった。また、2011年調査では「前は持っていたが、今は持っていない」と「持っていない」の回答率が増えた。

本調査においては、生きがい保有率について2001年調査以前と2006年調査以後で、保有率の様相に変化が現れていると見てよい。

〔図表 6-5〕 生きがい保有率の推移

<3年齢階層計>

(%)

	持っている	前は持っていた	持っていない	わからない	計
1991	76.4	13.1	6.7	3.8	100.0
1996	88.7	5.1	2.4	3.8	100.0
2001	80.9	8.6	3.5	7.0	100.0
2006	72.7	6.7	6.1	14.6	100.0
2011	65.0	11.3	10.9	12.7	100.0

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

### 3.2 生きがいの対象

次に、生きがいの対象（どのようなことに生きがいを感じるか）については、[図表 6-6]によると、3 年齢階層計で「趣味」と「子ども・孫・親などの家族・家庭」の 2 つが、13 の選択肢中常に上位 1 位か 2 位を占めてきた（生きがいの対象を訊く本設問は 1996 年調査から追加され、13 の選択肢から 3 つまでを選択してもらう形である）。

「子ども・孫・親などの家族・家庭」に「配偶者・結婚生活」を加え、両者合わせて家族と捉えれば、家族を生きがいの対象とする割合は常に高い水準にある（複数回答ではあるが、その合計選択率は 1996 年調査以降、常に 60%を超えている）。

選択率上位 5 位以内では、「自分自身の健康づくり」、「自然とのふれあい」がほぼ常に入ってくる。

一方、「仕事」は 1996 年調査で上位 3 位であったが、2001 年調査以降逐次順位を下げ、2011 年調査では 9 位となった。[図表 6-6]には表れないが「ひとりで気ままに過ごすこと」が 2006 年調査以降、3 つの年齢階層でともに増えている。

**【図表 6-6】 生きがいの対象：選択率上位 5 項目**

<3 年齢階層計、複数回答>

	1996	2001	2006	2011
1	趣味	子ども・孫・親	子ども・孫・親	趣味
2	子ども・孫・親	趣味	趣味	子ども・孫・親
3	仕事	健康づくり	健康づくり	配偶者
4	健康づくり	仕事	自然とふれあい	自然とふれあい
5	自然とふれあい	配偶者	仕事	健康づくり

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

[図表 6-7]によって、生きがいの対象に関する 3 つの年齢階層における違いをみると、1996 年調査では、「趣味」、「子ども・孫・親などの家族・家庭」は選択率順位、選択率とも年齢階層間の違いはなさそうである。年齢階層が上がるにつれ、あるいは「70 歳台前半（70～74 歳）」になると選択率が増えるものは「学習活動」、「社会活動（ボランティア含む）」、「自分自身の健康づくり」、「自分自身の内面の充実」などである。

最新の調査である 2011 年調査では、1996 年調査比、どの年齢階層でも生きがいの対象を「仕事」とする選択率がかなり低下し、「ひとりで気ままに過ごすこと」のそれが上昇した他は、1996 年調査と同様の傾向であった。

選択率の水準自体は低いながら、年齢階層が上がるにつれ「学習活動」、「社会活動（ボランティア含む）」、「自分自身の内面の充実」が増えることは注目される。

〔図表 6-7〕 生きがいの対象：年齢階層別回答率

	（複数回答、%）			（複数回答、%）		
	〈60歳代前半〉	〈60歳代後半〉	〈70歳代前半〉	〈60歳代前半〉	〈60歳代後半〉	〈70歳代前半〉
仕事	③ 39.0	③ 30.8	⑤ 23.0	16.4	11.1	7.8
趣味	① 54.4	① 46.2	① 57.0	① 56.2	① 56.8	① 56.8
スポーツ	16.2	14.6	11.5	16.8	15.8	20.8
学習活動	6.3	9.2	10.3	4.4	2.6	8.3
社会活動	12.5	15.7	20.0	7.5	10.7	12.0
自然とふれあい	⑤ 27.6	⑤ 26.8	④ 24.8	④ 21.2	③ 34.6	⑤ 21.9
配偶者	18.8	20.5	19.4	③ 26.5	④ 26.1	③ 32.8
子ども・孫・親	② 39.7	② 42.2	② 41.2	② 38.5	② 38.5	② 40.1
友人と交流	15.8	17.0	15.8	13.7	12.8	20.8
健康づくり	④ 28.7	④ 30.5	③ 35.8	18.6	⑤ 23.1	④ 25.5
気ままに	7.0	9.5	4.8	⑤ 19.5	16.2	14.6
内面充実	11.4	12.2	16.4	10.6	9.4	15.1
その他	0.4	1.1	0.0	0.4	3.0	0.0

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

## 4 生活の満足度

本調査では、生活における 13 の側面について、それぞれどの程度満たされているかを尋ねている。ここでは 13 項目のうちから幾つかにグループ分けして概観する。

### 4.1 「健康」

過去 20 年間で 3 年齢階層計でみると（図表 6-8）、健康について「満たされている」（「十分に満たされている」+「まあ満たされている」の計。以下同様）との回答割合は、当初 2 回の調査における 80%程度から、以後毎回低下し 2011 年調査では 64.0%となった。回答者の主観的な健康度とはいえ要注意の結果となった。「満たされている」割合の低下に対して、2006 年調査以降「どちらともいえない」が増えてきた。

次に〔図表 6-9〕によると、3 つの年齢階層における違いは 1991 年調査、2011 年調査ともほとんどみられない。健康について「満たされている」割合は、「70 歳台前半」層の方が「60 歳台」層よりむしろ高くなっている。

〔図表 6-8〕 「健康」に関する満足度

	〈3年齢階層計〉						計
	十分に満たされている	まあ満たされている	〔満たされている小計〕	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	
1991	17.9	60.4	〔78.2〕	8.1	12.2	1.5	100.0
1996	19.9	60.8	〔80.7〕	8.4	9.1	1.8	100.0
2001	17.2	59.0	〔76.2〕	9.1	12.9	1.7	100.0
2006	14.7	55.2	〔69.9〕	14.9	13.5	1.6	100.0
2011	10.7	53.2	〔64.0〕	19.3	13.2	3.5	100.0

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

〔図表 6-9〕「健康」に関する満足度：年齢階層別回答率

〈1991年調査〉		（％）		
	〈60歳台前半〉	〈60歳台後半〉	〈70歳台前半〉	
十分満たされている	14.8	18.0	23.3	
まあ満たされている	59.1	62.9	57.7	
〔小計〕	[73.9]	[80.9]	[81.0]	
どちらともいえない	9.7	7.5	6.3	
やや欠けている	13.6	11.0	11.6	
まったく欠けている	2.8	0.5	1.1	
計	100.0	100.0	100.0	

〈2011年調査〉		（％）		
	〈60歳台前半〉	〈60歳台後半〉	〈70歳台前半〉	
十分満たされている	7.1	14.1	10.9	
まあ満たされている	53.1	50.4	56.8	
〔小計〕	[60.2]	[64.5]	[67.7]	
どちらともいえない	21.2	19.2	17.2	
やや欠けている	14.2	12.8	12.5	
まったく欠けている	4.4	3.4	2.6	
計	100.0	100.0	100.0	

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

#### 4.2 時間的・経済的・精神的ゆとり

日々の生活を営む上で、健康であることと同時に、「時間的ゆとり」、「経済的ゆとり」、「精神的ゆとり」のあることが、その前提として大切であろう。

これら3つのゆとりを3年齢階層計で見ると、「時間的ゆとり」〔図表 6-10〕と「精神的ゆとり」〔図表 6-12〕は、「満たされている」との回答割合が概ね70%台と高い。ただし、やや細かくみると、「時間的ゆとり」が2011年調査で増えた。この点は、同年調査の自由時間の有無で「十分にある」への回答率が増加したことで平仄が合う。逆に「精神的ゆとり」は、「満たされている」割合が徐々に低下してきた（それでも2011年調査で「満たされている」は67.9%ある）。

「経済的ゆとり」〔図表 6-11〕は、「満たされている」との回答割合が概ね60%台で推移してきたが2011年調査で10%ポイントほど低下した。「経済的ゆとり」では、「欠けている」（「やや欠けている」+「まったく欠けている」の計。以下同様）の回答割合がほぼ20%となり、他の2つのゆとりに比べ「欠けている」の割合が高い。なお、図表不掲載だが、「経済的ゆとり」では年齢階層が上がるにつれ、「満たされている」との回答割合が高まる傾向にある。

〔図表 6-10〕「時間的ゆとり」に関する満足度

<3 年齢階層計>

(%)

	十分に満た されている	まあ満たさ れている	〔満たされて いる小計〕	どちらとも いえない	やや欠けて いる	まったく 欠けている	計
1991	31.3	46.4	〔77.7〕	12.5	8.0	1.8	100.0
1996	29.7	49.1	〔78.8〕	10.6	9.2	1.4	100.0
2001	26.9	46.9	〔73.9〕	13.7	10.9	1.5	100.0
2006	28.1	50.5	〔78.6〕	13.0	7.3	1.0	100.0
2011	34.0	53.7	〔87.7〕	8.4	3.1	0.8	100.0

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

〔図表 6-11〕「経済的ゆとり」に関する満足度

<3 年齢階層計>

(%)

	十分に満た されている	まあ満たさ れている	〔満たされて いる小計〕	どちらとも いえない	やや欠けて いる	まったく 欠けている	計
1991	8.1	58.1	〔66.3〕	21.6	10.5	1.7	100.0
1996	7.5	58.3	〔65.8〕	22.1	11.1	1.0	100.0
2001	8.3	54.0	〔62.4〕	26.3	8.8	1.5	100.0
2006	7.3	54.7	〔62.0〕	24.2	12.1	1.6	100.0
2011	6.6	45.6	〔52.1〕	27.9	15.5	4.4	100.0

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

〔図表 6-12〕「精神的ゆとり」に関する満足度

<3 年齢階層計>

(%)

	十分に満た されている	まあ満たさ れている	〔満たされて いる小計〕	どちらとも いえない	やや欠けて いる	まったく 欠けている	計
1991	14.7	60.3	〔75.1〕	18.1	5.7	1.1	100.0
1996	14.1	60.1	〔74.1〕	19.0	6.4	0.4	100.0
2001	12.6	58.6	〔71.2〕	22.2	5.9	0.7	100.0
2006	10.1	58.8	〔69.0〕	23.3	6.5	1.2	100.0
2011	11.3	56.6	〔67.9〕	21.8	9.2	1.1	100.0

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

#### 4.3 「家族の理解・愛情」ほか（図表不掲載）

ここでは「家族の理解・愛情」、「友人・仲間」、「熱中できる趣味」、「仕事のほりあい」、「社会的地位」、「自然とのふれあい」、「近隣との交流」を概観する。

これら7つについて、過去20年間の3年齢階層計で「満たされている」の回答率水準にしたがって分類すると次のようになる。

- 「満たされている」の回答率水準が概ね80%台にある  
「家族の理解・愛情」。ただし、2011年調査で「どちらともいえない」がやや増加した。
- 同、概ね60%台～70%台にある  
「友人・仲間」、「熱中できる趣味」、「自然とのふれあい」である。
- 同、概ね50%台にある  
「仕事のほりあい」。ただし、2011年調査でその「満たされている」とする割合は20%台へ急減した。
- 同、概ね40%台にある  
「社会的地位」。ただし、2011年調査でその「満たされている」とする割合は20%台へ急減した。
- 同、概ね30%台～40%台にある  
「近隣との交流」。その「満たされている」とする割合は年齢階層が上がるほど高くなる。

#### 4.4 「社会の役に立つこと」

「社会の役に立つこと」では、「欠けている」の回答率が他の項目に比べ高いところに特徴がある。[図表6-13]によって3年齢階層計をみると、「欠けている」の回答率は1991年調査から一貫して30%前後で推移してきた。

年齢階層別では(図表6-14)、1991年調査時には年齢階層が上がるにつれ「満たされている」の回答率が上昇し「欠けている」の回答率は漸減していたが、2011年調査においては年齢階層間の違いが目立たなくなった。

〔図表6-13〕「社会の役に立つこと」に関する満足度

<3年齢階層計>

(%)

	十分に満たされている	まあ満たされている	〔満たされている小計〕	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	〔欠けている小計〕	計
1991	6.0	30.8	〔36.8〕	34.2	21.1	7.9	〔29.0〕	100.0
1996	5.6	27.5	〔33.1〕	37.6	21.9	7.3	〔29.2〕	100.0
2001	3.7	25.2	〔28.8〕	38.2	21.9	11.0	〔32.9〕	100.0
2006	5.5	25.4	〔30.8〕	42.2	19.9	7.1	〔27.0〕	100.0
2011	3.8	22.4	〔26.2〕	41.4	22.4	10.0	〔32.4〕	100.0

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より筆者作成

〔図表 6-14〕「社会の役に立つこと」に関する満足度：年齢階層別回答率

〈1991年調査〉		(%)		
	〈60歳台前半〉	〈60歳台後半〉	〈70歳台前半〉	
十分満たされている	3.1	7.1	9.2	
まあ満たされている	24.9	32.6	38.4	
〔小計〕	[28.0]	[39.7]	[47.6]	
どちらともいえない	37.7	33.2	29.7	
やや欠けている	24.3	19.7	17.8	
まったく欠けている	10.0	7.4	4.9	
〔小計〕	[34.3]	[27.1]	[22.7]	
計	100	100	100	

〈2011年調査〉		(%)		
	〈60歳台前半〉	〈60歳台後半〉	〈70歳台前半〉	
十分満たされている	3.1	3.4	5.2	
まあ満たされている	21.7	22.2	23.4	
〔小計〕	[24.8]	[25.6]	[28.6]	
どちらともいえない	42.0	44.4	37.0	
やや欠けている	23.0	19.7	25.0	
まったく欠けている	10.2	10.3	9.4	
〔小計〕	[33.2]	[30.2]	[34.4]	
計	100	100	100	

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

これまでの本調査において、生きがいを「持っている」と「社会の役に立つこと」との相関関係の高いことが確認されている。その他 12 項目への回答状況と比較した場合、「社会の役に立つこと」に対する「欠けている」への回答率の相対的高さは、単に社会活動への参加が少ないことの反映だろうが、それに加えて回答者の社会貢献に関する意識を示唆しているかもしれない。社会貢献を“すべきとの意識”に対して“出来ていない”という思いが欠けているとの回答に現れているとみることも出来る。もしそうであれば、「社会の役に立つこと」への「欠けている」との回答率の高さからは、今後の社会活動への参加が期待できるかもしれない。こうした意味合いから、次に「社会の役に立つこと」が「欠けている」と回答した方々の今後の社会活動への参加意向をみておきたい。

#### 4.5 「社会に役に立つこと」に欠けている方々の今後の参加意向

本項では、「社会の役に立つこと」に対する満足度、生きがいの有無、今後の社会参加意向の3つを一体的に扱ったことから、今後の社会参加意向の設問がない1996年調査を外している（他の4回分の調査データを使用）。また、本項での分析内容については、調査年次ごとの相違が小さい、細分された項目の各データ数が小さくなるもの（たとえば、「社会の役に立つこと」が「まったく欠けている」とのサンプル数は2011年調査で64）がある等のため、4回分の調査データを合算した。

まず、「社会の役に立つこと」に対する満足度を基に、それと生きがいの有無について〔図表6-15〕により確認しておく、「社会の役に立つこと」に「満たされている」と感じる場合、生きがいを「持っている」割合が90%超の極めて高い水準となる。そして、「どちらともいえない」から「欠けている」にかけて生きがいを「持っている」への回答率が低下する。

「社会の役に立つこと」について「まったく欠けている」と感じていても46.6%が生きがいを「持っている」ということは、家族内での支援など他に生きがいの対象があるということであろう。しかし、「社会の役に立つこと」に「満たされている」と感じる場合、生きがい保有率が極めて高くなることは、社会的役割への貢献意識、役割意識を明確に持てることが反映しているとみられよう。

〔図表6-15〕「社会の役に立つこと」への満足度別：生きがい保有率

(%)

「社会の役に立つこと」	持っている	前は持っていた	持っていない	わからない	計
十分満たされている	96.8	0.8	1.6	0.8	100.0
まあ満たされている	93.3	2.9	1.5	2.2	100.0
どちらともいえない	71.5	11.3	6.2	11.1	100.0
やや欠けている	61.6	15.5	10.4	12.5	100.0
まったく欠けている	46.6	20.9	18.9	13.7	100.0

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

次に、やはり「社会の役に立つこと」に対する満足度を基に、社会活動への参加状況をみると（図表6-16）、「満たされている」場合の「参加している」（「定期的に参加している」＋「ときどき参加している」の計）割合が77.0%～69.6%と非常に高くなる。こうしてみると、「社会の役に立つこと」への高い満足感、社会活動への高い参加率と高い生きがい保有率の3つは相互に密接に響き合う関係といえよう。

【図表 6-16】「社会の役に立つこと」への満足度別：社会参加状況

(%)

「社会の役に立つこと」	定期的に 参加している	ときどき 参加している	〔参加して いる計〕	以前参加 したことがある	参加して いない	計
十分満たされている	59.5	17.5	77.0	7.1	15.9	100.0
まあ満たされている	41.5	28.1	69.6	5.2	25.2	100.0
どちらともいえない	13.0	19.4	22.7	10.7	56.9	100.0
やや欠けている	3.4	7.3	10.7	9.4	79.9	100.0
まったく欠けている	2.0	4.0	6.0	6.8	87.1	100.0

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

一方、「社会の役に立つこと」について「どちらともいえない」から「欠けている」と感じる場合、社会活動に「参加していない」への回答率が当然のことながら増える。ただその際注目すべきは、不参加という事実そのものより不参加となる理由であろう。そこで、その不参加理由をみたものが【図表 6-17】である。

この図表によると、回答率上位 1 位、2 位は、「自分に合った活動の場がない」、「何から始めるかきっかけがつかめない」であった。

社会参加活動をするには環境条件が整っていない要因の「時間がない」、「健康や体力に自信がない」や、そもそも「興味がない、関心がない」を除くと、「一緒にやる仲間がいない」が 5 位に入っており、「自分に合った活動の場がない」、「何から始めるかきっかけがつかめない」と合わせ考慮すれば、社会活動への参加を促すに当たってはその工夫の余地が十分あると読むことができよう。

【図表 6-17】「社会の役に立つこと」への不参加理由：選択率上位 5 項目

<複数回答>

	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている
1	自分に合った活動の場がない	何から始めるかきっかけがつかめない	何から始めるかきっかけがつかめない
2	何から始めるかきっかけがつかめない	自分に合った活動の場がない	自分に合った活動の場がない
3	時間がない	時間がない	興味がない、関心がない
4	健康や体力に自信がない	健康や体力に自信がない	健康や体力に自信がない
5	一緒にやる仲間がいない	一緒にやる仲間がいない	一緒にやる仲間がいない

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

「社会の役に立つこと」について「どちらともいえない」、「やや欠けている」、「まったく欠けている」との回答者について、社会活動への今後の参加意向をみると（図表 6-18）、「参加したい」（「積極的に参加したい」＋「条件によって参加したい」の計）割合が 68.9%～57.4%と高い水準にあった。「まったく欠けている」と回答した人の場合、「積極的に参加したい」の回答率が相対的に高くなった。

以上のように、社会活動への不参加理由と今後の参加意向からは、それを促すに工夫の余地大とみることができる。

【図表 6-18】「社会の役に立つこと」への満足度別：今後の社会参加の意向

(%)

	積極的に参加したい	条件によっては参加したい	[参加意向計]	参加するつもりはない	わからない	計
どちらともいえない	5.5	63.4	68.9	12.9	18.2	100.0
やや欠けている	6.3	60.3	66.6	16.3	17.1	100.0
まったく欠けている	13.9	43.5	57.4	22.4	20.3	100.0

出所：公益財団法人年金シニアプラン総合研究機構「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より  
筆者作成

#### 4.6 求められる社会活動への参加支援

定年退職期以降の方々の多くは、現に社会活動に加わっていても、今後について参加意向を十分持ち合わせているとみられる。

これまでの社会活動にかかわる調査、たとえば、財団法人年金シニアプラン総合研究機構「シニアの社会参加と生きがいに関する事業」報告書（平成 21 年 3 月）においては、定年退職後の社会参加についても在職期からの経験が大事で、これについては企業の人材育成とも密接にかかわっているとの指摘がなされた。本報告書においても、富樫論文で企業との連携等が提案されている。

今日、人々の社会活動では拘束感や負担感の強いものは敬遠される傾向にあると言われるものの、社会活動への参加の必要性はますます高まっている。その参加支援を行えば、参加率が大きく増えるといった楽観的期待は慎むべきだろうが、支援を促す工夫は大いに進める必要がある。

たとえば、次のような工夫である。

- 社会参加の情報提供

地方自治体の広報誌、社会福祉協議会の広報誌等で、これまで以上に大量に社会活動についての具体的情報を提供していく。これら公的な媒体に対する人々の信頼度が高く、定年退職期以降の方々は定期的に目を通していている可能性が高いので、これらに掲載されたボランティア情報はそれだけ自然に定年退職期以降の方々へ訴求する力が高いと期待される。

- 社会活動への誘い

「何から始めるかきっかけがつかめない」、「一緒にやる仲間がない」への回答を突き詰めると、現に社会活動している方々から「誘う」ことが大切だという結論が導かれよう。

地域、各種の同窓、趣味等のつき合い関係の中から、社会活動に勧誘することである。親しい知人からの誘いであれば、全く未知の世界に飛び込む漠然とした不安感とは違った気安さでまず体験してみる、などの具体的行動が期待できるだろう。

## 5 まとめ

以上をまとめると、定年退職期以降の方々の自由時間は2006年調査以降「十分にある」への回答率が増えた。自由時間の使い方では、過去20年間において、庭いじりや趣味関連が最も多い自由時間の使い方になっている。その中で、家族との団らんがやや後退する一方、趣味関連に使う時間が増える傾向がみられる。定年退職期以降3つ年齢階層間の違いでは、年齢階層が上がるにつれ「近隣の人とのつきあいや地域の用事」の選択率が低水準ながらやや増えている。

生きがいの保有状況については、生きがいを「持っている」との回答率が2006年調査以降漸減し、「わからない」への回答率が上がった。生きがいの対象は、3年齢階層計で「趣味」と「子ども・孫・親などの家族・家庭」の2つが、13の選択肢中常に上位1位か2位を占めてきた。「子ども・孫・親などの家族・家庭」に「配偶者・結婚生活」を加え、両者合わせて家族と捉えれば、家族を生きがいの対象とする割合は常に高い水準にある。

生きがいの対象に関する3つの年齢階層における違いをみると、年齢階層が上がるにつれ、また「70歳台前半(70～74歳)」になると「学習活動」、「社会活動(ボランティア含む)」、「自分自身の健康づくり」、「自分自身の内面の充実」などの選択率が、低水準ながら増えることは注目される。

生活の満足度では、過去20年間において、「時間的ゆとり」の満足度が上昇したが、「健康」、「経済的ゆとり」等の満足度は低下した。

ここで「社会の役に立つこと」に関する満足度をみると、他の項目に比べ「欠けている」との回答率が高いことに特徴がある。それだけ、社会貢献を“すべきとの意識”に対して“出来ていない”という思いが反映されているのかもしれない。そこで、そうした「社会の役に立つこと」に「どちらともいえない」、「欠けている」と回答した方々について、社会活動への今後の参加意向をみたところ、「参加したい」の割合が68.9%～57.4%と高い水準にあった。

定年退職期以降の方々の多くは、現に社会活動に加わってなくても、今後について参加意向を十分持ち合わせているとみられるので、これを支援する工夫が求められる。それには、在職期からボランティア体験を奨励する、企業との連携を図る等のほか、地方自治体の広報誌、社会福祉協議会の広報誌等による社会活動の情報提供を大幅に増やすことや、現に社会活動している方々から、地域、各種の同窓、趣味等のつき合い関係にある人々を社会活動に勧誘する等が、実践的で有効な策になるのではないと思われる。

サラリーマンの生活と生きがいに関する研究  
～過去 20 年の変化を追って～

【資料編】

平成 25 (2013) 年 8 月



資料1 「アンケート調査票」(第5回)



# I. 調査票

## 第5回「サラリーマンの生活と生きがい」に関する調査票

(※予備調査票で対象者を抽出し、該当者に対して本調査票にて調査を実施した。)

### 【予備調査票】

#### ◆対象者を抽出するための調査

SC1. 性別 

1. 男	2. 女
------	------

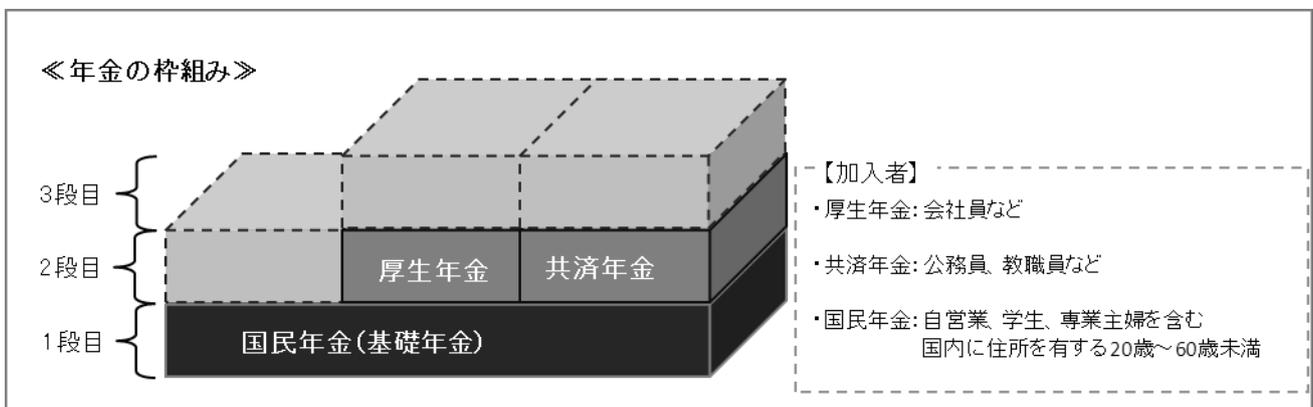
SC2. 年齢 

--	--

 歳

SC3. あなたは、現在、厚生年金に加入しているか、または厚生年金を受給していますか。

厚生年金とは、日本の民間企業の従業員が加入する公的年金制度で、あなたが日本の民間企業にお勤めで、会社給与明細で厚生年金保険料が控除されていれば、厚生年金に加入していると思われます。

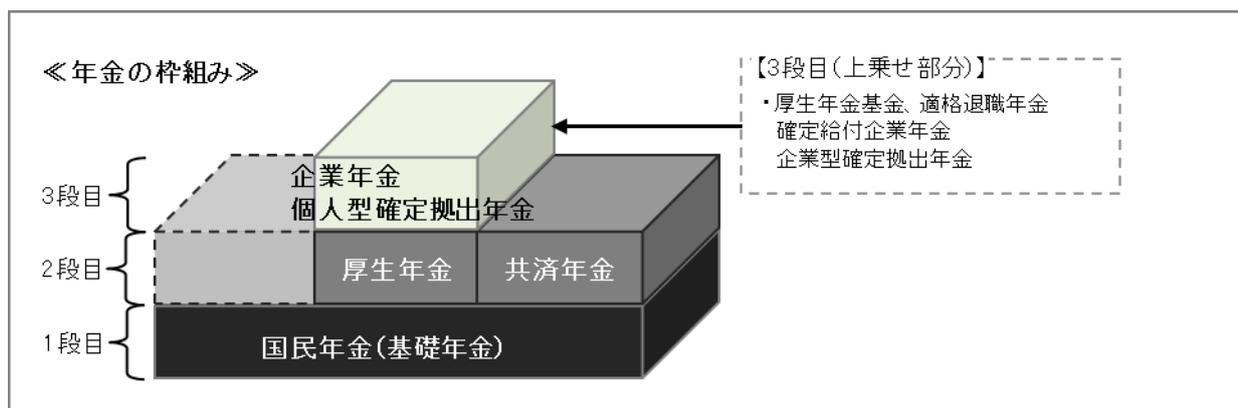


1. 現在、厚生年金に加入している（まだ厚生年金は受給していない）。
2. 現在、厚生年金を受給している。
3. 現在、厚生年金に加入しておらず、かつ厚生年金を受給していない。
4. わからない
5. その他（\_\_\_\_\_）

(SC3 = 1, 2のみ)

SC4. あなたは、現在、企業年金に加入しているか、または企業年金を受給していますか。

ここで言う企業年金とは、企業がその従業員のために任意で実施する企業年金制度で、具体的には「厚生年金基金、確定給付企業年金、適格退職年金、企業型確定拠出年金」を指します。



1. 現在、企業年金に加入している（まだ企業年金は受給していない）。
2. 現在、企業年金を受給している。
3. 現在、企業年金に加入しておらず、かつ企業年金を受給していない。
4. わからない
5. その他（\_\_\_\_\_）

(SC3 = 3, 4, 5のみ)

SC5. 現在のあなたの状況として当てはまるものはどれですか。（単一回答）

会社員（公務員）に扶養されている配偶者とは、あなたの配偶者が、現在、サラリーマン等で厚生年金もしくは共済年金（国家公務員共済組合、地方公務員等共済組合、私立学校教職員共済）に加入しており、かつあなたが配偶者に扶養されている（具体的には、専業主婦もしくは専業主夫であるか、あるいは働いている場合であっても、あなたご自身の年収が130万円未満である）場合で、あなたが国民年金の第3号被保険者の場合を指します。

1. 現在、会社員（公務員）に扶養されている配偶者（国民年金の第3号被保険者）である。
2. その他（\_\_\_\_\_）

### 【本調査の対象条件】

予備調査 SC2 : 年齢 = 35歳以上74歳以下

AND

予備調査 SC3 = 1 または 2 AND SC4 = 1, 2, 3

OR

予備調査 SC3 = 3, 4, 5 AND SC5 = 1



〔問3 = 1のみ、(2)で18歳以上の人数分のみ表示〕

(3) 18歳以上のお子さまについておうかがいします。

	同居状況	就業状況	結婚状況
第1子	1. 同居 2. 非同居	1. 正社員 2. 契約社員、派遣社員、パート、アルバイト 3. 未就業(学生除く) 4. 学生	1. 既婚 2. 未婚
第2子	1. 同居 2. 非同居	1. 正社員 2. 契約社員、派遣社員、パート、アルバイト 3. 未就業(学生除く) 4. 学生	1. 既婚 2. 未婚
～			

問4. 現在のあなたのお住まいはどこですか。

都道府県
------

問5. 現在お住まいの地域(市区町村)に住んで何年になりますか。単身赴任等で一時離れた場合も、家族が継続して住んでいた期間は年数に含めてください。(○は1つ)

1. 5年未満	3. 10年以上～20年未満	5. 30年以上
2. 5年以上～10年未満	4. 20年以上～30年未満	

問6. 現在お住まいの住居は、次のどれですか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建て)	4. 公社・公団・公営の賃貸住宅
2. 持ち家(分譲マンション等)	5. 民間の借家・マンション・アパート
3. 社宅・会社の寮	6. その他(具体的に_____)

問7. あなたが最後に卒業された学校は、次のどれですか。

1. 小学校・高等小学校・新制中学校	4. 大学・大学院
2. 旧制中学校・旧制高等女学校・ 旧制実業学校・新制高等学校	5. 専門学校・専修学校
3. 旧制高等学校・高等師範学校・新制短大	6. その他(_____)

■ ふだんのお仕事と生活についておうかがいします。

問8. あなたの現在の就業状況・形態は、次のどれですか。(○は1つ)

1. 正社員	5. 自営業・自由業・家族従業員
2. 契約社員・嘱託	6. 内職
3. 派遣社員	7. シルバー人材センター(高齢者事業団)
4. パート・アルバイト	8. 無職 ↳ (最後に職を離れてから_____年)

※8(無職)を選択した方は問11へお進みください

問9. [現在、職業についている方のみ] (問8 = 1~7のみ)

(1) あなたの現在のお仕事の業種は次のどれですか。(○は1つ)

1. 水産・農林	11. 輸送用機器、精密機器、その他製品
2. 鉱業	12. 卸売業、小売業
3. 建設	13. 銀行、証券、保険、その他金融
4. 食料品	14. 不動産
5. 繊維製品、パルプ・紙	15. 運輸 (陸運、海運、空運)、倉庫
6. 化学、医薬品	16. 通信
7. 石油・石炭	17. 電気・ガス
8. ゴム製品、ガラス・土石製品	18. サービス
9. 鉄鋼、非鉄金属、金属製品	19. 公官庁
10. 機械、電気機器	20. その他

(2) あなたの現在の職種は次のどれですか。(○は1つ)

1. 専門技術職 (研究職・技師等)	5. 技能職
2. 管理職 (役員・課長以上の管理職)	6. サービス職 (添乗員・ホテルマン等)
3. 事務職 (一般事務・営業・経理事務等)	7. その他 ( _____ )
4. 販売職 (店員・セールス等)	

(3) 勤務先の従業員数は会社全体でどのくらいですか。(支店や営業所がある場合は合計した人でお答えください) (○は1つ)

1. 1~29人	2. 30~99人	3. 100~299人	4. 300~999人
5. 1000人以上	6. わからない		

(4) あなたの1週間の勤務日数は何日ですか

(週によって異なる場合は平均を四捨五入してください)  日

(5) あなたの1日の勤務時間 (残業時間含む)

(日によって異なる場合は平均を四捨五入してください)  |  時間

[現在、職業についている方のみ] (問8 = 1~7のみ)

問10. 現在のお仕事や職場について、どのように感じていますか。(1)~(8)のそれぞれについてお答えください。(1)から(8)まで、○はそれぞれ1つずつ)

とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である
---------------	--------------	---------------	-------------	--------------

(1) 仕事の内容	1	2	3	4	5
(2) 就業形態	1	2	3	4	5
(3) 職場での地位の高さ	1	2	3	4	5
(4) 賃金	1	2	3	4	5
(5) 業績評価の公平さ	1	2	3	4	5
(6) 福利厚生	1	2	3	4	5
(7) 職場の人間関係・雰囲気	1	2	3	4	5
(8) 全体として	1	2	3	4	5

問 11. 自由時間についておうかがいします。

(1) あなたが日頃、自由に使える時間は十分にあると思いますか。(○は1つ)

- |          |         |           |           |
|----------|---------|-----------|-----------|
| 1. 十分にある | 2. まあまあ | 3. 不十分である | 4. まったくない |
|----------|---------|-----------|-----------|

→ 問 12 へお進みください

[(1) = 1 ~ 3のみ]

(2) 日頃の自由時間を、主にどんなことに使っていますか。(○は3つまで)

- |  |  |
|--|--|
| 1. 仕事仲間とのプライベートなつきあい<br>2. 仕事に関する勉強や残務整理<br>3. テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など<br>4. ひとりで趣味・スポーツ・学習など<br>5. 仲間と趣味・スポーツなど<br>6. パソコン通信やインターネットなど<br>7. 個人的な友人・仲間とのつきあい | 8. 行楽・ドライブなど<br>9. 庭いじりや家事など家庭内のこと<br>10. 家庭との団らんや家庭サービス<br>11. 近隣の人とのつきあいや地域の用事<br>12. その他 ( _____ )<br>13. 特に何もしない |
|--|--|

問 12. あなたは、地域活動やボランティア活動など、何か社会に役立つ活動に参加されていますか。団体活動でも個人の活動でもかまいません。(○は1つ)

- |                                |                               |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1. 定期的に参加している<br>2. ときどき参加している | 3. 以前に参加したことがある<br>4. 参加していない |
|--------------------------------|-------------------------------|

(1) (2) (3) (4) へ

(5) (6) (7) (8) へ

[(1) ~ (4) は問 12= 1, 2のみ]

(1) それは、どのような分野の活動ですか。

	あてはまるもの (○はいくつでも)	左記であてはまると答えた中で最もあてはまるものはどれですか (○はひとつ)
1. 地域の生活環境を守る活動		
2. 地域のイベントや“村おこし”の活動		
3. 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動		
4. 児童や青少年活動の世話役としての活動		
5. 地域の文化財や伝統を守る活動		
6. 消費者活動や生活向上のための活動		
7. 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動		
8. 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動		
9. 自然保護や環境保全の活動		
10. 国際交流に関する活動		
11. その他 (具体的に _____ )		

(2) 活動に参加した理由は何ですか。

	あてはまるもの (○は3つまで)	左記であてはまると答えた 中で最もあてはまるものは どれですか (○はひとつ)
1. 地域や社会に貢献したい		
2. 自分の知識や経験を活かしたい		
3. 社会への見聞を広げたい		
4. 友人や仲間を増やしたい		
5. 生活にはりあいを持たせたい		
6. 身近な人に誘われた		
7. 会社の勧めや命令		
8. 社会人として当然と思った		
9. 何となく		
10. その他 (具体的に_____)		

(3) 活動されている中で、あなたが最もやりがいを感じている活動団体はどこですか。(○は1つ)

1. 行政機関 (民生委員など公的委員含む)	7. 民間施設・機関のボランティア団体
2. 社会福祉協議会	8. NPO法人
3. 町内会、自治会	9. 当事者団体
4. 老人クラブ	10. 個人または個人的な集まり
5. 公的施設・機関のボランティア団体	11. その他 (_____)
6. 地域の住民によるボランティア団体	

(4) (3) でお答えになった活動団体を選んだ理由は何ですか。(○は1つ)

1. 活動の運営主体 (運営者や機関)	5. 活動団体内の統制のとれた規律
2. 活動の内容	6. 活動団体内の対等な人間関係
3. 活動団体の歴史 (存続年数)	7. 自宅と活動地域との距離
4. 活動団体の評判	8. その他 (具体的に_____)

[(5) (6) は問 12= 3, 4のみ]

(5) 現在参加していない理由は何ですか。

	あてはまるもの (○は3つまで)	左記であてはまると答えた 中で最もあてはまるものは どれですか (○はひとつ)
1. 時間がない		
2. 経済的余裕がない		
3. 精神的なゆとりがない		
4. 健康や体力に自信がない		
5. 家族など周囲の理解や協力が得られない		
6. 自分にあった活動の場がない		
7. 一緒にやる仲間がいない		
8. 何から始めるか、きっかけがつかめない		
9. 興味が無い、関心がない		
10. その他 (具体的に_____)		

(6) 今後参加したいと思いますか。(○は1つ)

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| 1. 積極的に参加したい      | 3. 参加するつもりはない |
| 2. 条件によっては参加してもよい | 4. わからない      |

[(7)(8)は(6)=1, 2のみ]

(7) 今後、地域活動やボランティア活動をされるとしたら、あなたが最も関心を持っている活動団体はどこですか。(○は1つ)

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| 1. 行政機関 (民生委員など公的委員含む) | 7. 民間施設・機関のボランティア団体 |
| 2. 社会福祉協議会             | 8. NPO法人            |
| 3. 町内会、自治会             | 9. 当事者団体            |
| 4. 老人クラブ               | 10. 個人または個人的な集まり    |
| 5. 公的施設・機関のボランティア団体    | 11. その他 (_____)     |
| 6. 地域の住民によるボランティア団体    |                     |

(8) (7) でお答えになった活動団体を選ぶ理由は何ですか。(○は1つ)

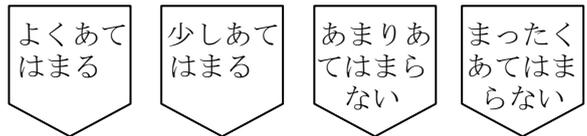
- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1. 活動の運営主体 (運営者や機関) | 5. 活動団体内の統制のとれた規律  |
| 2. 活動の内容            | 6. 活動団体内の対等な人間関係   |
| 3. 活動団体の歴史 (存続年数)   | 7. 自宅と活動地域との距離     |
| 4. 活動団体の評判          | 8. その他 (具体的に_____) |

問 13. 現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていると思いますか。(1) ~ (13) のそれぞれについてお答えください。(1)から(12)まで、○はそれぞれ1つずつ)



- |                |   |   |   |   |   |
|----------------|---|---|---|---|---|
| (1) 健康         | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (2) 時間的ゆとり     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (3) 経済的ゆとり     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (4) 精神的ゆとり     | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (5) 家族の理解・愛情   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (6) 友人・仲間      | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (7) 熱中できる趣味    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (8) 仕事のはりあい    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (9) 社会的地位      | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (10) 自然とのふれあい  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (11) 近隣との交流    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (12) 社会の役に立つこと | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (13) 住まいのこと    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問 14. 以下の(1)～(13)は、あなたにどの程度あてはまりますか。(1)～(13)のそれぞれについてお答えください。(1)から(13)まで、○はそれぞれ1つずつ)



- (1) 人との関係やつながりを大切にする…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4
- (2) 自分の世界や個性を大切にする…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4
- (3) いつも目標に向かってつき進む…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4
- (4) 無理をせずマイペースで進む…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4
- (5) 他人にはない自分なりの価値観を持っている…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4
- (6) 自分には他人にない優れたところがある…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4
- (7) いろいろなことに興味を持ちチャレンジする…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4
- (8) 一つのことにじっくり取り組む…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4
- (9) 指導者的立場に立とうとする…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4
- (10) 新しいグループの中に、わりと気軽に入れる…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4
- (11) いろいろな人の話や意見をよく聞く…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4
- (12) 上下の立場や関係を尊重する…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4
- (13) どんなところでも結構楽しみを見出す…………… 1…………… 2…………… 3…………… 4

■ あなたの生きがいについておうかがいします。

問 15.

(1) よく「生きがい」と言われますが、次の中で「生きがい」を表すのに最も適当なのはどれだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものから2つまで選んでください。(○は2つまで)

- |                |                             |
|----------------|-----------------------------|
| 1. 生活の活力やはりあい  | 6. 生きる目標や目的                 |
| 2. 生活のリズムやメリハリ | 7. 自分自身の向上                  |
| 3. 心の安らぎや気晴らし  | 8. 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること |
| 4. 生きる喜びや満足感   | 9. 他人や社会の役に立っていると感じる        |
| 5. 人生観や価値観の形成  | 10. その他 (具体的に_____)         |

(2) そのような生きがいを、あなたは現在持っていますか。(○は1つ)

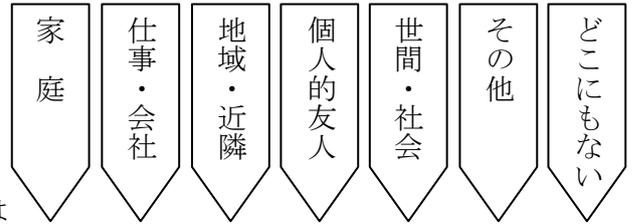
- |                      |           |
|----------------------|-----------|
| 1. 持っている             | 3. 持っていない |
| 2. 前は持っていたが、今は持っていない | 4. わからない  |

問 16. あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか。(○は3つまで)

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1. 仕事              | 8. 子ども・孫・親などの家族・家庭  |
| 2. 趣味              | 9. 友人など家族以外の人との交流   |
| 3. スポーツ            | 10. 自分自身の健康づくり      |
| 4. 学習活動            | 11. ひとりで気ままに過ごすこと   |
| 5. 社会活動 (ボランティア含む) | 12. 自分自身の内面の充実      |
| 6. 自然とのふれあい        | 13. その他 (具体的に_____) |
| 7. 配偶者・結婚生活        |                     |

問 17. 生きがいに関連する(1)～(9)について、それらは家庭や仕事・会社などのどこで得られるか、あてはまるものを、それぞれ2つまで選んでください。

((1)から(9)まで、○はそれぞれ2つまで)



- (1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか..... 1..... 2 ..... 3 ..... 4 .. 5..... 6 .... 7
- (2) 生活のどの場で、リズムやメリハリがつかますか..... 1..... 2 ..... 3 ..... 4 .. 5..... 6 .... 7
- (3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか..... 1..... 2 ..... 3 ..... 4 .. 5..... 6 .... 7
- (4) 生活のどの場で、喜びや満足感を感じる人が多いですか..... 1..... 2 ..... 3 ..... 4 .. 5..... 6 .... 7
- (5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか..... 1..... 2 ..... 3 ..... 4 .. 5..... 6 .... 7
- (6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか..... 1..... 2 ..... 3 ..... 4 .. 5..... 6 .... 7
- (7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか..... 1..... 2 ..... 3 ..... 4 .. 5..... 6 .... 7
- (8) 自分の可能性を実現したり、何かをやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか... 1..... 2 ..... 3 ..... 4 .. 5..... 6 .... 7
- (9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか..... 1..... 2 ..... 3 ..... 4 .. 5..... 6 .... 7

■ 配偶者との関係についておうかがいします。

[現在、配偶者がいる方のみ] (問1=2のみ)

問 18. 日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか。(1)～(10)のそれぞれについてお答えください。((1)から(10)まで、○はそれぞれ1つずつ)



- (1) 配偶者は自分のことを応援してくれる 1..... 2 ..... 3 ..... 4
- (2) 自分は配偶者の良き理解者である... 1..... 2 ..... 3 ..... 4
- (3) 配偶者と価値観・考え方が似ている... 1..... 2 ..... 3 ..... 4
- (4) 配偶者とよく一緒に出かける..... 1..... 2 ..... 3 ..... 4
- (5) 配偶者と会話がある..... 1..... 2 ..... 3 ..... 4
- (6) 配偶者は自分を自由にさせてくれる... 1..... 2 ..... 3 ..... 4
- (7) 配偶者は自分の親を大切にしてくれない... 1..... 2 ..... 3 ..... 4 ..... 5
- (8) 配偶者は金銭的にうるさい..... 1..... 2 ..... 3 ..... 4
- (9) 配偶者は自分よりかかりすぎる... 1..... 2 ..... 3 ..... 4
- (10) 配偶者にもっと家事をして欲しい... 1..... 2 ..... 3 ..... 4

〔問 19～問 22 は第 2 号被保険者のみに表示、第 3 号被保険者には表示せず〕

■ お仕事とお仕事からの引退についておうかがいします。

問 19. あなたは定年を経験しましたか。定年は何才ですか。

(定年を 2 回以上経験した場合は最初の定年の年齢を記入してください。また、ご自分の意思で転職され、まだ定年前の方は 1 を選択して下さい、定年がない場合で退職前の方は 1 を選択して、ご自分で退職すると思われる年齢を記入してください)

- |             |   |              |     |               |
|-------------|---|--------------|-----|---------------|
| 1. まだ定年前    | → | 定年は ( ) 才    | →   | 問 20 へお進みください |
| 2. まだ定年前    | → | 定年はない        |     |               |
| 3. 定年前に退職した | → | 退職は ( ) 才のとき | } → | 問 21 へお進みください |
| 4. 定年退職した   | → | 定年は ( ) 才のとき |     |               |

〔定年前の方のみ〕(問 19 = 1 のみ)

問 20. 定年後の生活についておうかがいします。

(1) 定年後の生活費を、主に何によってまかなおうと考えていますか。(○は 3 つまで)

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 1. 公的年金          | 6. 就労による収入        |
| 2. 企業年金          | 7. 子ども等からの経済的支援   |
| 3. 退職金           | 8. その他 ( )        |
| 4. 生命保険の保険金や個人年金 | 9. わからない・考えたことがない |
| 5. 預貯金の取りくずし     |                   |

(2) 今の会社に定年まで勤めたいと思いますか。

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 定年まで勤めたい                     |
| 2. 定年前に退職したい → (あと _____ 年くらいで) |

(3) 定年退職後または定年前の退職後に、仕事をどのようにしたいと思いますか。(○は 1 つだけ)

- |   |
|---|
| 1. 退職とともに職業生活から引退したい  |
| 2. できれば仕事を継続したい<br>↳ (a. 満額年金受給時まで、b. 元気なうちはいつまでも、c. ( ) 歳まで) |
| 3. 定年後も出向や再雇用制度等を利用して今の会社に勤めたい                                |
| 4. 退職後は別の企業に再就職したい  |
| 5. 退職後は自分で事業や商売を始めたい (自由業を含む)                                 |
| 6. 退職後は家業を手伝いたい   |
| 7. 退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をしたい                                 |
| 8. その他 ( )  |
| 9. わからない・考えたことがない   |

(4). 過去 5 年間に、次のような出来事がありましたか。(○はいくつでも)

- |              |                       |
|--------------|-----------------------|
| 1. 子どもや孫の誕生  | 10. 昇進・昇格             |
| 2. 子どもの成人・就職 | 11. 出向・転籍             |
| 3. 子どもや孫との別居 | 12. 中途退職・失業 (解雇)      |
| 4. 子どもの結婚    | 13. 災害等による資産の減少・経済的困難 |
| 5. 自分自身の入院   | 14. 自宅の購入・建て替え        |
| 6. 配偶者の入院    | 15. 親の介護              |
| 7. その他の家族の入院 | 16. 親との新たな同居          |
| 8. 配偶者の死     | 17. いずれもない            |
| 9. その他の家族の死  | 18. その他 (具体的に _____)  |

〔定年退職または定年前の退職を経験した人のみ〕（問 19＝ 2， 3 のみ）

問 21. 定年後、退職後の生活についておうかがいします。

（1）定年前・退職前のあなたの職種は次のどれでしたか。（○は1つだけ）

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 1. 専門技術職（研究職・技師等）     | 5. 技能職               |
| 2. 管理職（役員・課長以上の管理職）   | 6. サービス職（添乗員・ホテルマン等） |
| 3. 事務職（一般事務・営業・経理事務等） | 7. その他（_____）        |
| 4. 販売職（店員・セールス等）      |                      |

（2）定年前・退職前の勤務先の従業員数は会社全体でどれくらいでしたか。

（支店や営業所を含む合計）

- |          |           |             |             |            |
|----------|-----------|-------------|-------------|------------|
| 1. 1～29人 | 2. 30～99人 | 3. 100～299人 | 4. 300～999人 | 5. 1000人以上 |
| 6. わからない |           |             |             |            |

（3）定年後・退職後に仕事につきましたか。（○は1つだけ）

- |                              |
|------------------------------|
| 1. 退職とともに職業生活から引退した          |
| 2. 退職後も再雇用制度等により、前の会社に勤めた    |
| 3. 退職後は出向先に移籍した              |
| 4. 退職後は別の企業に再就職した            |
| 5. 退職後は自分で事業や商売を始めた（自由業を含む）  |
| 6. 退職後は家業を手伝うようになった          |
| 7. 退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった |
| 8. その他（_____）                |

（4）定年後・退職後から今までに次のようなことがありましたか。（○はいくつでも）

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 経済的に苦しくなった       | 10. 生活のほりや生きがいがなくなった     |
| 2. 住宅問題で困った         | 11. 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした  |
| 3. 自分や配偶者の健康や体力が衰えた | 12. 今までの人的交流や情報量が減って困った  |
| 4. 配偶者や親の介護が必要になった  | 13. 世の中の情報化の進展についていけず困った |
| 5. 配偶者に先立たれた        | 14. 社会から取り残されてしまった       |
| 6. その他の家族の入院や死      | 15. 時間をもてあました            |
| 7. 再就職のことで困った       | 16. 地域社会にとけこめなかった        |
| 8. 家族との人間関係が悪くなった   | 17. その他（具体的に_____）       |
| 9. 親との新たな同居         | 18. 特に問題はなかった            |

問 22. 定年退職に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。(1)～(4)のそれぞれについてお答えください。

(1) 個人としては、定年前にどのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

また、実際にあなた自身が準備したり心がけたりしている(した)ことはありますか。

〔定年前の方〕は、あなた自身が現在準備したり心がけていることをお答えください。

〔定年後・退職後の方〕は、あなた自身が定年前・退職前に準備したり心がけていたことをお答えください。

(問 19=1はAとBを表示、問 19=2または3はAとCを表示)

	A〔全員〕 定年退職に向けて、 定年前にどのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)	B〔定年前の方のみ〕 定年退職に向けて、あ なた自身が現在準備 したり心がけている ことは何ですか。(○ はいくつでも)	C〔定年後・退職 後の方のみ〕 あなた自身が定年 前・退職前に実際 に準備したり心が けたこと(○はい くつでも)
1. 健康の維持・増進を心がける			
2. 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる			
3. 生涯楽しめる趣味などを持つ			
4. 定年後も活かせる専門的技術を身につける			
5. 夫婦・家族の関係を大切にす			
6. 友人や仲間との交流を深める			
7. 近隣や地域の人との交流を深める			
8. 会社以外の活動の場をつくっておく			
9. その他 (具体的に_____)			
10. 特に何も必要ない			

(2) 企業としては、どのような条件の整備が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 退職準備教育や退職相談を充実させる 2. 企業年金の充実や持家取得の援助など、社員の経済的基盤充実に力を入れる 3. 労働時間短縮などで、社員の個人的生活にゆとりを持たせる 4. 中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる 5. 希望者には定年年齢を延長させる 6. 定年後の再雇用など、再就職の場を用意する 7. ボランティア休暇など、社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける 8. 定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける 9. 退職に向けたセミナーの充実 10. その他(具体的に_____) 11. 特に何も必要ない
---

(3) 社会としては、どのような条件の整備が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

1. できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる
2. 定年退職者の能力を活かす場を増やす
3. サラリーマン〇Bが気軽に出入りできる交流の場をつくる
4. 趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する
5. 中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける
6. 退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる
7. その他 (具体的に\_\_\_\_\_)
8. 特に何も必要ない

[問 19-b～問 21-b、問 23-b は第3号被保険者のみに表示]

問 19-b. あなたの配偶者は定年を経験しましたか。

(配偶者がご自分の意思で転職されて、転職先の会社でまだ定年前の方は1を選択して下さい)

- |             |         |                 |
|-------------|---------|-----------------|
| 1. まだ定年前    | _____ → | 問 20-b へお進みください |
| 2. 定年前に退職した | _____ → | 問 21-b へお進みください |
| 3. 定年退職した   | _____ → |                 |

[配偶者が定年前の方のみ] (問 19-b=1のみ)

問 20-b. 配偶者が定年前の方にお伺いします。

(1) 配偶者の方の定年前に、定年後をどうすごすかの生活設計(仕事、家庭生活、余暇など)について、ご夫婦で話し合ったことがありますか。

- |         |          |           |
|---------|----------|-----------|
| 1. よくある | 2. たまにある | 3. まったくない |
|---------|----------|-----------|

(2) あなたから見て、配偶者の方に、あるいはご家庭で、過去5年間に、次のような出来事がありましたか。(〇はいくつでも)

- |              |                       |
|--------------|-----------------------|
| 1. 子どもや孫の誕生  | 10. 昇進・昇格             |
| 2. 子どもの成人・就職 | 11. 出向・転籍             |
| 3. 子どもや孫との別居 | 12. 中途退職・失業(解雇)       |
| 4. 子どもの結婚    | 13. 災害等による資産の減少・経済的困難 |
| 5. 自分自身の入院   | 14. 自宅の購入・建て替え        |
| 6. 配偶者の入院    | 15. 親の介護              |
| 7. その他の家族の入院 | 16. 親との新たな同居          |
| 8. 配偶者の死     | 17. いずれもない            |
| 9. その他の家族の死  | 18. その他(具体的に_____)    |

〔配偶者が定年退職または定年前の退職を経験した人のみ〕（問 19-b=2, 3のみ）

問 21-b. 配偶者が定年退職または定年前の退職を経験した方にお伺いします。

（1）配偶者の方の退職前に、退職後をどうすごすかの生活設計（仕事、家庭生活、余暇など）について、ご夫婦で話し合ったことがありましたか。

1. よくあった                      2. たまにあった                      3. まったくなかった

（2）あなたから見て、配偶者の方に、あるいはご家庭で、退職から今までに、次のようなことがありましたか。（○はいくつでも）

- |                     |                          |
|---------------------|--------------------------|
| 1. 経済的に苦しくなった       | 10. 生活のほりや生きがいがなくなった     |
| 2. 住宅問題で困った         | 11. 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした  |
| 3. 自分や配偶者の健康や体力が衰えた | 12. 今までの人的交流や情報量が減って困った  |
| 4. 配偶者や親の介護が必要になった  | 13. 世の中の情報化の進展についていけず困った |
| 5. 配偶者に先立たれた        | 14. 社会から取り残されてしまった       |
| 6. その他の家族の入院や死      | 15. 時間をもてあました            |
| 7. 再就職のことで困った       | 16. 地域社会にとけこめなかった        |
| 8. 家族との人間関係が悪くなった   | 17. その他（_____）           |
| 9. 親との新たな同居         | 18. 特に問題はなかった            |

問 23. 将来のお住まいはどのようにする予定ですか。（○は1つ）

1. 自分または配偶者の持ち家に住む  
2. 親・親類から家を譲り受ける  
3. 賃貸住宅に住む  
4. 自立型住居（有料老人ホーム、有料介護施設など）に住む  
5. その他（具体的に\_\_\_\_\_）

■ あなたの世帯の資産状況についておうかがいします。

問 24. 現在、住宅ローンを支払っていますか。（○は1つ）

1. 支払っている（残りはあと\_\_\_\_\_年）      2. 支払っていない

（問 24= 1のみ）

問 25. 現在の住宅ローン残高はおよそいくらですか。（○は1つ）

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. 100万円未満           | 5. 2000万円以上～5000万円未満 |
| 2. 100万円以上～500万円未満   | 6. 5000万円以上～1億円未満    |
| 3. 500万円以上～1000万円未満  | 7. 1億円以上             |
| 4. 1000万円以上～2000万円未満 | 8. わからない             |

問 26. 昨年1年間のあなたの世帯（ご夫婦合わせて）の年収はいくらですか。

（年金や副業での収入等も含めて、税込金額でお答えください）（○は1つ）

- |                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| 1. 200万円未満         | 6. 600万円以上～800万円未満   |
| 2. 200万円以上～300万円未満 | 7. 800万円以上～1000万円未満  |
| 3. 300万円以上～400万円未満 | 8. 1000万円以上～1500万円未満 |
| 4. 400万円以上～500万円未満 | 9. 1500万円以上          |
| 5. 500万円以上～600万円未満 | 10. わからない            |

問 27. 現在のあなたの世帯（ご夫婦合わせて）で保有している預貯金株債券などの金融資産は全部でおよそいくらですか。（不動産は除いてお答えください）（○は1つ）

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. なし                | 6. 2000万円以上～5000万円未満 |
| 2. 100万円未満           | 7. 5000万円以上～1億円未満    |
| 3. 100万円以上～500万円未満   | 8. 1億円以上             |
| 4. 500万円以上～1000万円未満  | 9. わからない             |
| 5. 1000万円以上～2000万円未満 |                      |

〔第2号被保険者で現在、年金を受給されている方のみ〕（SC3＝2のみ）

問 28. 現在のあなたの世帯（ご夫婦合わせて）の収入について、その収入の構成割合はそれぞれ何割くらいですか。次の（1）～（6）の合計が10割となるようにお答えください。

現在のあなたの世帯の収入	構成割合	
（1）公的年金		割
（2）企業年金		割
（3）個人年金		割
（4）給与		割
（5）不動産収入・利息・配当金		割
（6）その他の収入		割
合 計	10	割

（1）～（6）の合計が10になるようチェック

■ 現在のあなたの暮らしと将来の暮らし方についておうかがいします。

問 29. 現在のあなた自身の暮らしについて、どのように感じていますか。（○は1つ）

- |          |         |       |          |           |
|----------|---------|-------|----------|-----------|
| 1. とても楽だ | 2. 少し楽だ | 3. 普通 | 4. 少し苦しい | 5. とても苦しい |
|----------|---------|-------|----------|-----------|

問 30. あなたは5年前（平成18年）と比べて、現在のあなた自身の経済的な暮らしはどう変わったと感じていますか。（○は1つ）

- |                 |                  |          |
|-----------------|------------------|----------|
| 1. 以前よりとても楽になった | 2. 以前より少し楽になった   | 3. 変わらない |
| 4. 以前より少し苦しくなった | 5. 以前よりとても苦しくなった |          |

問 31. あなたは将来、家族とご自分の介護についてどのように考えていますか。次の（1）～（4）について、あてはまるものを選んでください。（○はそれぞれ1つずつ）

- |         |         |          |           |           |
|---------|---------|----------|-----------|-----------|
| 大変不安である | 少し不安である | あまり不安はない | まったく不安はない | 該当する人はいない |
|---------|---------|----------|-----------|-----------|

- |              |   |   |   |   |   |
|--------------|---|---|---|---|---|
| （1）ご自分の両親の介護 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| （2）配偶者の両親の介護 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| （3）ご自分の介護    | 1 | 2 | 3 | 4 | — |
| （4）配偶者の介護    | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問 32. あなたはご自分の介護を誰にしてもらいたいと思いますか。(○は1つ)

- |                  |                   |
|------------------|-------------------|
| 1. 配偶者           | 5. 介護施設に入る        |
| 2. 自分の子ども        | 6. まだ考えていない       |
| 3. 自分の兄弟姉妹       | 7. その他(具体的に_____) |
| 4. 介護サービスによる在宅介護 |                   |

■ ライフプランセミナーについておうかがいします。

[問 33～問 36 は第2号被保険者かつ定年前の方のみ](問 19=1, 2, 3のみ)

問 33. あなたは「ライフプランセミナー」という言葉をご存じですか。(○は1つ)

ここで言う「ライフプランセミナー」とは、定年退職後に充実した生活を送れるよう、退職後の生活設計(ライフプラン)についての準備を退職前から行うことを目的としたセミナーであり、主に「家計経済(年金や医療保険の仕組み)」「健康」「生きがい」などについて学んだり、自分で退職後の家計プランを作成したりするセミナーです。

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1. 知っており受講したことがある | 2. 知っているが受講したことはない |
| 3. 知らない           |                    |

(問 33=1のみ)

問 34. あなたは「ライフプランセミナー」をどこで受講しましたか。(○は1つ)

- |             |                   |
|-------------|-------------------|
| 1. 勤めている会社  | 2. 金融機関           |
| 3. 役所等の公的機関 | 4. その他(具体的に_____) |

(問 33=1のみ)

問 35. あなたは「ライフプランセミナー」を受講してよかったと思いますか。(○はいくつでも)

- |   |
|---|
| 1. 自分の退職後のライフプランのイメージを考えるきっかけとなりよかった。     |
| 2. 自分の退職後の家計プランを作成することができてよかった。           |
| 3. 今まで知らなかった退職後の年金などについての知識を知ることができてよかった。 |
| 4. あまり役にたたなかった。                           |
| 5. ほとんど役にたたなかった。                          |
| 6. その他(具体的に_____)                         |

(問 33=2, 3のみ)

問 36. あなたは「ライフプランセミナー」を受講してみたいと思いますか。(○は1つ)

- |   |
|---|
| 1. 無料であれば受けてみたい                         |
| 2. 有料(1日コースで8千円程度)でも受けてみたい              |
| 3. 有料(1泊2日コース宿泊料込みで3万円程度)でもじっくりと受講してみたい |
| 4. 受けてみたいとは思わない                         |
| 5. その他(具体的に_____)                       |

※ご協力ありがとうございました。

以 上



資料 2 「第 1 回～第 5 回調査の単純集計結果比較表」

(1) 本人調査結果 (企業年金あり)

(第 1 回～第 5 回調査結果)

(2) 本人調査結果 (企業年金なし)

(第 5 回調査結果のみ)

(3) 配偶者調査結果

(第 1 回～第 5 回調査結果)



## Ⅱ. 第1回～第5回調査の単純集計結果比較表

### (1) 本人調査結果(企業年金あり)

【本人調査】 SC1. 性別				
	総数	男	女	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	1,853	840	0
(%)	100	68.8	31.2	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	1,482	496	14
(%)	100	74.4	24.9	0.7
《第3回調査(平成13年)》	3,189	2,372	776	41
(%)	100	74.4	24.3	1.3
《第2回調査(平成8年)》	2,909	2,296	547	66
(%)	100	78.9	18.8	2.3
《第1回調査(平成3年)》	3,051	2,440	578	33
(%)	100	80.0	18.9	1.1

(注: 第5回は企業年金ありの35～74歳の男女2,693人の集計結果)

【本人調査】 SC2. 年齢													
	総数	35歳未満	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
《第5回調査(平成23年)》	2,693	0	423	360	329	307	351	317	328	278	0	0	53.3
(%)	100	0.0	15.7	13.4	12.2	11.4	13.0	11.8	12.2	10.3	0.0	0.0	53.3
《第4回調査(平成18年)》	1,992	0	252	219	243	235	345	218	285	143	0	52	54.0
(%)	100	0.0	12.7	11.0	12.2	11.8	17.3	10.9	14.3	7.2	0.0	2.6	54.0
《第3回調査(平成13年)》	3,189	0	341	331	358	419	448	407	556	248	0	81	54.9
(%)	100	0.0	10.7	10.4	11.2	13.1	14.0	12.8	17.4	7.8	0.0	2.5	54.9
《第2回調査(平成8年)》	2,909	0	262	336	348	314	405	399	521	214	0	110	55.2
(%)	100	0.0	9.0	11.6	12.0	10.8	13.9	13.7	17.9	7.4	0.0	3.8	55.2
《第1回調査(平成3年)》	3,051	0	265	426	362	360	425	439	472	230	0	72	54.6
(%)	100	0.0	8.7	14.0	11.9	11.8	13.9	14.4	15.5	7.5	0.0	2.4	54.6

【本人調査】 Q1. 婚姻状況						
	総数	未婚	既婚(配偶者あり)	既婚(離別)	既婚(死別)	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	279	2,188	159	67	0
(%)	100	10.4	81.2	5.9	2.5	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	267	1,576	57	74	18
(%)	100	13.4	79.1	2.9	3.7	0.9
《第3回調査(平成13年)》	3,189	370	2,597	70	105	47
(%)	100	11.6	81.4	2.2	3.3	1.5
《第2回調査(平成8年)》	2,909	248	2,477	43	99	42
(%)	100	8.5	85.1	1.5	3.4	1.4
《第1回調査(平成3年)》	3,051	176	2,737	41	65	32
(%)	100	5.8	89.7	1.3	2.1	1.0

【本人調査】 Q2. 世帯構成								
	総数	ひとり暮らし	自分たち夫婦だけ	自分たち夫婦(または自分と未婚の子)	自分たち夫婦(または自分と子ども夫婦)	自分たち夫婦(または自分と親)	その他	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	290	814	1,154	56	364	15	0
(%)	100	10.8	30.2	42.9	2.1	13.5	0.6	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	194	525	762	74	384	30	23
(%)	100	9.7	26.4	38.3	3.7	19.3	1.5	1.2
《第3回調査(平成13年)》	3,189	281	759	1,226	143	564	72	144
(%)	100	8.8	23.8	38.4	4.5	17.7	2.3	4.5
《第2回調査(平成8年)》	2,909	191	701	1,136	148	461	171	101
(%)	100	6.6	24.1	39.1	5.1	15.8	5.9	3.5
《第1回調査(平成3年)》	3,051	174	780	1,282	194	411	84	126
(%)	100	5.7	25.6	42.0	6.4	13.5	2.8	4.1

【本人調査】 Q3. 子供の有無				
	総数	子どもがいる	子どもはいない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	2,032	661	0
(%)	100	75.5	24.5	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	1,387	365	240
(%)	100	69.6	18.3	12.0
《第3回調査(平成13年)》	3,189	-	-	-
(%)	100	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	2,909	-	-	-
(%)	100	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3,051	-	-	-
(%)	100	-	-	-

【本人調査】 Q3 1.1. 子供の人数									
	該当数	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	無回答	平均(人)
《第5回調査(平成23年)》	2,032	457	1,175	365	33	2	0	0	2.0
(%)	100	22.5	57.8	18.0	1.6	0.1	0.0	0.0	2.0
《第4回調査(平成18年)》	1,387	254	848	257	25	3	0	0	2.0
(%)	100	18.3	61.1	18.5	1.8	0.2	0.0	0.0	2.0
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q3. 子供の年齢(第一子)										
	該当数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答	平均(歳)
《第5回調査(平成23年)》	2,032	273	451	456	542	305	5	0	0	25.3
(%)	100	13.4	22.2	22.4	26.7	15.0	0.2	0.0	0.0	25.3
《第4回調査(平成18年)》	1,387	160	277	327	434	168	7	0	14	25.7
(%)	100	11.5	20.0	23.6	31.3	12.1	0.5	0.0	1.0	25.7
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

本人調査	Q3. 子供の年齢(未子)								無回答	平均(歳)
	該当数	0 ~9歳	10 ~19歳	20 ~29歳	30 ~39歳	40 ~49歳	50 ~59歳	60歳 以上		
<<第5回調査(平成23年)>>	2,032	415	443	477	557	138	2	0	0	22.2
(%)	100	20.4	21.8	23.0	27.5	6.8	0.1	0.0	0.0	22.2
<<第4回調査(平成18年)>>	1,133	183	240	319	325	54	1	0	11	22.9
(%)	100	16.2	21.2	28.2	28.7	4.8	0.1	0.0	1.0	22.9
<<第3回調査(平成13年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第2回調査(平成8年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第1回調査(平成3年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

本人調査	Q3. 子供の就業状況 (1)正規従業員のお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
<<第5回調査(平成23年)>>	1,398	419	544	378	53	4	0	1.1
(%)	100	30.0	38.9	27.0	3.8	0.3	0.0	0.4
<<第4回調査(平成18年)>>	955	246	367	295	45	2	0	1.2
(%)	100	25.8	38.4	30.9	4.7	0.2	0.0	1.2
<<第3回調査(平成13年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第2回調査(平成8年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第1回調査(平成3年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

本人調査	Q3. 子供の就業状況 (2)派遣社員・スタッフなどのお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
<<第5回調査(平成23年)>>	1,398	987	336	71	4	0	0	0.4
(%)	100	70.6	24.0	5.1	0.3	0.0	0.0	0.4
<<第4回調査(平成18年)>>	955	771	159	23	2	0	0	0.2
(%)	100	80.7	16.6	2.4	0.2	0.0	0.0	0.2
<<第3回調査(平成13年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第2回調査(平成8年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第1回調査(平成3年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

本人調査	Q3. 子供の就業状況 (3)未就業のお子さまの人数(学生は除く)							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
<<第5回調査(平成23年)>>	1,398	1,064	286	45	3	0	0	0.3
(%)	100	76.1	20.5	3.2	0.2	0.0	0.0	0.3
<<第4回調査(平成18年)>>	955	837	103	8	0	1	0	0.1
(%)	100	87.6	11.4	0.8	0.0	0.1	0.0	0.1
<<第3回調査(平成13年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第2回調査(平成8年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第1回調査(平成3年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

本人調査	Q3. 子供の就業状況 (4)学生のお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
<<第5回調査(平成23年)>>	1,398	1,076	255	66	1	0	0	0.3
(%)	100	77.0	18.2	4.7	0.1	0.0	0.0	0.3
<<第4回調査(平成18年)>>	955	697	182	64	12	0	0	0.4
(%)	100	73.0	19.1	6.7	1.3	0.0	0.0	0.4
<<第3回調査(平成13年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第2回調査(平成8年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第1回調査(平成3年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

本人調査	Q3. 子供の結婚状況 (1)有配偶のお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
<<第5回調査(平成23年)>>	1,398	663	532	182	21	0	0	0.7
(%)	100	47.4	38.1	13.0	1.5	0.0	0.0	0.7
<<第4回調査(平成18年)>>	855	335	232	247	36	5	0	1.0
(%)	100	39.2	27.1	28.9	4.2	0.6	0.0	1.0
<<第3回調査(平成13年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第2回調査(平成8年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第1回調査(平成3年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

本人調査	Q3. 子供の結婚状況 (2)無配偶のお子さまの人数							
	該当数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
<<第5回調査(平成23年)>>	1,398	379	407	472	125	14	1	1.3
(%)	100	27.1	29.1	33.8	8.9	1.0	0.1	1.3
<<第4回調査(平成18年)>>	855	360	255	184	53	2	1	1.0
(%)	100	42.1	29.8	21.5	6.2	0.2	0.1	1.0
<<第3回調査(平成13年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第2回調査(平成8年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
<<第1回調査(平成3年)>>	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

本人調査	Q4. 居住地(都道府県)							
	総数	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州	無回答
<<第5回調査(平成23年)>>	2,693	232	1,183	359	576	174	169	0
(%)	100	8.6	43.9	13.3	21.4	6.5	6.3	0.0
<<第4回調査(平成18年)>>	1,992	110	764	302	236	132	208	240
(%)	100	5.5	38.4	15.2	11.8	6.6	10.4	12.0
<<第3回調査(平成13年)>>	3,189	248	1,322	484	574	236	252	73
(%)	100	7.8	41.5	15.2	18.0	7.4	7.9	2.3
<<第2回調査(平成8年)>>	2,909	195	796	825	580	221	176	116
(%)	100	6.7	27.4	28.4	19.9	7.6	6.1	4.0
<<第1回調査(平成3年)>>	3,051	271	1,131	436	589	316	234	74
(%)	100	8.9	37.1	14.3	19.3	10.4	7.7	2.4

【本人調査】 Q5. 居住年数

	総数	5年以上		10年以上		20年以上		30年以上	無回答
		5年未満	10年未満	10年未満	20年未満	20年未満	30年未満		
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	354	344	643	422	930	0		
(%)	100	13.1	12.8	23.9	15.7	34.5	0.0		
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	177	203	373	309	752	178		
(%)	100	8.9	10.2	18.7	15.5	37.8	8.9		
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	328	350	584	675	1,198	54		
(%)	100	10.3	11.0	18.3	21.2	37.6	1.7		
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	304	244	660	636	968	97		
(%)	100	10.5	8.4	22.7	21.9	33.3	3.3		
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	347	313	818	548	992	33		
(%)	100	11.4	10.3	26.8	18.0	32.5	1.1		

【本人調査】 Q6. 住居形態

	総数	持ち家(一戸建て)	持ち家(分譲マンション等)	社宅・会社の寮	公社・公団・公営の賃貸住宅	民間の借家・マンション・アパート	その他	無回答
(%)	100	59.5	21.0	2.2	3.2	13.7	0.3	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,237	314	44	46	167	16	168
(%)	100	62.1	15.8	2.2	2.3	8.4	0.8	8.4
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,125	471	123	113	201	12	144
(%)	100	66.6	14.8	3.9	3.5	6.3	0.4	4.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	2,057	338	100	102	187	30	95
(%)	100	70.7	11.6	3.4	3.5	6.4	1.0	3.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,210	283	140	114	229	27	48
(%)	100	72.4	9.3	4.6	3.7	7.5	0.9	1.6

【本人調査】 Q7. 最終学歴

	総数	小学校・高等小学校・新制中学校	旧制中学校・高等女学校・実業学校・新制高等学校	旧制高等学校・高等師範学校・新制短大	大学・大学院	専門学校・専修学校	その他	無回答
(%)	100	3.8	22.9	11.8	51.2	10.0	0.3	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	120	608	132	803	149	4	176
(%)	100	6.0	30.5	6.6	40.3	7.5	0.2	8.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	287	1,162	164	1,276	138	10	152
(%)	100	9.0	36.4	5.1	40.0	4.3	0.3	4.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	346	1,193	170	952	103	44	101
(%)	100	11.9	41.0	5.8	32.7	3.5	1.5	3.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	449	1,336	222	843	116	23	62
(%)	100	14.7	43.8	7.3	27.6	3.8	0.8	2.0

【本人調査】 Q8. 現在の就業形態

	総数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パート・タイマーなど	自営業・自由業・家族・従業員	内職	シルバー人材センター(高齢者事業団)	無職	その他	無回答
(%)	100	54.3	10.2	5.3	0.4	0.2	29.6	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,407	190	37	1	8	306	13	30
(%)	100	70.6	9.5	1.9	0.1	0.4	15.4	0.7	1.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,917	333	67	6	26	554	4	282
(%)	100	60.1	10.4	2.1	0.2	0.8	17.4	0.1	8.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,853	274	80	13	30	509	95	185
(%)	100	63.7	9.4	2.8	0.4	1.0	17.5	1.9	3.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,047	303	80	8	23	506	-	84
(%)	100	67.1	9.9	2.6	0.3	0.8	16.6	-	2.8

【本人調査】 Q8.1. 現在の就業形態(退職後経過年数)

	該当数	5年未満	5~10年未満	10~15年未満	15~20年未満	20年以上	0年	無回答	平均(年)
									* 0年含む
≪第5回調査(平成23年)≫	881	287	312	175	33	74	0	0	8.9
(%)	100	32.6	35.2	19.9	3.7	8.4	0.0	0.0	8.9
≪第4回調査(平成18年)≫	306	105	110	43	8	6	1	33	6.6
(%)	100	34.3	35.9	14.1	2.6	2.0	0.3	10.8	6.6
≪第3回調査(平成13年)≫	554	284	188	45	15	2	1	19	4.8
(%)	100	51.3	33.9	8.1	2.7	0.4	0.2	3.4	4.8
≪第2回調査(平成8年)≫	509	279	130	60	9	2	4	25	4.7
(%)	100	54.8	25.5	11.8	1.8	0.4	0.8	4.9	4.7
≪第1回調査(平成3年)≫	506	207	141	62	10	0	19	67	5.0
(%)	100	40.9	27.9	12.3	2.0	0.0	3.8	13.2	5.0

【本人調査】 Q9.1. 現在の業種

	該当数	水産・農業	鉱業	建設	食料品	繊維製品 ハルブ・紙	化学 医薬品	石油 石炭	ゴム製品 ガラス 土石製品	鉄鋼 非鉄金属 金属製品	機械 電気機器	輸送用機器 精密機器 その他製品	卸売業 小売業	銀行・証券 保険 その他金融
(%)	100	0.4	0.4	8.2	2.1	1.3	4.0	0.4	0.6	2.8	7.6	5.7	8.8	4.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	不動産	運輸	通信	電気 ガス	サービス	公官庁	その他
(%)	3	4.8	3.2	1.3	17.4	2.9	21.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q9 2. 現在の職種

	該当数	現在の職種									
		専門技術職(研究職・技師等)	管理職(役員・課長以上の管理職)	事務職(一般事務・営業・経理事務等)	販売職(店員・セールス等)	技能職	サービス職(添乗員・ホテルマン等)	その他	無回答	非該当	
《第5回調査(平成23年)》	1,897	308	524	533	96	259	60	117	0	0	0
(%)	100	16.2	27.6	28.1	5.1	13.7	3.2	6.2	0.0	0.0	
《第4回調査(平成18年)》	1,656	94	655	665	44	123	16	48	11	0	
(%)	100	5.7	39.6	40.2	2.7	7.4	1.0	2.9	0.7	0.0	
《第3回調査(平成13年)》	2,353	149	920	869	62	231	54	21	43	4	
(%)	100	6.3	39.1	36.9	2.6	9.8	2.3	0.9	1.8	0.2	
《第2回調査(平成8年)》	2,305	100	923	747	49	224	36	105	66	55	
(%)	100	4.3	40.0	32.4	2.1	9.7	1.6	4.6	2.9	2.4	
《第1回調査(平成3年)》	2,461	119	1,126	700	56	245	35	79	101	0	
(%)	100	4.8	45.8	28.4	2.3	10.0	1.4	3.2	4.1	0.0	

【本人調査】

Q9 3. 現在の勤務先の企業規模

	該当数	現在の勤務先の企業規模					無回答	非該当
		1~29人	30~99人	100~299人	300~999人	1000人以上		
《第5回調査(平成23年)》	1,897	383	273	301	300	575	65	0
(%)	100	20.2	14.4	15.9	15.8	30.3	3.4	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	400	242	246	202	542	24	0
(%)	100	24.2	14.6	14.9	12.2	32.7	1.4	0.0
《第3回調査(平成13年)》	2,353	383	256	232	252	1,161	65	4
(%)	100	16.3	10.9	9.9	10.7	49.3	2.8	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	342	274	254	250	1,059	71	55
(%)	100	14.8	11.9	11.0	10.8	45.9	3.1	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	395	272	328	316	1,060	90	0
(%)	100	16.1	11.1	13.3	12.8	43.1	3.7	0.0

【本人調査】

Q9 4 1. 現在の1週間の勤務日数

	該当数	現在の1週間の勤務日数										平均(日)* 0日含む	
		1日未満	1~2日未満	2~3日未満	3~4日未満	4~5日未満	5~6日未満	6~7日未満	7日以上	0日	無回答		非該当
《第5回調査(平成23年)》	1,897	0	23	31	68	104	1,406	244	21	-	-	-	4.9
(%)	100	0.0	1.2	1.6	3.6	5.5	74.1	12.9	1.1	-	-	-	4.9
《第4回調査(平成18年)》	1,656	0	7	16	53	32	1,388	137	9	1	13	0	5.0
(%)	100	0.0	0.4	1.0	3.2	1.9	83.8	8.3	0.5	0.1	0.8	0.0	5.0
《第3回調査(平成13年)》	2,353	0	19	36	60	52	1,884	228	20	0	50	4	5.0
(%)	100	0.0	0.8	1.5	2.5	2.2	80.1	9.7	0.8	0.0	2.1	0.2	5.0
《第2回調査(平成8年)》	2,305	1	13	22	44	36	1,787	267	10	1	69	55	5.0
(%)	100	0.0	0.6	1.0	1.9	1.6	77.5	11.6	0.4	0.0	3.0	2.4	5.0
《第1回調査(平成3年)》	2,461	0	20	30	40	38	1,520	687	22	0	104	0	5.2
(%)	100	0.0	0.8	1.2	1.6	1.5	61.8	27.9	0.9	0.0	4.2	0.0	5.2

【本人調査】

Q9 5 1. 現在の1日の勤務時間

	該当数	現在の1日の勤務時間														
		1時間未満	1~2時間未満	2~3時間未満	3~4時間未満	4~5時間未満	5~6時間未満	6~7時間未満	7~8時間未満	8~9時間未満	9~10時間未満	10~12時間未満	12~15時間未満	15時間以上	0時間	
《第5回調査(平成23年)》	1,897	0	15	19	37	45	61	69	139	819	257	334	78	24	0	
(%)	100	0.0	0.8	1.0	2.0	2.4	3.2	3.6	7.3	43.2	13.5	17.6	4.1	1.3	0.0	
《第4回調査(平成18年)》	1,656	0	1	6	11	14	20	27	153	673	301	351	69	10	4	
(%)	100	0.0	0.1	0.4	0.7	0.8	1.2	1.6	9.2	40.6	18.2	21.2	4.2	0.6	0.2	
《第3回調査(平成13年)》	2,353	0	0	9	19	25	34	53	191	1,328	255	254	112	12	0	
(%)	100	0.0	0.0	0.4	0.8	1.1	1.4	2.3	8.1	56.4	10.8	10.8	4.8	0.5	0.0	
《第2回調査(平成8年)》	2,305	1	2	3	15	25	34	48	451	1,141	195	160	65	8	1	
(%)	100	0.0	0.1	0.1	0.7	1.1	1.5	2.1	19.6	49.5	8.5	6.9	2.8	0.3	0.0	
《第1回調査(平成3年)》	2,461	0	2	5	19	15	28	48	278	1,330	285	208	62	97	1	
(%)	100	0.0	0.1	0.2	0.8	0.6	1.1	2.0	11.3	54.0	11.6	8.5	2.5	3.9	0.0	

	平均(時間)* 0時間含む	
	無回答	非該当
《第5回調査(平成23年)》	-	8.3
(%)	-	8.3
《第4回調査(平成18年)》	16	8.6
(%)	1.0	8.6
《第3回調査(平成13年)》	57	8.3
(%)	2.4	8.3
《第2回調査(平成8年)》	101	8.1
(%)	4.4	8.1
《第1回調査(平成3年)》	83	9.4
(%)	3.4	9.4

【本人調査】

Q10 1. 現在の就業状況についての満足度 (1) 仕事の内容

	該当数	現在の就業状況についての満足度 (1) 仕事の内容					無回答	非該当
		とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である		
《第5回調査(平成23年)》	1,897	290	800	534	193	80	0	0
(%)	100	15.3	42.2	28.1	10.2	4.2	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	269	819	407	116	29	16	-
(%)	100	16.2	49.5	24.6	7.0	1.8	1.0	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	313	1,152	534	189	57	104	4
(%)	100	13.3	49.0	22.7	8.0	2.4	4.4	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	398	1,098	484	171	50	49	55
(%)	100	17.3	47.6	21.0	7.4	2.2	2.1	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q10 2. 現在の就業状況についての満足度 (2) 就業形態

	該当数	現在の就業状況についての満足度 (2) 就業形態					無回答	非該当
		とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である		
《第5回調査(平成23年)》	1,897	317	856	464	187	73	0	0
(%)	100	16.7	45.1	24.5	9.9	3.8	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	345	790	340	125	39	17	-
(%)	100	20.8	47.7	20.5	7.5	2.4	1.0	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	309	1,083	511	272	62	112	4
(%)	100	13.1	46.0	21.7	11.6	2.6	4.8	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	356	1,052	498	240	44	60	55
(%)	100	15.4	45.6	21.6	10.4	1.9	2.6	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q10.3. 現在の就業状況についての満足度 (3)職場での地位の高さ						
	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《第5回調査(平成23年)》	1,897	227	587	741	230	112	0	0
(%)	100	12.0	30.9	39.1	12.1	5.9	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	253	589	572	177	46	19	-
(%)	100	15.3	35.6	34.5	10.7	2.8	1.1	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	232	856	824	236	81	120	4
(%)	100	9.9	36.4	35.0	10.0	3.4	5.1	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	259	833	813	211	60	74	55
(%)	100	11.2	36.1	35.3	9.2	2.6	3.2	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q10.4. 現在の就業状況についての満足度 (4)賃金						
	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《第5回調査(平成23年)》	1,897	140	448	562	493	254	0	0
(%)	100	7.4	23.6	29.6	26.0	13.4	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	153	488	467	403	125	20	-
(%)	100	9.2	29.5	28.2	24.3	7.5	1.2	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	151	730	610	537	207	114	4
(%)	100	6.4	31.0	25.9	22.8	8.8	4.8	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	144	690	653	529	170	64	55
(%)	100	6.2	29.9	28.3	23.0	7.4	2.8	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q10.5. 現在の就業状況についての満足度 (5)業績評価の公平さ						
	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《第5回調査(平成23年)》	1,897	134	429	736	358	230	0	0
(%)	100	7.1	22.6	38.8	19.4	12.1	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	119	434	646	315	114	28	-
(%)	100	7.2	26.2	39.0	19.0	6.9	1.7	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	2,305	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q10.6. 現在の就業状況についての満足度 (6)福利厚生						
	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《第5回調査(平成23年)》	1,897	157	508	691	365	176	0	0
(%)	100	8.3	26.8	36.4	19.2	9.3	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	152	576	558	272	70	28	-
(%)	100	9.2	34.8	33.7	16.4	4.2	1.7	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	153	776	747	405	145	123	4
(%)	100	6.5	33.0	31.7	17.2	6.2	5.2	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	175	737	688	408	163	79	55
(%)	100	7.6	32.0	29.8	17.7	7.1	3.4	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q10.7. 現在の就業状況についての満足度 (7)職場の人間関係・雰囲気						
	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《第5回調査(平成23年)》	1,897	213	695	637	229	123	0	0
(%)	100	11.2	36.6	33.6	12.1	6.5	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	208	707	448	209	66	18	-
(%)	100	12.6	42.7	27.1	12.6	4.0	1.1	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	177	956	705	285	113	113	4
(%)	100	7.5	40.6	30.0	12.1	4.8	4.8	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	244	913	657	272	104	60	55
(%)	100	10.6	39.6	28.5	11.8	4.5	2.6	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q10.8. 現在の就業状況についての満足度 (8)全体として						
	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	非該当
《第5回調査(平成23年)》	1,897	169	742	626	260	100	0	0
(%)	100	8.9	39.1	33.0	13.7	5.3	0.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,656	158	767	485	202	29	15	-
(%)	100	9.5	46.3	29.3	12.2	1.8	0.9	-
《第3回調査(平成13年)》	2,353	164	1,055	661	297	62	110	4
(%)	100	7.0	44.8	28.1	12.6	2.6	4.7	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,305	190	1,089	603	255	57	56	55
(%)	100	8.2	47.2	26.2	11.1	2.5	2.4	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2,461	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q11.1. 自由時間の有無				
	総数	十分に ある	まあまあ	不十分 である	まったく ない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	969	1,234	445	45	0
(%)	100	36.0	45.8	16.5	1.7	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	528	958	390	36	80
(%)	100	26.5	48.1	19.6	1.8	4.0
《第3回調査(平成13年)》	3,189	826	1,365	1,081	72	45
(%)	100	19.6	42.8	33.9	2.3	1.4
《第2回調査(平成8年)》	2,909	646	1,374	811	46	32
(%)	100	22.2	47.2	27.9	1.6	1.1
《第1回調査(平成3年)》	3,051	575	1,234	1,053	146	43
(%)	100	18.8	40.4	34.5	4.8	1.4

【本人調査】

Q11.2. 自由時間の過ごし方

該当数	仕事仲間のプライベートなつきあい	仕事に関する勉強や残務整理	テレビ・ゴロパチンコ、酒など	ひとり趣味・スポーツなど	仲間と趣味・スポーツなど	パソコン通信やインターネットなど	個人的な友人・仲間とのつきあい	行楽・ドライブなど	庭いじりや家事など家庭内のこと	家庭との団らんや家庭サービス	近隣の人のつきあいや地域の用事	その他	特に何もしない	無回答	
《第5回調査(平成23年)》	2,648	194	171	743	954	536	1,534	542	518	621	849	142	31	33	0
(%)	100	7.3	6.5	28.1	36.0	20.2	57.9	20.5	19.6	23.5	32.1	5.4	1.2	1.2	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,876	168	162	544	531	549	303	524	430	561	716	167	88	14	39
(%)	100	9.0	8.6	29.0	28.3	29.3	16.2	27.9	22.9	29.9	38.2	8.9	4.7	0.7	2.1
《第3回調査(平成13年)》	3,072	302	374	986	874	944	388	811	861	1,106	962	191	105	18	16
(%)	100	9.8	12.2	32.1	28.5	30.7	12.6	26.4	28.0	36.0	31.3	6.2	3.4	0.6	0.5
《第2回調査(平成8年)》	2,831	280	317	909	839	829	72	754	827	1,083	936	198	82	17	21
(%)	100	9.9	11.2	32.1	29.6	29.3	2.5	26.6	29.2	38.3	33.1	7.0	2.9	0.6	0.7
《第1回調査(平成3年)》	2,862	535	483	1,239	904	477	-	602	335	961	1,014	190	70	51	15
(%)	100	18.7	16.9	43.3	31.6	16.7	-	21.0	11.7	33.6	35.4	6.6	2.4	1.8	0.5

【本人調査】

Q12. 社会活動参加状況

該当数	定期的に参加している	ときどき参加している	以前に参加したことがある	参加していない	無回答	
《第5回調査(平成23年)》	2,693	250	522	451	1,470	0
(%)	100	9.3	19.4	16.7	54.6	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,992	228	287	190	1,165	122
(%)	100	11.4	14.4	9.5	58.5	6.1
《第3回調査(平成13年)》	3,189	395	372	311	1,789	322
(%)	100	12.4	11.7	9.8	56.1	10.1
《第2回調査(平成8年)》	2,909	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3,051	372	383	301	1,918	77
(%)	100	12.2	12.6	9.9	62.9	2.5

【本人調査】

Q12.1. 社会活動参加分野 (複数選択)

該当数	地域の生活環境を守る活動	イベントや「村おこし」の活動	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	児童や青少年活動の世話役としての活動	地域の文化財や伝統を守る活動	消費者活動や生活向上のための活動	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	自然保護や環境保全の活動	国際交流に関する活動	その他	無回答	
《第5回調査(平成23年)》	772	424	308	189	143	100	61	116	56	127	61	55	0
(%)	-	54.9	39.9	24.5	18.5	13.0	7.9	15.0	7.3	16.5	7.9	7.1	0.0
《第4回調査(平成18年)》	515	220	152	122	79	52	12	65	41	48	10	60	2
(%)	-	42.7	29.5	23.7	15.3	10.1	2.3	12.6	8.0	9.3	1.9	11.7	0.4
《第3回調査(平成13年)》	767	288	223	227	83	58	25	80	83	94	48	63	8
(%)	-	37.5	29.1	29.6	10.8	7.6	3.3	10.4	10.8	12.3	6.3	8.2	1.0
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	755	321	177	256	128	62	38	96	-	93	44	40	22
(%)	-	42.5	23.4	33.9	17.0	8.2	5.0	12.7	-	12.3	5.8	5.3	2.9

【本人調査】

Q12.1. 社会活動参加分野 (最もあてはまるものをひとつ選択)

該当数	地域の生活環境を守る活動	イベントや「村おこし」の活動	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	児童や青少年活動の世話役としての活動	地域の文化財や伝統を守る活動	消費者活動や生活向上のための活動	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	自然保護や環境保全の活動	国際交流に関する活動	その他	
《第5回調査(平成23年)》	772	242	129	106	66	28	10	61	24	32	19	55
(%)	100	31.3	16.7	13.7	8.5	3.6	1.3	7.9	3.1	4.1	2.5	7.1
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.2. 社会活動参加理由 (あてはまるもの3つまで選択)

該当数	地域や社会に貢献したい	自分の知識や経験を活かしたい	社会への見聞を広げたい	友人や仲間を増やしたい	生活にはりあいを持たせたい	身近な人に誘われた	会社の勧めや命令	社会人として当然と思った	何となく	その他	無回答	
《第5回調査(平成23年)》	772	495	249	146	214	170	183	23	209	72	20	0
(%)	-	64.1	32.3	18.9	27.7	22.0	23.7	3.0	27.1	9.3	2.6	0.0
《第4回調査(平成18年)》	515	291	112	72	114	109	118	25	123	6	51	0
(%)	-	56.5	21.7	14.0	22.1	21.2	22.9	4.9	23.9	1.2	9.9	0.0
《第3回調査(平成13年)》	767	426	214	117	236	160	122	47	189	7	40	14
(%)	-	55.5	27.9	15.3	30.8	20.9	15.9	6.1	24.6	0.9	5.2	1.8
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	755	398	245	149	192	173	138	35	264	7	21	14
(%)	-	52.7	32.5	19.7	25.4	22.9	18.3	4.6	35.0	0.9	2.8	1.9

【本人調査】

Q12.2. 社会活動参加理由 (最もあてはまるものをひとつ選択)

該当数	地域や社会に貢献したい	自分の知識や経験を活かしたい	社会への見聞を広げたい	友人や仲間を増やしたい	生活にはりあいを持たせたい	身近な人に誘われた	会社の勧めや命令	社会人として当然と思った	何となく	その他	
《第5回調査(平成23年)》	772	302	103	30	73	44	78	9	73	38	22
(%)	100	39.1	13.3	3.9	9.5	5.7	10.1	1.2	9.5	4.9	2.8
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.3. やりがいを感じる活動団体

	該当数	行政機関 (民生委員 など)	社会福祉 協議会	町内会 自治会	老人クラブ	公的施設・ 機関のボ ランティア 団体	地域住民 によるボラ ンティア団 体	民間施設・ 機関のボラ ンティア団 体	NPO法人	当事者団 体	個人または 個人的な 集まり	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	772	41	23	279	11	47	117	39	40	39	120	16
(%)	100	5.3	3.0	36.1	1.4	6.1	15.2	5.1	5.2	5.1	15.5	2.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.4. やりがいを感じる活動団体を選んだ理由

	該当数	活動の運 営主体(運 営者や機 関)	活動の 内容	活動団体の 歴史 (存続年 数)	活動団体の 評判	活動団体 内の統制 のとれた 規律	活動団体 内の対等 な 人間関係	自宅と活 動地域と の距離	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	772	93	303	13	16	13	84	225	25
(%)	100	12.0	39.2	1.7	2.1	1.7	10.9	29.1	3.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.5. 社会活動不参加理由 (あてはまるもの3つまで選択)

	該当数	時間がな い	経済的余 裕がない	精神的な ゆとりがな い	健康や体 力に自信 がない	家族など 周囲の理 解や協力が 得られ ない	自分に あった活 動の場が ない	いっしょに やる仲間 がいない	何から始 めるか、 きっかけが つかめな い	興味がな い、関心が ない	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,921	746	390	638	439	52	723	422	814	569	26	0
(%)	-	38.8	20.3	33.2	22.9	2.7	37.6	22.0	42.4	29.6	1.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,355	560	131	322	145	22	274	171	553	289	53	40
(%)	-	41.3	9.7	23.8	10.7	1.6	20.2	12.6	40.8	21.3	3.9	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,100	1,114	172	389	211	20	363	197	728	216	119	71
(%)	-	53.0	8.2	18.5	10.0	1.0	17.3	9.4	34.7	10.3	5.7	3.4
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,219	986	214	363	258	31	572	281	799	397	70	98
(%)	-	44.4	9.6	16.4	11.6	1.4	25.8	12.7	36.0	17.9	3.2	4.4

【本人調査】

Q12.5. 社会活動不参加理由 (最もあてはまるものをひとつ選択)

	該当数	時間がな い	経済的余 裕がない	精神的な ゆとりがな い	健康や体 力に自信 がない	家族など 周囲の理 解や協力が 得られ ない	自分に あった活 動の場が ない	いっしょに やる仲間 がいない	何から始 めるか、 きっかけが つかめな い	興味がな い、関心が ない	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,921	399	117	191	181	12	227	66	324	378	26
(%)	100	20.8	6.1	9.9	9.4	0.6	11.8	3.4	16.9	19.7	1.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q12.6. 社会活動不参加者の今後の活動意向

	該当数	積極的に 参加した い	条件によ つては参加 してもよい	参加する つもりはな い	わからな い	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,921	40	1,078	472	331	0
(%)	100	2.1	56.1	24.6	17.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,355	60	824	193	267	11
(%)	100	4.4	60.8	14.2	19.7	0.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,100	137	1,262	204	465	32
(%)	100	6.5	60.1	9.7	22.1	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,219	159	1,332	254	440	34
(%)	100	7.2	60.0	11.4	19.8	1.5

【本人調査】

Q12.7. 社会参加不参加者の中で今後参加してもよいとした人が関心を持っている活動団体

	該当数	行政機関 (民生委員 など)	社会福祉 協議会	町内会 自治会	老人クラブ	公的施設・ 機関のボ ランティア 団体	地域住民 によるボラ ンティア団 体	民間施設・ 機関のボラ ンティア団 体	NPO法人	当事者団 体	個人または 個人的な 集まり	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,118	86	52	171	13	194	159	94	176	19	133	21
(%)	100	7.7	4.7	15.3	1.2	17.4	14.2	8.4	15.7	1.7	11.9	1.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	Q12.7. 社会参加不参加者の中で今後参加してもよいとした人が関心を持っている活動団体を選んだ理由								
	該当 数	活動の運 営主体(運 営者や機 関)	活動の 内容	活動団体 の歴史 (存続年 数)	活動団体 の評判	活動団体 内の統制 のとれた 規律	活動団体 内の対等 な 人間関係	自宅と活 動地域と の距離	その他
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,118 100	204 18.2	393 35.2	9 0.8	45 4.0	40 3.6	106 9.5	302 27.0	19 1.7
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	Q13.1. 生活充足感 (1)健康						
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	2,693 100	228 8.5	1,343 49.9	600 22.3	426 15.8	96 3.6	0 0.0
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	1,992 100	203 10.2	1,073 53.9	325 16.3	295 14.8	36 1.8	60 3.0
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	3,189 100	411 12.9	1,834 57.5	412 12.9	444 13.9	51 1.6	37 1.2
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	2,909 100	488 16.8	1,708 58.7	325 11.2	324 11.1	38 1.3	26 0.9
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	3,051 100	473 15.5	1,819 59.6	314 10.3	386 12.7	32 1.0	27 0.9

	Q13.2. 生活充足感 (2)時間的ゆとり						
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	2,693 100	402 14.9	1,239 46.0	524 19.5	415 15.4	113 4.2	0 0.0
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	1,992 100	239 12.0	875 43.9	349 17.5	377 18.9	91 4.6	61 3.1
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	3,189 100	381 11.9	1,157 36.3	567 17.8	821 25.7	213 6.7	50 1.6
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	2,909 100	426 14.6	1,297 44.6	440 15.1	578 19.9	132 4.5	36 1.2
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	3,051 100	452 14.8	1,275 41.8	499 16.4	655 21.5	135 4.4	35 1.1

	Q13.3. 生活充足感 (3)経済的ゆとり						
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	2,693 100	120 4.5	983 36.5	784 29.1	591 21.9	215 8.0	0 0.0
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	1,992 100	93 4.7	871 43.7	526 26.4	363 18.2	83 4.2	56 2.8
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	3,189 100	141 4.4	1,384 43.4	900 28.2	587 18.4	116 3.6	61 1.9
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	2,909 100	146 5.0	1,398 48.1	750 25.8	493 16.9	85 2.9	37 1.3
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	3,051 100	142 4.7	1,421 46.6	812 26.6	535 17.5	98 3.2	43 1.4

	Q13.4. 生活充足感 (4)精神的ゆとり						
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	2,693 100	157 5.8	1,065 39.5	778 28.9	548 20.3	145 5.4	0 0.0
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	1,992 100	101 5.1	839 42.1	580 29.1	342 17.2	61 3.1	69 3.5
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	3,189 100	214 6.7	1,376 43.1	906 28.4	537 16.8	88 2.8	68 2.1
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	2,909 100	240 8.3	1,465 50.4	689 23.7	396 13.6	64 2.2	55 1.9
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	3,051 100	236 7.7	1,505 49.3	754 24.7	451 14.8	56 1.8	49 1.6

	Q13.5. 生活充足感 (5)家族の理解・愛情						
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	2,693 100	446 16.6	1,334 49.5	675 25.1	178 6.6	60 2.2	0 0.0
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	1,992 100	413 20.7	1,084 54.4	326 16.4	74 3.7	23 1.2	72 3.6
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	3,189 100	792 24.8	1,736 54.4	426 13.4	122 3.8	31 1.0	82 2.6
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	2,909 100	700 24.1	1,639 56.3	382 13.1	102 3.5	24 0.8	62 2.1
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	3,051 100	751 24.6	1,821 59.7	313 10.3	88 2.9	20 0.7	58 1.9

	Q13.6. 生活充足感 (6)友人・仲間						
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	2,693 100	238 8.8	1,314 48.8	834 31.0	252 9.4	55 2.0	0 0.0
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	1,992 100	203 10.2	1,075 54.0	492 24.7	145 7.3	17 0.9	60 3.0
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	3,189 100	383 12.0	1,768 55.4	715 22.4	227 7.1	38 1.2	58 1.8
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	2,909 100	411 14.1	1,665 57.2	569 19.6	202 6.9	33 1.1	29 1.0
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	3,051 100	373 12.2	1,782 57.8	631 20.7	214 7.0	32 1.0	39 1.3

【本人調査】 Q13 7. 生活充足感 (7) 熱中できる趣味

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	377	1,187	766	290	73	0
(%)	100	14.0	44.1	28.4	10.8	2.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	236	789	462	343	98	64
(%)	100	11.8	39.6	23.2	17.2	4.9	3.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	486	1,293	657	536	153	64
(%)	100	15.2	40.5	20.6	16.8	4.8	2.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	515	1,222	557	475	109	31
(%)	100	17.7	42.0	19.1	16.3	3.7	1.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	477	1,254	546	585	147	42
(%)	100	15.6	41.1	17.9	19.2	4.8	1.4

【本人調査】 Q13 8. 生活充足感 (8) 仕事のほりあい

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	128	750	1,068	461	286	0
(%)	100	4.8	27.8	39.7	17.1	10.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	127	830	593	233	85	124
(%)	100	6.4	41.7	29.8	11.7	4.3	6.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	240	1,326	914	349	157	203
(%)	100	7.5	41.6	28.7	10.9	4.9	6.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	293	1,333	738	271	122	152
(%)	100	10.1	45.8	25.4	9.3	4.2	5.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	336	1,439	779	255	115	127
(%)	100	11.0	47.2	25.5	8.4	3.8	4.2

【本人調査】 Q13 9. 生活充足感 (9) 社会的地位

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	89	652	1,269	453	230	0
(%)	100	3.3	24.2	47.1	16.8	8.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	99	689	794	217	98	95
(%)	100	5.0	34.6	39.9	10.9	4.9	4.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	118	1,057	1,309	317	232	156
(%)	100	3.7	33.1	41.0	9.9	7.3	4.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	139	1,049	1,132	303	180	106
(%)	100	4.8	36.1	38.9	10.4	6.2	3.6
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	132	1,154	1,127	329	198	111
(%)	100	4.3	37.8	36.9	10.8	6.5	3.6

【本人調査】 Q13 10. 生活充足感 (10) 自然とのふれあい

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	160	1,001	971	449	112	0
(%)	100	5.9	37.2	36.1	16.7	4.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	119	691	588	431	101	62
(%)	100	6.0	34.7	29.5	21.6	5.1	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	285	1,223	777	662	158	84
(%)	100	8.9	38.4	24.4	20.8	5.0	2.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	319	1,243	631	547	131	38
(%)	100	11.0	42.7	21.7	18.8	4.5	1.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	296	1,241	635	704	128	47
(%)	100	9.7	40.7	20.8	23.1	4.2	1.5

【本人調査】 Q13 11. 生活充足感 (11) 近隣との交流

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	64	664	1,083	646	236	0
(%)	100	2.4	24.7	40.2	24.0	8.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	47	501	630	533	221	60
(%)	100	2.4	25.2	31.6	26.8	11.1	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	100	765	981	890	396	57
(%)	100	3.1	24.0	30.8	27.9	12.4	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	115	835	838	758	327	36
(%)	100	4.0	28.7	28.8	26.1	11.2	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	130	930	830	865	262	34
(%)	100	4.3	30.5	27.2	28.4	8.6	1.1

【本人調査】 Q13 12. 生活充足感 (12) 社会の役に立つこと

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	65	508	1,192	690	238	0
(%)	100	2.4	18.9	44.3	25.6	8.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	37	314	814	540	219	68
(%)	100	1.9	15.8	40.9	27.1	11.0	3.4
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	60	493	1,138	976	448	74
(%)	100	1.9	15.5	35.7	30.6	14.0	2.3
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	85	601	1,121	755	306	41
(%)	100	2.9	20.7	38.5	26.0	10.5	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	89	679	1,113	790	315	65
(%)	100	2.9	22.3	36.5	25.9	10.3	2.1

【本人調査】 Q13 13. 生活充足感 (13) 住まいのこと

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	248	1,120	936	317	72
(%)	100	9.2	41.6	34.8	11.8	2.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.1. 性格 (1)人との関係やつながりを大切ににする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	626	1,629	407	31	0
(%)	100	23.2	60.5	15.1	1.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	745	1,009	162	13	63
(%)	100	37.4	50.7	8.1	0.7	3.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,685	1,286	181	13	24
(%)	100	52.8	40.3	5.7	0.4	0.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,608	1,110	151	10	30
(%)	100	55.3	38.2	5.2	0.3	1.0
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	1,534	1,249	179	8	81
(%)	100	50.3	40.9	5.9	0.3	2.7

【本人調査】 Q14.2. 性格 (2)自分の世界や個性を大切ににする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	584	1,706	380	23	0
(%)	100	21.7	63.3	14.1	0.9	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	460	1,070	375	20	67
(%)	100	23.1	53.7	18.8	1.0	3.4
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,041	1,556	514	25	53
(%)	100	32.6	48.8	16.1	0.8	1.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	968	1,408	468	22	43
(%)	100	33.3	48.4	16.1	0.8	1.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	870	1,487	506	23	165
(%)	100	28.5	48.7	16.6	0.8	5.4

【本人調査】 Q14.3. 性格 (3)いつも目標に向かってつき進む

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	313	1,340	978	62	0
(%)	100	11.6	49.8	36.3	2.3	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	249	909	718	46	70
(%)	100	12.5	45.6	36.0	2.3	3.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	596	1,556	901	77	59
(%)	100	18.7	48.8	28.3	2.4	1.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	584	1,429	804	46	46
(%)	100	20.1	49.1	27.6	1.6	1.6
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	623	1,414	802	53	159
(%)	100	20.4	46.3	26.3	1.7	5.2

【本人調査】 Q14.4. 性格 (4)無理をせずマイペースで進む

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	516	1,734	413	30	0
(%)	100	16.2	64.4	15.3	1.1	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	385	1,083	430	32	62
(%)	100	19.3	54.4	21.6	1.6	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	795	1,691	607	52	44
(%)	100	24.9	53.0	19.0	1.6	1.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	740	1,541	545	50	33
(%)	100	25.4	53.0	18.7	1.7	1.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	885	1,548	468	36	114
(%)	100	29.0	50.7	15.3	1.2	3.7

【本人調査】 Q14.5. 性格 (5)他人にはない自分なりの価値観を持っている

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	481	1,638	543	31	0
(%)	100	17.9	60.8	20.2	1.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	333	1,047	521	25	66
(%)	100	16.7	52.6	26.2	1.3	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	746	1,567	775	51	50
(%)	100	23.4	49.1	24.3	1.6	1.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	729	1,514	588	36	42
(%)	100	25.1	52.0	20.2	1.2	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.6. 性格 (6)自分には他人にない優れたところがある

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	232	1,346	1,025	90	0
(%)	100	8.6	50.0	38.1	3.3	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	134	821	901	70	66
(%)	100	6.7	41.2	45.2	3.5	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	314	1,375	1,318	125	57
(%)	100	9.8	43.1	41.3	3.9	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	364	1,346	1,058	98	43
(%)	100	12.5	46.3	36.4	3.4	1.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.7. 性格 (7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	288	1,346	960	99	0
(%)	100	10.7	50.0	35.6	3.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	185	767	885	93	62
(%)	100	9.3	38.5	44.4	4.7	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	511	1,323	1,167	139	49
(%)	100	16.0	41.5	36.6	4.4	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	512	1,187	1,064	110	36
(%)	100	17.6	40.8	36.6	3.8	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	501	1,172	1,092	134	152
(%)	100	16.4	38.4	35.8	4.4	5.0

【本人調査】 Q14.8. 性格 (8)一つのことじじく取り組む

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	267	1,501	867	58	0
(%)	100	9.9	55.7	32.2	2.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	200	932	750	46	64
(%)	100	10.0	46.8	37.7	2.3	3.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	500	1,387	1,144	100	58
(%)	100	15.7	43.5	35.9	3.1	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	468	1,283	1,034	86	38
(%)	100	16.1	44.1	35.5	3.0	1.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	521	1,335	954	90	151
(%)	100	17.1	43.8	31.3	2.9	4.9

【本人調査】 Q14.9. 性格 (9)指導者の立場に立とうとする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	123	786	1,377	407	0
(%)	100	4.6	29.2	51.1	15.1	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	90	597	992	243	70
(%)	100	4.5	30.0	49.8	12.2	3.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	207	1,027	1,443	453	59
(%)	100	6.5	32.2	45.2	14.2	1.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	257	1,093	1,171	343	45
(%)	100	8.8	37.6	40.3	11.8	1.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	269	1,039	1,192	388	163
(%)	100	8.8	34.1	39.1	12.7	5.3

【本人調査】 Q14.10. 性格 (10)新しいグループの中にわりと気軽に入れる

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	158	1,094	1,158	283	0
(%)	100	5.9	40.6	43.0	10.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	156	734	892	145	65
(%)	100	7.8	36.8	44.8	7.3	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	299	1,211	1,365	261	53
(%)	100	9.4	38.0	42.8	8.2	1.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	349	1,177	1,123	225	35
(%)	100	12.0	40.5	38.6	7.7	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	310	1,084	1,251	256	150
(%)	100	10.2	35.5	41.0	8.4	4.9

【本人調査】 Q14.11. 性格 (11)いろいろな人の話や意見をよく聞く

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	263	1,749	628	53	0
(%)	100	9.8	64.9	23.3	2.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	322	1,257	330	18	65
(%)	100	16.2	63.1	16.6	0.9	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	708	1,911	485	37	48
(%)	100	22.2	59.9	15.2	1.2	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	778	1,655	410	31	35
(%)	100	26.7	56.9	14.1	1.1	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	805	1,720	349	42	135
(%)	100	26.4	56.4	11.4	1.4	4.4

【本人調査】 Q14.12. 性格 (12)上下の立場や関係を尊重する

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	264	1,726	647	56	0
(%)	100	9.8	64.1	24.0	2.1	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	427	1,198	281	17	69
(%)	100	21.4	60.1	14.1	0.9	3.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	796	1,725	544	76	48
(%)	100	25.0	54.1	17.1	2.4	1.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	810	1,512	502	45	40
(%)	100	27.8	52.0	17.3	1.5	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	993	1,450	399	55	154
(%)	100	32.5	47.5	13.1	1.8	5.0

【本人調査】 Q14.13. 性格 (13)どんなところで結構楽しみを見出す

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	240	1,497	894	62	0
(%)	100	8.9	55.6	33.2	2.3	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	226	974	703	26	63
(%)	100	11.3	48.9	35.3	1.3	3.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	476	1,606	980	83	44
(%)	100	14.9	50.4	30.7	2.6	1.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	478	1,413	904	74	40
(%)	100	16.4	48.6	31.1	2.5	1.4
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	459	1,462	915	72	143
(%)	100	15.0	47.9	30.0	2.4	4.7

【本人調査】 Q15.1. 生きがいの意味

	総数	生活の活 力やはり あい	生活のリ ズムやメリ ハリ	心の安ら ぎや気晴 らし	生きる喜 びや満足 感	人生観や 価値観の 形成	生きる目 標や目的	自分自身 の向上	自分の可 能性の実 現や何か をやりと げたと感 じるこ と	他人や社 会の役に 立っている と感じる こと	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	770	343	793	1,172	358	469	359	458	239	16	0
(%)	-	28.6	12.7	29.4	43.5	13.3	17.4	13.3	17.0	8.9	0.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	593	213	486	840	160	412	284	440	272	23	58
(%)	-	29.8	10.7	24.4	42.2	8.0	20.7	14.3	22.1	13.7	1.2	2.9
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	831	325	851	1,291	277	559	582	898	544	20	16
(%)	-	26.1	10.2	26.7	40.5	8.7	17.5	18.3	28.2	17.1	0.6	0.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	761	281	723	1,270	230	592	459	719	557	9	33
(%)	-	26.2	9.7	24.9	43.7	7.9	20.4	15.8	24.7	19.1	0.3	1.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	1,073	217	760	1,433	297	597	679	-	777	8	30
(%)	-	35.2	7.1	24.9	47.0	9.7	19.6	22.3	-	25.5	0.3	1.0

【本人調査】 Q15 2. 生きがいの有無

	総数	持っている	前は持っていたが今は持っていない	持っていない	わからない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,505	313	381	494	0
(%)	100	55.9	11.6	14.1	18.3	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,133	156	260	364	79
(%)	100	56.9	7.8	13.1	18.3	4.0
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,145	228	267	496	53
(%)	100	67.3	7.1	8.4	15.6	1.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	2,280	151	194	248	36
(%)	100	78.4	5.2	6.7	8.5	1.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,021	282	400	297	51
(%)	100	66.2	9.2	13.1	9.7	1.7

【本人調査】 Q16. 生きがいの内容

	該当数	仕事	趣味	スポーツ	学習活動	社会活動	自然とのふれあい	配偶者・結婚生活	子ども・孫・親などの家族・家庭	友人など家族以外の人との交流	自分自身の健康づくり	ひとりでのままに過ごすこと	自分自身の内面の充実	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	553	1,408	424	100	152	367	744	1,215	402	324	449	338	31	0
(%)	-	20.5	52.3	15.7	3.7	5.6	13.6	27.6	45.1	14.9	12.0	16.7	12.6	1.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	539	828	320	62	122	310	462	1,070	374	323	246	262	25	63
(%)	-	27.1	41.6	16.1	3.1	6.1	15.6	23.2	53.7	18.8	16.2	12.3	13.2	1.3	3.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,124	1,400	466	182	185	588	733	1,762	595	584	345	403	33	27
(%)	-	35.2	43.9	14.6	5.7	5.8	18.4	23.0	55.3	18.7	18.3	10.8	12.6	1.0	0.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	944	1,094	352	136	205	516	498	1,051	401	463	204	310	16	5
(%)	-	32.5	37.6	12.1	4.7	7.0	17.7	17.1	36.1	13.8	15.9	7.0	10.7	0.6	0.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17 1. 生きがい構成要素取得の場 (1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,757	742	154	554	163	160	146	0
(%)	-	65.2	27.6	5.7	20.6	6.1	5.9	5.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,342	886	117	380	119	100	20	75
(%)	-	67.4	44.5	5.9	19.1	6.0	5.0	1.0	3.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,252	1,477	188	728	192	155	26	115
(%)	-	70.6	46.3	5.9	22.8	6.0	4.9	0.8	3.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,970	1,372	170	558	162	118	28	207
(%)	-	67.7	47.2	5.8	19.2	5.6	4.1	1.0	7.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,087	1,750	136	477	214	87	26	135
(%)	-	68.4	57.4	4.5	15.6	7.0	2.9	0.9	4.4

【本人調査】 Q17 2. 生きがい構成要素取得の場 (2)生活のどの場で、リズムやメリハリがきますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,230	1,131	179	367	223	165	172	0
(%)	-	45.7	42.0	6.6	13.6	8.3	6.1	6.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	908	1,198	128	282	187	88	34	97
(%)	-	45.6	60.1	6.4	14.2	9.4	4.4	1.7	4.9
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,535	1,782	208	505	276	170	54	196
(%)	-	48.1	55.9	6.5	15.8	8.7	5.3	1.7	6.1
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,316	1,605	189	386	292	148	45	330
(%)	-	45.2	55.2	6.5	13.3	10.0	5.1	1.5	11.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17 3. 生きがい構成要素取得の場 (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,990	89	127	768	73	265	128	0
(%)	-	73.9	3.3	4.7	28.5	2.7	9.8	4.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,546	94	99	715	73	231	22	83
(%)	-	77.6	4.7	5.0	35.9	3.7	11.6	1.1	4.2
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,492	198	157	1,295	104	364	29	149
(%)	-	78.1	6.2	4.9	40.6	3.3	11.4	0.9	4.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	2,280	167	159	1,037	131	314	16	211
(%)	-	78.4	5.7	5.5	35.6	4.5	10.8	0.6	7.3
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,487	273	154	1,138	132	308	16	148
(%)	-	81.5	8.9	5.0	37.3	4.3	10.1	0.5	4.9

【本人調査】 Q17 4. 生きがい構成要素取得の場 (4)どの場で喜びや満足感を感じる人が多いですか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,743	510	155	577	163	261	145	0
(%)	-	64.7	18.9	5.8	21.4	6.1	9.7	5.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,315	675	103	449	102	189	33	94
(%)	-	66.0	33.9	5.2	22.5	5.1	9.5	1.7	4.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,093	1,213	188	699	206	280	44	182
(%)	-	65.6	38.0	5.9	21.9	6.5	8.8	1.4	5.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,828	1,096	171	525	182	238	36	305
(%)	-	62.8	37.7	5.9	18.0	6.3	8.2	1.2	10.5
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	1,818	1,516	156	392	250	210	55	242
(%)	-	59.6	49.7	5.1	12.8	8.2	6.9	1.8	7.9

【本人調査】 Q17 5. 生きがい構成要素取得の場 (5)人生観や価値観に影響を与えているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,154	654	134	744	499	191	240	0
(%)	-	42.9	24.3	5.0	27.6	18.5	7.1	8.9	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	718	767	134	585	469	142	56	95
(%)	-	36.0	38.5	6.7	29.4	23.5	7.1	2.8	4.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,102	1,274	174	924	845	228	89	214
(%)	-	34.6	39.9	5.5	29.0	26.5	7.1	2.8	6.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	912	1,095	181	809	766	179	87	316
(%)	-	31.4	37.6	6.2	27.8	26.3	6.2	3.0	10.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	707	1,355	190	865	992	192	78	267
(%)	-	23.2	44.4	6.2	28.4	32.5	6.3	2.6	8.8

【本人調査】 Q17.6. 生きがい構成要素取得の場 (6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,664	612	131	192	330	263	200	0
(%)	-	61.8	22.7	4.9	7.1	12.3	9.8	7.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,348	733	93	116	281	158	32	101
(%)	-	67.7	36.8	4.7	5.8	14.1	7.9	1.6	5.1
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	2,245	1,121	176	169	493	240	59	213
(%)	-	70.4	35.2	5.5	5.3	15.5	7.5	1.9	6.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,970	995	183	124	481	168	42	307
(%)	-	67.7	34.2	6.3	4.3	16.5	5.8	1.4	10.6
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	2,095	1,221	151	86	538	156	41	271
(%)	-	68.7	40.0	4.9	2.8	17.6	5.1	1.3	8.9

【本人調査】 Q17.7. 生きがい構成要素取得の場 (7) どの場での生活が自分自身を向上させていると…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	832	1,059	221	378	586	210	226	0
(%)	-	30.9	39.3	8.2	14.0	21.8	7.8	8.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	439	1,225	183	283	543	125	55	93
(%)	-	22.0	61.5	9.2	14.2	27.3	6.3	2.8	4.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	691	1,865	279	490	925	231	58	213
(%)	-	21.7	58.5	8.7	15.4	29.0	7.2	1.8	6.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	583	1,642	255	394	852	173	62	326
(%)	-	20.0	56.4	8.8	13.5	29.3	5.9	2.1	11.2
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	434	1,908	263	404	1,117	153	52	266
(%)	-	14.2	62.5	8.6	13.2	36.6	5.0	1.7	8.7

【本人調査】 Q17.8. 生きがい構成要素取得の場 (8) 可能性を実現したり、やりとげたと感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	750	1,250	216	243	472	234	238	0
(%)	-	27.8	46.4	8.0	9.0	17.5	8.7	8.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	438	1,331	176	123	366	193	75	94
(%)	-	22.0	66.8	8.8	6.2	18.4	9.7	3.8	4.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	730	2,036	316	183	616	320	111	191
(%)	-	22.9	63.8	9.9	5.7	19.3	10.0	3.5	6.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	649	1,854	262	126	551	240	97	318
(%)	-	22.3	63.7	9.0	4.3	18.9	8.3	3.3	10.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	572	2,109	280	129	624	230	127	261
(%)	-	18.7	69.1	9.2	4.2	20.5	7.5	4.2	8.6

【本人調査】 Q17.9. 生きがい構成要素取得の場 (9) 役に立っていると感じたり評価を得ているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	997	1,180	308	320	354	149	269	0
(%)	-	37.0	43.8	11.4	11.9	13.1	5.5	10.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	753	1,276	234	166	231	96	79	89
(%)	-	37.8	64.1	11.7	8.3	11.6	4.8	4.0	4.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,248	1,922	370	313	421	173	136	174
(%)	-	39.1	60.3	11.6	9.8	13.2	5.4	4.3	5.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,077	1,789	328	217	383	144	111	256
(%)	-	37.0	61.5	11.3	7.5	13.2	5.0	3.8	8.8
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	962	2,079	346	254	471	132	106	219
(%)	-	31.5	68.1	11.3	8.3	15.4	4.3	3.5	7.2

【本人調査】 Q18.1. 配偶者との関係 (1) 配偶者は自分のことを応援してくれる(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	714	1,131	275	68	-
(%)	100	32.6	51.7	12.6	3.1	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	738	699	92	7	40
(%)	100	46.8	44.4	5.8	0.4	2.5
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.2. 配偶者との関係 (2) 自分は配偶者の良き理解者である(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	612	1,155	363	58	-
(%)	100	28.0	52.8	16.6	2.7	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	515	798	211	13	39
(%)	100	32.7	50.6	13.4	0.8	2.5
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	839	1,439	255	12	52
(%)	100	32.3	55.4	9.8	0.5	2.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	863	1,318	239	4	53
(%)	100	34.8	53.2	9.6	0.2	2.1
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	934	1,414	225	6	158
(%)	100	34.1	51.7	8.2	0.2	5.8

【本人調査】 Q18.3. 配偶者との関係 (3) 配偶者と価値観・考え方が似ている(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	317	874	754	243	-
(%)	100	14.5	39.9	34.5	11.1	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	210	671	563	89	43
(%)	100	13.3	42.6	35.7	5.6	2.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	321	1,088	974	148	65
(%)	100	12.4	41.9	37.5	5.7	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	301	1,044	944	127	61
(%)	100	12.2	42.1	38.1	5.1	2.5
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.4. 配偶者との関係 (4) 配偶者とよく一緒に出かける(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	626	925	499	138	-
(%)	100	28.6	42.3	22.8	6.3	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	485	633	364	55	39
(%)	100	30.8	40.2	23.1	3.5	2.5
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	889	971	593	77	67
(%)	100	34.2	37.4	22.8	3.0	2.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	776	984	584	70	63
(%)	100	31.3	39.7	23.6	2.8	2.5
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	704	1,030	767	71	165
(%)	100	25.7	37.6	28.0	2.6	6.0

【本人調査】 Q18.5. 配偶者との関係 (5) 配偶者と会話がある(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	647	1,093	367	81	-
(%)	100	29.6	50.0	16.8	3.7	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	510	774	233	21	38
(%)	100	32.4	49.1	14.8	1.3	2.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	756	1,289	452	34	66
(%)	100	29.1	49.6	17.4	1.3	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	678	1,308	413	22	56
(%)	100	27.4	52.8	16.7	0.9	2.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	675	1,412	459	24	167
(%)	100	24.7	51.6	16.8	0.9	6.1

【本人調査】 Q18.6. 配偶者との関係 (6) 配偶者は自分を自由にさせてくれる(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	691	1,182	255	60	-
(%)	100	31.6	54.0	11.7	2.7	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	531	826	159	12	48
(%)	100	33.7	52.4	10.1	0.8	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.7. 配偶者との関係 (7) 配偶者は自分の親を大切にしてくれない(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	非該当	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	128	350	606	657	447	-
(%)	100	5.9	16.0	27.7	30.0	20.4	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	103	179	364	519	352	59
(%)	100	6.5	11.4	23.1	32.9	22.3	3.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.8. 配偶者との関係 (8) 配偶者は金銭的にうるさい(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	128	435	1,056	569	-
(%)	100	5.9	19.9	48.3	26.0	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	67	260	845	357	47
(%)	100	4.3	16.5	53.6	22.7	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.9. 配偶者との関係 (9) 配偶者は自分よりかかりすぎる(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	121	499	1,112	456	-
(%)	100	5.5	22.8	50.8	20.8	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	42	325	878	287	44
(%)	100	2.7	20.6	55.7	18.2	2.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	136	646	1,545	204	66
(%)	100	5.2	24.9	59.5	7.9	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	161	779	1,478	156	163
(%)	100	5.9	28.5	54.0	5.7	6.0

【本人調査】 Q18.10. 配偶者との関係 (10) 配偶者にもっと家事をして欲しい(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,188	161	470	939	618	-
(%)	100	7.4	21.5	42.9	28.2	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,576	73	268	678	511	46
(%)	100	4.6	17.0	43.0	32.4	2.9
≪第3回調査(平成13年)≫	2,597	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,477	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,737	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q19. あなたは定年を経験しましたか(SA)

	総数	まだ定年前	まだ定年前(定年なし)	定年前に退職した	定年退職した	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	1,195	614	357	527	-
(%)	100	44.4	22.8	13.3	19.6	-
《第4回調査(平成18年)》	1,992	1,281	-	177	454	80
(%)	100	64.3	-	8.9	22.8	4.0
《第3回調査(平成13年)》	3,189	1,920	-	226	1,032	11
(%)	100	60.2	-	7.1	32.4	0.3
《第2回調査(平成8年)》	2,909	1,832	-	184	860	33
(%)	100	63.0	-	6.3	29.6	1.1
《第1回調査(平成3年)》	3,051	1,778	-	198	877	198
(%)	100	58.3	-	6.5	28.7	6.5

【本人調査】 Q19.1. 定年は何歳ですか：「まだ定年前」選択者

	該当数	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
《第5回調査(平成23年)》	1,195	0	7	30	978	160	16	4	-	-
(%)	100	0.0	0.6	2.5	81.8	13.4	1.3	0.3	-	-
《第4回調査(平成18年)》	1,281	1	0	68	1,046	86	5	3	72	60.2
(%)	100	0.1	0.0	5.3	81.7	6.7	0.4	0.2	5.6	60.2
《第3回調査(平成13年)》	1,920	5	11	125	1,476	81	11	1	210	59.9
(%)	100	0.3	0.6	6.5	76.9	4.2	0.6	0.1	10.9	59.9
《第2回調査(平成8年)》	1,832	5	5	136	1,382	62	4	3	235	59.9
(%)	100	0.3	0.3	7.4	75.4	3.4	0.2	0.2	12.8	59.9
《第1回調査(平成3年)》	1,778	0	1	299	1,320	79	0	0	79	59.6
(%)	100	0.0	0.1	16.8	74.2	4.4	0.0	0.0	4.4	59.6

【本人調査】 Q19.3. 定年は何歳ですか：「定年前に退職した」選択者

	該当数	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
《第5回調査(平成23年)》	357	99	73	149	35	1	0	0	-	-
(%)	100	27.7	20.4	41.7	9.8	0.3	0.0	0.0	-	-
《第4回調査(平成18年)》	177	29	33	98	14	2	1	0	0	53.7
(%)	100	16.4	18.6	55.4	7.9	1.1	0.6	0.0	0.0	53.7
《第3回調査(平成13年)》	226	16	54	120	25	4	0	0	7	55.6
(%)	100	7.1	23.9	53.1	11.1	1.8	0.0	0.0	3.1	55.6
《第2回調査(平成8年)》	184	8	42	89	34	9	1	0	1	56.5
(%)	100	4.3	22.8	48.4	18.5	4.9	0.5	0.0	0.5	56.5
《第1回調査(平成3年)》	198	0	52	102	31	2	0	0	11	56.3
(%)	100	0.0	26.3	51.5	15.7	1.0	0.0	0.0	5.6	56.3

【本人調査】 Q19.4. 定年は何歳ですか：「定年退職した」選択者

	該当数	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
《第5回調査(平成23年)》	527	0	9	33	428	55	2	0	-	-
(%)	100	0.0	1.7	6.3	81.2	10.4	0.4	0.0	-	-
《第4回調査(平成18年)》	454	1	2	53	360	33	5	0	0	60.1
(%)	100	0.2	0.4	11.7	79.3	7.3	1.1	0.0	0.0	60.1
《第3回調査(平成13年)》	1,032	1	16	181	725	69	6	0	34	59.8
(%)	100	0.1	1.6	17.5	70.3	6.7	0.6	0.0	3.3	59.8
《第2回調査(平成8年)》	860	1	5	210	557	74	7	0	6	59.7
(%)	100	0.1	0.6	24.4	64.8	8.6	0.8	0.0	0.7	59.7
《第1回調査(平成3年)》	877	0	20	367	423	56	0	0	11	58.7
(%)	100	0.0	2.3	41.8	48.2	6.4	0.0	0.0	1.3	58.7

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (1) 定年後の生活費を主に何によってまかないますか(MA)

	該当数	公的年金	企業年金	退職金	生命保険の保険金や個人年金	預貯金の取りぐずし	就労による収入	子ども等からの経済的支援	その他	わからない考えたことがない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	1,809	1,260	857	685	457	573	463	17	21	111	-
(%)	-	69.7	47.4	37.9	25.3	31.7	25.6	0.9	1.2	6.1	-
《第4回調査(平成18年)》	1,281	982	639	585	285	345	430	9	30	33	14
(%)	-	76.7	49.9	45.7	22.2	26.9	33.6	0.7	2.3	2.6	1.1
《第3回調査(平成13年)》	1,920	1,385	1,007	793	385	491	582	17	37	68	23
(%)	-	72.1	52.4	41.3	20.1	25.6	30.3	0.9	1.9	3.5	1.2
《第2回調査(平成8年)》	1,832	1,426	979	708	470	321	573	12	44	72	23
(%)	-	77.8	53.4	38.6	25.7	17.5	31.3	0.7	2.4	3.9	1.3
《第1回調査(平成3年)》	1,778	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (2) 今の会社に定年まで働きたいですか(SA)

	該当数	定年まで働きたい	定年前に退職したい	無回答
《第5回調査(平成23年)》	1,809	1,543	266	-
(%)	100	85.3	14.7	-
《第4回調査(平成18年)》	1,281	1,043	219	19
(%)	100	81.4	17.1	1.5
《第3回調査(平成13年)》	1,920	1,506	357	57
(%)	100	78.4	18.6	3.0
《第2回調査(平成8年)》	1,832	1,465	264	103
(%)	100	80.0	14.4	5.6
《第1回調査(平成3年)》	1,778	1,440	303	35
(%)	100	81.0	17.0	2.0

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (2) あと何年くらい今の会社に働きたいですか：「定年前に退職したい」選択者

	該当数	5年未満	5~10年未満	10~15年未満	15~20年未満	20年以上	0年	無回答	平均(年) *0年含む
《第5回調査(平成23年)》	266	121	82	46	10	7	-	-	5.3
(%)	-	45.5	30.8	17.3	3.8	2.6	-	-	-
《第4回調査(平成18年)》	219	81	54	45	11	5	0	23	6.1
(%)	100	37.0	24.7	20.5	5.0	2.3	0.0	10.5	6.1
《第3回調査(平成13年)》	357	125	93	78	15	5	0	41	6.1
(%)	100	35.0	26.1	21.8	4.2	1.4	0.0	11.5	6.1
《第2回調査(平成8年)》	264	97	81	45	13	2	5	21	5.6
(%)	100	36.7	30.7	17.0	4.9	0.8	1.9	8.0	5.6
《第1回調査(平成3年)》	303	94	94	55	12	3	0	45	5.8
(%)	100	31.0	31.0	18.2	4.0	1.0	0.0	14.9	5.8

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (3) 定年退職後または定年前の退職後に仕事をどのようにしたいですか(SA)

該当数	退職とともに職業生活から引退したい	できれば仕事を継続したい	定年後も出向や再雇用制度等を利用して今の会社に働きたい	退職後は別の企業に再就職したい	退職後は自分で事業や商売を始めた(自由業を含む)	退職後は家業を手伝いたい	退職後はシルバー人材センターで簡単な仕事をしたい	その他	わからないことがない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	1,809	442	565	190	140	128	14	99	17	214
(%)	100	24.4	31.2	10.5	7.7	7.1	0.8	5.5	0.9	11.8
《第4回調査(平成18年)》	1,281	327	452	98	100	100	16	81	20	76
(%)	100	25.5	35.3	7.7	7.8	7.8	1.2	6.3	1.6	5.9
《第3回調査(平成13年)》	1,920	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	1,832	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	1,778	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (3) どのくらいまで「仕事を継続したい」ですか(SA)

該当数	満額年金受給時まで	元気なうちはいつまでも	( ) 歳まで(計)	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	年齢無回答	無回答	平均
《第5回調査(平成23年)》	565	140	405	20	0	0	3	9	4	4	-	-	68.25
(%)	100	24.8	71.7	3.5	0.0	0.0	15.0	45.0	20.0	20.0	0	14	-
《第4回調査(平成18年)》	452	127	295	16	0	1	0	4	11	0	0	0	3.1
(%)	100	28.1	65.3	3.5	0.0	0.2	0.0	0.9	2.4	0.0	0.0	0.0	3.1
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (4) 過去5年間に次のような出来事がありましたか(MA)

総数	子どもや孫の誕生	子どもや成人・就職	子どもや孫との別居	子どもの結婚	自分自身の入院	配偶者の入院	その他の家族の入院	配偶者の死	その他の家族の死	昇進・昇格
《第5回調査(平成23年)》	1,809	327	220	109	130	260	166	392	18	349
(%)	-	18.1	12.2	6.0	7.2	14.4	9.2	21.7	1.0	19.3
《第4回調査(平成18年)》	1,281	269	271	97	127	149	107	367	14	289
(%)	-	21.0	21.2	7.6	9.9	11.6	8.4	28.6	1.1	22.6
《第3回調査(平成13年)》	1,920	343	410	126	240	241	173	515	9	423
(%)	-	17.9	21.4	6.6	12.5	12.6	9.0	26.8	0.5	22.0
《第2回調査(平成8年)》	1,832	346	419	111	232	265	179	410	12	340
(%)	-	18.9	22.9	6.1	12.7	14.5	9.8	22.4	0.7	18.6
《第1回調査(平成3年)》	1,778	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	出向・転籍	中途退職・失業(解雇)	災害等による資産の減少・経済的困難	自宅の購入・建て替え	親の介護	親との新たな同居	その他	いずれもない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	176	95	47	215	166	30	22	414	-
(%)	15.1	8.2	4.0	18.5	14.2	2.6	1.9	35.5	-
《第4回調査(平成18年)》	144	-	17	244	147	37	-	151	8
(%)	11.2	-	1.3	19.0	11.5	2.9	-	11.8	0.6
《第3回調査(平成13年)》	273	-	25	366	-	-	-	191	77
(%)	14.2	-	1.3	19.1	-	-	-	9.9	4.0
《第2回調査(平成8年)》	229	-	43	337	-	-	-	179	79
(%)	12.5	-	2.3	18.4	-	-	-	9.8	4.3
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (1) 定年前・退職前のあなたの職種は次のどれでしたか(SA)

該当数	専門技術職(研究職・技師等)	管理職(役員・課長以上の管理職)	事務職(一般事務・営業・経理事務等)	販売職(店員・セールス等)	技能職	サービス職(添乗員・ホテルマン等)	その他	無回答
《第5回調査(平成23年)》	884	105	379	227	42	104	15	12
(%)	100	11.9	42.9	25.7	4.8	11.8	1.7	1.4
《第4回調査(平成18年)》	631	22	355	129	14	50	6	30
(%)	100	3.5	56.3	20.4	2.2	7.9	1.0	4.8
《第3回調査(平成13年)》	1,258	50	663	260	32	161	11	50
(%)	100	4.0	52.7	20.7	2.5	12.8	0.9	4.0
《第2回調査(平成8年)》	1,044	48	573	174	14	132	12	33
(%)	100	4.6	54.9	16.7	1.3	12.6	1.1	3.2
《第1回調査(平成3年)》	1,075	39	606	173	13	157	5	19
(%)	100	3.6	56.4	16.1	1.2	14.6	0.5	1.8

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (2) 定年前・退職前の勤務先の従業員数は会社全体でどれくらいでしたか(SA)

該当数	1~29人	30~99人	100~299人	300~999人	1000人以上	無回答	わからない
《第5回調査(平成23年)》	884	81	94	84	116	484	25
(%)	100	9.2	10.6	9.5	13.1	54.8	3
《第4回調査(平成18年)》	631	66	55	80	76	331	23
(%)	100	10.5	8.7	12.7	12.0	52.5	3.6
《第3回調査(平成13年)》	1,258	88	81	103	99	856	31
(%)	100	7.0	6.4	8.2	7.9	68.0	2.5
《第2回調査(平成8年)》	1,044	55	76	91	110	661	51
(%)	100	5.3	7.3	8.7	10.5	63.3	4.9
《第1回調査(平成3年)》	1,075	60	81	103	130	665	36
(%)	100	5.6	7.5	9.6	12.1	61.9	3.3

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (3) 定年後・退職後に仕事につきましたか(SA)

該当数	退職とともに職業生活から引退した	退職後も再雇用制度等により、前の会社に出向先に移籍した	退職後は別の企業に再就職した	退職後は自分で事業や商売を始めた(自由業を含む)	退職後は家業を手伝うようになった	退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった	その他	無回答		
《第5回調査(平成23年)》	884	417	97	47	171	66	17	18	51	-
(%)	100	47.2	11.0	5.3	19.3	7.5	1.9	2.0	5.8	-
《第4回調査(平成18年)》	631	170	114	69	185	16	2	9	51	15
(%)	100	26.9	18.1	10.9	29.3	2.5	0.3	1.4	8.1	2.4
《第3回調査(平成13年)》	1,258	402	208	155	300	42	13	31	80	27
(%)	100	32.0	16.5	12.3	23.8	3.3	1.0	2.5	6.4	2.1
《第2回調査(平成8年)》	1,044	290	182	108	272	42	20	22	60	48
(%)	100	27.8	17.4	10.3	26.1	4.0	1.9	2.1	5.7	4.6
《第1回調査(平成3年)》	1,075	237	220	113	328	37	19	13	34	74
(%)	100	22.0	20.5	10.5	30.5	3.4	1.8	1.2	3.2	6.9

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (4) 定年後・退職後から今までに次のようなことがありましたか(MA)

該当数	経済的に苦しくなった	住宅問題で困った	自分や配偶者の健康や体力が衰えた	配偶者や親の介護が必要になった	配偶者に先立たれた	その他の家族の入院や死	再就職のことで困った	家族との人間関係が悪くなった	親との新たな同居	生活のほろい生きがいがなくなった	所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	今までの人的交流や情報量が減って困った
《第5回調査(平成23年)》	884	254	22	225	117	20	97	72	30	26	101	59
(%)	-	28.7	2.5	25.5	13.2	2.3	11.0	8.1	3.4	2.9	11.4	6.7
《第4回調査(平成18年)》	631	182	17	192	72	30	74	32	17	13	57	56
(%)	-	28.8	2.7	30.4	11.4	4.8	11.7	5.1	2.7	2.1	9.0	8.9
《第3回調査(平成13年)》	1,258	386	40	414	140	44	-	115	22	-	121	100
(%)	-	30.7	3.2	32.9	11.1	3.5	-	9.1	1.7	-	9.6	7.9
《第2回調査(平成8年)》	1,044	247	28	341	103	40	-	86	17	-	80	86
(%)	-	23.7	2.7	32.7	9.9	3.8	-	8.2	1.6	-	7.7	8.2
《第1回調査(平成3年)》	1,075	258	26	313	-	44	-	82	21	-	75	115
(%)	-	24.0	2.4	29.1	-	4.1	-	7.6	2.0	-	7.0	10.7

該当数	世の中の情報化の進展についていけず困った	社会から取り残されてしまった	時間をもてあました	地域社会にとけこめなかった	その他	特に問題はなかった	無回答
《第5回調査(平成23年)》	32	24	142	45	19	295	-
(%)	5.7	4.3	25.5	8.1	3.4	53.0	-
《第4回調査(平成18年)》	41	11	76	21	7	159	32
(%)	6.5	1.7	12.0	3.3	1.1	25.2	5.1
《第3回調査(平成13年)》	75	24	146	60	39	351	56
(%)	6.0	1.9	11.6	4.8	3.1	27.9	4.5
《第2回調査(平成8年)》	43	16	100	43	10	296	65
(%)	4.1	1.5	9.6	4.1	1.0	28.4	6.2
《第1回調査(平成3年)》	-	25	106	39	14	357	61
(%)	-	2.3	9.9	3.6	1.3	33.2	5.7

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : A-全員 (MA)

総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にする	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域の人の交流を深める	会社以外の活動の場をつつておく	その他	特に何も必要ない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	2,693	1,828	1,790	1,206	265	957	443	191	319	2	141
(%)	-	67.9	66.5	44.8	9.8	35.5	16.5	7.1	11.8	0.1	5.2
《第4回調査(平成18年)》	1,992	1,562	1,158	925	235	714	401	273	389	5	11
(%)	-	78.4	58.1	46.4	11.8	35.8	20.1	13.7	19.5	0.3	0.6
《第3回調査(平成13年)》	3,189	2,012	1,520	945	406	524	299	170	367	5	7
(%)	-	63.1	47.7	29.6	12.7	16.4	9.4	5.3	11.5	0.2	0.2
《第2回調査(平成8年)》	2,909	1,800	1,297	895	340	498	257	173	291	2	15
(%)	-	61.9	44.6	30.8	11.7	17.1	8.8	5.9	10.0	0.1	0.5
《第1回調査(平成3年)》	3,051	1,929	1,518	1,002	414	409	256	182	305	6	15
(%)	-	63.2	49.8	32.8	13.6	13.4	8.4	6.0	10.0	0.2	0.5

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : B-定年前の方 (MA)

総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にする	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域の人の交流を深める	会社以外の活動の場をつつておく	その他	特に何も必要ない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	1,809	940	919	605	207	577	405	217	227	6	220
(%)	-	52.0	50.8	33.4	11.4	31.9	22.4	12.0	12.5	0.3	12.2

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : B-定年後・退職後の方 (MA)

総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にする	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域の人の交流を深める	会社以外の活動の場をつつておく	その他	特に何も必要ない	無回答
《第5回調査(平成23年)》	884	389	429	342	92	264	237	107	135	2	114
(%)	-	44.0	48.5	38.7	10.4	29.9	26.8	12.1	15.3	0.2	12.9

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : B-定年退職者及び定年前の方 (MA)

総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にする	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域の人の交流を深める	会社以外の活動の場をつつておく	その他	特に何も必要ない	無回答
《第4回調査(平成18年)》	1,992	1,315	1,024	784	175	803	644	325	299	19	90
(%)	-	66.0	51.4	39.4	8.8	40.3	32.3	16.3	15.0	1.0	4.5
《第3回調査(平成13年)》	3,189	1,969	1,527	1,189	379	978	874	425	366	39	183
(%)	-	61.7	47.9	37.3	11.9	30.7	27.4	13.3	11.5	1.2	5.7
《第2回調査(平成8年)》	2,909	1,957	1,536	1,265	367	1,102	964	487	436	22	130
(%)	-	67.3	52.8	43.5	12.6	37.9	33.1	16.7	15.0	0.8	4.5
《第1回調査(平成3年)》	3,051	1,891	1,621	1,297	411	929	933	496	419	27	184
(%)	-	62.0	53.1	42.5	13.5	30.4	30.6	16.3	13.7	0.9	6.0

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (2) 企業として必要な条件の整備

	総数	退職準備教育や退職相談を充実させる	企業年金の充実など社員の経済的基盤を充実させる	労働時間の短縮で、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	中高年者の能力開発の研修制度を充実させる	希望者には定年延長をさせる	定年後の再雇用などの場を用意する	社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	定年前の「ならし運転」のための休暇制度を設ける	退職に向けたセミナーの充実	その他	特に何も必要ない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	986	1,270	616	607	1,439	1,354	436	388	538	13	251	-
(%)	-	36.6	47.2	22.9	22.5	53.4	50.3	16.2	14.4	20.0	0.5	9.3	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	678	1,026	505	452	887	972	329	231	509	20	79	33
(%)	-	34.0	51.5	25.4	22.7	44.5	48.8	16.5	11.6	25.6	1.0	4.0	1.7
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	747	1,339	447	547	858	1,015	302	208	-	29	133	88
(%)	-	23.4	42.0	14.0	17.2	26.9	31.8	9.5	6.5	-	0.9	4.2	2.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	747	1,342	457	500	728	827	258	169	-	11	76	149
(%)	-	25.7	46.1	15.7	17.2	25.0	28.4	8.9	5.8	-	0.4	2.6	5.1
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	687	1,617	622	464	681	911	285	170	-	13	51	119
(%)	-	22.5	53.0	20.4	15.2	22.3	29.9	9.3	5.6	-	0.4	1.7	3.9

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (3) 社会として必要な条件の整備

	総数	できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	定年退職者の能力を活かす場を増やす	サラリーマンのOBが入り込める場をつくる	趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	退職後の生活をよくするための研究や提案を入れる	その他	特に何も必要ない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	1,710	1,536	461	857	736	709	32	191	-
(%)	-	63.5	57.0	17.1	31.8	27.3	26.3	1.2	7.1	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	1,150	1,178	408	741	559	462	41	60	36
(%)	-	57.7	59.1	20.5	37.2	28.1	23.2	2.1	3.0	1.8
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	1,592	1,516	313	790	638	481	35	98	76
(%)	-	49.9	47.5	9.8	24.8	20.0	15.1	1.1	3.1	2.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	1,514	1,275	387	761	595	393	20	59	142
(%)	-	52.0	43.8	13.3	26.2	20.5	13.5	0.7	2.0	4.9
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	1,554	1,457	497	734	567	547	11	33	117
(%)	-	50.9	47.8	16.3	24.1	18.6	17.9	0.4	1.1	3.8

【本人調査】 Q23. 将来の住まい

	総数	自分または配偶者の持家に住む	親・親類から家を譲り受ける	賃貸住宅に住む	自立型住居(有料老人ホーム、有料介護施設)に住む	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	2,119	181	234	122	37
(%)	100	78.7	6.7	8.7	4.5	1.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q24. (1) 現在の住宅ローンの有無(SA)

	総数	あり	なし
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	851	1,842
(%)	100	31.6	68.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-

【本人調査】 Q24. 住宅ローンはあと何年ですか(SA)

	総数	4年以下	5年～9年	10年～14年	15年～19年	20年～24年	25年～29年	30年以上
≪第5回調査(平成23年)≫	851	70	136	139	143	134	103	126
(%)	100	8.2	16.0	16.3	16.8	15.7	12.1	14.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q25. 住宅ローンの残高(SA)

	総数	100万円未満	100万円以上～500万円未満	500万円以上～1000万円未満	1000万円以上～2000万円未満	2000万円以上～5000万円未満	5000万円以上～1億円未満	1億円以上	わからない
≪第5回調査(平成23年)≫	851	23	82	144	307	246	9	0	40
(%)	100	2.7	9.6	16.9	36.1	28.9	1.1	0.0	4.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q26. 昨年の世帯年収(SA)

	総数	200万円 未満	200万円 以上～30 0万円未 満	300万円 以上～40 0万円未 満	400万円 以上～50 0万円未 満	500万円 以上～60 0万円未 満	600万円 以上～80 0万円未 満	800万円 以上～10 00万円未 満	1000万 円以上～ 1500万 円未満	1500万 円以上	無回答	わから ない
《第5回調査(平成23年)》	2,693	98	193	315	343	310	497	368	295	108	-	166
(%)	100	3.6	7.2	11.7	12.7	11.5	18.5	13.7	11.0	4.0	-	6.2
《第4回調査(平成18年)》	1,992	38	104	174	197	223	373	323	298	60	202	-
(%)	100	1.9	5.2	8.7	9.9	11.2	18.7	16.2	15.0	3.0	10.1	-
《第3回調査(平成13年)》	3,189	88	195	305	337	322	610	471	569	105	187	-
(%)	100	2.8	6.1	9.6	10.6	10.1	19.1	14.8	17.8	3.3	5.9	-
《第2回調査(平成8年)》	2,909	42	144	273	277	297	605	466	555	121	129	-
(%)	100	1.4	5.0	9.4	9.5	10.2	20.8	16.0	19.1	4.2	4.4	-
《第1回調査(平成3年)》	3,051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q27. 現在の世帯貯蓄(SA)

	総数	なし	100万円 未満	100万円 以上～50 0万円未 満	500万円 以上～10 00万円未 満	1000万 円以上～ 2000万 円未満	2000万 円以上～ 5000万 円未満	5000万 円以上～ 1億円未 満	1億円以 上	わから ない
《第5回調査(平成23年)》	2,693	107	188	546	367	428	422	118	52	465
(%)	100	4.0	7.0	20.3	13.6	15.9	15.7	4.4	1.9	17.3
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (1) 公的年金

	該当 数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
《第5回調査(平成23年)》	881	38	51	73	81	100	137	100	97	87	72	45	5
(%)	100	4.3	5.8	8.3	9.2	11.4	15.6	11.4	11.0	9.9	8.2	5.1	5.2
《第4回調査(平成18年)》	574	72	30	38	51	52	68	63	71	52	36	41	4.9
(%)	100	12.5	5.2	6.6	8.9	9.1	11.8	11.0	12.4	9.1	6.3	7.1	4.9
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (2) 企業年金

	該当 数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
《第5回調査(平成23年)》	881	180	217	162	130	80	63	26	9	5	2	7	2
(%)	100	20.4	24.6	18.4	14.8	9.1	7.2	3.0	1.0	0.6	0.2	0.8	2.2
《第4回調査(平成18年)》	574	182	117	119	74	49	24	5	3	0	1	0	1.7
(%)	100	31.7	20.4	20.7	12.9	8.5	4.2	0.9	0.5	0.0	0.2	0.0	1.7
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (3) 個人年金

	該当 数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
《第5回調査(平成23年)》	881	650	127	65	15	15	7	1	0	0	1	0	1
(%)	100	73.8	14.4	7.4	1.7	1.7	0.8	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (4) 給与

	該当 数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
《第5回調査(平成23年)》	881	604	40	44	35	29	41	21	17	18	14	18	1
(%)	100	68.6	4.5	5.0	4.0	3.3	4.7	2.4	1.9	2.0	1.6	2.0	1.4
《第4回調査(平成18年)》	574	284	22	28	36	22	44	25	27	18	26	42	2.8
(%)	100	49.5	3.8	4.9	6.3	3.8	7.7	4.4	4.7	3.1	4.5	7.3	2.8
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】

Q28. 世帯年収の構成割合 (5) 不動産収入・利息・配当金

	該当 数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
《第5回調査(平成23年)》	881	690	106	35	23	9	9	5	2	2	0	0	0
(%)	100	78.3	12.0	4.0	2.6	1.0	1.0	0.6	0.2	0.2	0.0	0.0	0.4
《第4回調査(平成18年)》	574	490	37	21	10	8	5	2	1	0	0	0	0.3
(%)	100	85.4	6.4	3.7	1.7	1.4	0.9	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.3
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q28. 世帯年収の構成割合 (6)その他の収入											平均(割)	
	該当 数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割		10割
≪第5回調査(平成23年)≫	881	774	52	21	13	8	5	2	3	0	1	2	0
(%)	100	87.9	5.9	2.4	1.5	0.9	0.6	0.2	0.3	0.0	0.1	0.2	0.3
≪第4回調査(平成18年)≫	574	504	39	10	14	2	3	1	0	0	1	0	0.2
(%)	100	87.8	6.8	1.7	2.4	0.3	0.5	0.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q29. 現在のあなた自身の暮らしについて、どのように感じていますか(SA)						
	総数	とても楽だ	少し楽だ	普通	少し苦しい	とても苦しい	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	151	432	1,264	643	203	-
(%)	100	5.6	16.0	46.9	23.9	7.5	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,992	72	271	887	396	97	269
(%)	100	3.6	13.6	44.5	19.9	4.9	13.5
≪第3回調査(平成13年)≫	3,189	202	1,733	-	984	94	176
(%)	100	6.3	54.3	-	30.9	2.9	5.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,909	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	3,051	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q30. 5年前(平成18年)と比べて現在のあなた自身の経済的な暮らしはどう変わったと感じていますか(SA)					
	総数	以前よりとても楽になった	以前より少し楽になった	変わらない	以前より少し苦しくなった	以前よりとても苦しくなった
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	78	336	1,098	916	265
(%)	100	2.9	12.5	40.8	34.0	9.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q31. 家族の介護について (1)ご自身の両親の介護(SA)					
	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	462	915	329	72	915
(%)	100	17.2	34.0	12.2	2.7	34.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q31. 家族の介護について (2)配偶者の両親の介護(SA)					
	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	462	915	329	72	915
(%)	100	17.2	34.0	12.2	2.7	34.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q31. 家族の介護について (3)ご自身の介護(SA)					
	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	559	1,334	650	150	-
(%)	100	20.8	49.5	24.1	5.6	-
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q31. 家族の介護について (4)配偶者の介護(SA)					
	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	438	1,058	584	90	523
(%)	100	16.3	39.3	21.7	3.3	19.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q32. ご自身の介護を誰にしてもらいたいと思いますか (SA)

	総数	配偶者	自分の ごども	自分の 兄弟姉妹	介護サー ビスによる 在宅介護	介護施設 に入る	まだ考え ていない	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	2,693	876	194	15	278	524	795	11
(%)	100	32.5	7.2	0.6	10.3	19.5	29.5	0.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q33. 「ライフプランセミナー」をご存じですか (SA)

	総数	知っており 受講した	知っては いるが受 講していな い	知らない
≪第5回調査(平成23年)≫	2,166	153	745	1,268
(%)	100	7.1	34.4	58.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-

【本人調査】 Q33. 「ライフプランセミナー」を受講したとお答えですがどこで受講しましたか (SA)

	総数	勤めてい る会社	金融機関	役所等の 公的機関	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	153	132	8	6	7
(%)	100	86.3	5.2	3.9	4.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q34. 「ライフプランセミナー」を受講したとお答えですが受講してよかったと思いますか (MA)

	総数	退職後の 生活設計 のイメージ を考える きっかけと なりよかつ た	退職後の 自分の家 計プランを 作成でき てよかつた	年金の知 識をやるこ とができ よかつた	あまり役に 立たなかつ た	ほとんど役 にたたな かつた	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	153	85	42	58	29	7	3
(%)	-	55.6	27.5	37.9	19.0	4.6	2.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q34. 「ライフプランセミナー」を受講していないとお答えですが受講してみたいですか (SA)

	総数	無料であ れば受講 してみたい	有料(1日 コースで8 千円程度) でも受講し てみたい	有料(1泊 2日コース で宿泊料 込みで3万 円程度)で もじっくりと 受講して みたい	受講して みたいと は思わな い	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	2,013	889	28	9	1,061	26
(%)	100	44.2	1.4	0.4	52.7	1.3
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

## Ⅱ. 第1回～第5回調査の単純集計結果比較表

### (2) 本人調査結果(企業年金なし)

【本人調査】 SC1. 性別

	総数	男	女
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	946	428
(%)	100	68.9	31.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-

(注: 第5回は企業年金なしの35～74歳の男女1,374人の集計結果)

【本人調査】 SC2. 年齢

	総数	35歳未満	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	0	216	184	167	157	178	162	168	142	0	53.4
(%)	100	0.0	15.7	13.4	12.2	11.4	13.0	11.8	12.2	10.3	0.0	53.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q1. 婚姻状況

	総数	未婚	既婚(配偶者あり)	既婚(離別)	既婚(死別)
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	173	1,070	96	35
(%)	100	12.6	77.9	7.0	2.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q2. 世帯構成

	総数	ひとり暮らし	自分たち夫婦だけ	自分たち夫婦(または自分と未婚の子)	自分たち夫婦(または自分と子ども夫婦)	自分たち夫婦(または自分と親)	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	168	380	545	35	234	12
(%)	100	12.2	27.7	39.7	2.5	17.0	0.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q3. 子供の有無

	総数	子どもがいる	子どもはいない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	1,003	371
(%)	100	73.0	27.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-

【本人調査】 Q3 1.1. 子供の人数

	該当数	1人	2人	3人	4人	5人	6人以上	平均(人)
≪第5回調査(平成23年)≫	1,003	256	532	187	24	2	2	2.0
(%)	100	25.5	53.0	18.6	2.4	0.2	0.2	2.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q3. 子供の年齢(第一子)

	該当数	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	1,003	151	190	239	250	169	4	0	25.5
(%)	100	15.1	18.9	23.8	24.9	16.8	0.4	0.0	25.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q3. 子供の年齢(未子)									
	該当 数	0 ~9歳	10 ~19歳	20 ~29歳	30 ~39歳	40 ~49歳	50 ~59歳	60歳 以上	無回答	平均(歳)
《第5回調査(平成23年)》	1,003	210	206	244	254	89	0	0	0	22.4
(%)	100	20.9	20.5	24.3	25.3	8.9	0.0	0.0	0.0	22.4
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q3. 子供の就業状況 (1) 正規従業員のお子さまの人数							
	該当 数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
《第5回調査(平成23年)》	700	221	267	178	29	5	0	1.0
(%)	100	31.6	38.1	25.4	4.1	0.7	0.0	1.0
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q3. 子供の就業状況 (2) 派遣社員・スタッフなどのお子さまの人数							
	該当 数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
《第5回調査(平成23年)》	700	485	173	36	5	1	0	0.4
(%)	100	69.3	24.7	5.1	0.7	0.1	0.0	0.4
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q3. 子供の就業状況 (3) 未就業のお子さまの人数(学生は除く)							
	該当 数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
《第5回調査(平成23年)》	700	522	155	21	2	0	0	0.3
(%)	100	74.6	22.1	3.0	0.3	0.0	0.0	0.3
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q3. 子供の就業状況 (4) 学生のお子さまの人数							
	該当 数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
《第5回調査(平成23年)》	700	536	132	31	1	0	0	0.3
(%)	100	76.6	18.9	4.4	0.1	0.0	0.0	0.3
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q3. 子供の結婚状況 (1) 有配偶のお子さまの人数							
	該当 数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
《第5回調査(平成23年)》	700	323	203	137	34	3	0	0.8
(%)	100	46.1	29.0	19.6	4.9	0.4	0.0	0.8
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q3. 子供の結婚状況 (2) 無配偶のお子さまの人数							
	該当 数	0人	1人	2人	3人	4人	5人以上	平均(人)
《第5回調査(平成23年)》	700	181	285	187	44	3	0	1.1
(%)	100	25.9	40.7	26.7	6.3	0.4	0.0	1.1
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q4. 居住地(都道府県)						
	総数	北海道・ 東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
《第5回調査(平成23年)》	1,374	140	545	186	302	109	92
(%)	100	10.2	39.7	13.5	22.0	7.9	6.7
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q5. 居住年数					
	総数	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 20年未満	20年以上 30年未満	30年以上
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	131	214	279	222	528
(%)	100	9.5	15.6	20.3	16.2	38.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q6. 住居形態						
	総数	持ち家(一戸建て)	持ち家(分譲マンション等)	社宅・会社の寮	公社・公団・公営の賃貸住宅	民間の借家・マンション・アパート	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	810	275	21	48	212	8
(%)	100	59.0	20.0	1.5	3.5	15.4	0.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q7. 最終学歴						
	総数	小学校・高等小学校・新制中学校	旧制中学校・高等女学校・実業学校・新制高等学校	旧制高等学校・高等師範学校・新制短大	大学・大学院	専門学校・専修学校	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	55	313	165	682	152	7
(%)	100	4.0	22.8	12.0	49.6	11.1	0.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q8. 現在の就業形態						
	総数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パート・タイマーなど	自営業・自由業・家族・従業員	内職	シルバー人材センター(高齢者事業団)	無職
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	722	136	116	4	9	387
(%)	100	52.5	9.9	8.4	0.3	0.7	28.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q8.1. 現在の就業形態(退職後経過年数)							
	該当数	5年未満	5~10年未満	10~15年未満	15~20年未満	20年以上	0年	平均(年)* 0年含む
≪第5回調査(平成23年)≫	387	131	115	75	13	53	-	9.9
(%)	100	33.9	29.7	19.4	3.4	13.7	-	9.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q9.1. 現在の業種													
	該当数	水産・農業	鉱業	建設	食料品	繊維製品 ハルブ・紙	化学 医薬品	石油 石炭	ゴム製品 ガラス 土石製品	鉄鋼 非鉄金属 金属製品	機械 電気機器	輸送用機器 精密機器 その他製品	卸売業 小売業	銀行・証券 保険 その他金融
≪第5回調査(平成23年)≫	987	3	3	85	19	14	22	4	4	24	52	37	107	19
(%)	100	0.3	0.3	8.6	1.9	1.4	2.2	0.4	0.4	2.4	5.3	3.7	10.8	1.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】	Q9.1. 現在の業種						
	該当数	不動産	運輸	通信	電気 ガス	サービス	公官庁 その他
≪第5回調査(平成23年)≫	46	37	20	6	211	39	235
(%)	5	3.7	2.0	0.6	21.4	4.0	23.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q9.2.現在の職種							
該当数	100	15.7	28.5	26.7	7.6	12.2	3.0	6.3	
《第5回調査(平成23年)》	987	155	281	264	75	120	30	62	
(%)	100	15.7	28.5	26.7	7.6	12.2	3.0	6.3	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q9.3.現在の勤務先の企業規模					
該当数	100	43.2	19.3	13.2	8.9	11.4	4.1
《第5回調査(平成23年)》	987	426	190	130	88	113	40
(%)	100	43.2	19.3	13.2	8.9	11.4	4.1
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q9.4.1.現在の1週間の勤務日数									
該当数	100	0	1.2	2.7	3.3	3.6	65.1	21.7	2.2	5.0	5.0
《第5回調査(平成23年)》	987	0	12	27	33	36	643	214	22	5.0	5.0
(%)	100	0.0	1.2	2.7	3.3	3.6	65.1	21.7	2.2	5.0	5.0
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q9.5.1.現在の1日の勤務時間													
該当数	100	0.0	0.7	1.3	1.4	2.1	2.7	4.2	7.5	43.2	15.2	16.1	4.7	0.9	8.3
《第5回調査(平成23年)》	987	0	7	13	14	21	27	41	74	426	150	159	46	9	8.3
(%)	100	0.0	0.7	1.3	1.4	2.1	2.7	4.2	7.5	43.2	15.2	16.1	4.7	0.9	8.3
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q10.1.現在の就業状況についての満足度(1)仕事の内容				
該当数	100	14.9	43.8	25.9	10.8	4.8
《第5回調査(平成23年)》	987	147	432	256	107	45
(%)	100	14.9	43.8	25.9	10.8	4.8
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q10.2.現在の就業状況についての満足度(2)就業形態				
該当数	100	15.7	39.9	26.3	13.4	4.7
《第5回調査(平成23年)》	987	155	394	260	132	46
(%)	100	15.7	39.9	26.3	13.4	4.7
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q10.3.現在の就業状況についての満足度(3)職場での地位の高さ				
該当数	100	12.8	31.9	40.6	9.4	5.3
《第5回調査(平成23年)》	987	126	315	401	93	52
(%)	100	12.8	31.9	40.6	9.4	5.3
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.4. 現在の就業状況についての満足度 (4) 賃金

	該当 数	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	63	208	283	259	174
(%)	100	6.4	21.1	28.7	26.2	17.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.5. 現在の就業状況についての満足度 (5) 業績評価の公平さ

	該当 数	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	67	211	408	188	113
(%)	100	6.8	21.4	41.3	19.0	11.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.6. 現在の就業状況についての満足度 (6) 福利厚生

	該当 数	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	56	202	375	231	123
(%)	100	5.7	20.5	38.0	23.4	12.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.7. 現在の就業状況についての満足度 (7) 職場の人間関係・雰囲気

	該当 数	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	103	365	328	117	74
(%)	100	10.4	37.0	33.2	11.9	7.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q10.8. 現在の就業状況についての満足度 (8) 全体として

	該当 数	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である
≪第5回調査(平成23年)≫	987	84	381	309	150	63
(%)	100	8.5	38.6	31.3	15.2	6.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q11.1. 自由時間の有無

	総数	十分にあ る	まあまあ	不十分で ある	まったくな い
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	473	636	243	22
(%)	100	34.4	46.3	17.7	1.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q11.2. 自由時間の過ごし方

	該当 数	仕事仲間 とのプライ ベートなつ きあい	仕事に関 する勉強 や残務整 理	テレビ・ゴ 口獲やパ チンコ、酒 など	ひとりで趣 味・スポー ツ・学習な ど	仲間と趣 味・スポー ツなど	パソコン通 信やイン ターネット など	個人的な 友人・仲間 とのつきあ い	行楽・ドラ イブなど	庭いじりや 家事など 家庭内の こと	家庭との 団らんや 家庭サー ビス	近隣の人 とのつきあ いや地域 の用事	その他	特に何もし ない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,352	58	88	388	489	231	800	297	256	327	401	72	11	16
(%)	-	4.3	6.5	28.7	36.2	17.1	59.2	22.0	18.9	24.2	29.7	5.3	0.8	1.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12. 社会活動参加状況

	総数	定期的に 参加して いる	ときどき参 加している	以前に参 加したこと がある	参加して いない
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	1,374 100	115 8.4	233 17.0	226 16.4	800 58.2
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.1. 社会活動参加分野 (複数選択)

該当 数	地域の生 活環境を 守る活動	イベントや "村おこし" の活動	趣味・ス ポーツや 学習グ ループの リーダーと しての活 動	児童や青 少年活動 の世話役 としての活 動	地域の文 化財や伝 統を守る 活動	消費者活 動や生活 向上のた めの活動	障害者・老 人の手助 けなどの 社会福祉 活動	行政の委 員、民生 委員、保 護司、人 権擁護委 員等の活 動	自然保護 や環境保 全の活動	国際交流 に関する 活動	その他	
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	348 100	176 50.6	143 41.1	86 24.7	83 23.9	56 16.1	30 8.6	48 13.8	35 10.1	62 17.8	31 8.9	12 3.4
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.1. 社会活動参加分野 (最もあてはまるものをひとつ選択)

該当 数	地域の生 活環境を 守る活動	イベントや "村おこし" の活動	趣味・ス ポーツや 学習グ ループの リーダーと しての活 動	児童や青 少年活動 の世話役 としての活 動	地域の文 化財や伝 統を守る 活動	消費者活 動や生活 向上のた めの活動	障害者・老 人の手助 けなどの 社会福祉 活動	行政の委 員、民生 委員、保 護司、人 権擁護委 員等の活 動	自然保護 や環境保 全の活動	国際交流 に関する 活動	その他
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	348 100	95 27.3	61 17.5	55 15.8	33 9.5	11 3.2	6 1.7	26 7.5	12 3.4	13 3.7	23 6.6
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.2. 社会活動参加理由 (あてはまるものを3つまで選択)

該当 数	地域や社 会に貢献 したい	自分の知 識や経験 を活かした い	社会への 見聞を広 げたい	友人や仲 間を増や したい	生活には りあいを持 たせたい	身近な人 に誘われ た	会社の勤 めや命令	社会人とし て当然と 思った	何となく	その他	
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	348 100	208 59.8	112 32.2	68 19.5	95 27.3	78 22.4	79 22.7	9 2.6	106 30.5	34 9.8	17 4.9
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.2. 社会活動参加理由 (最もあてはまるものをひとつ選択)

該当 数	地域や社 会に貢献 したい	自分の知 識や経験 を活かした い	社会への 見聞を広 げたい	友人や仲 間を増や したい	生活には りあいを持 たせたい	身近な人 に誘われ た	会社の勤 めや命令	社会人とし て当然と 思った	何となく	その他	
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	348 100	121 34.8	50 14.4	12 3.4	30 8.6	29 8.3	34 9.8	4 1.1	33 9.5	16 4.6	19 5.5
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.3. やりがいを感じる活動団体

該当 数	行政機関 (民生委員 など)	社会福祉 協議会	町内会 自治会	老人クラブ	公的施設・ 機関のボ ランティア 団体	地域住民 によるボ ランティア 団体	民間施設・ 機関のボ ランティア 団体	NPO法人	当事者団 体	個人また は個人的 な集まり	その他	
≪第5回調査(平成23年)≫ (%)	348 100	19 5.5	7 2.0	124 35.6	1 0.3	25 7.2	48 13.8	21 6.0	15 4.3	25 7.2	57 16.4	6 1.7
≪第4回調査(平成18年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫ (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.4. やりがいを感じる活動団体を選んだ理由

	該当数	活動の運営主体(運営者や機関)	活動の内容	活動団体の歴史(存続年数)	活動団体の評判	活動団体内の統制のとれた規律	活動団体内の対等な人間関係	自宅と活動地域との距離	その他
《第5回調査(平成23年)》	348	35	162	5	3	1	32	105	5
(%)	100	10.1	46.6	1.4	0.9	0.3	9.2	30.2	1.4
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.5. 社会活動不参加理由 (あてはまるもの3つまで選択)

	該当数	時間が無い	経済的余裕がない	精神的なゆとりがない	健康や体力に自信がない	家族など周囲の理解や協力が得られない	自分にあつた活動の場がない	いっしょにやる仲間がいない	何から始めるか、きっかけがつかめない	興味が無い、関心がない	その他
《第5回調査(平成23年)》	1,026	366	288	375	268	37	315	197	426	308	15
(%)	-	35.7	28.1	36.5	26.1	3.6	30.7	19.2	41.5	30.0	1.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.5. 社会活動不参加理由 (最もあてはまるものをひとつ選択)

	該当数	時間が無い	経済的余裕がない	精神的なゆとりがない	健康や体力に自信がない	家族など周囲の理解や協力が得られない	自分にあつた活動の場がない	いっしょにやる仲間がいない	何から始めるか、きっかけがつかめない	興味が無い、関心がない	その他
《第5回調査(平成23年)》	1,026	192	106	97	117	7	86	36	176	194	15
(%)	100	18.7	10.3	9.5	11.4	0.7	8.4	3.5	17.2	18.9	1.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.6. 社会活動不参加者の今後の活動意向

	該当数	積極的に参加したい	条件によっては参加してもよい	参加するつもりはない	わからない
《第5回調査(平成23年)》	1,026	11	553	282	180
(%)	100	1.1	53.9	27.5	17.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.7. 社会参加不参加者の中で今後参加してもよいとした人が関心を持っている活動団体

	該当数	行政機関(民生委員など)	社会福祉協議会	町内会自治会	老人クラブ	公的施設・機関のボランティア団体	地域住民によるボランティア団体	民間施設・機関のボランティア団体	NPO法人	当事者団体	個人または個人的な集まり	その他
《第5回調査(平成23年)》	564	62	23	93	9	70	76	43	114	3	60	11
(%)	100	11.0	4.1	16.5	1.6	12.4	13.5	7.6	20.2	0.5	10.6	2.0
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.7. 社会参加不参加者の中で今後参加してもよいとした人が関心を持っている活動団体を選んだ理由

	該当数	活動の運営主体(運営者や機関)	活動の内容	活動団体の歴史(存続年数)	活動団体の評判	活動団体内の統制のとれた規律	活動団体内の対等な人間関係	自宅と活動地域との距離	その他
《第5回調査(平成23年)》	564	90	211	3	22	22	57	146	13
(%)	100	16.0	37.4	0.5	3.9	3.9	10.1	25.9	2.3
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q13.1. 生活充足感 (1)健康					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》	1,374	103	638	314	262	57	
(%)	100	7.5	46.4	22.9	19.1	4.1	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q13.2. 生活充足感 (2)時間のゆとり					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》	1,374	188	609	272	243	62	
(%)	100	13.7	44.3	19.8	17.7	4.5	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q13.3. 生活充足感 (3)経済的ゆとり					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》	1,374	52	377	392	366	187	
(%)	100	3.8	27.4	28.5	26.6	13.6	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q13.4. 生活充足感 (4)精神的ゆとり					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》	1,374	64	454	431	330	95	
(%)	100	4.7	33.0	31.4	24.0	6.9	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q13.5. 生活充足感 (5)家族の理解・愛情					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》	1,374	209	639	378	111	37	
(%)	100	15.2	46.5	27.5	8.1	2.7	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q13.6. 生活充足感 (6)友人・仲間					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》	1,374	126	578	477	146	47	
(%)	100	9.2	42.1	34.7	10.6	3.4	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q13.7. 生活充足感 (7)熱中できる趣味					
	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	
《第5回調査(平成23年)》	1,374	168	605	365	190	46	
(%)	100	12.2	44.0	26.6	13.8	3.3	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】 Q13.8. 生活充足感 (8) 仕事のほりあい

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	67	384	516	250	157
(%)	100	4.9	27.9	37.6	18.2	11.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q13.9. 生活充足感 (9) 社会的地位

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	48	317	629	239	141
(%)	100	3.5	23.1	45.8	17.4	10.3
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q13.10. 生活充足感 (10) 自然とのふれあい

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	65	463	505	255	86
(%)	100	4.7	33.7	36.8	18.6	6.3
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q13.11. 生活充足感 (11) 近隣との交流

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	24	294	569	333	154
(%)	100	1.7	21.4	41.4	24.2	11.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q13.12. 生活充足感 (12) 社会の役に立つこと

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	26	218	615	353	162
(%)	100	1.9	15.9	44.8	25.7	11.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q13.13. 生活充足感 (13) 住まいのこと

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	100	561	487	169	57
(%)	100	7.3	40.8	35.4	12.3	4.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.1. 性格 (1) 人との関係やつながりを大切にする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	307	827	218	22
(%)	100	22.3	60.2	15.9	1.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.2. 性格 (2) 自分の世界や個性を大切にする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	283	861	216	14
(%)	100	20.6	62.7	15.7	1.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.3. 性格 (3) いつも目標に向かって進む

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	128	632	568	46
(%)	100	9.3	46.0	41.3	3.3
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.4. 性格 (4) 無理をせずマイペースで進む

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	209	957	192	16
(%)	100	15.2	69.7	14.0	1.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.5. 性格 (5) 他人にはない自分なりの価値観を持っている

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	226	855	276	17
(%)	100	16.4	62.2	20.1	1.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.6. 性格 (6) 自分には他人にない優れたところがある

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	107	623	578	66
(%)	100	7.8	45.3	42.1	4.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.7. 性格 (7) いろいろなことに興味を持ちチャレンジする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	143	619	558	54
(%)	100	10.4	45.1	40.6	3.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.8. 性格 (8) 一つのことじこり取り組む

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	140	743	453	38
(%)	100	10.2	54.1	33.0	2.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.9. 性格 (9)指導者の立場に立とうとする

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	51	384	689	250
(%)	100	3.7	27.9	50.1	18.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.10. 性格 (10)新しいグループの中にわりと気軽に入れる

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	65	526	619	164
(%)	100	4.7	38.3	45.1	11.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.11. 性格 (11)いろいろな人の話や意見をよく聞く

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	116	880	346	32
(%)	100	8.4	64.0	25.2	2.3
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.12. 性格 (12)上下の立場や関係を尊重する

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	144	860	335	35
(%)	100	10.5	62.6	24.4	2.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q14.13. 性格 (13)どんなところでも結構楽しみを出す

	総数	よく あてはまる	少し あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	123	734	473	44
(%)	100	9.0	53.4	34.4	3.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q15.1. 生きがいの意味

	総数	生活の活 力やはり あい	生活のリ ズムやメリ ハリ	心の安ら ぎや気晴 らし	生きる喜 びや満足 感	人生観や 価値観の 形成	生きる目 標や目的	自分自身 の向上	自分の可 能性の実 現や何か をやりと げたと感 じるこ と	他人や社 会の役に 立っている と感じる こと	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	364	153	417	612	179	272	162	220	141	5
(%)	-	26.5	11.1	30.3	44.5	13.0	19.8	11.8	16.0	10.3	0.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q15.2. 生きがいの有無

	総数	持って いる	前は持つ ていたが、 今は持つ ていない	持って いない	わから ない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	720	147	261	246
(%)	100	52.4	10.7	19.0	17.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q16. 生きがいの内容												
	該当数	仕事	趣味	スポーツ	学習活動	社会活動	自然とのふれあい	配偶者・結婚生活	子ども・孫・親などの家族・家庭	友人など家族以外の人の交流	自分自身の健康づくり	ひとりで気ままにすること	自分自身の内面の充実	その他
《第5回調査(平成23年)》	1,374	321	689	154	47	76	197	327	607	205	164	228	190	27
(%)	-	23.4	50.1	11.2	3.4	5.5	14.3	23.8	44.2	14.9	11.9	16.6	13.8	2.0
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17.1. 生きがい構成要素取得の場 (1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	873	419	74	251	75	86	89
(%)	-	63.5	30.5	5.4	18.3	5.5	6.3	6.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17.2. 生きがい構成要素取得の場 (2)生活のどの場で、リズムやメリハリがきますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	590	593	83	166	123	90	106
(%)	-	42.9	43.2	6.0	12.1	9.0	6.6	7.7
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17.3. 生きがい構成要素取得の場 (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	1003	57	49	378	43	159	69
(%)	-	73.0	4.1	3.6	27.5	3.1	11.6	5.0
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17.4. 生きがい構成要素取得の場 (4)どの場で喜びや満足感を感じる人が多いですか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	863	289	65	293	71	130	91
(%)	-	62.8	21.0	4.7	21.3	5.2	9.5	6.6
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17.5. 生きがい構成要素取得の場 (5)人生観や価値観に影響を与えているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	575	311	54	353	286	107	133
(%)	-	41.8	22.6	3.9	25.7	20.8	7.8	9.7
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17.6. 生きがい構成要素取得の場 (6)生活の目標や目的は、どこにあると感じますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	837	338	44	88	172	140	125
(%)	-	60.9	24.6	3.2	6.4	12.5	10.2	9.1
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17.7. 生きがい構成要素取得の場（7）どの場での生活が自分自身を向上させていると…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	392	554	92	164	342	108	151
(%)	-	28.5	40.3	6.7	11.9	24.9	7.9	11.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17.8. 生きがい構成要素取得の場（8）可能性を実現したり、やりとげたと感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	360	650	99	92	234	128	151
(%)	-	26.2	47.3	7.2	6.7	17.0	9.3	11.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q17.9. 生きがい構成要素取得の場（9）役に立っていると感じたり評価を得ているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	471	623	124	143	170	73	174
(%)	-	34.3	45.3	9.0	10.4	12.4	5.3	12.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.1. 配偶者との関係（1）配偶者は自分のことを応援してくれる(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	339	557	133	41
(%)	100	31.7	52.1	12.4	3.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.2. 配偶者との関係（2）自分は配偶者の良き理解者である(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	277	550	193	41
(%)	100	25.9	52.2	18.0	3.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.3. 配偶者との関係（3）配偶者と価値観・考え方が似ている(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	124	428	389	129
(%)	100	11.6	40.0	36.4	12.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.4. 配偶者との関係（4）配偶者とよく一緒に出かける(SA)

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	297	450	238	85
(%)	100	27.8	42.1	22.2	7.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.5. 配偶者との関係 (5) 配偶者と会話がある(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	306	525	192	47
(%)	100	28.6	49.1	17.9	4.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.6. 配偶者との関係 (6) 配偶者は自分を自由にさせてくれる(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	320	569	144	37
(%)	100	29.9	53.2	13.5	3.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.7. 配偶者との関係 (7) 配偶者は自分の親を大切にしてくれない(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	非該当
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	51	156	312	331	220
(%)	100	4.8	14.6	29.2	30.9	20.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.8. 配偶者との関係 (8) 配偶者は金銭的にうるさい(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	48	220	522	280
(%)	100	4.5	20.6	48.8	26.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.9. 配偶者との関係 (9) 配偶者は自分によりかかりすぎる(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	54	238	577	201
(%)	100	5.0	22.2	53.9	18.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q18.10. 配偶者との関係 (10) 配偶者にもっと家事をして欲しい(SA)

	該当 数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う
≪第5回調査(平成23年)≫	1,070	77	215	468	310
(%)	100	7.2	20.1	43.7	29.0
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q19. あなたは定年を経験しましたか(SA)

	総数	まだ定年 前	まだ定年 前 (定年なし)	定年前に 退職した	定年 退職した
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	482	469	201	222
(%)	100	35.1	34.1	14.6	16.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q19.1. 定年は何歳ですか：「まだ定年前」選択者

	該当 数	50歳未満	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	482	0	1	9	343	114	12	3	-	61.5
(%)	100	0.0	0.2	1.9	71.2	23.7	2.5	0.6	-	61.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q19.3. 定年は何歳ですか：「定年前に退職した」選択者

	該当 数	50歳未満	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	201	80	29	70	21	1	0	0	-	46.2
(%)	100	39.8	14.4	34.8	10.4	0.5	0.0	0.0	-	46.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q19.4. 定年は何歳ですか：「定年退職した」選択者

	該当 数	50歳未満	50～54 歳	55～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70～74 歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	222	0	2	9	180	23	8	0	-	61.1
(%)	100	0.0	0.9	4.1	81.1	10.4	3.6	0.0	-	61.1
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (1) 定年後の生活費を主に何によってまかないますか(MA)

	該当 数	公的 年金	企業 年金	退職金	生命保険 の保険金 や個人年 金	預貯金の 取りくずし	就労によ る収入	子ども等 からの経 済的支援	その他	わからな い考えた ことがない
≪第5回調査(平成23年)≫	951	727	41	215	281	421	362	11	18	79
(%)	-	76.4	4.3	22.6	29.5	44.3	38.1	1.2	1.9	8.3
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (2) 今の会社に定年まで勤めたいですか(SA)

	該当 数	定年まで 勤めたい	定年前に 退職した い
≪第5回調査(平成23年)≫	951	795	156
(%)	100	83.6	16.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-
(%)	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (2) あと何年くらい今の会社に勤めたいですか：「定年前に退職したい」選択者

	該当 数	5年未満	5～10年 未満	10～15 年未満	15～20 年未満	20年以上	平均(年) *0年含 む
≪第5回調査(平成23年)≫	156	65	45	31	9	6	5.9
(%)	100	41.7	28.8	19.9	5.8	3.8	5.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (3) 定年退職後または定年前の退職後に仕事をどのようにしたいですか(SA)

	該当 数	退職ととも に職業生 活から引 退したい	できれば 仕事を継 続したい	定年後も 出向や再 雇用制度 等を利用 して今の 会社に勤 めたい	退職後は 別の企業 に再就職 したい	退職後は 自分で事 業や商売 を始めた い(自由業 を含む)	退職後は 家業を手 伝いたい	退職後は シルバー 人材セン ターで簡 単な仕事 をしたい	その他	わからな い考えた ことがない
≪第5回調査(平成23年)≫	951	172	351	62	71	90	8	58	13	126
(%)	100	18.1	36.9	6.5	7.5	9.5	0.8	6.1	1.4	13.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (3)どのくらいまで「仕事を継続したい」ですか(SA)

	該当 数	満額年金 受給時 まで	元気なう ちはいつ までも	( )歳 まで (計)	50歳未 満	50~54 歳	55~59 歳	60~64 歳	65~69 歳	70~74 歳	平均
≪第5回調査(平成23年)≫	351	57	281	13	0	1	0	1	6	5	65.4
(%)	100	16.2	80.1	3.7	0.0	7.7	0.0	7.7	46.2	38.5	-
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q20. 定年後の生活 (4)過去5年間に次のような出来事がありましたか(MA)

	総数	子ども や孫の 誕生	子ども の成人・ 就職	子ども や孫との 別居	子ども の結婚	自分自 身の入院	配偶者 の入院	その他 の家族 の入院	配偶者 の死	その他 の家族 の死	昇進・昇 格	出向・ 転籍	中途退 職・失 業(解 雇)
≪第5回調査(平成23年)≫	951	189	108	51	83	134	88	225	3	183	133	40	111
(%)	-	19.9	11.4	5.4	8.7	14.1	9.3	23.7	0.3	19.2	14.0	4.2	11.7
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	災害等 による 資産の 減少・ 経済的 困難	自宅の 購入・ 建て替 え	親の介 護	親との 新たな 同居	その他	いずれ もない
≪第5回調査(平成23年)≫	32	108	101	11	15	223
(%)	6.5	22.0	20.6	2.2	3.1	45.5
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (1)定年前・退職前のあなたの職種は次のどれでしたか(SA)

	該当 数	専門技 術職(研 究職・ 技師等 )	管理職 (役員・ 課長以 上の管 理職)	事務職 (一般 事務・ 営業・ 経理事 務等)	販売職 (店員・ セール ス等)	技能職	サービ ス職(添 乗員・ ホテル マン等)	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	423	53	164	97	30	45	11	23
(%)	100	12.5	38.8	22.9	7.1	10.6	2.6	5.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (2)定年前・退職前の勤務先の従業員数は会社全体でどれくらいでしたか(SA)

	該当 数	1~29 人	30~99 人	100~ 299人	300~ 999人	1000 人以上	わから ない
≪第5回調査(平成23年)≫	423	82	60	58	61	135	27
(%)	100	19.4	14.2	13.7	14.4	31.9	6.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (3)定年後・退職後に仕事につきましたか(SA)

	該当 数	退職と ともに 職業生 活から 引退し た	退職後 も再雇 用制度 等によ り、前 の会社 に勤め た	退職後 は出向 先に 移籍し た	退職後 は別の 企業に 再就職 した	退職後 は自分 で事業 や商売 を始めた (自由 業を 含む)	退職後 は家族 を手伝 うよう になった	退職後 はシ ルバー 人材セ ンター で仕事 するよ うにな った	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	423	221	42	10	59	42	16	8	25
(%)	100	52.2	9.9	2.4	13.9	9.9	3.8	1.9	5.9
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q21. 定年後・退職後の生活 (4) 定年後・退職後から今までに次のようなことがありましたか(MA)

該当数	経済的に苦しくなった	住宅問題で困った	自分や配偶者の健康や体力が衰えた	配偶者や親の介護が必要になった	配偶者に先立たれた	その他の家族の入院や死	再就職のことで困った	家族との人間関係が悪くなった	親との新たな同居	生活のはいやいやがなくなった	所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	今までの人的交流や情報量が減って困った	
《第5回調査(平成23年)》	423	132	16	120	61	9	62	34	12	18	55	28	85
(%)	-	31.2	3.8	28.4	14.4	2.1	14.7	8.0	2.8	4.3	13.0	6.6	20.1
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

該当数	世の中の情報化の進展についていけず困った	社会から取り残されてしまった	時間をもてあました	地域社会にとけこめなかった	その他	特に問題はなかった
《第5回調査(平成23年)》	17	18	73	19	6	131
(%)	4.0	4.3	17.3	4.5	1.4	31.0
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : A-全員 (MA)

総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にする	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域の人の交流を深める	会社以外の活動の場をつくっておく	その他	特に何も必要ない	
《第5回調査(平成23年)》	1,374	917	927	569	153	479	242	103	148	3	82
(%)	-	66.7	67.5	41.4	11.1	34.9	17.6	7.5	10.8	0.2	6.0
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : B-一定年前の方 (MA)

総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にする	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域の人の交流を深める	会社以外の活動の場をつくっておく	その他	特に何も必要ない	
《第5回調査(平成23年)》	951	483	461	299	111	299	226	83	111	1	163
(%)	-	50.8	48.5	31.4	11.7	31.4	23.8	8.7	11.7	0.1	17.1
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (1) 個人として必要なこと : C-定年後・退職後の方 (MA)

総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味などを持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にする	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域の人の交流を深める	会社以外の活動の場をつくっておく	その他	特に何も必要ない	
《第5回調査(平成23年)》	423	158	182	179	40	119	100	64	57	0	82
(%)	-	37.4	43.0	42.3	9.5	28.1	23.6	15.1	13.5	0.0	19.4
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q22. 定年退職に向けて (2) 企業として必要な条件の整備

総数	退職準備教育や退職相談を充実させる	企業年金の充実など、社員の経済的基盤充実に力を入れる	労働時間短縮で、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	希望者には定年年齢を延長させる	定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	退職に向けたセミナーの充実	その他	特に何も必要ない	
《第5回調査(平成23年)》	1,374	422	515	350	312	689	698	214	182	236	9	188
(%)	-	30.7	37.5	25.5	22.7	50.1	50.8	15.6	13.2	17.2	0.7	13.7
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q22. 定年退職に向けて (3) 社会として必要な条件の整備							
	総数	できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	定年退職者の能力を活かす場を増やす	サラリーマンOBが入りできる交流の場をつくる	趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	退職後の生活をよくするための研究や提案に力を入れる	その他	特に何も必要ない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	888	760	207	450	391	355	20	122
(%)	-	64.6	55.3	15.1	32.8	28.5	25.8	1.5	8.9
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q23. 将来の住まい				
	総数	自分または配偶者の持家に住む	親・親類から家を譲り受ける	賃貸住宅に住む	自立型住居(有料老人ホーム、有料介護施設)に住む	その他
《第5回調査(平成23年)》	1,374	1,049	91	166	52	16
(%)	100	76.3	6.6	12.1	3.8	1.2
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q24. (1) 現在の住宅ローンの有無(SA)		
	総数	あり	なし	
《第5回調査(平成23年)》	1,374	391	983	
(%)	100	28.5	71.5	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	
(%)	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	
(%)	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	
(%)	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	
(%)	-	-	-	

【本人調査】		Q24. 住宅ローンはあと何年ですか(SA)							
	総数	4年以下	5年～9年	10年～14年	15年～19年	20年～24年	25年～29年	30年以上	
《第5回調査(平成23年)》	391	26	50	68	52	72	68	55	
(%)	100	6.6	12.8	17.4	13.3	18.4	17.4	14.1	
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	

【本人調査】		Q25. 住宅ローンの残高(SA)							
	総数	100万円未満	100万円以上～500万円未満	500万円以上～1000万円未満	1000万円以上～2000万円未満	2000万円以上～5000万円未満	5000万円以上～1億円未満	1億円以上	わからない
《第5回調査(平成23年)》	391	7	32	75	135	120	3	0	19
(%)	100	1.8	8.2	19.2	34.5	30.7	0.8	0.0	4.9
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】		Q26. 昨年の世帯年収(SA)									
	総数	200万円未満	200万円以上～300万円未満	300万円以上～400万円未満	400万円以上～500万円未満	500万円以上～600万円未満	600万円以上～800万円未満	800万円以上～1000万円未満	1000万円以上～1500万円未満	1500万円以上	わからない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	76	151	185	183	174	228	124	118	57	78
(%)	100	5.5	11.0	13.5	13.3	12.7	16.6	9.0	8.6	4.1	5.7
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q27. 現在の世帯貯蓄(SA)

	総数	なし	100万円未満	100万円以上～500万円未満	500万円以上～1000万円未満	1000万円以上～2000万円未満	2000万円以上～5000万円未満	5000万円以上～1億円未満	1億円以上	わからない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,374	92	155	263	183	167	188	68	20	238
(%)	100	6.7	11.3	19.1	13.3	12.2	13.7	4.9	1.5	17.3
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q28. 世帯年収の構成割合 (1) 公的年金

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫	434	23	28	38	15	23	44	29	29	32	37	136	6.4
(%)	100	5.3	6.5	8.8	3.5	5.3	10.1	6.7	6.7	7.4	8.5	31.3	6.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q28. 世帯年収の構成割合 (2) 企業年金

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫	434	398	10	10	3	7	3	1	1	0	0	1	0.2
(%)	100	91.7	2.3	2.3	0.7	1.6	0.7	0.2	0.2	0.0	0.0	0.2	0.2
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q28. 世帯年収の構成割合 (3) 個人年金

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫	434	363	33	14	6	8	6	1	0	2	1	0	0.4
(%)	100	83.6	7.6	3.2	1.4	1.8	1.4	0.2	0.0	0.5	0.2	0.0	0.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q28. 世帯年収の構成割合 (4) 給与

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫	434	287	16	17	19	17	10	5	11	25	19	8	1.8
(%)	100	66.1	3.7	3.9	4.4	3.9	2.3	1.2	2.5	5.8	4.4	1.8	1.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q28. 世帯年収の構成割合 (5) 不動産収入・利息・配当金

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫	434	341	35	21	14	9	5	5	1	2	1	0	0.6
(%)	100	78.6	8.1	4.8	3.2	2.1	1.2	1.2	0.2	0.5	0.2	0.0	0.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q28. 世帯年収の構成割合 (6) その他の収入

	該当数	0割	1割	2割	3割	4割	5割	6割	7割	8割	9割	10割	平均(割)
≪第5回調査(平成23年)≫	434	349	30	19	13	6	5	3	1	4	2	2	0.6
(%)	100	80.4	6.9	4.4	3.0	1.4	1.2	0.7	0.2	0.9	0.5	0.5	0.6
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q29. 現在のあなた自身の暮らしについて、どのように感じていますか(SA)

	総数	とても楽だ	少し楽だ	普通	少し苦しい	とても苦しい
《第5回調査(平成23年)》	1,374	61	185	598	372	158
(%)	100	4.4	13.5	43.5	27.1	11.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q30. 5年前(平成18年)と比べて現在のあなた自身の経済的な暮らしはどう変わったと感じていますか(SA)

	総数	以前よりとても楽になった	以前より少し楽になった	変わらない	以前より少し苦しくなった	以前よりとても苦しくなった
《第5回調査(平成23年)》	1,374	30	150	526	483	185
(%)	100	2.2	10.9	38.3	35.2	13.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q31. 家族の介護について (1)ご自身の両親の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	251	462	170	27	464
(%)	100	18.3	33.6	12.4	2.0	33.8
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q31. 家族の介護について (2)配偶者の両親の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	168	309	187	50	660
(%)	100	12.2	22.5	13.6	3.6	48.0
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q31. 家族の介護について (3)ご自身の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	319	640	335	80	-
(%)	100	23.2	46.6	24.4	5.8	-
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q31. 家族の介護について (4)配偶者の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
《第5回調査(平成23年)》	1,374	222	509	280	45	318
(%)	100	16.2	37.0	20.4	3.3	23.1
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q32. ご自身の介護を誰にしてもらいたいと思いますか(SA)

	総数	配偶者	自分の子ども	自分の兄弟姉妹	介護サービスによる在宅介護	介護施設に入る	まだ考えていない	その他
《第5回調査(平成23年)》	1,374	420	89	2	143	270	439	11
(%)	100	30.6	6.5	0.1	10.4	19.7	32.0	0.8
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q33.「ライフプランセミナー」をご存じですか(SA)

	総数	知っているが受講していない	知っているが受講している	知らない
《第5回調査(平成23年)》	1,152	25	347	780
(%)	100	2.2	30.1	67.7
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-

【本人調査】 Q34.「ライフプランセミナー」を受講したとお答えですがどこで受講しましたか(SA)

	総数	勤めている会社	金融機関	役所等の公的機関	その他
《第5回調査(平成23年)》	25	14	2	3	6
(%)	100	56.0	8.0	12.0	24.0
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q35.「ライフプランセミナー」を受講したとお答えですが受講してよかったですか(MA)

	総数	退職後の生活設計のイメージを考えるとよかったです	退職後の自分の家計プランを作成できてよかったです	年金の知識を身につけてよかったです	あまり役にたつた	ほとんど役にたつた	その他
《第5回調査(平成23年)》	25	11	4	10	7	2	0
(%)	-	44.0	16.0	40.0	28.0	8.0	0.0
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q36.「ライフプランセミナー」を受講していないとお答えですが受講してみたいですか(SA)

	総数	無料であれば受講してみたい	有料(1日コースで8千円程度)でも受講してみたい	有料(1泊2日コースで宿泊料込みで3万円程度)でもじっくり受講してみたい	受講してみたいとは思わない	その他
《第5回調査(平成23年)》	1,127	456	15	3	649	4
(%)	100	40.5	1.3	0.3	57.6	0.4
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

## Ⅱ. 第1回～第5回調査の単純集計結果比較表

### (3) 配偶者調査結果

【配偶者調査】 SC1. 性別

	総数	男	女	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	0	1,078	0
(%)	100	0.0	100.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	224	1,286	9
(%)	100	14.7	84.7	0.6
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	333	2,145	47
(%)	100	13.2	85.0	1.9
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	241	2,145	44
(%)	100	9.9	88.3	1.8
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	271	2,299	3
(%)	100	10.5	89.4	0.1

(注: 第5回は第2号被保険者の配偶者(35～74歳の女性)1,078人の集計結果)

【配偶者調査】 SC2.1. 年齢

	総数	35歳未満	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	0	177	153	137	133	139	115	115	109	0	0	52.6
(%)	100	0.0	16.4	14.2	12.7	12.3	12.9	10.7	10.7	10.1	0.0	0.0	52.6
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	82	150	192	187	204	251	215	156	56	14	12	52.3
(%)	100	5.4	9.9	12.6	12.3	13.4	16.5	14.2	10.3	3.7	0.9	0.8	52.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	104	238	275	292	391	370	411	259	102	22	61	53.0
(%)	100	4.1	9.4	10.9	11.6	15.5	14.7	16.3	10.3	4.0	0.9	2.4	53.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	115	219	268	348	327	396	384	256	73	14	30	52.6
(%)	100	4.7	9.0	11.0	14.3	13.5	16.3	15.8	10.5	3.0	0.6	1.2	52.6
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	103	261	375	319	372	397	390	249	56	7	44	51.8
(%)	100	4.0	10.1	14.6	12.4	14.5	15.4	15.2	9.7	2.2	0.3	1.7	51.8

【配偶者調査】 Q8. 現在の就業形態

	総数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パート・タイマーなど	自営業・自由業・家族従業員	内職	シルバー人材センター(高齢者事業団)	無職	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	10	231	63	16	3	755	0	0
(%)	100	0.9	21.4	5.8	1.5	0.3	70.0	0.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	275	357	43	14	2	713	44	71
(%)	100	18.1	23.5	2.8	0.9	0.1	46.9	2.9	4.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	358	597	113	57	5	1,025	172	198
(%)	100	14.2	23.6	4.5	2.3	0.2	40.6	6.8	7.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	386	543	99	75	12	889	239	187
(%)	100	15.9	22.3	4.1	3.1	0.5	36.6	9.8	7.7
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	358	551	130	111	2	1,353	-	68
(%)	100	13.9	21.4	5.1	4.3	0.1	52.6	-	2.6

【配偶者調査】 Q8.1. 現在の就業形態(退職後経過年数)

	該当数	5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	0年	無回答	平均(年)*0年含む
≪第5回調査(平成23年)≫	754	179	145	122	40	268	0	0	16.1
(%)	100	23.7	19.2	16.2	5.3	35.5	0.0	0.0	16.1
≪第4回調査(平成18年)≫	713	147	124	106	56	232	5	43	16.1
(%)	100	20.6	17.4	14.9	7.9	32.5	0.7	6.0	16.1
≪第3回調査(平成13年)≫	1,025	225	174	134	74	264	3	151	14.7
(%)	100	22.0	17.0	13.1	7.2	25.8	0.3	14.7	14.7
≪第2回調査(平成8年)≫	889	178	136	133	62	237	5	138	15.0
(%)	100	20.0	15.3	15.0	7.0	26.7	0.6	15.5	15.0
≪第1回調査(平成3年)≫	1,353	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12. 社会活動参加状況

	総数	定期的に参加している	ときどき参加している	以前に参加したことがある	参加していない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	100	178	199	601	0
(%)	100	9.3	16.5	18.5	55.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	216	215	195	846	47
(%)	100	14.2	14.2	12.8	55.7	3.1
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	376	307	321	1,261	260
(%)	100	14.9	12.2	12.7	49.9	10.3
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	283	437	398	1,360	95
(%)	100	11.0	17.0	15.5	52.9	3.7

【配偶者調査】 Q12.1. 社会活動参加分野(複数選択)

	該当数	地域の生活環境を守る活動	地域のイベントや“村おこし”の活動	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	児童や青少年活動の世話役としての活動	地域の文化財や伝統を守る活動	消費者活動や生活向上のための活動	障害者・老人の助けなどの社会福祉活動	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	自然保護や環境保全の活動	国際交流に関する活動	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	278	127	81	52	57	16	19	52	18	27	17	27	0
(%)	-	45.7	29.1	18.7	20.5	5.8	6.8	18.7	6.5	9.7	6.1	9.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	431	147	124	96	118	21	19	70	34	29	5	37	1
(%)	-	34.1	28.8	22.3	27.4	4.9	4.4	16.2	7.9	6.7	1.2	8.6	0.2
≪第3回調査(平成13年)≫	683	212	149	166	105	27	61	160	41	31	26	48	5
(%)	-	31.0	21.8	24.3	15.4	4.0	8.9	23.4	6.0	4.5	3.8	7.0	0.7
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	720	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.1. 社会活動参加分野 (最もあてはまるものをひとつ選択)

該当数	地域の生活環境を守る活動	イベントや“村おこし”の活動	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	児童や青少年活動の世話役としての活動	地域の文化財や伝統を守る活動	消費者活動や生活向上のための活動	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	自然保護や環境保全の活動	国際交流に関する活動	その他
278	78	36	27	36	4	6	33	12	12	7	27
(%)	28.1	12.9	9.7	12.9	1.4	2.2	11.9	4.3	4.3	2.5	9.7
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.2. 社会活動参加理由 (あてはまるもの3つまで選択)

該当数	地域や社会に貢献したい	自分の知識や経験を活かしたい	社会への見聞を広げたい	友人や仲間を増やしたい	生活にはりあいを持たせたい	身近な人に誘われた	会社の勤めや命令	社会人として当然と思った	何となく	その他	無回答
278	145	80	52	74	64	87	7	62	32	18	0
(%)	52.2	28.8	18.7	26.6	23.0	31.3	2.5	22.3	11.5	6.5	0.0
《第4回調査(平成18年)》	431	211	93	63	141	89	11	77	4	30	7
(%)	49.0	21.6	14.6	32.7	20.6	27.8	2.6	17.9	0.9	7.0	1.6
《第3回調査(平成13年)》	683	353	168	121	201	164	145	12	123	6	48
(%)	51.7	24.6	17.7	29.4	24.0	21.2	1.8	18.0	0.9	7.0	0.6
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	720	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.2. 社会活動参加理由 (最もあてはまるものをひとつ選択)

該当数	地域や社会に貢献したい	自分の知識や経験を活かしたい	社会への見聞を広げたい	友人や仲間を増やしたい	生活にはりあいを持たせたい	身近な人に誘われた	会社の勤めや命令	社会人として当然と思った	何となく	その他
278	67	40	16	15	30	47	4	25	16	18
(%)	24.1	14.4	5.8	5.4	10.8	16.9	1.4	9.0	5.8	6.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.3. やりがいを感じる活動団体

該当数	行政機関(民生委員など)	社会福祉協議会	町内会自治会	老人クラブ	公的施設・機関のボランティア団体	地域住民によるボランティア団体	民間施設・機関のボランティア団体	NPO法人	当事者団体	個人または個人的な集まり	その他
278	14	8	85	9	26	27	17	8	12	62	10
(%)	5.0	2.9	30.6	3.2	9.4	9.7	6.1	2.9	4.3	22.3	3.6
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.4. やりがいを感じる活動団体を選んだ理由

該当数	活動の運営主体(運営者や機関)	活動の内容	活動団体の歴史(存続年数)	活動団体の評判	活動団体内の統制のとれた規律	活動団体内での対等な人間関係	自宅と活動地域との距離	その他
278	24	121	4	4	1	27	88	9
(%)	8.6	43.5	1.4	1.4	0.4	9.7	31.7	3.2
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.5. 社会活動不参加理由 (あてはまるもの3つまで選択)

該当数	時間がない	経済的余裕がない	精神的なゆとりがない	健康や体力に自信がない	家族など周囲の理解や協力が得られない	自分にあった活動の場がない	いつよにやる仲間がいない	何から始めるか、きっかけがつかめない	興味がない、関心がない	その他	無回答
800	213	165	293	276	30	222	171	308	224	23	0
(%)	26.6	20.6	36.6	34.5	3.8	27.8	21.4	38.5	28.0	2.9	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,041	502	93	213	184	13	188	75	303	184	58
(%)	48.2	8.9	20.5	17.7	1.2	18.1	7.2	29.1	17.7	5.6	2.6
《第3回調査(平成13年)》	1,582	718	112	283	320	22	278	144	445	183	91
(%)	45.4	7.1	17.9	20.2	1.4	17.6	9.1	28.1	11.6	5.8	3.2
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	1,758	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【本人調査】 Q12.5. 社会活動不参加理由（最もあてはまるものをひとつ選択）

該当数	時間がな い	経済的余 裕がない	精神的な ゆとりがな い	健康や体 力に自信 がない	家族など 周囲の理 解や協力 が得られ ない	自分に あった活 動の場が ない	いっしょに やる仲間 がいない	何から始 めるか、 きっかけが つかめな い	興味がな い、関心が ない	その他	
《第5回調査(平成23年)》	800	106	37	98	131	8	51	34	154	153	28
(%)	100	13.3	4.6	12.3	16.4	1.0	6.4	4.3	19.3	19.1	3.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.6. 社会活動不参加者の今後の活動意向

該当数	積極的に 参加した り	条件によ つては参 加しても よい	参加す るつもり はない	わから ない	無回答	
《第5回調査(平成23年)》	800	13	418	182	187	0
(%)	100	1.6	52.3	22.8	23.4	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,041	29	543	167	278	24
(%)	100	2.8	52.2	16.0	26.7	2.3
《第3回調査(平成13年)》	1,582	79	867	183	427	26
(%)	100	5.0	54.8	11.6	27.0	1.6
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	1,758	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.7. 社会参加不参加者の中で今後参加してもよいとした人が関心を持っている活動団体

該当数	行政機関 (民生委員 など)	社会福祉 協議会	町内会 自治会	老人クラブ	公的施設・ 機関のボ ランティア 団体	地域住民 によるボラ ンティア団 体	民間施設・ 機関のボ ランティア団 体	NPO法人	当事者団 体	個人また は個人的 な集まり	その他	
《第5回調査(平成23年)》	431	27	29	48	3	77	65	43	62	7	52	18
(%)	100	6.3	6.7	11.1	0.7	17.9	15.1	10.0	14.4	1.6	12.1	4.2
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q12.8. 社会参加不参加者の中で今後参加してもよいとした人が関心を持っている活動団体を選んだ理由

該当数	活動の運 営主体(運 営者や機 関)	活動の 内容	活動団体 の歴史 (存続年 数)	活動団体 の評判	活動団体 内の統制 ののれた 規律	活動団体 内の対等 な人間関係	自宅と活 動地域と の距離	その他	
《第5回調査(平成23年)》	431	51	162	3	8	14	41	133	19
(%)	100	11.8	37.6	0.7	1.9	3.2	9.5	30.9	4.4
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.1. 生活充足感 (1)健康

総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答	
《第5回調査(平成23年)》	1,078	85	536	226	180	51	0
(%)	100	7.9	49.7	21.0	16.7	4.7	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,519	144	829	244	243	37	22
(%)	100	9.5	54.6	16.1	16.0	2.4	1.4
《第3回調査(平成13年)》	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.2. 生活充足感 (2)時間的ゆとり

総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答	
《第5回調査(平成23年)》	1,078	188	525	202	129	34	0
(%)	100	17.4	48.7	18.7	12.0	3.2	0.0
《第4回調査(平成18年)》	1,519	194	569	333	333	67	23
(%)	100	12.8	37.5	21.9	21.9	4.4	1.5
《第3回調査(平成13年)》	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.3. 生活充足感 (3) 経済的ゆとり

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	54	407	291	229	97	0
(%)	100	5.0	37.8	27.0	21.2	9.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	104	682	418	235	58	22
(%)	100	6.8	44.9	27.5	15.5	3.8	1.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.4. 生活充足感 (4) 精神的ゆとり

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	71	420	309	217	61	0
(%)	100	6.6	39.0	28.7	20.1	5.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	108	662	416	247	51	35
(%)	100	7.1	43.6	27.4	16.3	3.4	2.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.5. 生活充足感 (5) 家族の理解・愛情

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	197	573	222	68	18	0
(%)	100	18.3	53.2	20.6	6.3	1.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	347	840	226	64	11	31
(%)	100	22.8	55.3	14.9	4.2	0.7	2.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.6. 生活充足感 (6) 友人・仲間

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	98	571	294	86	29	0
(%)	100	9.1	53.0	27.3	8.0	2.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	240	844	290	106	13	26
(%)	100	15.8	55.6	19.1	7.0	0.9	1.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.7. 生活充足感 (7) 熱中できる趣味

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	133	460	308	147	30	0
(%)	100	12.3	42.7	28.6	13.6	2.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	198	541	387	279	87	27
(%)	100	13.0	35.6	25.5	18.4	5.7	1.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.8. 生活充足感 (8) 仕事のほりあい

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	32	217	497	174	158	0
(%)	100	3.0	20.1	46.1	16.1	14.7	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	84	482	573	141	121	118
(%)	100	5.5	31.7	37.7	9.3	8.0	7.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.9. 生活充足感 (9) 社会的地位

	総数	十分満た されている	まあ満たさ れている	どちらとも いえない	やや欠け ている	まったく欠 けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	15	133	600	175	155	0
(%)	100	1.4	12.3	55.7	16.2	14.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	40	286	722	197	193	81
(%)	100	2.6	18.8	47.5	13.0	12.7	5.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.10. 生活充足感 (10)自然とのふれあい

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	50	413	398	176	41	0
(%)	100	4.6	38.3	36.9	16.3	3.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	92	510	492	309	87	29
(%)	100	6.1	33.6	32.4	20.3	5.7	1.9
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.11. 生活充足感 (11)近隣との交流

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	30	317	458	202	71	0
(%)	100	2.8	29.4	42.5	18.7	6.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	66	558	476	310	87	22
(%)	100	4.3	36.7	31.3	20.4	5.7	1.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.12. 生活充足感 (12)社会の役に立つこと

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	15	150	505	306	102	0
(%)	100	1.4	13.9	46.8	28.4	9.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	31	272	623	397	157	39
(%)	100	2.0	17.9	41.0	26.1	10.3	2.6
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q13.13. 生活充足感 (13)住まいのこと

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	89	462	359	138	30	0
(%)	100	8.3	42.9	33.3	12.8	2.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q15.1. 生きがいの意味

	総数	生活の活力やほらあい	生活のリズムやメリハリ	心の安らぎや晴らし	生きる喜びや満足感	人生観や価値観の形成	生きる目標や目的	自分自身の向上	自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる	他人や社会の役に立っていると感じること	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	308	101	341	516	84	215	142	205	104	7	0
(%)	-	28.6	9.4	31.6	47.9	7.8	19.9	13.2	19.0	9.6	0.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	483	165	449	642	96	348	242	263	163	15	19
(%)	-	31.8	10.9	29.6	42.3	6.3	22.9	15.9	17.3	10.7	1.0	1.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	657	242	673	1015	167	454	535	656	341	21	45
(%)	-	26.0	9.6	26.7	40.2	6.6	18.0	21.2	26.0	13.5	0.8	1.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	632	212	686	949	149	438	503	632	381	12	40
(%)	-	26.0	8.7	28.2	39.1	6.1	18.0	20.7	26.0	15.7	0.5	1.6
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	934	209	814	1079	155	434	679	-	413	7	49
(%)	-	36.3	8.1	31.6	41.9	6.0	16.9	26.4	-	16.1	0.3	1.9

【配偶者調査】 Q15.2. 生きがいの有無

	総数	前には持っていたが、今は持っていない	持っていない	わからない	無回答	
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	520	105	175	278	0
(%)	100	48.2	9.7	16.2	25.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	893	112	146	334	34
(%)	100	58.8	7.4	9.6	22.0	2.2
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,804	130	179	360	52
(%)	100	71.4	5.1	7.1	14.3	2.1
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,982	107	96	206	39
(%)	100	81.6	4.4	4.0	8.5	1.6
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,670	203	344	285	71
(%)	100	64.9	7.9	13.4	11.1	2.8

【配偶者調査】 Q16. 生きがいの内容

	該当数	仕事	趣味	スポーツ	学習活動	社会活動	自然とのふれあい	配偶者・結婚生活	子ども・孫・親などの家族・家庭	友人など家族以外の人の交流	自分自身の健康づくり	ひとりで気ままに過ごすこと	自分自身の内面の充実	その他	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	96	454	81	41	61	130	316	580	216	130	191	201	21	0
(%)	-	8.9	42.1	7.5	3.8	5.7	12.1	29.3	53.8	20.0	12.1	17.7	18.6	1.9	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	256	576	148	53	80	230	432	864	391	221	201	235	13	18
(%)	-	16.9	37.9	9.7	3.5	5.3	15.1	28.4	56.9	25.7	14.5	13.2	15.5	0.9	1.2
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	454	1066	227	135	130	467	748	1416	651	412	275	410	40	50
(%)	-	18.0	42.2	9.0	5.3	5.1	18.5	29.6	56.1	25.8	16.3	10.9	16.2	1.6	2.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	442	950	171	96	144	377	589	1096	562	388	179	328	14	8
(%)	-	18.2	39.1	7.0	4.0	5.9	15.5	24.2	45.1	23.1	16.0	7.4	13.5	0.6	0.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q17.1. 生きがい構成要素取得の場 (1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	779	165	41	250	71	75	55	0
(%)	-	72.3	15.3	3.8	23.2	6.6	7.0	5.1	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	1,187	357	125	372	71	76	15	32
(%)	-	78.1	23.5	8.2	24.5	4.7	5.0	1.0	2.1
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,930	605	243	855	136	167	26	111
(%)	-	76.4	24.0	9.6	33.9	5.4	6.6	1.0	4.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,872	620	235	695	134	129	10	106
(%)	-	77.0	25.5	9.7	28.6	5.5	5.3	0.4	4.4
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,959	678	313	671	143	152	18	106
(%)	-	76.1	26.4	12.2	26.1	5.6	5.9	0.7	4.1

【配偶者調査】 Q17.2. 生きがい構成要素取得の場 (2)生活のどの場で、リズムやメリハリがきますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	572	260	79	164	105	66	87	0
(%)	-	53.1	24.1	7.3	15.2	9.7	6.1	8.1	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	905	508	168	255	131	81	24	51
(%)	-	59.6	33.4	11.1	16.8	8.6	5.3	1.6	3.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,404	849	299	563	215	183	43	186
(%)	-	55.6	33.6	11.8	22.3	8.5	7.2	1.7	7.4
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,359	770	310	485	219	159	37	213
(%)	-	55.9	31.7	12.8	20.0	9.0	6.5	1.5	8.8
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q17.3. 生きがい構成要素取得の場 (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	829	12	34	336	23	105	49	0
(%)	-	76.9	1.1	3.2	31.2	2.1	9.7	4.5	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	1,162	48	78	633	48	177	21	32
(%)	-	76.5	3.2	5.1	41.7	3.2	11.7	1.4	2.1
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,885	113	138	1,234	65	286	27	140
(%)	-	74.7	4.5	5.5	48.9	2.6	11.3	1.1	5.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,824	116	177	1,029	98	225	20	138
(%)	-	75.1	4.8	7.3	42.3	4.0	9.3	0.8	5.7
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,959	164	242	1,051	113	286	12	119
(%)	-	76.1	6.4	9.4	40.8	4.4	11.1	0.5	4.6

【配偶者調査】 Q17.4. 生きがい構成要素取得の場 (4)どの場で喜びや満足感を感じる人が多いですか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	777	109	43	236	55	113	65	0
(%)	-	72.1	10.1	4.0	21.9	5.1	10.5	6.0	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	1,152	252	109	352	64	152	27	46
(%)	-	75.8	16.6	7.2	23.2	4.2	10.0	1.8	3.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,849	466	178	689	152	267	41	181
(%)	-	73.2	18.5	7.0	27.3	6.0	10.6	1.6	7.2
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,786	440	199	546	137	229	29	195
(%)	-	73.5	18.1	8.2	22.5	5.6	9.4	1.2	8.0
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,791	513	253	495	143	232	55	226
(%)	-	69.6	19.9	9.8	19.2	5.6	9.0	2.1	8.8

【配偶者調査】 Q17.5. 生きがい構成要素取得の場 (5)人生観や価値観に影響を与えているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	570	77	49	323	232	86	93	0
(%)	-	52.9	7.1	4.5	30.0	21.5	8.0	8.6	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	815	279	114	502	291	133	32	50
(%)	-	53.7	18.4	7.5	33.0	19.2	8.8	2.1	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,257	427	214	892	539	231	53	221
(%)	-	49.8	16.9	8.5	35.3	21.3	9.1	2.1	8.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,175	386	264	864	469	185	59	202
(%)	-	48.4	15.9	10.9	35.6	19.3	7.6	2.4	8.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,089	440	326	854	629	197	55	217
(%)	-	42.3	17.1	12.7	33.2	24.4	7.7	2.1	8.4

【配偶者調査】 Q17.6. 生きがい構成要素取得の場 (6)生活の目標や目的は、どこにあると感じますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	761	99	39	68	136	114	91	0
(%)	-	70.6	9.2	3.6	6.3	12.6	10.6	8.4	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	1,182	258	112	91	212	138	26	51
(%)	-	77.8	17.0	7.4	6.0	14.0	9.1	1.7	3.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,823	430	165	171	406	211	27	266
(%)	-	72.2	17.0	6.5	6.8	16.1	8.4	1.1	10.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,830	441	190	142	344	199	30	200
(%)	-	75.3	18.1	7.8	5.8	14.2	8.2	1.2	8.2
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,974	436	223	124	428	176	30	211
(%)	-	76.7	16.9	8.7	4.8	16.6	6.8	1.2	8.2

【配偶者調査】 Q17.7. 生きがい構成要素取得の場 (7)どの場での生活が自分自身を向上させていると…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	415	218	84	160	254	109	132	0
(%)	-	38.5	20.2	7.8	14.8	23.6	10.1	12.2	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	587	499	218	253	350	138	53	42
(%)	-	38.6	32.9	14.4	16.7	23.0	9.1	3.5	2.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	964	779	358	474	625	246	97	254
(%)	-	34.2	30.9	14.2	18.8	24.8	9.7	3.8	10.1
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	797	720	423	478	612	221	61	226
(%)	-	32.8	29.6	17.4	19.7	25.2	9.1	2.5	9.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	656	744	524	479	786	223	66	242
(%)	-	25.5	28.9	20.4	18.6	30.5	8.7	2.6	9.4

【配偶者調査】 Q17.8. 生きがい構成要素取得の場 (8)可能性を実現したり、やりとげたと感じるのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	431	276	101	87	173	118	138	0
(%)	-	40.0	25.6	9.4	8.1	16.0	10.9	12.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	621	552	193	123	224	190	85	50
(%)	-	40.9	36.3	12.7	8.1	14.7	12.5	5.6	3.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,008	872	358	202	405	289	143	223
(%)	-	39.9	34.5	14.2	8.0	16.0	11.4	5.7	8.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	970	830	415	152	378	289	131	219
(%)	-	39.9	34.2	17.1	6.3	15.6	11.9	5.4	9.0
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	986	853	439	182	402	295	178	237
(%)	-	38.3	33.2	17.1	7.1	15.6	11.5	6.9	9.2

【配偶者調査】 Q17.9. 生きがい構成要素取得の場 (9)役に立っていると感じたり評価を得ているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	603	234	121	138	109	60	127	0
(%)	-	55.9	21.7	11.2	12.8	10.1	5.6	11.8	0.0
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	884	515	230	168	140	105	63	37
(%)	-	58.2	33.9	15.1	11.1	9.2	6.9	4.1	2.4
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	1,564	795	401	306	214	175	104	152
(%)	-	61.9	31.5	15.9	12.1	8.5	6.9	4.1	6.0
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	1,511	760	423	218	218	149	93	165
(%)	-	62.2	31.3	17.4	9.0	9.0	6.1	3.8	6.8
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	1,460	813	487	270	236	147	121	186
(%)	-	56.7	31.6	18.9	10.5	9.2	5.7	4.7	7.2

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (1)配偶者は自分のことを応援してくれる(SA)

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	247	598	177	56	-
(%)	100	22.9	55.5	16.4	5.2	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	532	762	174	27	24
(%)	100	35.0	50.2	11.5	1.8	1.6
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (2)自分は配偶者の良き理解者である(SA)

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	208	604	220	46	-
(%)	100	19.3	56.0	20.4	4.3	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	445	802	219	27	26
(%)	100	29.3	52.8	14.4	1.8	1.7
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	631	1,271	508	50	65
(%)	100	25.0	50.3	20.1	2.0	2.6
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	675	1,294	381	23	57
(%)	100	27.8	53.3	15.7	0.9	2.3
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	843	1,257	359	30	84
(%)	100	32.8	48.9	14.0	1.2	3.3

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (3)配偶者と価値観・考え方が似ている(SA)

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	111	441	354	172	-
(%)	100	10.3	40.9	32.8	16.0	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	204	631	531	118	35
(%)	100	13.4	41.5	35.0	7.8	2.3
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	312	1,018	895	231	69
(%)	100	12.4	40.3	35.4	9.1	2.7
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	303	1,033	849	174	71
(%)	100	12.5	42.5	34.9	7.2	2.9
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (4)配偶者とよく一緒に出かける(SA)

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	281	409	274	114	-
(%)	100	26.1	37.9	25.4	10.6	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	442	598	376	75	28
(%)	100	29.1	39.4	24.8	4.9	1.8
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	822	914	605	114	70
(%)	100	32.6	36.2	24.0	4.5	2.8
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	747	945	587	77	74
(%)	100	30.7	38.9	24.2	3.2	3.0
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	815	870	686	103	99
(%)	100	31.7	33.8	26.7	4.0	3.8

【配偶者調査】 Q18. 配偶者との関係 (5)配偶者と会話がある(SA)

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	307	479	221	71	-
(%)	100	28.5	44.4	20.5	6.6	-
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	439	756	261	32	31
(%)	100	28.9	49.8	17.2	2.1	2.0
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	701	1,212	479	69	64
(%)	100	27.8	48.0	19.0	2.7	2.5
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	721	1,189	433	37	70
(%)	100	29.7	48.1	17.8	1.5	2.9
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	758	1,182	513	42	98
(%)	100	29.5	45.2	19.9	1.6	3.8

【配偶者調査】		Q18. 配偶者との関係 (6) 配偶者は自分を自由にさせてくれる(SA)					
	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答	
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	361	573	113	31	-	
(%)	100	33.5	53.2	10.5	2.9	-	
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	559	778	138	18	26	
(%)	100	36.8	51.2	9.1	1.2	1.7	
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	

【配偶者調査】		Q18. 配偶者との関係 (7) 配偶者は自分の親を大切にしてくれない(SA)						
	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	非該当	無回答	
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	67	149	328	379	155	-	
(%)	100	6.2	13.8	30.4	35.2	14.4	-	
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	85	192	370	534	287	51	
(%)	100	5.6	12.6	24.4	35.2	18.9	3.4	
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	-	

【配偶者調査】		Q18. 配偶者との関係 (8) 配偶者は金銭的にうるさい(SA)					
	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答	
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	57	138	484	399	-	
(%)	100	5.3	12.8	44.9	37.0	-	
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	66	189	812	422	30	
(%)	100	4.3	12.4	53.5	27.8	2.0	
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	

【配偶者調査】		Q18. 配偶者との関係 (9) 配偶者は自分によりかかりすぎる(SA)					
	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答	
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	63	248	477	290	-	
(%)	100	5.8	23.0	44.2	26.9	-	
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	51	240	819	384	25	
(%)	100	3.4	15.8	53.9	25.3	1.6	
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	166	538	1393	353	75	
(%)	100	6.6	21.3	55.2	14.0	3.0	
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	177	591	1375	328	102	
(%)	100	6.9	23.0	53.4	12.7	4.0	

【配偶者調査】		Q18. 配偶者との関係 (10) 配偶者にもっと家事をして欲しい(SA)					
	総数	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく違 う	無回答	
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	105	315	486	172	-	
(%)	100	9.7	29.2	45.1	16.0	-	
≪第4回調査(平成18年)≫	1,519	134	469	635	253	28	
(%)	100	8.8	30.9	41.8	16.7	1.8	
≪第3回調査(平成13年)≫	2,525	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第2回調査(平成8年)≫	2,430	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第1回調査(平成3年)≫	2,573	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	

【配偶者調査】		Q23. 将来の住まい					
	総数	自分また は配偶者 の持家に 住む	親・親類か ら家を譲り 受ける	賃貸住宅 に住む	自立型住 居(有料老 人ホーム、 有料介護 施設)に住 む	その他	
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	862	53	97	36	30	
(%)	100	80.0	4.9	9.0	3.3	2.8	
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	
(%)	-	-	-	-	-	-	

【配偶者調査】		Q24. (1) 現在の住宅ローンの有無(SA)		
	総数	あり	なし	
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	346	732	
(%)	100	32.1	67.9	
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	
(%)	-	-	-	
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	
(%)	-	-	-	
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	
(%)	-	-	-	
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	
(%)	-	-	-	

【配偶者調査】 Q24. 住宅ローンはあと何年ですか(SA)

	総数	4年以下	5年 ～9年	10年 ～14年	15年 ～19年	20年 ～24年	25年 ～29年	30年以上
《第5回調査(平成23年)》	346	29	55	56	53	69	38	46
(%)	100	8.4	15.9	16.2	15.3	19.9	11.0	13.3
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q25. 住宅ローンの残高(SA)

	総数	100万円 未満	100万円 以上～50 0万円未 満	500万円 以上～10 00万円未 満	1000万 円以上～ 2000万 円未満	2000万 円以上～ 5000万 円未満	5000万 円以上～ 1億円未 満	1億円以 上	わから ない
《第5回調査(平成23年)》	346	4	39	67	100	77	5	0	54
(%)	100	1.2	11.3	19.4	28.9	22.3	1.4	0.0	15.6
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q26. 昨年の世帯年収(SA)

	総数	200万円 未満	200万円 以上～30 0万円未 満	300万円 以上～40 0万円未 満	400万円 以上～50 0万円未 満	500万円 以上～60 0万円未 満	600万円 以上～80 0万円未 満	800万円 以上～10 00万円未 満	1000万 円以上～ 1500万 円未満	1500万 円以上	わから ない
《第5回調査(平成23年)》	1,078	27	62	136	144	141	185	149	82	25	127
(%)	100	2.5	5.8	12.6	13.4	13.1	17.2	13.8	7.6	2.3	11.8
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q27. 現在の世帯貯蓄(SA)

	総数	なし	100万円 未満	100万円 以上～50 0万円未 満	500万円 以上～10 00万円未 満	1000万 円以上～ 2000万 円未満	2000万 円以上～ 5000万 円未満	5000万 円以上～ 1億円未 満	1億円以 上	わから ない
《第5回調査(平成23年)》	1,078	54	77	195	125	122	119	41	5	340
(%)	100	5.0	7.1	18.1	11.6	11.3	11.0	3.8	0.5	31.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q29. 現在のあなた自身の暮らしについて、どのように感じていますか(SA)

	総数	とても楽だ	少し楽だ	普通	少し苦しい	とても 苦しい
《第5回調査(平成23年)》	1,078	88	161	502	246	81
(%)	100	8.2	14.9	46.6	22.8	7.5
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q30. 5年前(平成18年)と比べて現在のあなた自身の経済的な暮らしはどう変わったと感じていますか(SA)

	総数	以前より とても楽に なった	以前より少 し楽になっ た	変わら ない	以前より少 し苦しく なった	以前より とても苦し くなった
《第5回調査(平成23年)》	1,078	33	137	439	332	137
(%)	100	3.1	12.7	40.7	30.8	12.7
《第4回調査(平成18年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第3回調査(平成13年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q31. 家族の介護について (1)ご自身の両親の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	175	378	174	40	311
(%)	100	16.2	35.1	16.1	3.7	28.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q31. 家族の介護について (2)配偶者の両親の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	216	272	151	53	386
(%)	100	20.0	25.2	14.0	4.9	35.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q31. 家族の介護について (3)ご自身の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	263	548	233	34	-
(%)	100	24.4	50.8	21.6	3.2	-
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q31. 家族の介護について (4)配偶者の介護(SA)

	総数	大変不安である	少し不安である	あまり不安はない	まったく不安はない	該当する人はいない
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	273	535	222	29	19
(%)	100	25.3	49.6	20.6	2.7	1.8
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-

【配偶者調査】 Q32. ご自身の介護を誰にしてもらいたいと思いますか(SA)

	総数	配偶者	自分の子ども	自分の兄弟姉妹	介護サービスによる在宅介護	介護施設に入る	まだ考えていない	その他
≪第5回調査(平成23年)≫	1,078	170	122	4	128	260	390	4
(%)	100	15.8	11.3	0.4	11.9	24.1	36.2	0.4
≪第4回調査(平成18年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第3回調査(平成13年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第2回調査(平成8年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-
≪第1回調査(平成3年)≫	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-

資料3 「調査票質問票項目一覧表」

(過去調査分との質問項目対照表)

- (1) 本人調査票質問項目
- (2) 配偶者調査票調査項目



### Ⅲ. 調査票質問項目一覧表(過去調査分との質問項目対照表)

#### (1) 本人調査票質問項目

##### 【予備調査】

第5回調査(2011年)			第4回調査(2006年)		第3回調査(2001年)		第2回調査(1996年)		第1回調査(1991年)	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢		質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
SC1 性別	1 男 2 女		F1	同左	F1	同左	F1	同左	F1	同左
SC2 年齢	年齢を乗数で記入		F1	同左	F1	同左	F1	同左	F1	同左
SC3 厚生年金への加入状況	1 現在、厚生年金に加入(まだ受給していない) 2 現在、厚生年金を受給している 3 現在、厚生年金に加入せず、かつ受給もせず 4 わからない 5 その他( )									
SC4 企業年金への加入状況(SC2=1、2)	1 現在、企業年金に加入(まだ受給していない) 2 現在、企業年金を受給している 3 現在、企業年金に加入せず、かつ受給もせず 4 わからない 5 その他( )									
SC5 第3号被保険者か(SC3=3、4、5)	1 国民年金の第3号被保険者に該当 2 その他( )									

##### 【本調査】

第5回調査(2011年)			第4回調査(2006年)		第3回調査(2001年)		第2回調査(1996年)		第1回調査(1991年)	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢		質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問1 未婚	1 未婚 2 既婚(配偶者あり) 3 既婚(離別) 4 既婚(死別)		F2	1 2 3 4	F5	1 2 3 4	F5	1 2 3 4	F5	1 2 3 4
問2 世帯構成	1 ひとり暮らし 2 自分たち夫婦だけ 3 自分たち夫婦(または自分)と未婚の子 4 自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦(ほ... 5 自分たち夫婦(または自分)と親(ほかに子や... 6 その他(具体的に)		F3	1 2 3 4 5 6	F6	1 2 3 4 5 6	F6	1 2 3 4 5 6	F6	1 2 3 4 5 6
問3 子どもの有無	1 子どもがいる 2 子どもはいない (1)子どもの人数 (2)子どもの年齢 (3)18歳以上の子どもに関して	人数を記入 各々の子供の性別・年齢を記入 該当する各々の子どもの以下の状況を選択回答 ・同居状況(同居非同居の別) ・就業状況(正社員、契約・派遣・パート、 未就業(除く学生)、学生) ・結婚状況(既婚結婚の別)	F4	同左 (1) 同左 (2) 第一子と末子の年齢						
問4 居住地	都道府県を記入		F5	同左	F2	同左	F2	同左	F2	同左
問5 居住年数	1 6年未満 2 5年以上～10年未満 3 10年以上～20年未満 4 20年以上～30年未満 5 30年以上		F6	1 2 3 4 5	F3	1 2 3 4 5	F3	1 2 3 4 5	F3	1 2 3 4 5
問6 住居形態	1 持ち家(一戸建て) 2 持ち家(分譲マンション等) 3 社宅・会社の寮 4 公社・公団・公営の賃貸住宅 5 民間の借家・マンション・アパート 6 その他		F7	1 2 3 4 5 6	F7	1 2 3 4 5 6	F8	1 2 3 4 5 6	F7	1 2 3 4 5 6
問7 最終学歴	1 小学校・高等小学校・新制中学校 2 旧制中学校・旧制高等女学校・旧制実業学校... 3 旧制高等学校・高等師範学校・新制短大 4 大学・大学院 5 専門学校・専修学校 6 その他		F8	1 2 3 4 5 6	F4	1 2 3 4 5 6	F4	1 2 3 4 5 6	F4	1 2 3 4 5 6
問8 現在の就業形態	1 正社員 2 契約社員・嘱託 3 派遣社員 4 パート・アルバイト 5 自営業・自由業・家族従業員 6 内職 7 シルバー人材センター(高齢者事業団) 8 無職 → (最後に職を離れてから 年)		問1	1 2 3 4 5 6	F12	1 2 3 4 5 6	問21	1 2 3 4 5 6	問22	1 2 3 4 5 6
問9 現在の職種等	(1)勤務先の業種 1 水産・農林 2 鉱業 3 建設 4 食料品 5 繊維製品、パルプ・紙 6 化学、医薬品 7 石油・石炭 8 ゴム製品、ガラス・土石製品 9 鉄鋼、非鉄金属、金属製品 10 機械、電気機器 11 輸送用機器、精密機器、その他製品 12 卸売業、小売業 13 銀行、証券、保険、その他金融 14 不動産 15 運輸(陸運、海運、空運)、倉庫 16 通信 17 電気・ガス 18 サービス 19 公官庁 20 その他 (2)現在の職種 1 専門技術職(研究職・技師等) 2 管理職(役員・課長以上の管理職) 3 事務職(一般事務・営業・経理事務等) 4 販売職(店員・セールス等) 5 技能職 6 サービス職(添乗員・ホテルマン等) 7 その他 (3)勤務先の従業員数 1 1～29人 2 30～99人 3 100～299人 4 300～999人 5 1000人以上 6 わからない (4)現在の1週間の勤務日数 (5)現在の1日の勤務時間									
問10 現在の就業状況についての満足度	(1)仕事の内容 (2)就業形態 (3)職場での地位の高さ (4)賃金 (5)業績評価の公平さ (6)福利厚生 (7)職場の人間関係・雰囲気 (8)全体として	現在の1週間の勤務日数を乗数で記入。 現在の1日の勤務時間を乗数で記入。	問3	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)	問23 付問	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	問22 (5)	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)		(4) (5) (6) (7)

第5回調査(2011年)		第4回調査(2006年)		第3回調査(2001年)		第2回調査(1996年)		第1回調査(1991年)				
質問番号・質問内容(略記)		回答選択肢		質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢			
問11 自由時間	(1)自由時間の有無	1	十分にある	問4	1	問5	1	問4	問4	1		
		2	まあまあ		2		2			2		
		3	不十分である		3		3			3		
		4	まったくない		4		4			4		
	(2)自由時間の過ごし方	1	仕事仲間とのプライベートつきあい	付問1	付問1	1	付問1	付問1	付問1	付問1	1	
		2	仕事に関する勉強や残務整理			2					2	2
		3	テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など			3					3	3
		4	ひとり趣味・スポーツ・学習など			4					4	4
		5	仲間と趣味・スポーツなど			5					5	5
		6	パソコン通信やインターネットなど			6					6	6
		7	個人的な友人・仲間とのつきあい			7					7	7
		8	行楽・ドライブなど			8					8	8
		9	庭いじりや家事など家庭内のこと			9					9	9
10		家庭との団らんや家庭サービス	10			10					10	
11	近隣の人とのつきあいや地域の用事	11	11	11								
12	その他	12	12	12								
13	特に何もしない	13	13	13								
問12 社会活動参加状況	(1)定期的に参加している	1	定期的に参加している	問5	1	問3	1		問15	1		
		2	ときどき参加している		2		2			2		
		3	以前に参加したことがある		3		3			3		
		4	参加していない		4		4			4		
	(1)社会活動参加分野(いくつでも)	1	地域の生活環境を守る活動	付問1	付問1	1	付問1	付問1	付問1	付問1	1	
		2	地域のイベントや“村おこし”の活動			2					2	2
		3	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動			3					3	3
		4	児童や青少年活動の世話役としての活動			4					4	4
		5	地域の文化財や伝統を守る活動			5					5	5
		6	消費者活動や生活向上のための活動			6					6	6
		7	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動			7					7	7
		8	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員...			8					8	8
		9	自然保護や環境保全の活動			9					9	9
10		国際交流に関する活動	10			10					10	
11		その他	11			11					11	
(1)社会活動参加分野(最もあてはまるものひとつ)	1	地域の生活環境を守る活動			1					1		
	2	地域のイベントや“村おこし”の活動			2					2	2	
	3	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動			3					3	3	
	4	児童や青少年活動の世話役としての活動			4					4	4	
	5	地域の文化財や伝統を守る活動			5					5	5	
	6	消費者活動や生活向上のための活動			6					6	6	
	7	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動			7					7	7	
	8	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員...			8					8	8	
	9	自然保護や環境保全の活動			9					9	9	
	10	国際交流に関する活動			10					10	10	
	11	その他			11					11	11	
(2)社会活動参加理由(該当するもの3つまで)	1	地域や社会に貢献したい	付問2	付問2	1	付問2	付問2	付問2	付問2	1		
	2	自分の知識や経験を活かしたい			2					2	2	
	3	社会への見聞を広げたい			3					3	3	
	4	友人や仲間を増やしたい			4					4	4	
	5	生活にはりあいを持たせたい			5					5	5	
	6	身近な人に誘われた			6					6	6	
	7	会社の勤めや命令			7					7	7	
	8	社会人として当然と思った			8					8	8	
	9	何となく			9					9	9	
	10	その他( )			10					10	10	
(2)社会活動参加理由(最もあてはまるものひとつ)	1	地域や社会に貢献したい			1					1		
	2	自分の知識や経験を活かしたい			2					2	2	
	3	社会への見聞を広げたい			3					3	3	
	4	友人や仲間を増やしたい			4					4	4	
	5	生活にはりあいを持たせたい			5					5	5	
	6	身近な人に誘われた			6					6	6	
	7	会社の勤めや命令			7					7	7	
	8	社会人として当然と思った			8					8	8	
	9	何となく			9					9	9	
	10	その他( )			10					10	10	
(3)活動団体	1	行政機関(民生委員など公的委員含む)			1					1		
	2	社会福祉協議会			2					2	2	
	3	町内会、自治会			3					3	3	
	4	老人クラブ			4					4	4	
	5	公的施設・機関のボランティア団体			5					5	5	
	6	地域の住民によるボランティア団体			6					6	6	
	7	民間施設・機関のボランティア団体			7					7	7	
	8	NPO法人			8					8	8	
	9	当事者団体			9					9	9	
	10	個人または個人的な集まり			10					10	10	
	11	その他( )			11					11	11	
(4)活動団体の選択理由	1	活動の運営主体(運営者や機関)			1					1		
	2	活動の内容			2					2	2	
	3	活動団体の歴史(存続年数)			3					3	3	
	4	活動団体の評判			4					4	4	
	5	活動団体内の統制のとれた規律			5					5	5	
	6	活動団体内の対等な人間関係			6					6	6	
	7	活動に費やす時間			7					7	7	
	8	自宅と活動地域との距離			8					8	8	
	9	その他( )			9					9	9	
(5)社会活動不参加理由(該当するもの3つまで)	1	時間がない	付問3	付問3	1	付問3	付問3	付問3	付問3	1		
	2	経済的余裕がない			2					2	2	
	3	精神的なゆとりがない			3					3	3	
	4	健康や体力に自信がない			4					4	4	
	5	家族など周囲の理解や協力が得られない			5					5	5	
	6	自分にあった活動の場がない			6					6	6	
	7	いっしょにやる仲間がいない			7					7	7	
	8	何から始めるか、きっかけがつかめない			8					8	8	
	9	興味が無い、関心がない			9					9	9	
	10	その他( )			10					10	10	
(5)社会活動不参加理由(最もあてはまるものひとつ)	1	時間がない			1					1		
	2	経済的余裕がない			2					2	2	
	3	精神的なゆとりがない			3					3	3	
	4	健康や体力に自信がない			4					4	4	
	5	家族など周囲の理解や協力が得られない			5					5	5	
	6	自分にあった活動の場がない			6					6	6	
	7	いっしょにやる仲間がいない			7					7	7	
	8	何から始めるか、きっかけがつかめない			8					8	8	
	9	興味が無い、関心がない			9					9	9	
	10	その他( )			10					10	10	
(6)社会活動不参加者の今後の参加意向	1	積極的に参加したい	付問4	付問4	1	付問4	付問4	付問4	付問4	1		
	2	条件によっては参加してもよい			2					2	2	
	3	参加するつもりはない			3					3	3	
	4	わからない			4					4	4	
(7)今後活動する場合の関心のある団体	1	行政機関の各委員			1					1		
	2	社会福祉協議会			2					2	2	
	3	町内会、自治会			3					3	3	
	4	老人クラブ			4					4	4	
	5	公的施設・機関のボランティア団体			5					5	5	
	6	地域の住民によるボランティア団体			6					6	6	
	7	民間施設・機関のボランティア団体			7					7	7	
	8	NPO法人			8					8	8	
	9	当事者団体			9					9	9	
	10	個人または個人的な集まり			10					10	10	
	11	その他( )			11					11	11	
(8)今後活動する場合の活動団体の選択理由	1	活動の運営主体(運営者や機関)			1					1		
	2	活動の内容			2					2	2	
	3	活動団体の歴史(存続年数)			3					3	3	
	4	活動団体の評判			4					4	4	
	5	活動団体内の統制のとれた規律			5					5	5	
	6	活動団体内の対等な人間関係			6					6	6	
	7	自宅と活動地域との距離			7					7	7	
	8	その他( )			8					8	8	

第5回調査(2011年)		第4回調査(2006年)	第3回調査(2001年)	第2回調査(1996年)	第1回調査(1991年)		
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択	質問番号	回答選択	質問番号	回答選択
問13 生活充足感	(1)健康 (2)時間的ゆとり (3)経済的ゆとり (4)精神的ゆとり (5)家族の理解・愛情 (6)友人・仲間 (7)熱中できる趣味 (8)仕事のほらあい (9)社会的地位 (10)自然とのふれあい (11)近隣との交流 (12)社会の役に立つこと (13)住まいのこと	問6 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10 (11) 11 (12) 12	問4 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10 (11) 11 (12) 12	問3 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10 (11) 11 (12) 12	問2 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10 (11) 11 (12) 12	問2 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10 (11) 11 (12) 12	問2 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10 (11) 11 (12) 12
問14 性格	(1)人との関係やつながりを大切に (2)自分の世界や個性を大切に (3)いつも目標に向かって進む (4)無理をせずマイペースで進む (5)他人にはない自分なりの価値観を持っている (6)自分には他人にない優れたところがある (7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする (8)一つのことにとじり取り進む (9)指導者の立場に立ちとうとする (10)新しいグループの中に、わりと気軽に入れる (11)いろいろな人の話や意見をよく聞く (12)上下の立場や関係を尊重する (13)どんなところでも結構楽しさを見出す	問7 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10 (11) 11 (12) 12 (13) 13	問8 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10 (11) 11 (12) 12 (13) 13	問7 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10 (11) 11 (12) 12 (13) 13	問18 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10 (11) 11	問18 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10 (11) 11	問18 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10 (11) 11
問15 生きがいの意味	(1)生きがいの意味 (2)生きがいの有無	問8 1 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10	問9 1 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10	問11 1 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10	問11 1 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10	問11 1 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10	問11 1 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10
問16 生きがいの対象	1 仕事 2 趣味 3 スポーツ 4 学習活動 5 社会活動(ボランティア含む) 6 自然とのふれあい 7 配偶者・結婚生活 8 子ども・孫・親などの家族・家庭 9 友人など家族以外の人の交流 10 自分自身の健康づくり 11 ひとりで気ままに過ごすこと 12 自分自身の内面の充実 13 その他	問9 1 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10 11 11 12 12 13 13	問10 1 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10 11 11 12 12 13 13	問12 1 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10 11 11 12 12 13 13	問10 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10	問10 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10	問10 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10
問17 生きがいを得られる場	(1)生活にほらあいや活力をもたらしてくれるのは (2)生活のどの場でもリズムやメリハリがつかますか (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこ (4)生活のどの場で喜びや満足を感じる (5)あなたの人生観や価値観に影響を与えている (6)生活の目標や目的はどこにあると感じますか (7)どの場での生活が自分自身を向上させている (8)自分の可能性を実現したり、何かをやりとげた (9)自分が役に立っていると感じたり、軽微を得て	問10 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9	問6 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9	問5 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9	問10 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10	問10 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10	問10 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10
問18 夫婦関係の現状	(1)配偶者は自分のことを応援してくれる (2)自分は配偶者のよき理解者である (3)配偶者と価値観・考え方が似ている (4)よく一緒に出かける (5)会話がある (6)配偶者は自分を自由にさせてくれる (7)配偶者は自分の親を大切にしてくれない (8)配偶者は金銭的にうるさい (9)配偶者は自分よりかきりすぎる (10)配偶者にもっと家事をして欲しい	問11 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10	問13 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10	問9 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9	問21 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10	問21 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10	問21 (1) 1 (2) 2 (3) 3 (4) 4 (5) 5 (6) 6 (7) 7 (8) 8 (9) 9 (10) 10
問19 定年経験の有無、定年・退職年齢	1 まだ定年前→定年は( )才 2 まだ定年前→定年は( )才 3 定年前に退職した→退職は( )才のとき 4 定年退職した→定年は( )才のとき	問13 1 1 2 2 3 3	問19 1 1 2 2 3 3	問23 1 1 2 2 3 3	問24 1 1 2 2 3 3	問24 1 1 2 2 3 3	問24 1 1 2 2 3 3
問20 定年前の方に対する質問	(1)定年後の経済基盤として重視するもの (2)定年までの勤務希望 (3)退職後の就業希望 (4)過去5年間に経験したライフイベント	問14 (1) 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 (2) 1 2 2 3 3 (3) 1 2 2 3 3 (4) 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10 11 11 12 12 13 13 14 14 15 15 16 16 17 17 18 18	問20 (2) 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10 11 11 12 12 13 13 14 14 15 15 16 16 17 17 18 18	問24 (2) 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10 11 11 12 12 13 13 14 14 15 15 16 16 17 17 18 18	問25 (4) 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9	問25 (4) 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9	問25 (4) 1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9

第5回調査(2011年)			第4回調査(2006年)		第3回調査(2001年)		第2回調査(1996年)		第1回調査(1991年)		
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢		質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	
問21 定年退職または定年前退職を経験した方に対する質問	(1)退職前の職種	1 専門技術職(研究職・技師等) 2 管理職(役員・課長以上の管理職) 3 事務職(一般事務・営業・経理事務等) 4 販売職(店員・セールス等) 5 技能職 6 サービス職(添乗員・ホテルマン等) 7 その他	問15 (1)	1 2 3 4 5 6 7	問21 (1)	1 2 3 4 5 6 7	問25 (1)	1 2 3 4 5 6 7	問26 (1)	1 2 3 4 5 6 7	
	(2)退職前の勤務先の企業規模	1 1~29人 2 30~99人 3 100~299人 4 300~999人 5 1000人以上 6 わからない	(2)	1 2 3 4 5	(2)	1 2 3 4 5	(2)	1 2 3 4 5	(2)	1 2 3 4 5	
	(3)退職後の就業の有無	1 退職とともに職業生活から引退した 2 退職後も再雇用制度等により、前の会社に勤めた 3 退職後は出向先に移籍した 4 退職後は別の企業に再就職した 5 退職後は自分で事業や商売を始めた(自由… 6 退職後は家業を手伝うようになった 7 退職後はシルバー人材センターで仕事するよ… 8 その他	(3)	1 2 3 4 5 6 7 8	(4)	1 2 3 4 5 6 7 8	(4)	1 2 3 4 5 6 7 8	(3)	1 2 3 4 5 6 7 8	
	(4)定年後の生活問題	1 経済的に苦しくなった 2 住宅問題で困った 3 自分や配偶者の健康や体力が衰えた 4 配偶者や親の介護が必要になった 5 配偶者に先立たれた 6 その他の家族の入院や死 7 再就職のことで困った 8 家族との人間関係が悪くなった 9 親との新たな同居 10 生活のほりや生きがいなくなった 11 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした 12 今までの人的交流や情報量が減って困った 13 世の中の情報化の進展についていけず困った 14 社会から取り残されてしまった 15 時間をもてあました 16 地域社会にとけこめなかった 17 その他( ) 18 特に問題はない	(4)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18	(8)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	(8)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	(6)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	
	問22 定年退職に向けて必要な対応	(1)個人として必要な対応	1 健康の維持・増進を心がける 2 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる 3 生涯楽しめる趣味などを持つ 4 定年後も活かせる専門的技術を身につける 5 夫婦・家族の関係を大切に 6 友人や仲間との交流を深める 7 近隣や地域の人との交流を深める 8 会社以外の活動の場をつくっておく 9 その他 10 特に何も必要ない	問16 (1)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問22 (1)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問27 (1)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問27 (1)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
		付問 実際に準備している(した)こと	1 健康の維持・増進を心がける 2 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる 3 生涯楽しめる趣味などを持つ 4 定年後も活かせる専門的技術を身につける 5 夫婦・家族の関係を大切に 6 友人や仲間との交流を深める 7 近隣や地域の人との交流を深める 8 会社以外の活動の場をつくっておく 9 その他 10 特に何も必要ない	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
		(2)企業の対応	1 退職準備教育や退職相談を充実させる 2 企業年金の充実や持株取得の奨励など… 3 労働時間短縮などで、社員の個人的生活に… 4 中高年者の能力開発の研修制度を充実させる 5 希望者には定年年齢を延長させる 6 定年後の再雇用など、再就職の場を用意する 7 ボランティア休暇など、社会活動や余暇活動… 8 定年前の"ならし運転"のための休暇制度を設ける 9 退職に向けたセミナーの充実 10 その他( ) 11 特に何も必要ない	(2)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	(2)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	(2)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	(2)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11
		(3)社会的対応	1 できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用… 2 定年退職者の能力を活かす場を増やす 3 サラリーマン・OBが気軽に出入りできる交流の… 4 趣味・学習や社会活動のための機会や情報を… 5 中高年者の能力開発の研修機会や施設… 6 退職後の生活をよりよくするための研究や提案に… 7 その他( ) 8 特に何も必要ない	(3)	1 2 3 4 5 6 7 8	(3)	1 2 3 4 5 6 7 8	(3)	1 2 3 4 5 6 7 8	(3)	1 2 3 4 5 6 7 8
		問23 将来の住まいの予定	1 自分または配偶者の持ち家に住む 2 親・親類から家を譲り受ける 3 賃貸住宅に住む 4 自立型住居(有料老人ホーム、有料介護施設など) 5 その他(具体的に )								
		問24 住宅ローン支払いの有無	1 支払っている(残りはあと 年) 2 支払っていない	F7 付問	1 2	F7 付問	1 2	F7 付問	1 2	F7 付問	1 2
		問25 住宅ローン残高	1 100万円未満 2 100万円以上~500万円未満 3 500万円以上~1000万円未満 4 1000万円以上~2000万円未満 5 2000万円以上~5000万円未満 6 5000万円以上~1億円未満 7 1億円以上 8 わからない								
		問26 世帯収入(夫婦合算)	1 200万円未満 2 200万円以上~300万円未満 3 300万円以上~400万円未満 4 400万円以上~500万円未満 5 500万円以上~600万円未満 6 600万円以上~800万円未満 7 800万円以上~1000万円未満 8 1000万円以上~1500万円未満 9 1500万円以上 10 わからない	F9	1 2 3 4 5 6 7 8 9	F10	1 2 3 4 5 6 7 8 9	F11	1 2 3 4 5 6 7 8 9		
		問27 保有している金融資産の総額	1 なし 2 100万円未満 3 100万円以上~500万円未満 4 500万円以上~1000万円未満 5 1000万円以上~2000万円未満 6 2000万円以上~5000万円未満 7 5000万円以上~1億円未満 8 1億円以上 9 わからない								
		問28 収入の構成割合	1 公的年金( )割 2 企業年金( )割 3 個人年金( )割 4 給与( )割 5 不動産収入・利息・配当金( )割 6 その他( )割	F10 (割合)	1 2 3 4 5	F10付問1 (項目選択のみで割合なし)	2 2 1 3 4				
		問29 現在の自分自身の暮らし向き	1 とても楽だ 2 少し楽だ 3 普通 4 少し苦しい 5 とても苦しい	F11	1 2 3 4 5	F11	1 2 3 4				
		問30 5年前と比較しての自分自身の暮らし向きの変化	1 以前よりとても楽になった 2 以前より少し楽になった 3 変わらない 4 以前より少し苦しくなった 5 以前よりとても苦しくなった								

第5回調査(2011年)		第4回調査(2006年)		第3回調査(2001年)		第2回調査(1996年)		第1回調査(1991年)	
質問番号・質問内容(略記)		回答選択肢		質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問31	将来の家族と自分の介護 (1)自分の両親の介護 (2)配偶者の両親の介護 (3)自分自身の介護 (4)配偶者の介護	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 大変不安である</li> <li>2 少し不安である</li> <li>3 あまり不安ではない</li> <li>4 全く不安はない</li> <li>5 該当する人はいない</li> </ul>							
問32	自分の介護を誰にしてもらいたいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 配偶者</li> <li>2 自分の子ども</li> <li>3 自分の兄弟姉妹</li> <li>4 介護サービスによる在宅介護</li> <li>5 介護施設に入る</li> <li>6 まだ考えていない</li> <li>7 その他(具体的に )</li> </ul>							
問33	ライフプランセミナーを知っているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 知っており受講したことがある</li> <li>2 知っているが受講したことはない</li> <li>3 知らない</li> </ul>							
問34	ライフプランセミナーをどこで受講したか	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 勤めている会社</li> <li>2 金融機関</li> <li>3 役所等の公的機関</li> <li>4 その他(具体的に )</li> </ul>							
問35	ライフプランセミナーを受講してよかったか	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 退職後のライフプランのイメージを考えるきっかけに</li> <li>2 退職後の家計プランを作成できてよかった</li> <li>3 退職後の年金などの知識を得られた</li> <li>4 あまり役にたたなかった</li> <li>5 ほとんど役にたたなかった</li> <li>6 その他(具体的に )</li> </ul>							
問36	ライフプランセミナーを受講してみたいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 無料であれば受けてみたい</li> <li>2 有料(1日コースで8千円程度)でも受けてみたい</li> <li>3 有料(1泊2日コース宿泊料込み3万円程度)でも受けてみたいとは思わない</li> <li>4 受けてみたいとは思わない</li> <li>5 その他(具体的に )</li> </ul>							

### Ⅲ. 調査票質問項目一覧表(過去調査分との質問項目対照表)

#### (2) 配偶者調査票質問項目

##### 【予備調査】

第5回調査(2011年)			第4回調査(2006年)		第3回調査(2001年)		第2回調査(1996年)		第1回調査(1991年)	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢		質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
SC1 性別	1 男 2 女		問10 同左	1 2	問14 同左	1 2	問11 同左	1 2	問13 同左	1 2
SC2 年齢	年齢を乗数で記入		問11 同左	同左	問14 同左	同左	問11 同左	同左	問13 同左	同左
SC3 厚生年金への加入状況	1 現在、厚生年金に加入(まだ受給していない) 2 現在、厚生年金を受給している 3 現在、厚生年金に加入せず、かつ受給もせず 4 わからない 5 その他( )									
SC4 企業年金への加入状況 (SC2=1、2)	1 現在、企業年金に加入(まだ受給していない) 2 現在、企業年金を受給している 3 現在、企業年金に加入せず、かつ受給もせず 4 わからない 5 その他( )									
SC5 国民年金の第3号被保険者がどうか (SC3=3、4、5)	1 国民年金の第3号被保険者に該当 2 その他( )									

##### 【本調査】

第5回調査(2011年)			第4回調査(2006年)		第3回調査(2001年)		第2回調査(1996年)		第1回調査(1991年)	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢		質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問1 未既婚	1 未婚 2 既婚(配偶者あり) 3 既婚(離別) 4 既婚(死別)									
問2 世帯構成	1 ひとり暮らし 2 自分たち夫婦だけ 3 自分たち夫婦(または自分)と未婚の子 4 自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦(ほ… 5 自分たち夫婦(または自分)と親(ほかに子や… 6 その他(具体的に )									
問3 子どもの有無	1 子どもがいる 2 子どもはいない	(1)子どもの人数 (2)子どもの年齢 (3)18歳以上の子どもに関して								
問4 居住地	都道府県名を記入	人数を記入 各々の子供の性別・年齢を記入 該当する各々の子どもの以下の状況を選択回答 ・同居状況(同居非同居の別) ・就業状態(正社員、契約・派遣・パート、 未就業(除く学生)、学生) ・結婚状況(既婚結婚の別)								
問5 居住年数	1 5年未満 2 5年以上～10年未満 3 10年以上～20年未満 4 20年以上～30年未満 5 30年以上									
問6 住居形態	1 持ち家(一戸建て) 2 持ち家(分譲マンション等) 3 社宅・会社の寮 4 公社・公団・公営の賃貸住宅 5 民間の借家・マンション・アパート 6 その他									
問7 最終学歴	1 小学校・高等小学校・新制中学校 2 旧制中学校・旧制高等女学校・旧制実業学校… 3 旧制高等学校・高等師範学校・新制短大 4 大学・大学院 5 専門学校・専修学校 6 その他									
問8 現在の就業形態	1 正社員 2 契約社員・嘱託 3 派遣社員 4 パート・アルバイト 5 自営業・自由業・家族従業員 6 内職 7 シルバー人材センター(高齢者事業団) 8 無職 ⇒ (最後に職を離れてから 年)		問1	1 2 3 4 5 6	F12	1 2 3 4 5 6	問21	1 2 3 4 5 6	問22	1 2 3 4 5 6
問11 自由時間	(1)自由時間の有無 1 十分にある 2 まあまあ 3 不十分である 4 まったくない (2)自由時間の過ごし方 1 仕事仲間とのプライベートなつきあい 2 仕事に関する勉強や残務整理 3 テレビ・コロンやパソコン、酒など 4 ひどりで趣味・スポーツ・学習など 5 仲間と趣味・スポーツなど 6 パソコン通信やインターネットなど 7 個人的な友人・仲間とのつきあい 8 行楽・ドライブなど 9 庭いじりや家事など家庭内のこと 10 家庭との回らんや家庭サービス 11 近隣の人のつきあいや地域の用事 12 その他 13 特に何もしない									

第5回調査(2011年)		第4回調査(2006年)		第3回調査(2001年)		第2回調査(1996年)		第1回調査(1991年)	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問12 社会活動参加状況	1 定期的に参加している 2 ときどき参加している 3 以前に参加したことがある 4 参加していない	問2	1 2 3 4	問3	1 2 3 4				
(1)社会活動参加分野(いくつでも)	1 地域の生活環境を守る活動 2 地域のイベントや“村おこし”の活動 3 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動 4 児童や青少年活動の世話役としての活動 5 地域の文化財や伝統を守る活動 6 消費者活動や生活向上のための活動 7 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動 8 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員… 9 自然保護や環境保全の活動 10 国際交流に関する活動 11 その他	付問1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	付問1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11				
(1)社会活動参加分野(最もあてはまるものひとつ)	1 地域の生活環境を守る活動 2 地域のイベントや“村おこし”の活動 3 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動 4 児童や青少年活動の世話役としての活動 5 地域の文化財や伝統を守る活動 6 消費者活動や生活向上のための活動 7 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動 8 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員… 9 自然保護や環境保全の活動 10 国際交流に関する活動 11 その他								
(2)社会活動参加理由(該当するもの3つまで)	1 地域や社会に貢献したい 2 自分の知識や経験を活かしたい 3 社会への見聞を広げたい 4 友人や仲間を増やしたい 5 生活にはりあいを持たせたい 6 身近な人に誘われた 7 会社の勤めや命令 8 社会人として当然と思った 9 何となく 10 その他( )	付問2	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問2	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10				
(2)社会活動参加理由(最もあてはまるものひとつ)	1 地域や社会に貢献したい 2 自分の知識や経験を活かしたい 3 社会への見聞を広げたい 4 友人や仲間を増やしたい 5 生活にはりあいを持たせたい 6 身近な人に誘われた 7 会社の勤めや命令 8 社会人として当然と思った 9 何となく 10 その他( )								
(3)活動団体	1 行政機関(民生委員など公的委員含む) 2 社会福祉協議会 3 町内会、自治会 4 老人クラブ 5 公的施設・機関のボランティア団体 6 地域の住民によるボランティア団体 7 民間施設・機関のボランティア団体 8 NPO法人 9 当事者団体 10 個人または個人的な集まり 11 その他( )								
(4)活動団体の選択理由	1 活動の運営主体(運営者や機関) 2 活動の内容 3 活動団体の歴史(存続年数) 4 活動団体の評判 5 活動団体内の統制のとれた規律 6 活動団体内の対等な人間関係 7 活動に費やす時間 8 自宅と活動地域との距離 9 その他( )								
(5)社会活動不参加理由(該当するもの3つまで)	1 時間がない 2 経済的余裕がない 3 精神的なゆとりがない 4 健康や体力に自信がない 5 家族など周囲の理解や協力が得られない 6 自分にあった活動の場がない 7 いっしょにやる仲間がない 8 何から始めるか、きっかけがつかめない 9 興味が無い、関心がない 10 その他( )	付問3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10				
(5)社会活動不参加理由(最もあてはまるものひとつ)	1 時間がない 2 経済的余裕がない 3 精神的なゆとりがない 4 健康や体力に自信がない 5 家族など周囲の理解や協力が得られない 6 自分にあった活動の場がない 7 いっしょにやる仲間がない 8 何から始めるか、きっかけがつかめない 9 興味が無い、関心がない 10 その他( )								
(6)社会活動不参加者の今後の参加意向	1 積極的に参加したい 2 条件によっては参加してもよい 3 参加するつもりはない 4 わからない	付問4	1 2 3 4	付問4	1 2 3 4				
(7)今後活動する場合の関心のある団体	1 行政機関の各委員 2 社会福祉協議会 3 町内会、自治会 4 老人クラブ 5 公的施設・機関のボランティア団体 6 地域の住民によるボランティア団体 7 民間施設・機関のボランティア団体 8 NPO法人 9 当事者団体 10 個人または個人的な集まり 11 その他( )								
(8)今後活動する場合の活動団体の選択理由	1 活動の運営主体(運営者や機関) 2 活動の内容 3 活動団体の歴史(存続年数) 4 活動団体の評判 5 活動団体内の統制のとれた規律 6 活動団体内の対等な人間関係 7 自宅と活動地域との距離 8 その他( )								
問13 生活充足感	(1)健康 (2)時間的ゆとり (3)経済的ゆとり (4)精神的ゆとり (5)家族の理解・愛情 (6)友人・仲間 (7)熱中できる趣味 (8)仕事のはりあい (9)社会的地位 (10)自然とのふれあい (11)近隣との交流 (12)社会の役に立つこと (13)住まいのこと	問3	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)						
	{ 1 十分に満たされている 2 まあ満たされている 3 どちらともいえない 4 やや欠けている 5 まったく欠けている					同左			

第5回調査(2011年)		第4回調査(2006年)		第3回調査(2001年)		第2回調査(1996年)		第1回調査(1991年)	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問14 性格	(1)人との関係やつながりを大切に (2)自分の世界や個性を大切に (3)いつも目標に向かってつき進む (4)無理をせずマイペースで進む (5)他人にはない自分なりの価値観を持っている (6)自分には他人にない優れたところがある (7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする (8)一つのことじこりに取り組む (9)指導者の立場に立ちとす (10)新しいグループの中に、わりと気軽に入れる (11)いろいろな人の話や意見をよく聞く (12)上下の立場や関係を尊重する (13)どんなところでも結構楽しみを見出す		1 よくあてはまる 2 少しあてはまる 3 あまりあてはまらない 4 まったくあてはまらない						
問15 生きがいの意味	(1)生きがいの意味 (2)生きがいの有無	問4	1 生活の活力やほりあい 2 生活のリズムやメリハリ 3 心の安らぎや気晴らし 4 生きる喜びや満足感 5 人生観や価値観の形成 6 生きる目標や目的 7 自分自身の向上 8 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じ... 9 他人や社会の役に立っていると感じること 10 その他	問5	1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10	問6	1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10	問9	1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10
問16 生きがいの対象		問5	1 仕事 2 趣味 3 スポーツ 4 学習活動 5 社会活動(ボランティア含む) 6 自然とのふれあい 7 配偶者・結婚生活 8 子ども・孫・親などの家族・家庭 9 友人など家族以外の人との交流 10 自分自身の健康づくり 11 ひとりで気ままに過ごすこと 12 自分自身の内面の充実 13 その他	問6	1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10 11 11 12 12 13	問7	1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10 11 11 12 12 13		
問17 生きがいを得られる場	(1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは... (2)生活のどの場でリズムやメリハリがつかますか (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこ... (4)生活のどの場で喜びや満足感を感じる... (5)あなたの人生観や価値観に影響を与えている... (6)生活の目標や目的はどこにあると感じますか (7)どの場で生活が自分自身を向上させている... (8)自分の可能性を実現したり、何かをやりとげた... (9)自分が役に立っていると感じたり、評価を得て...	問6	1 家庭 2 仕事・会社 3 地域・近隣 4 4 個人的友人 5 世間・社会 6 その他 7 どこにもない	問4	(1) 2 (2) 3 (3) 4 (4) 5 (5) 6 (6) 7 (7) 8 (8) 9 (9) 10	問5	(1) 2 (2) 3 (3) 4 (4) 5 (5) 6 (6) 7 (7) 8 (8) 9 (9) 10	問4	(1) 2 (2) 3 (3) 4 (4) 5 (5) 6 (6) 7 (7) 8 (8) 9 (9) 10
問18 夫婦関係の現状	(1)配偶者は自分のことを応援してくれる (2)自分は配偶者のよき理解者である (3)配偶者と価値観・考え方が似ている (4)よく一緒に出かける (5)会話がある (6)配偶者は自分を自由にさせてくれる (7)配偶者は自分の親を大切にしてくれない (8)配偶者は金銭的にうるさい (9)配偶者は自分よりかかきすぎる (10)配偶者にもっと家事をして欲しい	問7	1 まったくそのとおり 2 まるそのとおり 3 あまりそうでない 4 まったく違う 5 非該当((7)のみ)	問7	(1) 2 (2) 3 (3) 4 (4) 5 (5) 6 (6) 7 (7) 8 (8) 9 (9) 10	問3	(2) 3 (3) 4 (4) 5 (5) 6	問10	(2) 3 (3) 4 (4) 5 (5) 6 (6) 7 (7) 8
問19-t 配偶者の定年の有無			1 まだ定年前 2 定年前に退職した 3 定年退職した						
問20-t 配偶者が定年前の方に質問	(1)定年後の生活設計についての夫婦の話し合い (2)配偶者の過去5年間の家庭での出来事		1 よくある 2 たまにある 3 まったくない						
問21-t 配偶者が定年退職・年前退職の方に質問	(1)定年後の生活設計についての夫婦の話し合い (2)配偶者の定年後の生活問題	問9	1 よくあつた 2 たまにあつた 3 まったくなかつた	問13	(1) 1 2 (2) 2 3 (3) 3 4 (4) 4 5 (5) 5 6 (6) 6 7 (7) 7 8 (8) 8 9 (9) 9 10 (10) 10 11 (11) 11 12 (12) 12 13 (13) 13 14 (14) 14 15 (15) 15 16 (16) 16 17 (17) 17 18 (18) 18	問10	1 2 2 3 3 4 4 5 5 6 6 7 7 8 8 9 9 10 10 11 11 12 12 13 13 14 14 15 15 16	問12	(1) 1 2 (2) 2 3 (3) 3 4 (4) 4 5 (5) 5 6 (6) 6 7 (7) 7 8 (8) 8 9 (9) 9 10 (10) 10 11 (11) 11 12 (12) 12 13 (13) 13 14 (14) 14 15 (15) 15 16
問22 定年に向けて必要なこと<本設問は配偶者にはしていない>			1 経済的に苦しくなった 2 住宅問題で困った 3 自分や配偶者の健康や体力が衰えた 4 配偶者や親の介護が必要になった 5 配偶者に先立たれた 6 その他の家族の入院や死 7 再就職のことで困った 8 家族との人間関係が悪くなった 9 親との新たな同居 10 生活のほりや生きがいがなくなった 11 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした 12 今までの人的交流や情報量が減って困った 13 世の中の情報化の進展についていけず困った 14 社会から取り残されてしまった 15 時間をもてあました 16 地域社会にとけこめなかつた 17 その他 18 特に問題はなかつた						

第5回調査(2011年)		第4回調査(2006年)		第3回調査(2001年)		第2回調査(1996年)		第1回調査(1991年)	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問23 将来の住まいの予定	1 自分または配偶者の持ち家に住む 2 親・親類から家を譲り受ける 3 賃貸住宅に住む 4 自立型住居(有料老人ホーム、有料介護施設など) 5 その他(具体的に )								
問24 住宅ローン支払いの有無	1 支払っている(残りはあと 年) 2 支払っていない								
問25 住宅ローン残高	1 100万円未満 2 100万円以上～500万円未満 3 500万円以上～1000万円未満 4 1000万円以上～2000万円未満 5 2000万円以上～5000万円未満 6 5000万円以上～1億円未満 7 1億円以上 8 わからない								
問26 世帯収入(夫婦合算)	1 200万円未満 2 200万円以上～300万円未満 3 300万円以上～400万円未満 4 400万円以上～500万円未満 5 500万円以上～600万円未満 6 600万円以上～800万円未満 7 800万円以上～1000万円未満 8 1000万円以上～1500万円未満 9 1500万円以上 10 わからない								
問27 保有している金融資産の総額	1 なし 2 100万円未満 3 100万円以上～500万円未満 4 500万円以上～1000万円未満 5 1000万円以上～2000万円未満 6 2000万円以上～5000万円未満 7 5000万円以上～1億円未満 8 1億円以上 9 わからない								
問28 収入の構成割合	1 公的年金 ( )割 2 企業年金 ( )割 3 個人年金 ( )割 4 給与 ( )割 5 不動産収入・利息・配当金 ( )割 6 その他 ( )割								
問29 現在の自分自身の暮らし向き	1 とても楽だ 2 少し楽だ 3 普通 4 少し苦しい 5 とても苦しい								
問30 5年前と比較しての自分自身の暮らし向きの変化	1 以前よりとても楽になった 2 以前より少し楽になった 3 変わらない 4 以前より少し苦しくなった 5 以前よりとても苦しくなった								
問31 将来の家族と自分の介護	(1) 自分の両親の介護 (2) 配偶者の両親の介護 (3) 自分自身の介護 (4) 配偶者の介護	1 大変不安である 2 少し不安である 3 あまり不安ではない 4 全く不安はない 5 該当する人はいない							
問32 自分の介護を誰にもらいたいのか	1 配偶者 2 自分の子ども 3 自分の兄弟姉妹 4 介護サービスによる在宅介護 5 介護施設に入る 6 まだ考えていない 7 その他(具体的に )								
問33～36 「ライフプランセミナー」について <本設問は配偶者にはしていない>									



「サラリーマンの生活と生きがいに関する研究 ～過去 20 年の  
変化を追って～」 (H25-1)

平成 25 年 8 月

---

(編集・発行) 公益財団法人 年金シニアプラン総合研究機構  
〒108-0074 東京都港区高輪 1 丁目 3 番 13 号 NBF 高輪ビル 4 階  
電話 : 03-5793-9411 (年金シニアプラン総合研究機構 総務企画部 代表)  
FAX : 03-5793-9413  
URL : <http://www.nensoken.or.jp/>

本書の全部または一部の複写・複製・転記載および磁気または光記録媒体への入力等を禁じます。  
これらの許諾につきましては年金シニアプラン総合研究機構までご照会ください。